

津市立南立誠小学校長寿命化改修工事

設 計 図

【建築工事】				【電気設備工事】				【機械設備工事】			
A-01	改修特記仕様書 (1)	A-47	普通教室棟 展開図⑩ 1階普通教室 (改修前・後)	A-93	屋内運動場 スロープ・階段詳細図①	E-01	電気設備特記仕様書 (1)	M-01	機械設備特記仕様書 (1)		
A-02	改修特記仕様書 (2)	A-48	普通教室棟 展開図⑪ 1階普通教室 (改修前・後)	A-94	屋内運動場 スロープ・階段詳細図②	E-02	電気設備特記仕様書 (2)	M-02	機械設備特記仕様書 (2)		
A-03	改修特記仕様書 (3)	A-49	普通教室棟 展開図⑫ 1・2階普通教室 (改修前・後)	A-95	外構図	E-03	電気設備特記仕様書 (3)	M-03	配置図 (改修後)		
A-04	改修特記仕様書 (4)	A-50	普通教室棟 展開図⑬ 2階普通教室 (改修前・後)	A-96	外構詳細図①	E-04	配置図	M-04	給排水設備 校舎 1階平面図 (改修後)		
A-05	改修特記仕様書 (5)	A-51	普通教室棟 展開図⑭ 2階普通教室 (改修前・後)	A-97	外構詳細図②	E-05	電気設備配置図 (改修前・改修後)	M-05	給排水設備 校舎 2階平面図 (改修後)		
A-06	改修特記仕様書 (6)	A-52	普通教室棟 展開図⑮ 3階普通教室 (改修前・後)	A-98	外部仮設計画参考図① (夏休み期間)	E-06	電気設備配置図 (キュービクル廻り) 改修前・後	M-06	給排水設備 校舎 3階平面図 (改修後)		
A-07	改修特記仕様書 (7)	A-53	普通教室棟 展開図⑯ 3階普通教室 (改修前・後)	A-99	外部仮設計画参考図② (2学期以降)	E-07	屋外キュービクル結線図 (改修後)	M-07	給排水設備 校舎 R階平面図・屋根伏図 (改修後)		
A-08	付近見取図・配置図・工事概要	A-54	普通教室棟 展開図⑰ 階段室① (改修前・後)	A-100	内部仮設計画参考図 (1階)	E-08	屋外キュービクル結線図 (改修前)	M-08	給排水設備 校舎 多目的トイレ平面詳細図 (改修後)		
A-09	敷地求積図 (改修前)	A-55	普通教室棟 展開図⑱ 階段室① (改修前・後)	A-101	内部仮設計画参考図 (2階)	E-09	動力盤結線図 (改修前・後)・機器姿図 (改修後)	M-09	受水槽・高置水槽廻り詳細図 (改修後)		
A-10	敷地求積図 (改修後)	A-56	普通教室棟 展開図⑲ 階段室② (改修前・後)	A-102	内部仮設計画参考図 (3階)	E-10	校舎 1階動力コンセント平面図 (改修後)	M-10	受水槽 詳細図【参考図】		
A-11	建物求積図	A-57	普通教室棟 展開図⑳ 階段室② (改修前・後)			E-11	校舎 2階コンセント平面図 (改修後)	M-11	高置水槽 詳細図【参考図】		
A-12	法規チェック①	A-58	特別教室管理棟 断面詳細図 (改修前)			E-12	校舎 3階コンセント平面図 (改修後)	M-12	屋内消火栓設備 校舎 系統図・計算書		
A-13	法規チェック②	A-59	特別教室管理棟 断面詳細図① (改修後)	S-01	構造設計特記仕様書	E-13	校舎 R階動力設備平面図・屋根伏図 (改修後)	M-13	屋内消火栓設備 校舎 系統図、消火栓ボックス廻り詳細図		
A-14	法規チェック③	A-60	特別教室管理棟 断面詳細図② (改修後)	S-02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)	E-14	校舎 2階・3階多目的トイレ平面詳細図 (改修前・後)	M-14	屋内消火栓設備 校舎 1階平面図 (改修後)		
A-15	法規チェック④	A-61	特別教室管理棟 平面詳細図 1階廊下 (改修前・後)	S-03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)	E-15	拡声設備系統図 (改修前・後)	M-15	屋内消火栓設備 校舎 2階平面図 (改修後)		
A-16	法規チェック⑤	A-62	特別教室管理棟 平面詳細図 2階廊下 (改修前・後)	S-04	鉄骨構造標準図 (1)	E-16	拡声機器姿図 (改修後)	M-16	屋内消火栓設備 校舎 3階平面図 (改修後)		
A-17	法規チェック⑥	A-63	特別教室管理棟 平面詳細図 3階廊下 (改修前・後)	S-05	鉄骨構造標準図 (2)	E-17	校舎 1階拡声設備平面図 (改修後)	M-17	屋内消火栓設備 校舎 R階平面図・屋根伏図 (改修後)		
A-18	日影図	A-64	特別教室管理棟 展開図 1・2階廊下 (改修前・後)	S-06	ベースバック柱脚工法標準図	E-18	校舎 2階拡声設備平面図 (改修後)	M-18	屋内消火栓設備 屋内運動場 1階平面図 (改修後)		
A-19	仕上表① (改修前・後)	A-65	特別教室管理棟 展開図 2階廊下 (改修前・後)	S-07	QLデッキ合成スラブ設計・施工標準図	E-19	校舎 3階拡声設備平面図 (改修後)	M-19	屋内消火栓設備 消火ポンプ廻り詳細図		
A-20	仕上表② (改修前・後)	A-66	特別教室管理棟 展開図 2・3階廊下 (改修前・後)	S-08	ALC施工標準図	E-20	校舎 1階拡声設備平面図 (改修前)	M-20	配置図 (改修前)		
A-21	1階平面図 (改修前)	A-67	特別教室管理棟 展開図 3階廊下 (改修前・後)	S-09	ボーリング柱状図	E-21	校舎 2階拡声設備平面図 (改修前)	M-21	給排水設備 校舎 1階平面図 (改修前)		
A-22	1階平面図 (改修後)	A-68	昇降口棟 平面詳細図 2階特別教室 (改修前・後)	S-10	伏図・軸組図	E-22	校舎 3階拡声設備平面図 (改修前)	M-22	給排水設備 校舎 2階平面図 (改修前)		
A-23	2階平面図 (改修前)	A-69	昇降口棟 展開図 2階特別教室 (改修前・後)	S-11	部材リスト	E-23	自動火災報知設備系統図 (改修後)	M-23	給排水設備 校舎 3階平面図 (改修前)		
A-24	2階平面図 (改修後)	A-70	昇降口棟 展開図 2階特別教室・多目的トイレ (改修後)	S-12	鉄骨詳細図	E-24	自動火災報知設備系統図 (改修前)	M-24	給排水設備 校舎 R階平面図・屋根伏図 (改修前)		
A-25	3階平面図 (改修前)	A-71	昇降口棟 平面詳細図 3階倉庫 (改修前・後)	S-13	基礎配筋詳細図	E-25	校舎 1階自動火災報知設備平面図 (改修後)	M-25	受水槽・高置水槽廻り詳細図 (改修前)		
A-26	3階平面図 (改修後)	A-72	昇降口棟 展開図 3階倉庫 (改修前・後)			E-26	校舎 2階自動火災報知設備平面図 (改修後)	M-26	屋内消火栓設備 校舎 1階平面図 (改修前)		
A-27	R階平面図 (改修前)	A-73	昇降口棟 展開図 3階倉庫・多目的トイレ (改修後)			E-27	校舎 3階自動火災報知設備平面図 (改修後)	M-27	屋内消火栓設備 校舎 2階平面図 (改修前)		
A-28	R階平面図 (改修後)	A-74	1階天井伏図 (改修前)			E-28	校舎 R階自動火災報知設備平面図 (改修後)	M-28	屋内消火栓設備 校舎 3階平面図 (改修前)		
A-29	立面図① (改修前)	A-75	1階天井伏図 (改修後)			E-29	校舎 1階自動火災報知設備平面図 (改修前)	M-29	屋内消火栓設備 校舎 R階平面図・屋根伏図 (改修前)		
A-30	立面図① (改修後)	A-76	2階天井伏図 (改修前)			E-30	校舎 2階自動火災報知設備平面図 (改修前)	M-30	屋内消火栓設備 屋内運動場 1階平面図 (改修前)		
A-31	立面図② (改修前)	A-77	2階天井伏図 (改修後)			E-31	校舎 3階自動火災報知設備平面図 (改修前)				
A-32	立面図② (改修後)	A-78	3階天井伏図 (改修前)			E-32	屋内運動場 1階拡声設備平面図 (改修後)				
A-33	立面図③ (改修前)	A-79	3階天井伏図 (改修後)			E-33	屋内運動場 1階拡声設備平面図 (改修前)				
A-34	立面図③ (改修後)	A-80	1階建具符号図 (改修前)			E-34	屋内運動場 1階自動火災報知設備平面図 (改修後)				
A-35	断面図 (改修前・後)	A-81	1階建具符号図 (改修後)			E-35	屋内運動場 2階自動火災報知設備平面図 (改修後)				
A-36	普通教室棟 断面詳細図 (改修前)	A-82	2階建具符号図 (改修前)			E-36	屋内運動場 1階自動火災報知設備平面図 (改修前)	E-V-01	エレベーター詳細図①		
A-37	普通教室棟 断面詳細図 (改修後)	A-83	2階建具符号図 (改修後)			E-37	屋内運動場 2階自動火災報知設備平面図 (改修前)	E-V-02	エレベーター詳細図②		
A-38	普通教室棟 展開図① 1階廊下 (改修前・後)	A-84	3階・PH階建具符号図 (改修前)			E-38	校舎 立面図 (改修前・後)	E-V-03	エレベーター詳細図③		
A-39	普通教室棟 展開図② 1階廊下 (改修前・後)	A-85	3階・PH階建具符号図 (改修後)			E-39	照明器具姿図	E-V-04	エレベーター詳細図④		
A-40	普通教室棟 展開図③ 2階廊下 (改修前・後)	A-86	建具表① (改修前・後)			E-40	校舎 1階平面図 (一般照明)	E-V-05	エレベーター詳細図⑤		
A-41	普通教室棟 展開図④ 2階廊下 (改修前・後)	A-87	建具表② (改修前・後)			E-41	校舎 2階平面図 (一般照明) (改修後)	E-V-06	エレベーター詳細図⑥		
A-42	普通教室棟 展開図⑤ 3階廊下 (改修前・後)	A-88	防水改修詳細図① (改修前)			E-42	校舎 2階平面図 (一般照明) (改修前)	E-V-07	エレベーター詳細図⑦		
A-43	普通教室棟 展開図⑥ 3階廊下 (改修前・後)	A-89	防水改修詳細図① (改修後)			E-43	校舎 3階平面図 (一般照明)	E-V-08	エレベーター詳細図⑧		
A-44	普通教室棟 展開図⑦ 1~3階廊下 (改修前・後)	A-90	防水改修詳細図② (改修前・後)			E-44	屋内運動場 1階平面図 (一般照明)				
A-45	普通教室棟 展開図⑧ 1~3階廊下 (改修前・後)	A-91	雑詳細図			E-45	屋内運動場 1階平面図 (誘導灯)				
A-46	普通教室棟 展開図⑨ 1階普通教室 (改修前・後)	A-92	屋内運動場 1・2階平面図 (改修前・後)			E-46	屋内運動場 2階平面図 (一般照明)				

工事特記仕様書（改修）	
I. 工事名称	津市立南立誠小学校長寿命化改修工事
II. 工事概要	
1 工事場所	三重県津市桜橋二丁目 地内
2 敷地面積	20,056.71 m ²
3 工事内容	
棟名称	普通教室棟、特別教室管理棟、昇降口棟、昇降機棟、屋内運動場
構造	既存・鉄筋コンクリート3階建
建築面積	既存：4,071.91 m ² 増築：13.17 m ²
延べ面積	既存：7,705.20 m ² 増築：39.51 m ²
III. 建築改修工事仕様	
1 共通仕様	図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、「公共建築改修工事標準仕様書（建築工編）令和7年版（以下「改修標準仕様書」という。）」による。
2 特記仕様	(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 (2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。 (3) 項目欄に記載の（ ）内表示番号は改修棟の該当項目等を示す。

章	項目	特記事項													
① 一般共通事項	① 適用基準等	<p>1) 公共建築工事標準仕様書（建築工編） 国土交通大臣官庁官庁営繕部監修（令和7年版）</p> <p>2) 公共建築改修工事標準仕様書（建築工編） 国土交通大臣官庁官庁営繕部監修（令和7年版）</p> <p>3) 建築物解体工事共通仕様書 国土交通大臣官庁官庁営繕部監修（令和4年版）</p> <p>4) 建築工事標準詳細図 国土交通大臣官庁官庁営繕部監修（令和4年版）</p>													
	② 施工条件	<p>施工方法及び検査に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 工事契約後、速やかに調査及び施工計画書を作成し、現場着手までに市監督員の承諾を得ること。 ※ 工事中の安全計画、消防計画等は、市監督員と十分協議し災害防止に努めること。 ※ 本工事における諸官庁への届出、手続き及び書類等は、速やかに提出し工事の遂行に影響の無いよう努めること。 ※ 特定作業に伴って発生する騒音は、低振動・低騒音に努め騒音規制法に基づき関係機関への届出・打合せの上、作業に着手する事とし、また、周辺住民からの苦情があった時は、工事を一時中断し、誠意をもって地元調整を行うこと、工事の再開は市監督員の承認を得てから行うこと。 ※ 工事期間中、近隣関係者等へ危害を与えないよう注意し、かつ周辺道路等に資材を落下させたり、ほりり等を飛散させないよう万全の注意を払うこと。 ※ 場外退却時、車両足廻りの洗浄等を行い、汚損等しないようにすること。 ※ 工事車両の出入りについては、安全確保に十分配慮すること。 ※ 工事車両進入口は小学校の出入口と兼ねているため常時誘導員を配置し、通行人及び敷地周辺の安全に十分配慮すること。 ※ 工事車両及び工事関係車両は、周辺道路に駐車しないこと。 ※ 工事着手前には、現状把握のために、破損箇所等があれば、市監督員立会いのもと写真に記録しておくこと。 ※ 工事期間中、工事に起因し、既存施設に破損等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに原状復旧するとともに市監督員に報告書提出すること。 ※ 工事作業については、学校運営に支障をきたさないよう工事の遂行に必要な施工体制を確保すること。 ※ 撤去工事等の騒音及び振動が生じる作業は、原則、休日等の授業が行われていない時に行うこと。 ※ 外部足場の設置及び解体は、原則、夏休み中もしくは休日等の授業が行われていない時に行うこと。 ※ 夏休み中等の学校休校日であっても放課後児童クラブや地域の団体が利用する場合があるため、安全に十分注意すること。 ※ 作業後の校舎等の施設については学校側と十分協議を行うこと。 ※ 原則として、撤去工事等の現場への本格着手は7月18日からとする。ただし、学校及び監督員との協議により承諾を得た場合は、この限りではない。 ※ 本工事は、通常授業時に限らず夏休み中であっても施設利用者等が施設を利用しながらの改修工事となるため、施工に先立ち、学校及び市監督員と協議の上、施工工程を作成し、市監督員の承諾を得てから工事を行うこと。 ※ 外壁補修（浮き部、ひび割れ補修等）は、原則、休日等の授業が行われていない時に行うものとする。 ※ 石綿含有外壁及び軒天の除去は、夏休み中に完了すること。 ※ 外部鉄部塗替えにおいて、下地調整ケレン時に集じん機付きディスクグラインダーの使用又は湿潤式飛散発生など粉塵の飛散防止に努めること。 ※ 高所等の施工箇所完成検査時に確認が困難な工事については、足場解体前に市検査課による随時検査（書類を含む）を受けること。また、当該検査の合格をもって足場解体を行うこと。 ※ 設計図書に明記なくとも機能上及び構造上当然必要と認められるもの並びに、取り合いのはつり補修復旧は本工事に含む。なおお取書の数量は参考とし、当図面を優先する。 ※ 防火戸の改修は、原則、学校休業日（お盆期間）を利用し改修すること。 ※ 学校内部における作業については、児童の安全を確保するため、休校日等の授業が行われていない時に行うものとする。 ※ 工事用水、電力については校内既存の施設を無償で利用できる。但し、学校行事に影響しないよう事前に打合せのうえ計画し、施工すること。 ※ 停電・断水を伴う作業は学校休業日に行うものとし、時期については事前に学校及び市監督員の承諾を得るものとする。 ※ 敷地南側の外構工事においては、9月以降に着手し、撤去工事等の騒音及び振動が生じる作業は、原則、隣接する幼稚園の休園日に行うこと。 ※ 9月以降は南面足場のシート養生を撤去又は結束し、南面窓の採光、換気を確保すること。 ※ 昇降機棟に付随する設備・電気配管工事のうち、2学期以降の学校関係者駐車場の利用に支障がある範囲においては、夏休み中に完了すること。 ※ 給食車両搬入経路に影響のある足場においては、外壁改修を夏休み中に完了し、2学期以降の給食運営に支障が無いよう足場を解体すること。 ※ 下記に示す諸室の改修工事について、2学期または3学期以降の学校運用に支障が無いよう、市検査課の中間検査（書類を含む）を受け、引き渡すこと。なお、下記に中間検査対象箇所及び引渡し計画時期を示す。但し、学校との協議により運営に支障がない範囲であれば、施工範囲を変更できるものとする。 <p>（8月中引渡）</p> <table border="0"> <tr> <td><普通教室棟></td> <td><屋内運動場></td> </tr> <tr> <td>・内部改修部</td> <td>・建具改修</td> </tr> <tr> <td>・外壁 南面、一部北面（給食車両進入経路）</td> <td>・外部（スロープ、階段）</td> </tr> <tr> <td>・建具改修（防火戸）</td> <td>・空気を改修</td> </tr> <tr> <td><特別教室管理棟・昇降口棟></td> <td><外構></td> </tr> <tr> <td>・建具改修（防火戸）</td> <td>・駐輪場①</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・一部コンクリート舗装</td> </tr> </table> <p>※ 各諸室（1クラス30名程度）について、作り付け家具のほか、机等の備品があるため、作業に際し移設及び養生を適宜行うこと。 なお、下記に各諸室の主要な備品を明記する。 ・普通教室：机、椅子及び教卓 ・廊下：掲示板、アクト保管庫等</p>	<普通教室棟>	<屋内運動場>	・内部改修部	・建具改修	・外壁 南面、一部北面（給食車両進入経路）	・外部（スロープ、階段）	・建具改修（防火戸）	・空気を改修	<特別教室管理棟・昇降口棟>	<外構>	・建具改修（防火戸）	・駐輪場①	
<普通教室棟>	<屋内運動場>														
・内部改修部	・建具改修														
・外壁 南面、一部北面（給食車両進入経路）	・外部（スロープ、階段）														
・建具改修（防火戸）	・空気を改修														
<特別教室管理棟・昇降口棟>	<外構>														
・建具改修（防火戸）	・駐輪場①														
	・一部コンクリート舗装														

③ 発生材の処理等	<p>本工事は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年5月31日法律第104号。以下「建設リサイクル法」という。）施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。</p> <p>工事契約後に明らかになつたやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。</p> <p>・分別解体等の方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工程</th> <th>作業の有無</th> <th>分別解体等の方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>造成等</td> <td>・有 ○ 無</td> <td>・手作業 ・手作業、機械作業の併用</td> </tr> <tr> <td>基礎・基礎ぐい</td> <td>・有 ○ 無</td> <td>・手作業 ・手作業、機械作業の併用</td> </tr> <tr> <td>上部構造部分・外装</td> <td>○ 有 ・ 無</td> <td>○ 手作業、機械作業の併用 ・手作業</td> </tr> <tr> <td>屋根</td> <td>・有 ○ 無</td> <td>・手作業 ・手作業、機械作業の併用</td> </tr> <tr> <td>建築設備・内装等</td> <td>○ 有 ・ 無</td> <td>○ 手作業 ・手作業、機械作業の併用</td> </tr> <tr> <td>その他 ()</td> <td>・有 ・ 無</td> <td>・手作業 ・手作業、機械作業の併用</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 引き渡しを要するもの ○ 無 ・ () ・ 特別管理産業廃棄物 ・ 有 (・ PCBを含む機器類 ・ 廃油、廃酸、廃アルカリ ・ ダイオキシン類 ・ 水銀を含む特別管理産業廃棄物 ・ 廃水銀等) 処理方法 ()</p> <p>○ 水銀使用製品産業廃棄物 ○ 有 (○ 蛍光灯ランプ ・ HIDランプ ・ ()) 「水銀廃棄物ガイドライン」（第2版）（平成31年3月 環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課）に基づき適切に処理すること。</p> <p>○ 石綿含有成形板等解体時の留意点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手ばらし等、出来るだけ粉塵の発生しない方法で行うこと。 2. 可能であれば湿潤状態（散水）として作業を進めること。 3. 飛散されない様にする。 4. 保護具及び作業着を着用すること。 5. 解体されたボード等は、蓋のある容器に入れること。 6. 事前に使用箇所や状況の調査を行い記録すること。 <p>・ 現場において再利用を図るもの () ○ 再資源化を図るもの ○ コンクリート塊 ○ アスファルトコンクリート塊 ○ 建設発生木材 ・ ()</p> <p>引渡を要するもの、再資源化を図るものについては調査を作成し、監督員へ提出すること。 引渡を要するもの以外のものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令によるほか、「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切に処理し、監督員にマニフェストA、B2、D票を提示すること。</p> <p>受注者は工事着手前に「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を作成し、施工計画書に含めて監督員へ写しを提出するとともに法令等に基づき、再生資源利用計画及び 再生資源利用促進計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。</p> <p>また、工事完了後は「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用促進実施書」をすみやかに作成し、監督員へ写しを提出すること。 なお、各計画書及び実施書の作成等は、JACICが運営する「コプリス・プラス」に登録のうえ、行うこと。</p> <p>本工事は産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に別に定める様式に産業廃棄物納付証明書添付して当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。</p> <p>なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表（マニフェストの数量の集計）を超えて請求することはできない。</p> <p>○ 配置する</p> <p>職種別に可能なものについては、積極的に活用すること。</p> <p>調査範囲及び調査方法 ○ 工種別の特記による</p> <p>補修方法 ・ 図示（図面番号： ） ・ ()</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 本工事に使用する木材は、津市公共建築物等木材利用方針に基づき、木材の利用に努めること。 2) 本工事に使用する建築材料のホルムアルデヒド放散量等は、F☆☆☆☆以上とする。 <p>測定対象化学物質（●で示したものとす。）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>適用</th> <th>施設用途</th> <th>ホルムアルデヒド</th> <th>トルエン</th> <th>キシレン</th> <th>エチルベンゼン</th> <th>スチレン</th> <th>パラジクロロベンゼン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td>学校、教育施設</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td></td> <td>住宅</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> </tbody> </table> <p>測定対象室及び測定箇所数 ○ 図示 ・ () 測定方法 (○ バックシブ法 ・ アクティブ法) 測定時期 ○ (改修前1箇所・改修後2箇所) 報告書提出部数 2部</p> <p>改修標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。</p> <p>低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程に基づき指定された建設機械の使用に努めること。</p> <p>當精工事写真撮影要領（国土交通省大臣官庁官庁営繕部（最新版））に従い撮影する。 提出部数1部 用紙は上質紙とする。 なお、デジタル工事写真の小黑板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の小黑板情報電子化について（令和5年3月1日国営建技14号）」による。</p> <p>作成する (○ 完成図 ・ 保全に関する資料 ・ ()) 完成図作成範囲（設計図を訂正） 完成図はCADにより作成することとし、著作権（著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む）にかかる使用権は発注者に移譲するものとする。また、製本2部（原図サイズ）により提出すること。</p>	工程	作業の有無	分別解体等の方法	造成等	・有 ○ 無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用	基礎・基礎ぐい	・有 ○ 無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用	上部構造部分・外装	○ 有 ・ 無	○ 手作業、機械作業の併用 ・手作業	屋根	・有 ○ 無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用	建築設備・内装等	○ 有 ・ 無	○ 手作業 ・手作業、機械作業の併用	その他 ()	・有 ・ 無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用	適用	施設用途	ホルムアルデヒド	トルエン	キシレン	エチルベンゼン	スチレン	パラジクロロベンゼン	○	学校、教育施設	●	●	●	●	●	●		住宅	●	●	●	●	●	●		その他	●	●	●	●	●	●
工程	作業の有無	分別解体等の方法																																																				
造成等	・有 ○ 無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用																																																				
基礎・基礎ぐい	・有 ○ 無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用																																																				
上部構造部分・外装	○ 有 ・ 無	○ 手作業、機械作業の併用 ・手作業																																																				
屋根	・有 ○ 無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用																																																				
建築設備・内装等	○ 有 ・ 無	○ 手作業 ・手作業、機械作業の併用																																																				
その他 ()	・有 ・ 無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用																																																				
適用	施設用途	ホルムアルデヒド	トルエン	キシレン	エチルベンゼン	スチレン	パラジクロロベンゼン																																															
○	学校、教育施設	●	●	●	●	●	●																																															
	住宅	●	●	●	●	●	●																																															
	その他	●	●	●	●	●	●																																															
④ コプリス・プラスへの登録																																																						
⑤ 三重県産業廃棄物税																																																						
⑥ 電気保安技術者 (1.3.3)																																																						
⑦ 技能士 (1.7.2)																																																						
⑧ 施工数量調査 (1.6.2)																																																						
⑨ 調査のための破壊部分の補修 (1.5.3)																																																						
⑩ 建築材料等																																																						
① 化学物質の濃度測定 (1.7.10)																																																						
② 特別な材料の工法																																																						
③ 騒音・振動の防止																																																						
④ 工事写真 (1.2.4)																																																						
⑤ 完成図等 (1.8.2) (1.8.3)																																																						

① 完成写真	<p>○ デジタルカメラで撮影し、全てL版相当サイズで印刷する。 (A4版用紙に1ページあたり3枚) 1部 箇所数は外観4面各室2面程度とし、規定の箇所数が確保できない場合や枚数が多くなる場合には、監督員と協議すること。写真は、着工前・施工中・完成を同一場所から、黒板なしで撮影すること。</p> <p>施工範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔・開口部の補強 ○ 図示した壁・天井の仕上材・下地材の切込み及び補強 ○ 自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 ○ 駆動装置が電動による建具等の2次側の配管・配線及び操作スイッチ <p>施工図</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受けること。 <p>工事施工に際し、既存部分を汚損した場合又は損傷した場合は、監督職員に報告するとともに承諾を受けて原状に準じて補修する。</p> <p>工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により工事事務発生報告書を監督員が指示する期日までに、監督員に提出すること。 また、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 消火器に係る消防設備等設置届出書の作成 ○ 本工事 (○ 建築工事 ○ 電気設備工事 ○ 機械設備工事) ・ 別途工事 2) 防火対象物使用開始届出書 書類の作成（電気設備図面の作成及び電気設備に関する部分の記入）を行うこと。 <p>労働安全衛生法第30条第1項に規定する措置を講ずる必要がある場合、その措置を講ずべき者として、同法第30条第2項の規定に基づき、本工事の請負者を指名する。この場合における指名への同意は、本工事の請負契約を締結することにより得られたものとみなす。</p> <p>屋外広告物を設置する場合は、「三重県屋外広告物条例」第23条に規定する屋外広告物の登録事業者であること。</p> <p>石綿含有建材の事前調査 調査範囲 ○ 改修部分すべて ・ () 貸与資料 ・ 既存の設計図書 ○ 石綿含有建材の調査報告書 ・ ()</p> <p>分析対象 アクリノライト、アモサイト、アンフィライト、クリソタイル、クロソドライト、トモライト</p> <p>分析方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料名</th> <th>定性分析法 JIS A 1481-1 JIS A 1481-2</th> <th>定量分析法 JIS A 1481-3 JIS A 1481-4 JIS A 1481-5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>・ 箇所数 ()</td> <td>・ 箇所数 ()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 箇所数 ()</td> <td>・ 箇所数 ()</td> </tr> </tbody> </table> <p>サンプル数 1箇所あたり3サンプル 採取箇所 ・ 図示（図面番号： ） ・ ()</p> <p>○ 図面（図面番号： A-38、S-12 ） 設計GL=KBM±0m（平均地盤面）</p>	材料名	定性分析法 JIS A 1481-1 JIS A 1481-2	定量分析法 JIS A 1481-3 JIS A 1481-4 JIS A 1481-5		・ 箇所数 ()	・ 箇所数 ()		・ 箇所数 ()	・ 箇所数 ()
材料名	定性分析法 JIS A 1481-1 JIS A 1481-2	定量分析法 JIS A 1481-3 JIS A 1481-4 JIS A 1481-5								
	・ 箇所数 ()	・ 箇所数 ()								
	・ 箇所数 ()	・ 箇所数 ()								
② 仮設工事	<p>① 騒音・粉じん等の対策 (2.1.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防音パネル 設置範囲 ・ 図示（図面番号： ） ○ 防音シート 設置範囲 ・ 図示（図面番号： ） ○ 既設壁撤去時 <p>② 足場 (2.2.1) (表2.2.1)</p> <p>設置する足場について、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省）」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さみ及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立等の作業に関する基準」の2の(1)手すり据置き型方式又は(2)手すり先行専用足場方式により行うこと。</p> <p>内部足場の種別（参考） ○ 脚立 ・ 棚足場 ○ その他（階段足場、シャフト内足場） 外部足場の種別（参考） ○ 手摺先行据置枠組本足場 ○ 移動足場 ○ 高所作業車 ・ その他（ ） 外部足場設置範囲（参考） ○ 外部改修部 ○ 設備改修部 ・ 昇降用 ・ 転落防止用 防護シート等による養生 ○ 適用する ・ 適用しない</p> <p>足場の組立て後、足場に關し十分な知識と経験を有する者により点検を行い記録を保存すること。 つり足場、張出し足場又は高さが10m以上の足場で、組立から解体までの期間が60日以上ものについては、組立て後市監督員立ち合いの下、当該足場の組立てを担当した者以外の足場に關し十分な知識と経験を有する者により点検を行うこと。 なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 足場の組立て等作業主任者であって、労働安全衛生法第19条の2に基づく足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受けた者 2) 労働安全衛生法第81条に規定する労働安全コンサルタント（区分が土木又は建築である者）や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等法第88条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成画者」に必要な資格を有する者 3) 全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のために行う教育、研修又は講習を修了するなど、足場の安全点検について、上記1)又は2)に掲げる者と同等の知識・経験を有する者 <p>③ 既存部分の養生 (2.3.1)</p> <p>既存部分の養生 ○ 図示 既存ブラインド・カーテンの養生 養生方法 () 保管場所 ・ 構内既存施設内 固定された備品、机、ロッカーの移動 ○ 行う ・ 行わない</p> <p>④ 仮設間仕切り (2.3.2) (表2.3.1)</p> <p>屋内の仮設間仕切り ・ A種 ○ B種 ・ C種 合板 厚さ ・ 9mm ・ () せつこうボード 厚さ ○ 9.5mm ・ () 合板又はせつこうボードの塗装 ・ 行う ○ 行わない 仮設扉 ○ 図示 設置箇所 ・ 図示 仕様 ・ 合板張り木製扉 ○ (アルミ製)</p>									

仮設工事

5 監督員事務所 (2.4.1)
・構内建物内の一部を使用する。
・設置する ・設置しない
監督員事務所の規模(単位:m)

6 監督員事務所の設備・備品等 (2.4.1)(2)(4)
7 仮設便所
8 工事用水
9 工事用電力

防水改修工事

1 アスファルト防水 (3.3.2)~(3.3.5)
(表3.3.3)~(表3.3.10)
押え金物の材質、形状及び寸法
・アルミニウム製(L-30×15×2.0mm程度) ・()

2 改質アスファルトシート防水 (3.4.2)
(3.4.3)
(表3.4.1)~(表3.4.3)
3 合成高分子系シート防水ルーフィング (3.5.2)~(3.5.4)
(表3.5.1)~(表3.5.3)
4 塗膜防水 (3.6.3)
(表3.6.1)~(表3.6.3)
5 シーリング (3.7.2)
(表3.7.1)

防水層の種類
工法 種別 断熱材
M4AS ・AS-T1
・AS-T2
・AS-J2
M3AS ・AS-T3
POAS ・AS-T4
・AS-J1
・AS-J3
M3ASI ・ASI-T1 種類()
M4ASI ・ASI-J1 厚さ()
POASI ()

(3.7.4~7)
(3.7.8)
(3.8.2)
(表3.8.1)
(表3.8.2)
(3.9.2)(3)
(3.9.3)(2)
(3.9.2)(4)
(3.9.3)
19 保証書

工法
・シーリング充填工法
・拡幅シーリング再充填工法
・シーリング材の試験
・簡易接着性試験
・引張接着性試験
・シーリング再充填工法
・ブリッジ工法
・行わない

4 1 施工数量調査
2 改修工法の種類 (4.1.4)
(4.1.5)

外壁
種類
改修工法
・コンクリート打直し
・シーリング
・ひび割れ部
・欠損部
・浮き部
・目地

4 外壁改修工事

- 8 改修工法等
(4.2.4)(1)
(4.2.5)
(4.3.6)
(4.4.6)
(4.2.4)(2)
(4.2.6)
(4.3.7)
(4.2.4)(3)
(4.2.7)
(4.3.8)
(4.2.4)(4)
(4.2.8)
(4.3.9)
(4.3.5)(5)
(4.3.10)
(4.3.5)(6)
(4.3.11)
(4.4.9)
(4.3.5)(6)
(4.3.12)
(4.4.10)
(4.3.5)(6)
(4.3.13)
(4.4.11)
(4.3.5)(7)
(4.3.14)
(4.4.12)
(4.3.5)(7)
(4.3.15)
(4.4.13)
(4.3.5)(7)
(4.4.14)
(4.4.15)
(4.4.5)
(4.4.8)
(4.4.2)
(4.4.8)(3)
(4.4.8)(8)
(4.4.5)(5)
(4.4.16)
(4.5.4)
(4.5.5)
(4.5.2)
(表4.5.1(その1)(その2))
(4.6.2)(表4.6.1)
(表4.5.2)
(表4.7.1)
5 1 改修工法
(5.1.3)
2 防火戸
(5.1.4)
3 見本の製作
(5.1.5)
4 防犯建物部品
(5.1.7)
5 ブラインドボックス等
(5.1.6)(3)
6 アルミニウム製建具
(5.2.2)(5.2.4)(表5.2.1)(表5.2.2)
7 網戸
(5.2.3)(5)
8 樹脂製建具
(5.3.2)~(5.3.5)(表5.3.1)~(表5.3.3)

樹脂注入工法
種類
自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
手動式エポキシ樹脂注入工法
機械式エポキシ樹脂注入工法
コーティング検査
Uカットシーリング材充填工法
シーリング材の上面ポリマーセメントモルタル充填
シール工法
充填工法
モルタル塗替え工法
アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
アンカーピンの本数
ステンレス鋼(SUS304)
アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
アンカーピンの本数及び注入口の数
ステンレス鋼(SUS304)
注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
注入口付アンカーピンの本数
ステンレス鋼(SUS304)
注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
注入口付アンカーピンの本数及び注入口の数
ステンレス鋼(SUS304)
注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
アンカーピンの本数及び注入口の配置
ポリマーセメントスラリー
注入口付アンカーピン
ステンレス鋼(SUS304)
注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入工法
注入口付アンカーピンの本数
ステンレス鋼(SUS304)
タイル部分張替え工法及びタイル張替え工法
外壁タイル接着張りのシーリング材
タイル部分張替え工法
タイル張替え工法
試験張り
見本焼き
有機系接着剤張りのコンクリート素地面の下部処理の方法
下部調整塗材塗りの接着力試験
目地ひび割れ部改修工法
伸縮調整目地改修工法
既存塗膜等の除去及び下部処理

種類
呼び名
仕上げ形状
工法
下地調整
備考
薄付け仕上塗材
外装薄塗材E
外装厚塗材C
厚付け仕上塗材
外装厚塗材Si
外装厚塗材E
複層仕上塗材
可とう形改修用仕上塗材
複層仕上塗材及び可とう形改修塗材の上塗材の種類
樹脂種類
溶媒種類
外観
アクリル系
シリカ系
ポリウレタン系
アクリルシリコン系
ふっ素系
外壁用塗膜防水材の仕上げの形状及び工法
種類
仕上げの形状
工法
下地調整
仕上塗料
下地準動緩衝材
5 1 改修工法
かぶせ工法
カバ工法
持出し工法
ノンシール工法
撤去工法
はつり工法
引抜き工法
例示仕様
個別認定(認定番号)
自動閉鎖機構
図示
製作する
製作しない
図示(図面番号)
再使用する
再使用しない
防犯建物部品
図示(図面番号)
アルミニウム製建具
外部建具の性能等級等
A種
B種
C種
防音ドアセット
防音サッシ(等級)
断熱ドアセット
断熱サッシ(等級)
結露水の処理方法
図示(図面番号)
アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理の種類
外部に面する建具(過酷な環境の屋外)
BA-1
BA-2
外部に面する建具(一般的な環境の屋外)
BB-1
BB-2
内部に面する建具
BC-1
BC-2
網戸
可動式
固定式
防虫網の材質
合成樹脂製
ガラス繊維入り合成樹脂製
ステンレス(SUS316)製
網目
16メッシュ
18メッシュ
樹脂製建具
外部に面する樹脂製建具の性能等級等
A種
B種
C種
防音ドアセット
防音サッシ(等級)
断熱ドアセット
断熱サッシ(等級)
日射熱取得性(等級)
ガラス
複層ガラス
建具枠見込寸法
図示(図面番号)
水切り
図示(図面番号)
せん板
図示(図面番号)
丁番
改修標準仕様書(表5.7.3)による
図示(図面番号)

9 鋼製建具
鋼製建具の性能等級
簡易気密性ドアセット
外部に面する建具の耐風圧
S-4
S-5
S-6
防音ドアセット
防音サッシ(等級)
断熱ドアセット
断熱サッシ(等級)
耐震ドアセット(等級)
H2400又はW950の建具
鋼板厚さ
図示(図面番号)
くつずりの仕上げ
HL
標準型鋼製建具
形式
幅(mm)
高さ(mm)
片開き
900
950
2000
親子開き
1200
1250
2100
面開き
1800
1900
鋼製軽量建具
鋼製軽量建具の性能等級
簡易気密性ドアセット
防音ドアセット
防音サッシ(等級)
断熱ドアセット
断熱サッシ(等級)
耐震ドアセット(等級)
H2400又はW950の建具
鋼板厚さ
図示(図面番号)
表面仕上げ
塗装
ビニル被覆鋼板
カラー鋼板
ステンレス鋼板(HL
鏡面)
ステンレス製建具の性能等級
簡易気密性ドアセット
外部に面する建具の耐風圧
S-4
S-5
S-6
防音ドアセット
防音サッシ(等級)
断熱ドアセット
断熱サッシ(等級)
耐震ドアセット(等級)
材料
SUS304
表面仕上げ
HL仕上げ
曲げ加工
普通曲げ
角出し曲げ
含水率
A種
B種
フラッシュ戸
表面材
厚み
改修標準仕様書表5.7.6
表面材の品質等
改修標準仕様書5.7.2(イ)(a)~(c)
MDF
表面の状態による区分
曲げ強さによる区分
接着剤による区分
難燃性による区分
引戸の召合せかまちをいんろう付きとする
かまち戸
見込み寸法
36mm
かまち及び鏡板の樹種
ふすま
見込み寸法
19.5mm
種別
I種
II種
ふすま紙の上張り種類
縁の仕上げ
戸ぶすま
見込み寸法
30mm
表面材
厚み
改修標準仕様書表5.7.6
表面材の品質等
改修標準仕様書5.7.2(イ)(a)~(c)
MDF
表面の状態による区分
曲げ強さによる区分
接着剤による区分
難燃性による区分
引戸の召合せかまちをいんろう付きとする
上張りの種類
紙張り障子
見込み寸法
30mm
枠及びくつずりの材料
建具用金物
金物の見え掛り部等の材質等
改修標準仕様書(表5.8.1)による
図示(図面番号)
マスターキー
製作する
製作しない(既設合わせ)
引渡用鍵箱
必要
不要
自動ドア開閉装置
駆動装置及び検出装置の性能値
車椅子使用者用便所出入口用
図示(図面番号)
引き戸用検出装置の種類
図示(図面番号)
凍結防止措置
あり
なし
自閉式上り引戸装置
自閉式上り引戸装置の性能値
改修標準仕様書(表5.10.1)による
重量シャッター
種類
管理用シャッター
外壁用防火シャッター
屋内用防火シャッター
防煙シャッター
耐風圧強度
Pa以上
開閉機能
上部電動式(手動併用)
上部手動式
管理用重量シャッターのシャッターケース
設ける
設けない
めつき付着量
Z12
F12
軽量シャッター
開閉形式
上部電動式(手動併用)
手動式
耐風圧強度
Pa以上
急降下停止措置(電動の場合)
あり
なし
スラットの材質及び形状
インターロック形
オーバラッピング形
めつき付着量
JIS G 3312
Z06
F06
JIS G 3322
AZ90

7 塗装改修工事	1 材料 (7.1.3)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 ・ 次の箇所を除き防火材料とする。(箇所：) 																																																
	2 合成樹脂調合ペイント塗り(SOP) (7.5.2~7.5.4) (表7.5.1)~ (表7.5.3)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>下地</th> <th>種別</th> <th>素地ごしらえ(新規面)</th> <th>下地調整(改修面)</th> <th>錆止め塗料の種別</th> <th>錆止め塗料塗りの種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 木部</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> <td>・ A種 ・ B種</td> <td>・ RC種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 鉄鋼面</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> <td>・ C種</td> <td>・ RA種 ・ RB種 ・ RC種</td> <td>As種</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> </tr> <tr> <td>・ 垂鉛めっき鋼面</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> <td>・ A種 ・ B種</td> <td>・ RA種 ・ RB種 ・ RC種</td> <td>・ Az種 ・ Bz種</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> </tr> </tbody> </table>	下地	種別	素地ごしらえ(新規面)	下地調整(改修面)	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの種別	・ 木部	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ A種 ・ B種	・ RC種			・ 鉄鋼面	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ C種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種	As種	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ 垂鉛めっき鋼面	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ A種 ・ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種	・ Az種 ・ Bz種	・ A種 ・ B種 ・ C種																								
	下地	種別	素地ごしらえ(新規面)	下地調整(改修面)	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの種別																																												
	・ 木部	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ A種 ・ B種	・ RC種																																														
	・ 鉄鋼面	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ C種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種	As種	・ A種 ・ B種 ・ C種																																												
	・ 垂鉛めっき鋼面	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ A種 ・ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種	・ Az種 ・ Bz種	・ A種 ・ B種 ・ C種																																												
	3 クリヤラッカー塗り(DL) (7.6.2) (表7.6.1)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>素地ごしらえ(新規面)</th> <th>下地調整(改修面)</th> <th>着色の適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ A種 ・ B種</td> <td>・ A種 ・ B種</td> <td>・ RA種 ・ RB種 ・ RC種</td> <td>・ 適用しない</td> </tr> </tbody> </table>	種別	素地ごしらえ(新規面)	下地調整(改修面)	着色の適用	・ A種 ・ B種	・ A種 ・ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種	・ 適用しない																																								
	種別	素地ごしらえ(新規面)	下地調整(改修面)	着色の適用																																														
	・ A種 ・ B種	・ A種 ・ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種	・ 適用しない																																														
	4 アクリル樹脂系非分散形塗料(NAD) (7.7.2) (表7.7.1)	・ A種 ・ B種																																																
5 耐候性塗料塗り(DP) (7.8.2)~ (7.8.4) (表7.8.3)	上塗りの等級 ○ 1級(フッ素系) ・ 2級(シリコン系) ・ 3級(ポリウレタン系) 【鉄鋼面・垂鉛めっき鋼面】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>下地</th> <th>素地ごしらえ(新規面)</th> <th>下地調整(改修面)</th> <th>錆止め塗料の種別</th> <th>錆止め塗料塗りの種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 鉄鋼面</td> <td>B種</td> <td>・ RA種 ○ RB種 ・ RC種</td> <td>・ As種 ○ Es種 ・ (1回目)Cs種、(2,3回目)Ds種</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ E種</td> </tr> <tr> <td>・ 垂鉛めっき鋼面</td> <td>・ A種 ・ B種</td> <td>・ RA種 ・ RB種 ・ RC種</td> <td>Bz種</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> 【コンクリート面・押出成形セメント板面】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>素地ごしらえ(新規面)</th> <th>下地調整(改修面)</th> <th>ひび割れ部の補修</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ A-1種 ・ A-2種 ・ B-1種 ・ B-2種 ・ C-1種 ・ C-2種</td> <td>・ A種 ○ B種</td> <td>・ RA種 ・ RB種 ・ RC種</td> <td>○ 行う</td> </tr> </tbody> </table>	下地	素地ごしらえ(新規面)	下地調整(改修面)	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの種別	○ 鉄鋼面	B種	・ RA種 ○ RB種 ・ RC種	・ As種 ○ Es種 ・ (1回目)Cs種、(2,3回目)Ds種	・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ E種	・ 垂鉛めっき鋼面	・ A種 ・ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種	Bz種	—	種別	素地ごしらえ(新規面)	下地調整(改修面)	ひび割れ部の補修	○ A-1種 ・ A-2種 ・ B-1種 ・ B-2種 ・ C-1種 ・ C-2種	・ A種 ○ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種	○ 行う																										
下地	素地ごしらえ(新規面)	下地調整(改修面)	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの種別																																														
○ 鉄鋼面	B種	・ RA種 ○ RB種 ・ RC種	・ As種 ○ Es種 ・ (1回目)Cs種、(2,3回目)Ds種	・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ E種																																														
・ 垂鉛めっき鋼面	・ A種 ・ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種	Bz種	—																																														
種別	素地ごしらえ(新規面)	下地調整(改修面)	ひび割れ部の補修																																															
○ A-1種 ・ A-2種 ・ B-1種 ・ B-2種 ・ C-1種 ・ C-2種	・ A種 ○ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種	○ 行う																																															
6 つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP-G) (7.9.2)~ (7.9.5) (表7.9.1)~ (表7.9.4)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>下地</th> <th>種別</th> <th>素地ごしらえ(新規面)</th> <th>下地調整(改修面)</th> <th>錆止め塗料の種別</th> <th>錆止め塗料塗りの種別</th> <th>ひび割れ部の補修</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ モルタル面</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> <td>・ A種 ・ B種</td> <td>・ RA種 ・ RB種 ・ RC種</td> <td></td> <td></td> <td>・ 行う</td> </tr> <tr> <td>・ コンクリート面</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> <td>・ A種 ・ B種</td> <td>・ RA種 ・ RB種 ・ RC種</td> <td></td> <td></td> <td>・ 行う</td> </tr> <tr> <td>・ せっこうボード面</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> <td>・ A種 ・ B種</td> <td>・ RA種 ・ RB種 ・ RC種</td> <td></td> <td></td> <td>・ 行う</td> </tr> <tr> <td>○ 木部</td> <td>○ A種 ○ B種</td> <td>○ A種 ・ B種</td> <td>RA種 ○ RB種 ・ RC種</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 鉄鋼面</td> <td>・ A種 ○ B種 ・ C種</td> <td>・ A種 ○ B種 ・ C種</td> <td>・ RA種 ○ RB種 ・ RC種</td> <td>・ As種 ○ Bs種</td> <td>・ A種 ・ B種 ○ C種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 垂鉛めっき鋼面</td> <td>・ A種 ・ B種</td> <td>・ A種 ・ B種</td> <td>・ RA種 ・ RB種 ・ RC種</td> <td>Cz種</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	下地	種別	素地ごしらえ(新規面)	下地調整(改修面)	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの種別	ひび割れ部の補修	・ モルタル面	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ A種 ・ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種			・ 行う	・ コンクリート面	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ A種 ・ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種			・ 行う	・ せっこうボード面	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ A種 ・ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種			・ 行う	○ 木部	○ A種 ○ B種	○ A種 ・ B種	RA種 ○ RB種 ・ RC種				○ 鉄鋼面	・ A種 ○ B種 ・ C種	・ A種 ○ B種 ・ C種	・ RA種 ○ RB種 ・ RC種	・ As種 ○ Bs種	・ A種 ・ B種 ○ C種		・ 垂鉛めっき鋼面	・ A種 ・ B種	・ A種 ・ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種	Cz種	・ A種 ・ B種 ・ C種	
下地	種別	素地ごしらえ(新規面)	下地調整(改修面)	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの種別	ひび割れ部の補修																																												
・ モルタル面	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ A種 ・ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種			・ 行う																																												
・ コンクリート面	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ A種 ・ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種			・ 行う																																												
・ せっこうボード面	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ A種 ・ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種			・ 行う																																												
○ 木部	○ A種 ○ B種	○ A種 ・ B種	RA種 ○ RB種 ・ RC種																																															
○ 鉄鋼面	・ A種 ○ B種 ・ C種	・ A種 ○ B種 ・ C種	・ RA種 ○ RB種 ・ RC種	・ As種 ○ Bs種	・ A種 ・ B種 ○ C種																																													
・ 垂鉛めっき鋼面	・ A種 ・ B種	・ A種 ・ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種	Cz種	・ A種 ・ B種 ・ C種																																													
7 合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP) (7.10.2) (表7.10.1)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>下地</th> <th>種別</th> <th>素地ごしらえ(新規面)</th> <th>下地調整(改修面)</th> <th>ひび割れ部の補修</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ モルタル面</td> <td>・ A種 ○ B種 ・ C種</td> <td>・ A種 ○ B種</td> <td>・ RA種 ○ RB種 ・ RC種</td> <td>○ 行う</td> </tr> <tr> <td>・ コンクリート面</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> <td>・ A種 ・ B種</td> <td>・ RA種 ・ RB種 ・ RC種</td> <td>・ 行う</td> </tr> <tr> <td>○ せっこうボード面</td> <td>・ A種 ○ B種 ・ C種</td> <td>・ A種 ○ B種</td> <td>・ RA種 ○ RB種 ・ RC種</td> <td>・ 行う</td> </tr> </tbody> </table>	下地	種別	素地ごしらえ(新規面)	下地調整(改修面)	ひび割れ部の補修	○ モルタル面	・ A種 ○ B種 ・ C種	・ A種 ○ B種	・ RA種 ○ RB種 ・ RC種	○ 行う	・ コンクリート面	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ A種 ・ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種	・ 行う	○ せっこうボード面	・ A種 ○ B種 ・ C種	・ A種 ○ B種	・ RA種 ○ RB種 ・ RC種	・ 行う																													
下地	種別	素地ごしらえ(新規面)	下地調整(改修面)	ひび割れ部の補修																																														
○ モルタル面	・ A種 ○ B種 ・ C種	・ A種 ○ B種	・ RA種 ○ RB種 ・ RC種	○ 行う																																														
・ コンクリート面	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ A種 ・ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種	・ 行う																																														
○ せっこうボード面	・ A種 ○ B種 ・ C種	・ A種 ○ B種	・ RA種 ○ RB種 ・ RC種	・ 行う																																														
8 ウレタン樹脂ワニス塗り(U) (7.11.2) (表7.11.1)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>素地ごしらえ(新規面)</th> <th>下地調整(改修面)</th> <th>着色の適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ A種 ・ B種</td> <td>・ A種 ・ B種</td> <td>・ RA種 ・ RB種 ・ RC種</td> <td>・ 適用しない</td> </tr> </tbody> </table>	種別	素地ごしらえ(新規面)	下地調整(改修面)	着色の適用	・ A種 ・ B種	・ A種 ・ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種	・ 適用しない																																									
種別	素地ごしらえ(新規面)	下地調整(改修面)	着色の適用																																															
・ A種 ・ B種	・ A種 ・ B種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種	・ 適用しない																																															
9 ビグメントステイン塗り (7.12.2) (表7.12.1)	改修標準仕様書 (7.12.2), (表7.12.1)による。																																																	
10 木材保護塗料塗り(WP) (7.13.2) (表7.13.1)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>素地ごしらえ(新規面)</th> <th>下地調整(改修面)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ A種 ・ B種</td> <td>A種</td> <td>・ RA種 ・ RB種 ・ RC種</td> </tr> </tbody> </table>	種別	素地ごしらえ(新規面)	下地調整(改修面)	・ A種 ・ B種	A種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種																																											
種別	素地ごしらえ(新規面)	下地調整(改修面)																																																
・ A種 ・ B種	A種	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種																																																
8 1 耐震改修工事 共通事項	(一般事項)	工事内容																																																
	1 適用範囲	工事内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 ・ 鉄骨ブレースの設置工事 ・ 柱補強工事(溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法) ・ 柱補強工事(鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法) ・ 連続繊維補強工事 ・ 耐震スリット新設工事 ・ 免震改修・制振改修工事 工事種別 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄筋工事 (構造特記による) ○ あと施工アンカー工事 ・ コンクリート工事 (構造特記による) ・ 鉄骨工事 (構造特記による) ○ グラウト工事 ・ 連続繊維補強工事 ・ スリット新設工事 ・ 免震改修・制振改修工事 ○ 土工事及び地業工事 																																																

8 2 耐震改修工事 撤去工事	1 既存部分の撤去等 (8.21.2)	撤去の範囲 <ul style="list-style-type: none"> ・ 図示(図面番号：) ・ 新設のコンクリート、モルタル、グラウト材、鉄骨、連続繊維に接する部分 ○ 既存コンクリート撤去範囲に面する部分 ・ () 既存設備機器、配管撤去、新設、移設等処置 本工事の範囲 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本工事の範囲として図示された設備機器及び配管、盤類の撤去及び処分 ・ 設備機器及び配管、盤類の撤去及び処分は本工事の範囲としない。 ・ () 撤去範囲 ・ 図示(図面番号：)												
	2 既存構造体の撤去 (8.21.2) (8.22.2) (8.23.2) (8.24.4)	既存構造体の撤去 撤去範囲 ○ 図示(図面番号： A-00) はつりだした鉄筋及び鉄骨の処置 既存鉄筋コンクリート内の鉄筋の切断 <table border="1"> <thead> <tr> <th>鉄筋の切断</th> <th>範囲</th> <th>適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 既存鉄筋は切断せず残す</td> <td>・ 図示(図面番号：) ・ 全ての撤去部分 ・ () ・ 適用なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ コンクリートの撤去範囲の周囲より一定長さを残し切断する</td> <td>・ 図示(図面番号：) ・ 全ての撤去部分 ・ () ・ 適用なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ コンクリート撤去範囲の鉄筋は切断する</td> <td>・ 切断せず残す範囲を除く撤去する既存鉄筋コンクリートの範囲 ○ (全ての撤去範囲)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> はつりだした鉄筋の処置 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄筋に損傷を与えないよう適切な養生を施す。 ・ () はつりだした鉄骨の処置 <ul style="list-style-type: none"> ・ 発泡スチロール等で養生する。 ・ () 既存構造体コンクリート面の表層目荒らし 目荒らし程度 <ul style="list-style-type: none"> ○ 平均深さ2~5mmで最大深さ5~7mm程度の凹面を、打継ぎ面の15~30%程度の面積となるように施す。 ・ 図示(図面番号：) 	鉄筋の切断	範囲	適用	・ 既存鉄筋は切断せず残す	・ 図示(図面番号：) ・ 全ての撤去部分 ・ () ・ 適用なし		・ コンクリートの撤去範囲の周囲より一定長さを残し切断する	・ 図示(図面番号：) ・ 全ての撤去部分 ・ () ・ 適用なし		○ コンクリート撤去範囲の鉄筋は切断する	・ 切断せず残す範囲を除く撤去する既存鉄筋コンクリートの範囲 ○ (全ての撤去範囲)	
	鉄筋の切断	範囲	適用											
・ 既存鉄筋は切断せず残す	・ 図示(図面番号：) ・ 全ての撤去部分 ・ () ・ 適用なし													
・ コンクリートの撤去範囲の周囲より一定長さを残し切断する	・ 図示(図面番号：) ・ 全ての撤去部分 ・ () ・ 適用なし													
○ コンクリート撤去範囲の鉄筋は切断する	・ 切断せず残す範囲を除く撤去する既存鉄筋コンクリートの範囲 ○ (全ての撤去範囲)													
(既存部分の処理) 3 既存構造体コンクリートの表層目荒らし (8.21.3) (8.22.3) (8.23.3)														
8 3 耐震改修工事 鉄筋工事	1 鉄筋 (8.2.1) (表8.2.1)	材料 改修標準仕様書(表8.2.1)による <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>径(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ SD295</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ SD345</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ SD390</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種別	径(mm)	・ SD295		・ SD345		・ SD390		・ ()			
	種別	径(mm)												
	・ SD295													
	・ SD345													
	・ SD390													
・ ()														
2 溶接金網 (8.2.2)	網目の形状、寸法及び鉄線の径 <table border="1"> <thead> <tr> <th>網目の形状、寸法</th> <th>鉄線の径(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	網目の形状、寸法	鉄線の径(mm)											
網目の形状、寸法	鉄線の径(mm)													
3 加工 (8.3.2)	90°未満の折曲げの内法直径 ・ 図示(図面番号：)													
4 鉄筋の継手及び定着 (8.3.4)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>径</th> <th>部位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重ね継手</td> <td>・ D16以下</td> </tr> <tr> <td>ガス圧接</td> <td>・ D19以上</td> </tr> </tbody> </table> 主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ <ul style="list-style-type: none"> ・ 改修標準仕様書(8.3.4)(3)(7)による ・ 図示(図面番号：) 継手位置 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各部配筋参考図による ・ 図示(図面番号：) 先組み工法等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 柱・梁主筋の継手を同一箇所に設ける 鉄筋の定着長さ <ul style="list-style-type: none"> ・ 改修標準仕様書(表8.3.4)による ・ (表8.3.4)のフックありの定着長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法 図示(図面番号：) ・ 図示(図面番号：) 機械式定着工法 適用箇所 () 種類 () 帯筋組立の形、継手及び定着 <ul style="list-style-type: none"> ・ 図示(図面番号：) 	径	部位	重ね継手	・ D16以下	ガス圧接	・ D19以上							
径	部位													
重ね継手	・ D16以下													
ガス圧接	・ D19以上													
5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (8.3.5) (表8.3.6)	鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ ・ () mm													
6 各部配筋 (8.3.6)	・ 図示(図面番号：)													
7 ガス圧接 (8.3.8)	圧接完了後の試験 超音波探傷試験 ・ 行う ・ 行わない													

8 4 耐震改修工事 コンクリート工事	(現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事及び鉄骨ブレースの設置工事等)	割製補強筋の適用 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材料</th> <th>材種</th> <th>本数・ピッチ</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ スパイラル筋</td> <td>・ 鉄筋コンクリート用棒鋼</td> <td>・ R235</td> <td>・ 6Φ ・ 9Φ ・ ()</td> <td>・ 図示(図面番号：) ・ スパイラルのピッチ(mm) ()</td> </tr> <tr> <td>・ はしご筋</td> <td>・ 鉄筋コンクリート用棒鋼(異形鉄筋)</td> <td>・ 295</td> <td>・ 10 ・ ()</td> <td>・ 壁内方向筋 () ・ 壁面外方向筋 ()</td> </tr> </tbody> </table>	種類	材料	材種	本数・ピッチ	適用箇所	・ スパイラル筋	・ 鉄筋コンクリート用棒鋼	・ R235	・ 6Φ ・ 9Φ ・ ()	・ 図示(図面番号：) ・ スパイラルのピッチ(mm) ()	・ はしご筋	・ 鉄筋コンクリート用棒鋼(異形鉄筋)	・ 295	・ 10 ・ ()	・ 壁内方向筋 () ・ 壁面外方向筋 ()																
	種類	材料	材種	本数・ピッチ	適用箇所																												
	・ スパイラル筋	・ 鉄筋コンクリート用棒鋼	・ R235	・ 6Φ ・ 9Φ ・ ()	・ 図示(図面番号：) ・ スパイラルのピッチ(mm) ()																												
	・ はしご筋	・ 鉄筋コンクリート用棒鋼(異形鉄筋)	・ 295	・ 10 ・ ()	・ 壁内方向筋 () ・ 壁面外方向筋 ()																												
	8 割製補強筋 (8.21.6) (8.22.7)																																
	9 鉄筋の機械式継手及び溶接継手 (8.4.2) (8.4.3)	機械式継手 <ul style="list-style-type: none"> ・ 種類 () ・ 性能 () ・ 試験項目 () 方法 () ・ 不合格となった継手部への措置等 () 適用箇所 () 鉄筋相互のあき () mm 溶接継手 <ul style="list-style-type: none"> ・ 工法 () ・ 性能 () ・ 試験対象 () ・ 不合格となった溶接部への措置等 () 適用箇所 () 鉄筋相互のあき () mm																															
	(コンクリート工事一般事項)	コンクリートの類別 <ul style="list-style-type: none"> ・ I類 ・ II類 																															
	1 コンクリートの種類及び強度 (8.1.3) (8.1.4)	普通コンクリートの設計基準強度 (8.1.3) <table border="1"> <thead> <tr> <th>設計基準強度F_c [N/mm²]</th> <th>適用範囲</th> <th>気乾単位容積質量</th> <th>スランプ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 24 + S</td> <td></td> <td>・ 2.3t/m³程度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 軽量コンクリートの設計基準強度 (8.9.1) (8.9.2) (表8.9.1) <table border="1"> <thead> <tr> <th>設計基準強度F_c [N/mm²]</th> <th>種類</th> <th>適用箇所</th> <th>気乾単位容積質量</th> <th>スランプ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ 1種</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ 2種</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	設計基準強度F _c [N/mm ²]	適用範囲	気乾単位容積質量	スランプ	・ 24 + S		・ 2.3t/m ³ 程度		・ ()				・ ()				設計基準強度F _c [N/mm ²]	種類	適用箇所	気乾単位容積質量	スランプ	・ ()	・ 1種				・ ()	・ 2種			
	設計基準強度F _c [N/mm ²]	適用範囲	気乾単位容積質量	スランプ																													
	・ 24 + S		・ 2.3t/m ³ 程度																														
・ ()																																	
・ ()																																	
設計基準強度F _c [N/mm ²]	種類	適用箇所	気乾単位容積質量	スランプ																													
・ ()	・ 1種																																
・ ()	・ 2種																																
2 構造体コンクリートの仕上り (8.1.4) (表8.1.4) (表8.1.5)	合板せき板を用いる場合の打直し仕上げの種類 <ul style="list-style-type: none"> ・ A種 ・ B種 ・ C種 コンクリートの仕上りの平坦さ <ul style="list-style-type: none"> ・ a種 ・ b種 ・ c種 																																
(コンクリート)	セメントの種類 <ul style="list-style-type: none"> ・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントA種 ・ シリカセメントA種 ・ フライアッシュセメントA種 ・ () ・ 高炉セメントB種及びフライアッシュセメントB種 適用箇所 ()																																
3 コンクリートの材料 (8.2.5) (表8.2.3)	骨材 <ul style="list-style-type: none"> ・ アルカリシリカ反応性による区分 ・ A ・ B ・ 特殊な骨材の使用 ・ フェロニッケルスラグ骨材 ・ 鋼スラグ骨材 ・ 電気炉酸化スラグ骨材 ・ 再生骨材H(普通エコセメントを使用するコンクリートに限る) 																																
4 混和材料 (8.2.5)	混和剤 <ul style="list-style-type: none"> ・ 混和剤の種類 ・ 改修標準仕様書(8.2.5)(4)(7)による ・ 図示(図面番号：) 混和材 <ul style="list-style-type: none"> ・ 混和材の種類 ・ 改修標準仕様書(8.2.5)(4)(7)による ・ 図示(図面番号：) 																																
5 調管理理強度 (8.2.5) (8.8.3) (8.10.2)	構造体強度補正值(S) <ul style="list-style-type: none"> ・ 3N/mm² ・ 6N/mm² 																																
6 型枠 (8.2.7) (8.7.8)	材料 <ul style="list-style-type: none"> ・ 複合合板(厚さ・12mm ・ ()) スリーブ <ul style="list-style-type: none"> ・ 材種 () ・ 規格 () 型枠存置期間及び取外し <ul style="list-style-type: none"> ・ 普通エコセメント使用の場合の最小存置期間 () 																																
7 層中コンクリート (8.10.2)	スランプ <ul style="list-style-type: none"> ・ 21cm ・ () 構造体強度補正值(S) <ul style="list-style-type: none"> ・ 0N/mm² ・ 3N/mm² ・ 6N/mm² ・ () 																																
8 無筋コンクリート (8.11.1)	コンクリートの種類 <ul style="list-style-type: none"> ・ 普通コンクリート ・ () 設計基準強度 <ul style="list-style-type: none"> ・ 18N/mm² ・ () スランプ <ul style="list-style-type: none"> ・ 15cm ・ 18cm ・ () 																																

8 4 耐震 改修 工事 コン クリ ート 工事	(現場打ち鉄筋コン クリート壁の増設工 事 溶接金網巻き工 法及び溶接閉鎖フ ープ巻き工法) 9 コンクリートの 打込み工法等 (8.21.8) (8.23.5)	部別別のコンクリートの打設工法の指定		
		補強工法	打設工法	部位
(8.23.6)	現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事	・流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(7)及び(2)	・全ての増設壁 ・図示(図面番号:)	・()
		・圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(4)及び(3)	・全ての増設壁 ・図示(図面番号:)	・()
	鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	・工法指定なし	・全ての増設壁 ・図示(図面番号:)	・()
		・()	・図示(図面番号:)	・()
	柱頭柱脚の隙間部間の型枠 ・発泡プラスチック保温材等を埋込む ・()	・流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(7)及び(2)	・全ての増設壁 ・図示(図面番号:)	・()
		・圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(4)及び(3)	・全ての増設壁 ・図示(図面番号:)	・()
	柱頭柱脚の隙間寸法 ・図示(図面番号:)	・工法指定なし	・全ての増設壁 ・図示(図面番号:)	・()
		・()	・図示(図面番号:)	・()
10 増設壁工事後の 仕上げ (8.21.10) (8.23.7)	打ち込みコンクリート又はグラウト材の厚さ ・図示(図面番号:)	・図示(図面番号:)	・60mm	・()
		・図示(図面番号:)		

8 5 耐震 改修 工事 あと 施工 アン カー 工事	(あと施工アンカー) 1 あと施工アン カーの材料 (8.2.4) (表8.2.2)	種類	○ 金属系 セットの方式 ○ 本体打込み式 (○ 改良型 ・ 従来型) 径及び埋込み長さ ・ 図示(図面番号:) 引張耐力 ・ 図示(図面番号:) せん断耐力 ・ 図示(図面番号:) 接合筋の種類・径・長さ ・ 図示(図面番号:)
		○ 接着系 カプセル型回転 ○ 打撃式 ○ 有機系 ・ 無機系 径及び埋込み長さ ○ 図示(図面番号:) 引張耐力 ・ 図示(図面番号:) せん断耐力 ・ 図示(図面番号:) アンカー筋の種類 ○ 図示(図面番号:) アンカー筋の新設壁内への定着長さ ・ 図示(図面番号:)	
	2 あと施工アン カーの施工 (8.12.4) (8.12.6) (8.12.7)	穿孔	埋込み配管等の探査の方法 ○ 鉄筋探知機(金属探知機)により検査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 ・ はつり出しによる。 ・ ()
		あと施工アンカーの施工確認試験 ・ 実施する ○ 実施しない 試験方法 ・ 引張試験機による引張試験 ・ () 1ロットの単位 ・ 1日に施工されたもの径及び仕様ごと ・ () 試験の箇所数 ・ 1ロットに対し3本(無作為) ・ () 確認強度 ・ ()	
8 6 耐震 改修 工事 鉄骨 工事	1 鉄骨製作工場 (8.1.5)	現場所打ちコンクリート壁の増設工事	現場所打ちコンクリート壁の増設部に用いる既存部とのシアコネクタ 種類 ・ 金属系あと施工アンカーの異形差筋アンカー ・ 接着系あと施工アンカーの異形差筋アンカー 径[mm] ・ D10 長さ[mm] ・ 増打壁厚-40 ・ () 彫込み深さ[mm] ・ 5d(d:シアコネクタの径)以上 ・ () 間隔[mm] ・ 500×500 シアコネクタとセパレーターの兼用 ・ 兼用してもよい ・ 兼用しない ・ ()
		2 鉄骨製作工場における 施工管理技術者 (8.1.6)	施工管理技術者(鉄骨製作管理技術者、鉄骨工事管理責任者等)の配置 ・ しない ・ する
	3 鋼材 (8.2.8)	種類・形状及び寸法	・ 図示(図面番号:)
		4 高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)	高力ボルトの適用 ・ トルシア形高力ボルト2種(S10T) ・ JIS形高力ボルト2種(F10T) ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト1種(F8T相当) ねじの呼び ・ 図示(図面番号:) すべり試験 ・ 行う(試験方法等 図示:図面番号)

8 7 耐震 改修 工事 グラ ウト 工事	(グラウト工事) 1 モルタル及びグ ラウト材 (8.2.6) (表8.2.5) (表8.2.10)	構造体用モルタル ・ 改修標準仕様書(8.2.6)及び(8.2.12)による。	無収縮モルタル ○ 改修標準仕様書(8.2.12)(1)による ・ ()
		グラウト材 ・ 改修標準仕様書(8.2.12)(2)による。	増設の現場打ち鉄筋コンクリート壁と既存構造体との隙間の処置方法
	現場打ち鉄筋コン クリート壁の増設工 事 及び鉄骨ブレース の 設置 工事等)	部位	処理方法
		○ 増設壁の上部	・ グラウト材を注入 ○ (無収縮モルタル注入)
	2 既存構造体との 取合部の処理方 法 (8.21.9) (8.22.7)	部位	備考
		・ ()	・ ()

8 8 耐震 改修 工事 スリ ット 新設 工事 免震 改修 工事 制振 改修 工事	(耐震スリット新設工 事) 1 スリットの種類 (8.25.1) (8.25.2)	スリットの形状	完全スリットの形状
		記号	一般型
	2 スリットの施工	スリット部の配管等の調査	範囲 ・ スリット新設部に伴う鉄筋コンクリートの撤去範囲全て。 ・ 図示(図面番号:) ・ () 方法 ・ 鉄筋探知機(金属探知器)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。
		スリットの逃げ位置	壁上部部 ・ 梁との接合部 ・ () 壁の柱きわ部 ・ 柱の仕上げを逃がしたきわ部 ・ () 壁下部部 ・ 床仕上げ上部 ・ 床体上部 ・ ()
	3 免震・制振改修 (8.26.1)~ (8.27.9)	撤去部の補修	・ 図示(図面番号:)
		充填材	・ 耐火材 使用箇所() 仕様() ・ 遮音材 使用箇所() 仕様()
	3 免震・制振改修 (8.26.1)~ (8.27.9)	免震改修、制振改修に関する仕様は、図示する。	

5 溶接材料 (8.2.10)	JIS形・ナット回転法かつボルト長がねじの呼びの5倍を超える場合の回転量 ・ ()												
	・ 改修標準仕様書(8.2.10)(1)(2)以外の溶接材料 材料及び使用箇所 ・ 図示(図面番号:)												
6 仮組 (8.13.10)	仮組の実施 ・ 実施する() ・ 実施しない												
7 溶接作業を行う 技能資格者 (8.15.3)	溶接作業における技能資格者の技量付加試験 ・ 実施する() ・ 実施しない												
8 溶接の準備 (8.15.4)	開先の形状 ・ 図示(図面番号:)												
9 溶接施工 (8.15.7)	鋼製エンドタブの切断 ・ 適用箇所 図示(図面番号:) 切断面の仕上げ ・ () 鋼製エンドタブに代わる他の工法 鋼製エンドタブに代わる他の工法については、代替エンドタブ(セラミックタブ又はフラックスタブ)を用いたものとし、工法の採用にあたっては、以下の項目の両方とも満足することを条件とし、監督員の承諾を受けること。 1. 相当数の代替エンドタブによる溶接を行ったことがある工場での製作であること。 2. 製作工場がJ、R、Mグレードの場合は、溶接技能者がNPO法人日本エンドタブ協会による面形タブに係るエンドタブ施工講習修了者(溶接技能者・A級以上)又はAW検定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とする。また、製作工場がH、Sグレードの場合は、溶接技能者がAW検定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とする。												
10 溶接部の試験 (8.15.12)	板厚が異なる場合の突合せ継手溶接部 ・ 低応力高サイクル疲労を受けける部位 図示(図面番号:) スカラップの形状 ・ 図示(図面番号:)												
	溶接部の外観試験 ・ 試験方法() ・ 確認方法() 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 工場溶接の場合 ・ 全数試験とする ・ 公共建築工事標準仕様書(令和7年度版)(7.6.12)(b)による。 平均出検品質限界(AOQL) ・ 4.0% ・ 2.5% ・ () 検査水準 ・ 第6水準 ・ () ロットの構成() 工事現場溶接の場合 ・ 全数試験とする ・ 公共建築工事標準仕様書(令和7年度版)(7.6.12)(b)による。 平均出検品質限界(AOQL) ・ 4.0% ・ ()												
11 鉄骨の錆止め塗装 (8.17.2) (8.17.4)	鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面(鉄骨に溶接されたものに限る) ・ 改修標準仕様書(7.4.2)(表7.4.1)()種 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・ 図示(図面番号:) ・ 改修標準仕様書(7.4.2)(表7.4.1)()種 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ・ 図示(図面番号:)												
12 耐火被覆の 種類及び性能 (8.18.2) (8.18.3)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th>種類</th> <th>材料・工法</th> <th>耐火性能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	部位	種類	材料・工法	耐火性能								
部位	種類	材料・工法	耐火性能										
13 ブレース設置 工事後の仕上 げ (8.22.9)	・ 図示(図面番号:)												
14 スタッド (8.2.11)	スタッドの種類 ・ ()												

8 9 耐震 補強 工事 スリ ット 新設 工事 免震 改修 工事 制振 改修 工事	(耐震スリット新設工 事) 1 スリットの種類 (8.25.1) (8.25.2)	スリットの形状	完全スリットの形状
		記号	一般型
	2 スリットの施工	スリット部の配管等の調査	範囲 ・ スリット新設部に伴う鉄筋コンクリートの撤去範囲全て。 ・ 図示(図面番号:) ・ () 方法 ・ 鉄筋探知機(金属探知器)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。
		スリットの逃げ位置	壁上部部 ・ 梁との接合部 ・ () 壁の柱きわ部 ・ 柱の仕上げを逃がしたきわ部 ・ () 壁下部部 ・ 床仕上げ上部 ・ 床体上部 ・ ()
	3 免震・制振改修 (8.26.1)~ (8.27.9)	撤去部の補修	・ 図示(図面番号:)
		充填材	・ 耐火材 使用箇所() 仕様() ・ 遮音材 使用箇所() 仕様()
	3 免震・制振改修 (8.26.1)~ (8.27.9)	免震改修、制振改修に関する仕様は、図示する。	

8 9 耐震 補強 工事 スリ ット 新設 工事 免震 改修 工事 制振 改修 工事	(耐震スリット新設工 事) 1 スリットの種類 (8.25.1) (8.25.2)	スリットの形状	完全スリットの形状
		記号	一般型
	2 スリットの施工	スリット部の配管等の調査	範囲 ・ スリット新設部に伴う鉄筋コンクリートの撤去範囲全て。 ・ 図示(図面番号:) ・ () 方法 ・ 鉄筋探知機(金属探知器)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。
		スリットの逃げ位置	壁上部部 ・ 梁との接合部 ・ () 壁の柱きわ部 ・ 柱の仕上げを逃がしたきわ部 ・ () 壁下部部 ・ 床仕上げ上部 ・ 床体上部 ・ ()
	3 免震・制振改修 (8.26.1)~ (8.27.9)	撤去部の補修	・ 図示(図面番号:)
		充填材	・ 耐火材 使用箇所() 仕様() ・ 遮音材 使用箇所() 仕様()
	3 免震・制振改修 (8.26.1)~ (8.27.9)	免震改修、制振改修に関する仕様は、図示する。	

8 9 耐震 補強 工事 スリ ット 新設 工事 免震 改修 工事 制振 改修 工事	(耐震スリット新設工 事) 1 スリットの種類 (8.25.1) (8.25.2)	スリットの形状	完全スリットの形状
		記号	一般型
	2 スリットの施工	スリット部の配管等の調査	範囲 ・ スリット新設部に伴う鉄筋コンクリートの撤去範囲全て。 ・ 図示(図面番号:) ・ () 方法 ・ 鉄筋探知機(金属探知器)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。
		スリットの逃げ位置	壁上部部 ・ 梁との接合部 ・ () 壁の柱きわ部 ・ 柱の仕上げを逃がしたきわ部 ・ () 壁下部部 ・ 床仕上げ上部 ・ 床体上部 ・ ()
	3 免震・制振改修 (8.26.1)~ (8.27.9)	撤去部の補修	・ 図示(図面番号:)
		充填材	・ 耐火材 使用箇所() 仕様() ・ 遮音材 使用箇所() 仕様()
	3 免震・制振改修 (8.26.1)~ (8.27.9)	免震改修、制振改修に関する仕様は、図示する。	

8 8 耐震 改修 工事 柱 補強 工事	(連続繊維補強工事) 1 連続繊維シート 等による工法 (8.24.1)	連続繊維による補強、補修工法 ・ (財)日本建築防災協会の評価を受けた工法とする。 ・ ()
		連続繊維の材料 ・ () 工法 ・ () 引張強度(含浸硬化後) ・ () ヤング係数(含浸硬化後) ・ ()
	2 連続繊維シート 及び含浸接着樹 脂等の材料 (8.2.13)	仕上げモルタルの除去 ・ 既存構造体面まで除去する ・ モルタル除去は行わない ・ () 既存モルタルの圧縮強度測定 ・ 行う() ・ 行わない
		ひび割れ部の改修工法 ・ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーリング材充填工法 ・ シール工法
	3 連続繊維シート の施工準備	柱頭柱脚の隙間寸法 ・ 図示(図面番号:)
		・ 図示(図面番号:)
	4 鋼板巻き工法及 び帯巻き付け 工法 (8.23.6)	炭素繊維の目付量 ・ 図示(図面番号:) ・ 200g/m2 ・ 300g/m2 ・ () 炭素繊維シートの巻き数 ・ 図示(図面番号:) ・ 1巻き ・ 2巻き ・ ()
		引張強度試験 ・ 実施する(JIS A1191に準拠する) 試験数量() ・ 実施しない 付着強度試験 ・ 実施する(JIS A6909に準拠する) 試験数量() ・ 実施しない 耐震スリットの種類及び形状 完全スリットの形状
	5 耐震補強後の仕 上げ (8.23.7) (8.24.7)	炭素繊維シートの目付量 ・ 図示(図面番号:) ・ 200g/m2 ・ 300g/m2 ・ () 炭素繊維シートの巻き数 ・ 図示(図面番号:) ・ 1巻き ・ 2巻き ・ ()
		引張強度試験 ・ 実施する(JIS A1191に準拠する) 試験数量() ・ 実施しない 付着強度試験 ・ 実施する(JIS A6909に準拠する) 試験数量() ・ 実施しない 耐震スリットの種類及び形状 完全スリットの形状
	6 炭素繊維シート の施工	炭素繊維の目付量 ・ 図示(図面番号:) ・ 200g/m2 ・ 300g/m2 ・ () 炭素繊維シートの巻き数 ・ 図示(図面番号:) ・ 1巻き ・ 2巻き ・ ()
		引張強度試験 ・ 実施する(JIS A1191に準拠する) 試験数量() ・ 実施しない 付着強度試験 ・ 実施する(JIS A6909に準拠する) 試験数量() ・ 実施しない 耐震スリットの種類及び形状 完全スリットの形状
	7 連続繊維補強材 の強度試験 (8.24.6)	炭素繊維の目付量 ・ 図示(図面番号:) ・ 200g/m2 ・ 300g/m2 ・ () 炭素繊維シートの巻き数 ・ 図示(図面番号:) ・ 1巻き ・ 2巻き ・ ()
		引張強度試験 ・ 実施する(JIS A1191に準拠する) 試験数量() ・ 実施しない 付着強度試験 ・ 実施する(JIS A6909に準拠する) 試験数量() ・ 実施しない 耐震スリットの種類及び形状 完全スリットの形状

8 9 耐震 補強 工事 スリ ット 新設 工事 免震 改修 工事 制振 改修 工事	(耐震スリット新設工 事) 1 スリットの種類 (8.25.1) (8.25.2)	スリットの形状	完全スリットの形状
		記号	一般型
	2 スリットの施工	スリット部の配管等の調査	範囲 ・ スリット新設部に伴う鉄筋コンクリートの撤去範囲全て。 ・ 図示(図面番号:) ・ () 方法 ・ 鉄筋探知機(金属探知器)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。
		スリットの逃げ位置	壁上部部 ・ 梁との接合部 ・ () 壁の柱きわ部 ・ 柱の仕上げを逃がしたきわ部 ・ () 壁下部部 ・ 床仕上げ上部 ・ 床体上部 ・ ()
	3 免震・制振改修 (8.26.1)~ (8.27.9)	撤去部の補修	・ 図示(図面番号:)
		充填材	・ 耐火材 使用箇所() 仕様() ・ 遮音材 使用箇所() 仕様()
	3 免震・制振改修 (8.26.1)~ (8.27.9)	免震改修、制振改修に関する仕様は、図示する。	

8 9 耐震 補強 工事 スリ ット 新設 工事 免震 改修 工事 制振 改修 工事	(耐震スリット新設工 事) 1 スリットの種類 (8.25.1) (8.25.2)	スリットの形状	完全スリットの形状
		記号	一般型
	2 スリットの施工	スリット部の配管等の調査	範囲 ・ スリット新設部に伴う鉄筋コンクリートの撤去範囲全て。 ・ 図示(図面番号:) ・ () 方法 ・ 鉄筋探知機(金属探知器)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。
		スリットの逃げ位置	壁上部部 ・ 梁との接合部 ・ () 壁の柱きわ部 ・ 柱の仕上げを逃がしたきわ部 ・ () 壁下部部 ・ 床仕上げ上部 ・ 床体上部 ・ ()
	3 免震・制振改修 (8.26.1)~ (8.27.9)	撤去部の補修	・ 図示(図面番号:)
		充填材	・ 耐火材 使用箇所() 仕様() ・ 遮音材 使用箇所() 仕様()
	3 免震・制振改修 (8.26.1)~ (8.27.9)	免震改修、制振改修に関する仕様は、図示する。	

8 9 耐震 補強 工事 スリ ット 新設 工事 免震 改修 工事 制振 改修 工事	(耐震スリット新設工 事) 1 スリットの種類 (8.25.1) (8.25.2)	スリットの形状	完全スリットの形状
		記号	一般型
	2 スリットの施工	スリット部の配管等の調査	範囲 ・ スリット新設部に伴う鉄筋コンクリートの撤去範囲全て。 ・ 図示(図面番号:) ・ () 方法 ・ 鉄筋探知機(金属探知器)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。
		スリットの逃げ位置	壁上部部 ・ 梁との接合部 ・ () 壁の柱きわ部 ・ 柱の仕上げを逃がしたきわ部 ・ () 壁下部部 ・ 床仕上げ上部 ・ 床体上部 ・ ()
	3 免震・制振改修 (8.26.1)~ (8.27.9)	撤去部の補修	・ 図示(図面番号:)
		充填材	・ 耐火材 使用箇所() 仕様() ・ 遮音材 使用箇所() 仕様()
	3 免震・制振改修 (8.26.1)~ (8.27.9)	免震改修、制振改修に関する仕様は、図示する。	

8 9 耐震 補強 工事 スリ ット 新設 工事 免震 改修 工事 制振 改修 工事	(耐震スリット新設工 事) 1 スリットの種類 (8.25.1) (8.25.2)	スリットの形状	完全スリットの形状
		記号	一般型
	2 スリットの施工	スリット部の配管等の調査	範囲 ・ スリット新設部に伴う鉄筋コンクリートの撤去範囲全て。 ・ 図示(図面番号:) ・ () 方法 ・ 鉄筋探知機(金属探知器)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。
		スリットの逃げ位置	壁上部部 ・ 梁との接合部 ・ () 壁の柱きわ部 ・ 柱の仕上げを逃がしたきわ部 ・ () 壁下部部 ・ 床仕上げ上部 ・ 床体上部 ・ ()
	3 免震・制振改修 (8.26.1)~ (8.27.9)	撤去部の補修	・ 図示(図面番号:)
		充填材	・ 耐火材 使用箇所() 仕様() ・ 遮音材 使用箇所() 仕様()
	3 免震・制振改修 (8.26.1)~ (8.27.9)	免震改修、制振改修に関する仕様は、図示する。	

8 9 耐震 補強 工事 スリ ット 新設 工事 免震 改修 工事 制振 改修 工事	(耐震スリット新設工 事) 1 スリットの種類 (8.25.1) (8.25.2)	スリットの形状	完全スリットの形状
		記号	一般型
	2 スリットの施工	スリット部の配管等の調査	範囲 ・ スリット新設部に伴う鉄筋コンクリートの撤去範囲全て。 ・ 図示(図面番号:) ・ () 方法 ・ 鉄筋探知機(金属探知器)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。
		スリットの逃げ位置	壁上部部 ・ 梁との接合部 ・ () 壁の柱きわ部 ・ 柱の仕上げを逃がしたきわ部 ・ () 壁下部部 ・ 床仕上げ上部 ・ 床体上部 ・ ()
	3 免震・制振改修 (8.26.1)~ (8.27.9)	撤去部の補修	・ 図示(図面番号:)
		充填材	・ 耐火材 使用箇所() 仕様() ・ 遮音材 使用箇所() 仕様()
	3 免震・制振改修 (8.26.1)~ (8.27.9)	免震改修、制振改修に関する仕様は、図示する。	

① 土工事 (8.28.2) (8.28.3)

既存杭の撤去
 ・ 図示 (図面番号:)
 埋戻し及び盛土の材料及び工法
 ・ A種 ○ B種 ・ C種 ・ D種

建設発生土の処理
 建設発生土は、土砂等の崩落、飛散又は流出による災害の防止及び生活環境の保全上支障が生じないよう、関係法令等に基づき適正に処理すること。
 ・ 現場内利用できる ・ 仮置き場所 () ・ 運搬距離 (Km)
 ・ 現場内利用できない
 ・ 受入地指定 受入地の条件
 ・ 受入先、施工条件、特定条件等 (図面番号:)
 ・ 運搬距離 (Km)
 ・ 受入料金あり ・ 受入料金なし
 ○ 受入地未定につき別途協議する。 暫定運搬距離 (4 Km)

② 地業工事 (8.28.4)

杭の施工監理
 杭工事特記仕様書による。
 適用基準
 本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準を適用する。
 国土交通省告示第468号 「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」(平成28年3月4日)

施工記録
 受注者は、杭の施工期間中は、1週間ごとに、その週に施工した杭の施工記録を取りまとめ、翌週以内に監督員に、工事打合せ簿を添付したうえで提出し、確認を受けること。また電流値が記録されたチャート紙等の原本を合わせて提示し、必ず監督員の確認を受けること。
 なお、取得すべき施工記録が取得できない場合に、当該施工記録に代替する記録を確保するための手法については、施工計画書に明記しておくこと。

根拠資料
 共通仕様書、特記仕様書及びその他基準書等の定めにより作成した施工管理資料の根拠となる資料(施工記録の原本、チャート紙、電子的な記録やプリントアウト紙等)は、受注者において全て適切に管理し、保管しなければならない。保管期間は契約書第31条第4項又は第5項(第38条においてこれらの規定を準用する場合を含む。)の規定による引渡しを受けた日から10年とする。
 また、発注者から請求があった場合は、速やかにこれらを提出または提示しなければならない。

試験杭及び試験掘
 ・ 試験杭 位置、本数及び寸法は図示(図面番号:)による。
 ・ 試験掘 位置、本数及び寸法は図示(図面番号:)による。

杭の支持層
 支持層の位置、土質、杭の根入れ長さ ○ 図示(図面番号: S-09) ・ ()
 水平方向の位置ずれの精度
 ○ (100)mm以下

杭の載荷試験
 試験方法 ・ 鉛直載荷 ・ 水平載荷 ・ ()
 試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。*m
 位置 ・ 図示(図面番号:) 載荷荷重 (kN)
 報告書 ・ 提出部数 2部

地盤の載荷試験
 試験方法 ・ 平板載荷 ・ ()
 試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。*m
 位置 ・ 図示(図面番号:) 載荷荷重 (kN)
 報告書 ・ 提出部数 2部

杭地業の工法、寸法
 ・ 図示(図面番号:)

杭頭処置
 ・ 行う ・ 行わない

砂利及び砂地業
 範囲 ○ 図示

捨てコンクリート地業
 範囲 ○ 図示

(9.1.3)

・ 石綿含有吹付け材の除去
 除去対象範囲 ・ 図示(図面番号:)
 除去工法 ・ 改修標準仕様書9.1.3(2)(7)による ・ ()
 除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止
 ・ 湿潤化 ・ 固形化
 除去した石綿含有吹付け材等の処分
 ・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融又は無害化による)

(9.1.4)

○ 石綿含有保温材等の除去
 除去対象範囲 ○ 図示
 除去方法 ・ 改修標準仕様書9.1.4(1)による ・ ()
 除去した石綿含有保温材等の処分
 ・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融又は無害化による)

(9.1.5)

○ 石綿含有成形板の除去
 除去対象範囲 ○ 図示
 石綿含有せっこうボードの処分
 ・ 埋立処分(管理型最終処分場)
 石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板の処分
 ○ 埋立処分(安定型最終処分場) ○ 中間処理(溶融又は無害化による)

(9.1.6)

○ 石綿含有仕上塗材の除去
 除去対象範囲 ○ 図示
 除去工法 ・ ()
 除去した石綿含有仕上塗材等の処分
 ○ 埋立処分(安定型最終処分場) ○ 中間処理(溶融又は無害化による)
 汚泥としての処理 ・ 必要 ・ 不要
 ※大気汚染防止法および石綿障害予防規則に加え、「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル(令和7年3月訂正事項を反映)」に基づき適切に処理すること。

○ 除去等作業の結果報告
 除去等作業が終了したときは環境省令で定めるところにより、その結果を遅滞なく発注者に書面で報告すること。

2 外断熱改修工事 (9.2.2)

断熱材

種類	厚さ[mm]
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキンなし)	
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	
・ フェノールフォーム断熱材	
・ ロックウール断熱材	
・ グラスウール断熱材	
・ ()	

施工箇所
 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

外装材

種類	防火性能	備考
・		

(9.2.3)

既存外壁の措置
 既存外壁仕上げ材の撤去 ・ あり ・ なし
 下地面の清掃 ・ 行う ・ 行わない
 欠損部の改修工法 ・ 充填工法 ・ モルタル塗替え工法 ・ ()

(9.2.4)

工法
 通気層の有無 ・ あり (mm) ・ なし
 断熱材の施工 ・ 断熱材製造所の仕様による ・ ()
 外装材の施工 ・ 外装材製造所の仕様による ・ ()
 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
 ・ 適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3)倍の風圧力に対応した工法)
 ・ 適用しない
 不陸等の下地調整 ・ 行う

3 断熱・防露改修工事 (9.3.2)

・ 断熱材打込み工法

種類	厚さ[mm]
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキンなし)	
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	
・ フェノールフォーム断熱材	
・ ()	

施工箇所 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

(9.3.3)

・ 断熱材現場発泡工法
 断熱材の種類 ・ A種1 ・ A種1H ・ ()
 厚さ(mm) ・ 25 ・ 30 ・ ()
 施工箇所 ・ 図示(図面番号:)

・ 現場発泡断熱材(品質・性能)
 工事建築材料等品質性能表による(試験方法)
 工事建築材料等品質性能表による

(9.3.4)

・ 断熱材後張り工法

種類	せっこうボード等の張り付け	厚さ[mm]
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ フェノールフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ ()	・ 有 ・ 無	

施工箇所 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

4 屋上緑化改修工事 (9.4.1) (9.4.2) (9.4.3)

植栽基盤及び材料
 屋上緑化軽量システム
 ・ 適用する ・ 適用しない
 芝及び地被類の樹種並びに種類等 ・ 図示(図面番号:) ・ ()
 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

工法
 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
 ・ 適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3)倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)
 ・ 適用しない

かん水装置 ・ 設置する(種類 ・)
 既存保護層の撤去 ・ 行う ・ 行わない

5 透水性アスファルト舗装改修工事 (9.5.2)~(9.5.7) (9.5.9)

既存舗装の撤去及び再利用 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

路床

路床の材料

種別	材料	厚さ[mm]
・ 盛土	・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土	・ 図示(図面番号:) ・ ()
・ 凍上抑制層	・ 再生クラッシュヤラン ・ クラッシュヤラン ・ 切込み砂利 ・ 川砂、海砂又は良質な山砂(7μmふるい通過量10%以下) ・ ()	・ 図示(図面番号:) ・ ()
・ フィルター層	・ 砂 ・ ()	・ 図示(図面番号:) ・ ()

路床安定処理
 ・ 添加材料による安定処理
 種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種
 ・ 生石灰(・特号 ・ 1号) ・ 消石灰(・特号 ・ 1号)
 添加量 (kg/m2) (目標CBR ・ 5以上 ・)

・ ジオテキスタイル
 単位面積質量 ・ 60g/m2以上 ・ ()
 厚さ[mm] ・ 0.5~1.0 ・ ()
 引張強さ ・ 98N/5cm (10kgf/5cm)以上 ・ ()
 透水係数 ・ 1.5×10⁻⁷~1cm/sec 以上 ・ ()

試験
 路床土の支持力比(CBR)試験 ・ 行う ・ 行わない
 路床締固め度の試験 ・ 行う ・ 行わない
 現場CBR試験 ・ 行う ・ 行わない

路盤
 路盤の構成及び厚さ ・ 図示(図面番号:) ・ ()
 路盤材料 ・ 再生材のクラッシュヤラン
 ・ クラッシュヤラン鉄鋼スラグ
 ・ 図示(図面番号:)
 ・ ()

試験
 路盤締固め度の試験 ・ 行う ・ 行わない

舗装

材料	厚さ[mm]
ストレートアスファルト	・ 図示(図面番号:) ・ ()

試験
 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・ 行う ・ 行わない
 舗装の平たん性 ・ 著しい不陸がないもの ・ ()

⑨ 環境配慮改修工事

① 石綿含有建材の除去工事 (9.1.1)

○ 石綿粉じん濃度測定
 測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点(各施工箇所ごと)
・	測定1	処理作業前	処理作業室内 ・ 調査対象室外部の付近 ○ 処理作業室外(敷地境界)	計 箇所
○	測定2			計 4 箇所
・	測定3	処理作業中	処理作業室内 負圧・除じん装置の排出吹出し口 以下の位置	計 箇所
・	測定4			計 箇所
○	測定5	処理作業後(シート養生中)	処理作業室外(敷地境界) ・ 処理作業室内 ○ 処理作業室外(敷地境界)	計 4 箇所
○	測定6			計 4 箇所
・	測定7	処理作業後シート撤去後1週間以降	処理作業室内 調査対象室外部の付近	計 箇所
・	測定8			計 箇所

測定方法

	測定 3	測定 1,2,4,6,7,8	測定 5
メンブレンフィルタ直径(mm)	25	25	47
試料の吸引流量(L/min)	・ 1 ・ ()	・ 5 ・ ()	○ 10 ・ ()
試料の吸引時間(min)	・ 5 ・ ()	・ 120 ・ ()	○ 240 ・ ()

3 断熱・防露改修工事 (9.3.2)

・ 断熱材打込み工法

種類	厚さ[mm]
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキンなし)	
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	
・ フェノールフォーム断熱材	
・ ()	

施工箇所 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

(9.3.3)

・ 断熱材現場発泡工法
 断熱材の種類 ・ A種1 ・ A種1H ・ ()
 厚さ(mm) ・ 25 ・ 30 ・ ()
 施工箇所 ・ 図示(図面番号:)

・ 現場発泡断熱材(品質・性能)
 工事建築材料等品質性能表による(試験方法)
 工事建築材料等品質性能表による

(9.3.4)

・ 断熱材後張り工法

種類	せっこうボード等の張り付け	厚さ[mm]
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ フェノールフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ ()	・ 有 ・ 無	

施工箇所 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

4 屋上緑化改修工事 (9.4.1) (9.4.2) (9.4.3)

植栽基盤及び材料
 屋上緑化軽量システム
 ・ 適用する ・ 適用しない
 芝及び地被類の樹種並びに種類等 ・ 図示(図面番号:) ・ ()
 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

工法
 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
 ・ 適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3)倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)
 ・ 適用しない

かん水装置 ・ 設置する(種類 ・)
 既存保護層の撤去 ・ 行う ・ 行わない

5 透水性アスファルト舗装改修工事 (9.5.2)~(9.5.7) (9.5.9)

既存舗装の撤去及び再利用 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

路床

路床の材料

種別	材料	厚さ[mm]
・ 盛土	・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土	・ 図示(図面番号:) ・ ()
・ 凍上抑制層	・ 再生クラッシュヤラン ・ クラッシュヤラン ・ 切込み砂利 ・ 川砂、海砂又は良質な山砂(7μmふるい通過量10%以下) ・ ()	・ 図示(図面番号:) ・ ()
・ フィルター層	・ 砂 ・ ()	・ 図示(図面番号:) ・ ()

路床安定処理
 ・ 添加材料による安定処理
 種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種
 ・ 生石灰(・特号 ・ 1号) ・ 消石灰(・特号 ・ 1号)
 添加量 (kg/m2) (目標CBR ・ 5以上 ・)

・ ジオテキスタイル
 単位面積質量 ・ 60g/m2以上 ・ ()
 厚さ[mm] ・ 0.5~1.0 ・ ()
 引張強さ ・ 98N/5cm (10kgf/5cm)以上 ・ ()
 透水係数 ・ 1.5×10⁻⁷~1cm/sec 以上 ・ ()

試験
 路床土の支持力比(CBR)試験 ・ 行う ・ 行わない
 路床締固め度の試験 ・ 行う ・ 行わない
 現場CBR試験 ・ 行う ・ 行わない

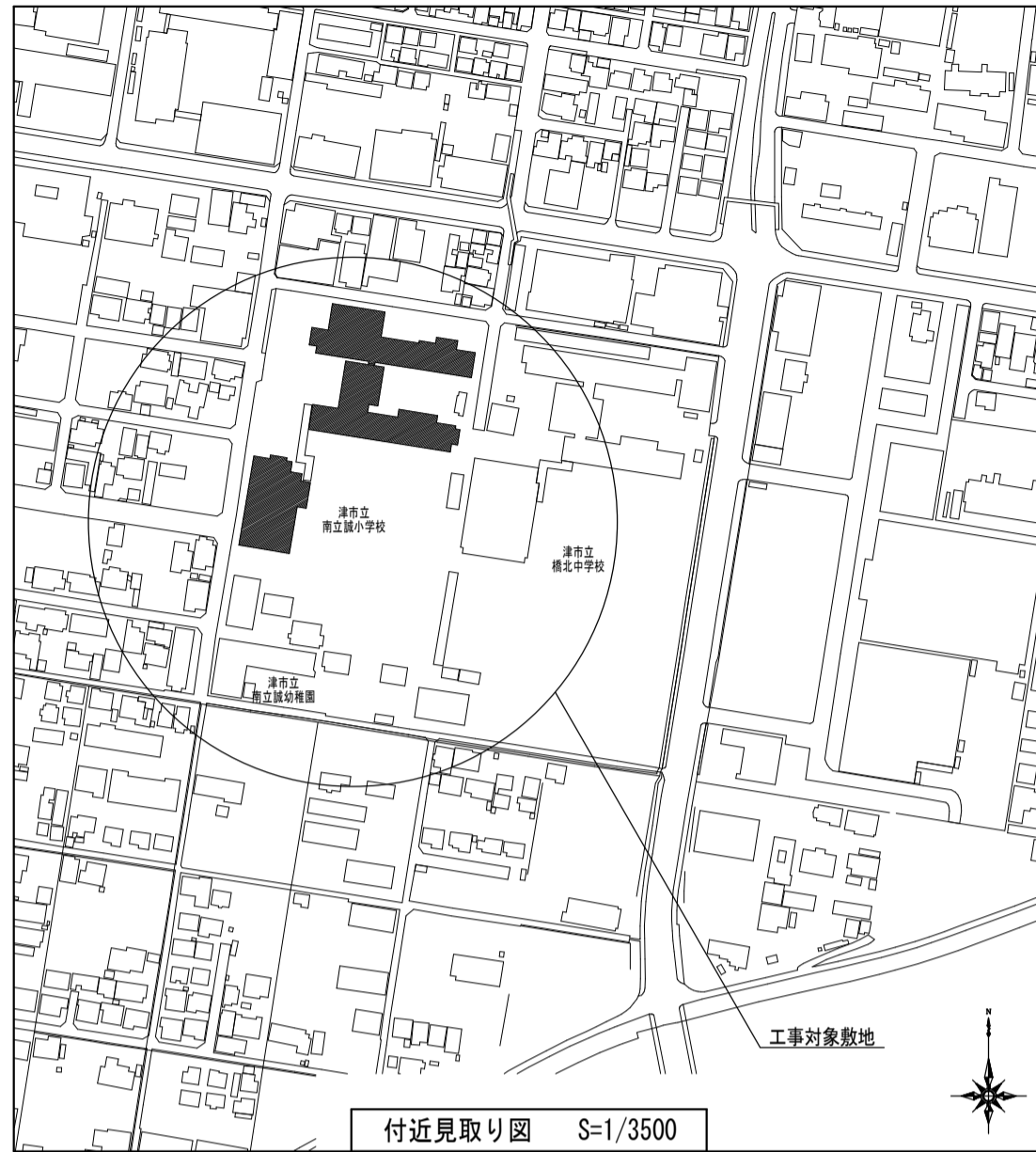
路盤
 路盤の構成及び厚さ ・ 図示(図面番号:) ・ ()
 路盤材料 ・ 再生材のクラッシュヤラン
 ・ クラッシュヤラン鉄鋼スラグ
 ・ 図示(図面番号:)
 ・ ()

試験
 路盤締固め度の試験 ・ 行う ・ 行わない

舗装

材料	厚さ[mm]
ストレートアスファルト	・ 図示(図面番号:) ・ ()

試験
 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・ 行う ・ 行わない
 舗装の平たん性 ・ 著しい不陸がないもの ・ ()

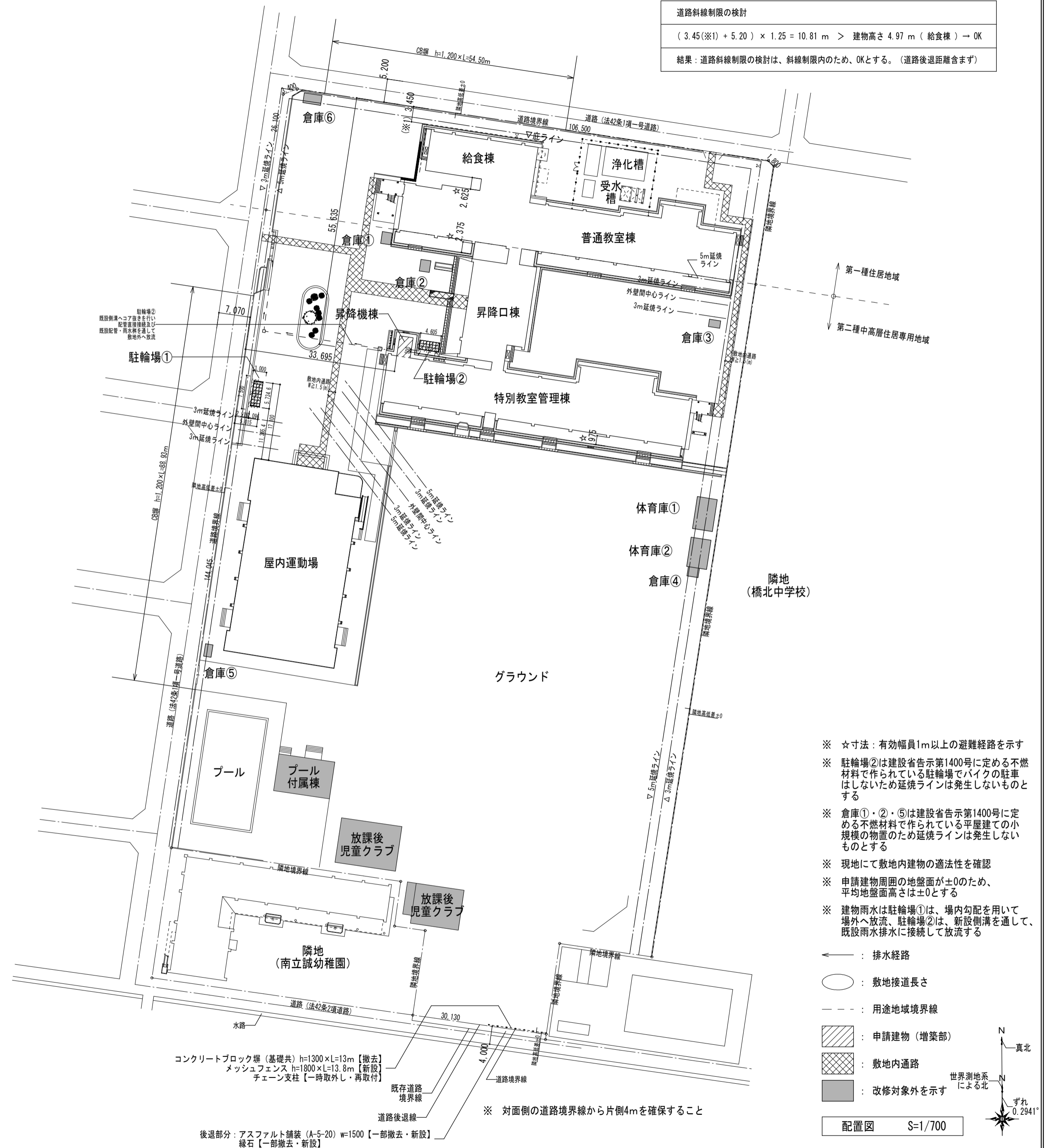


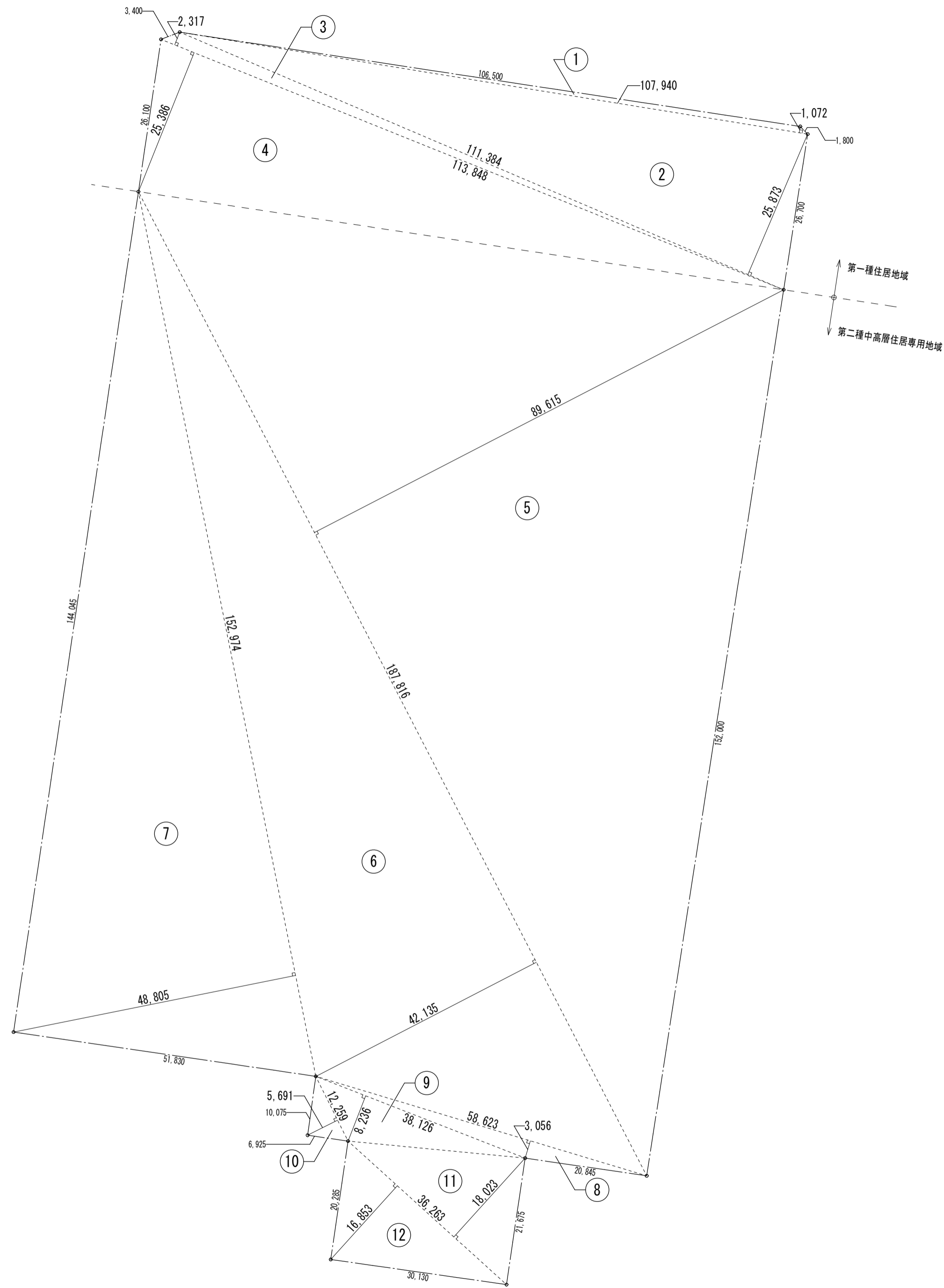
株式会社田端隆建築設計 田端 進也 一級建築士 (大臣) 第352551号

I. 工事概要

工事名称	津市立南立誠小学校長寿命化改修工事	
敷地概要	地名地番	三重県津市桜橋二丁目
	都市計画区域	都市計画区域 (市街化区域) 都市機能誘導区域、居住誘導区域
	用途地域	第一種住居地域、第二種中高層住居専用地域
	防火地域	法22条地域
	敷地面積	20,056.71 m ² 第一種住居: 3,073.73 m ² 、第二種中高層住居: 16,982.98 m ²
	指定建ぺい率	第一種住居地域: 60% 第二種中高層住居専用地域: 60%
	指定容積率	第一種住居地域: 200% 第二種中高層住居専用地域: 200%
	高さ制限	-
	道路	北側道路幅員 5.20m (法42条1項一号道路) 西側道路幅員 7.07m (法42条1項一号道路) 南側道路幅員 4.00m (法42条2項道路)
	敷地と接している道路長さ	311.975m
建物概要	建物用途	小学校
	構造	鉄筋コンクリート造3階建 (申請建物: 鉄骨造3階建)
	建築面積	24.50 m ² (全体: 4,071.91 m ²)
	延床面積	61.17 m ² (全体: 7,705.20 m ²)
	建ぺい率	20.31%
	容積率	38.12%
	最高高さ	12.620 m
	軒の高さ	11.970 m

※ 真北測定は、国土地理院 (世界測地系による敷地測量の座標) による。
座標測定日: 令和7年 12月 22日



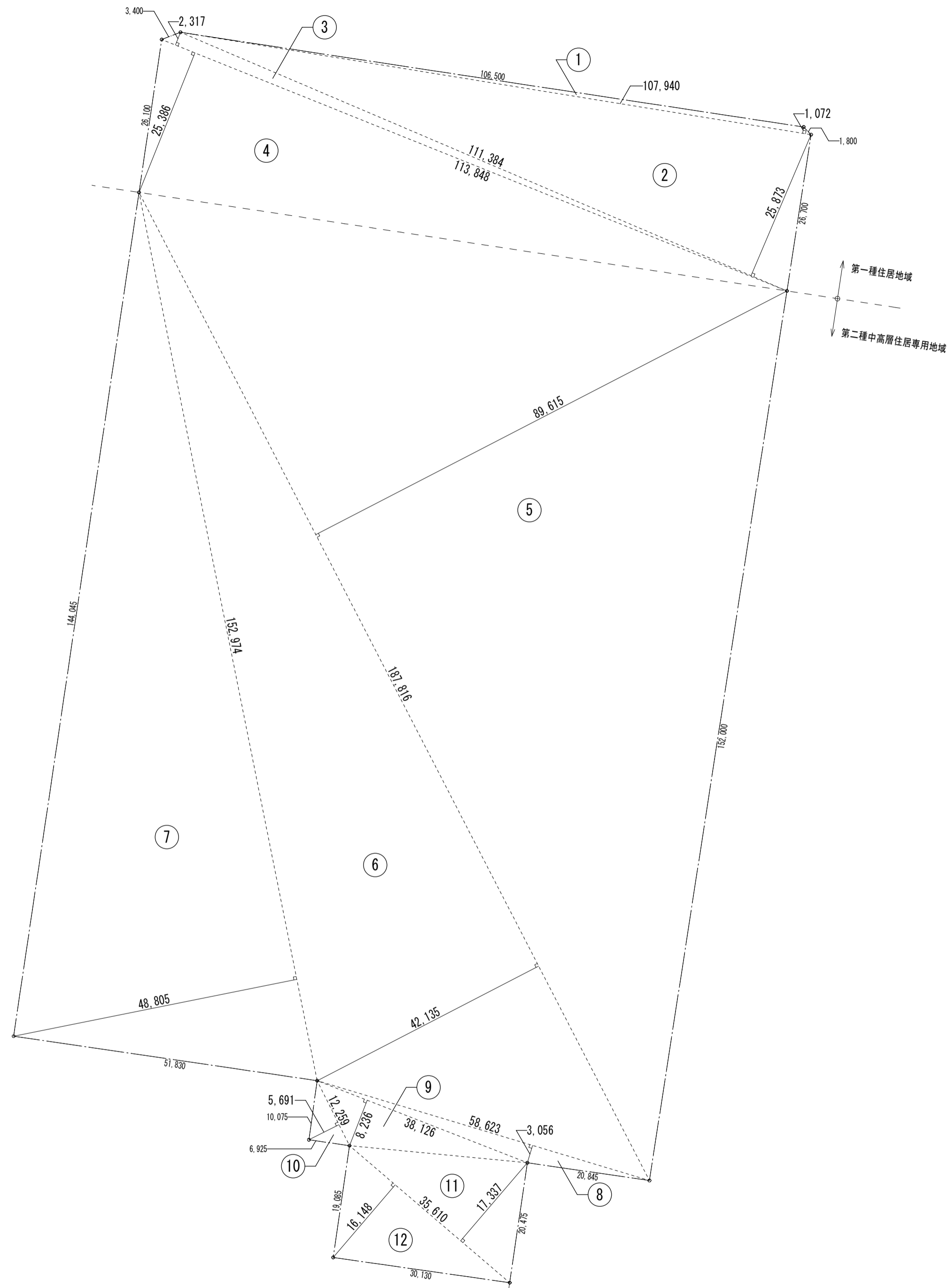


面積表		
符号	計算式 (m)	面積 (㎡)
第一種住居地域		
①	$107.940 \times 1.072 / 2$	55.855
②	$111.384 \times 25.873 / 2$	1,440.919
③	$113.848 \times 2.317 / 2$	131.892
④	$113.848 \times 25.386 / 2$	1,445.072
合計		3,073.738
第二種中高層住居専用地域		
⑤	$187.816 \times 89.615 / 2$	8,415.565
⑥	$187.816 \times 42.135 / 2$	3,956.813
⑦	$152.974 \times 48.805 / 2$	3,732.948
⑧	$58.623 \times 3.056 / 2$	89.575
⑨	$38.126 \times 8.236 / 2$	157.002
⑩	$12.259 \times 5.691 / 2$	34.882
⑪	$36.263 \times 18.023 / 2$	326.784
⑫	$36.263 \times 16.853 / 2$	305.570
合計		17,019.139

第一種住居地域	3,073.73
第二種中高層住居専用地域	17,019.13
合計	20,092.86

敷地図 S=1/600





面積表		
符号	計算式 (m)	面積 (㎡)
第一種住居地域		
①	$107.940 \times 1.072 / 2$	55.855
②	$111.384 \times 25.873 / 2$	1,440.919
③	$113.848 \times 2.317 / 2$	131.892
④	$113.848 \times 25.386 / 2$	1,445.072
合計		3,073.738
第二種中高層住居専用地域		
⑤	$187.816 \times 89.615 / 2$	8,415.565
⑥	$187.816 \times 42.135 / 2$	3,956.813
⑦	$152.974 \times 48.805 / 2$	3,732.948
⑧	$58.623 \times 3.056 / 2$	89.575
⑨	$38.126 \times 8.236 / 2$	157.002
⑩	$12.259 \times 5.691 / 2$	34.882
⑪	$35.610 \times 17.337 / 2$	308.685
⑫	$35.610 \times 16.148 / 2$	287.515
合計		16,982.985

第一種住居地域	3,073.73
第二種中高層住居専用地域	16,982.98
合計	20,056.71

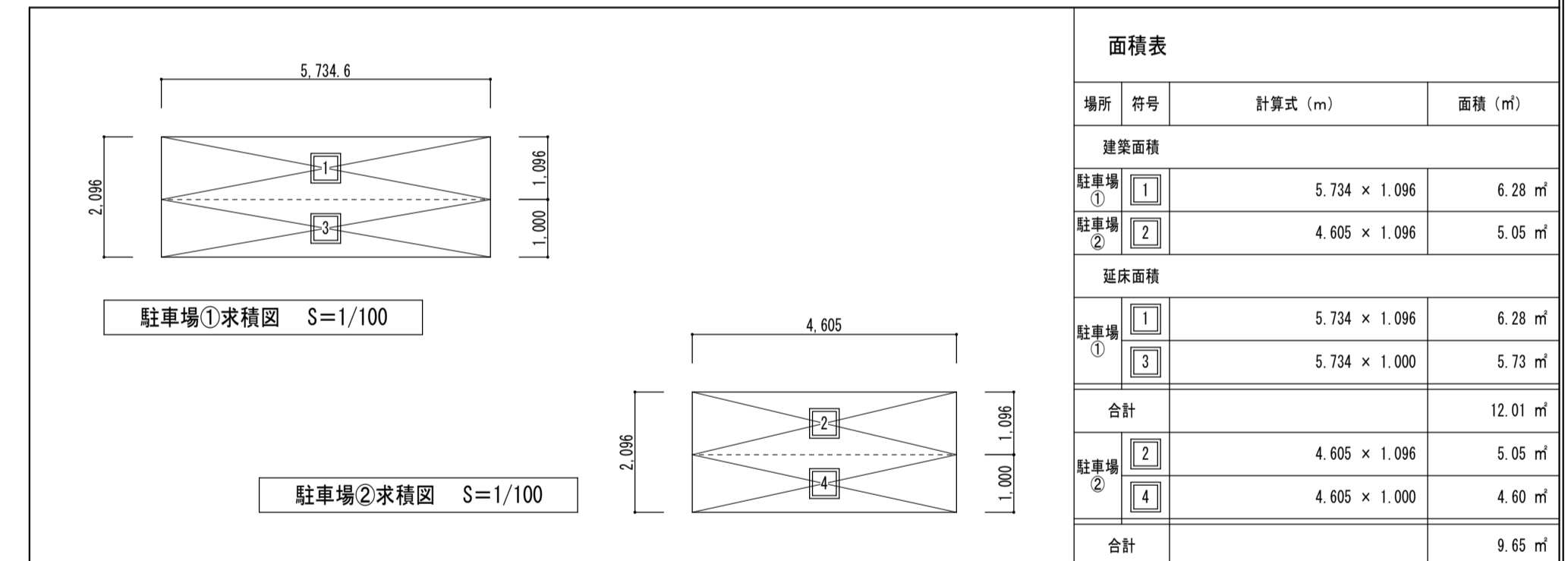
敷地図 S=1/600



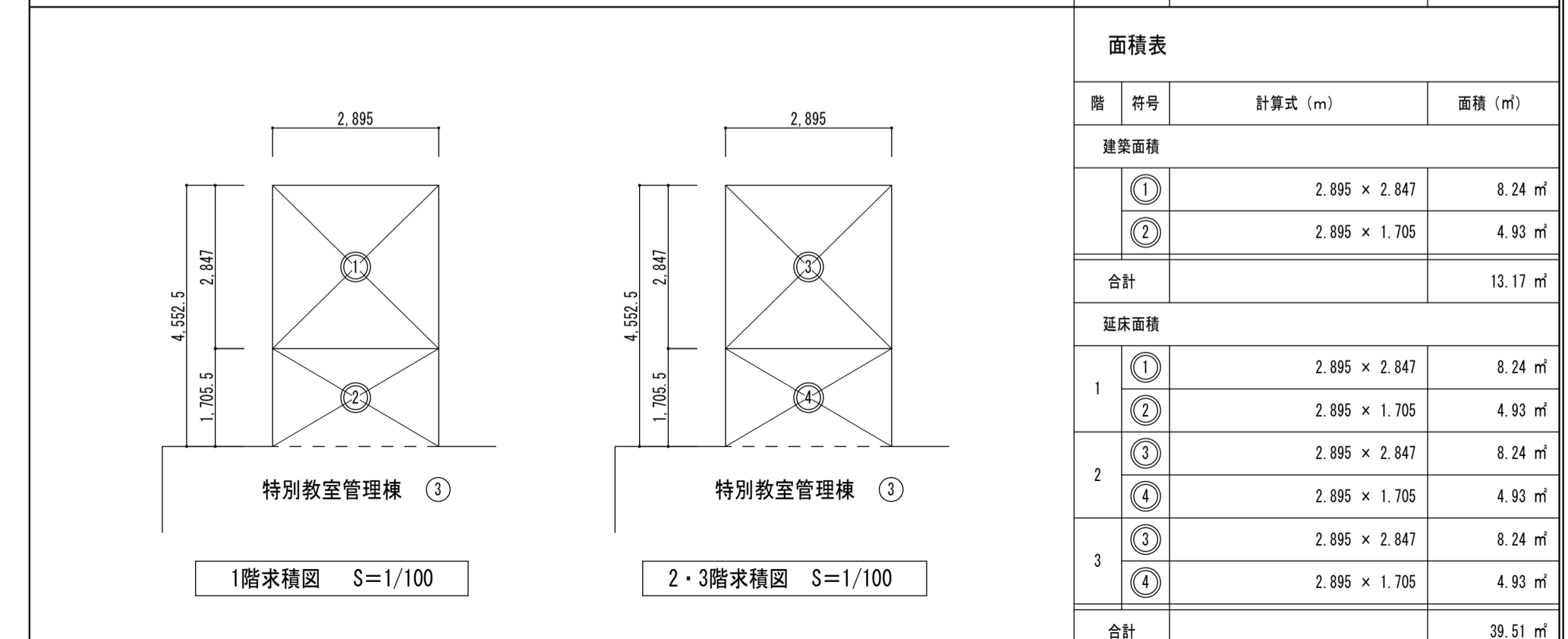


棟数	No.	種別	建物名称	建物用途	構造	屋根	階数	建築面積	床面積	棟数	No.	種別	建物名称	建物用途	構造	屋根	階数	建築面積	床面積
1	①	既設	普通教室棟	校舎	RC造	RC	3	846.86 m ²	2,510.11 m ²	5	⑫	既設	プール付属棟	倉庫兼更衣室	CB造	鋼板	1	104.58 m ²	104.58 m ²
	②	既設	昇降口棟	校舎	RC造	RC	3	362.14 m ²	887.00 m ²	6	⑬	既設	体育庫①	倉庫	CB造	RC	1	32.07 m ²	32.07 m ²
	③	既設	特別教室管理棟	校舎	RC造	RC	3	807.72 m ²	2,335.04 m ²	7	⑭	既設	体育庫②	倉庫	CB造	RC	1	29.70 m ²	29.70 m ²
	④	既設	給食棟	給食室	RC造	RC	1	264.50 m ²	321.88 m ²		⑮	既設	倉庫①	倉庫	S造	鋼板	1	5.88 m ²	5.88 m ²
	⑤	既設	屋外階段①	屋外階段	S造	-	-	29.00 m ²	- m ²		⑯	既設	倉庫②	倉庫	S造	鋼板	1	5.79 m ²	5.79 m ²
	⑥	既設	屋外階段②	屋外階段	S造	-	-	20.19 m ²	- m ²		⑰	既設	倉庫③	倉庫	S造	鋼板	1	4.20 m ²	4.20 m ²
	⑦	新設	昇降機棟	昇降機	S造	RC	3	13.17 m ²	39.51 m ²		⑱	既設	倉庫④	倉庫	木造	鋼板	1	5.17 m ²	5.17 m ²
2	⑧	既設	屋内運動場	屋内運動場	RC造	鋼板	1	1,110.65 m ²	1,167.04 m ²		⑲	既設	倉庫⑤	倉庫	S造	鋼板	1	4.76 m ²	4.76 m ²
	⑨	既設	渡り廊下	屋内運動場	RC造	鋼板	1	158.30 m ²	- m ²		⑳	既設	倉庫⑥	倉庫	CB造	鋼板	1	8.80 m ²	8.80 m ²
3	⑩	既設	放課後児童クラブ	校舎	S造	鋼板	1	142.65 m ²	124.81 m ²	8	㉑	新設	駐輪場①	駐輪場	AL造	アルミ樹脂複合板	1	6.28 m ²	12.01 m ²
4	⑪	既設	放課後児童クラブ	校舎	S造	鋼板	1	104.45 m ²	97.20 m ²		㉒	新設	駐輪場②	駐輪場	AL造	アルミ樹脂複合板	1	5.05 m ²	9.65 m ²

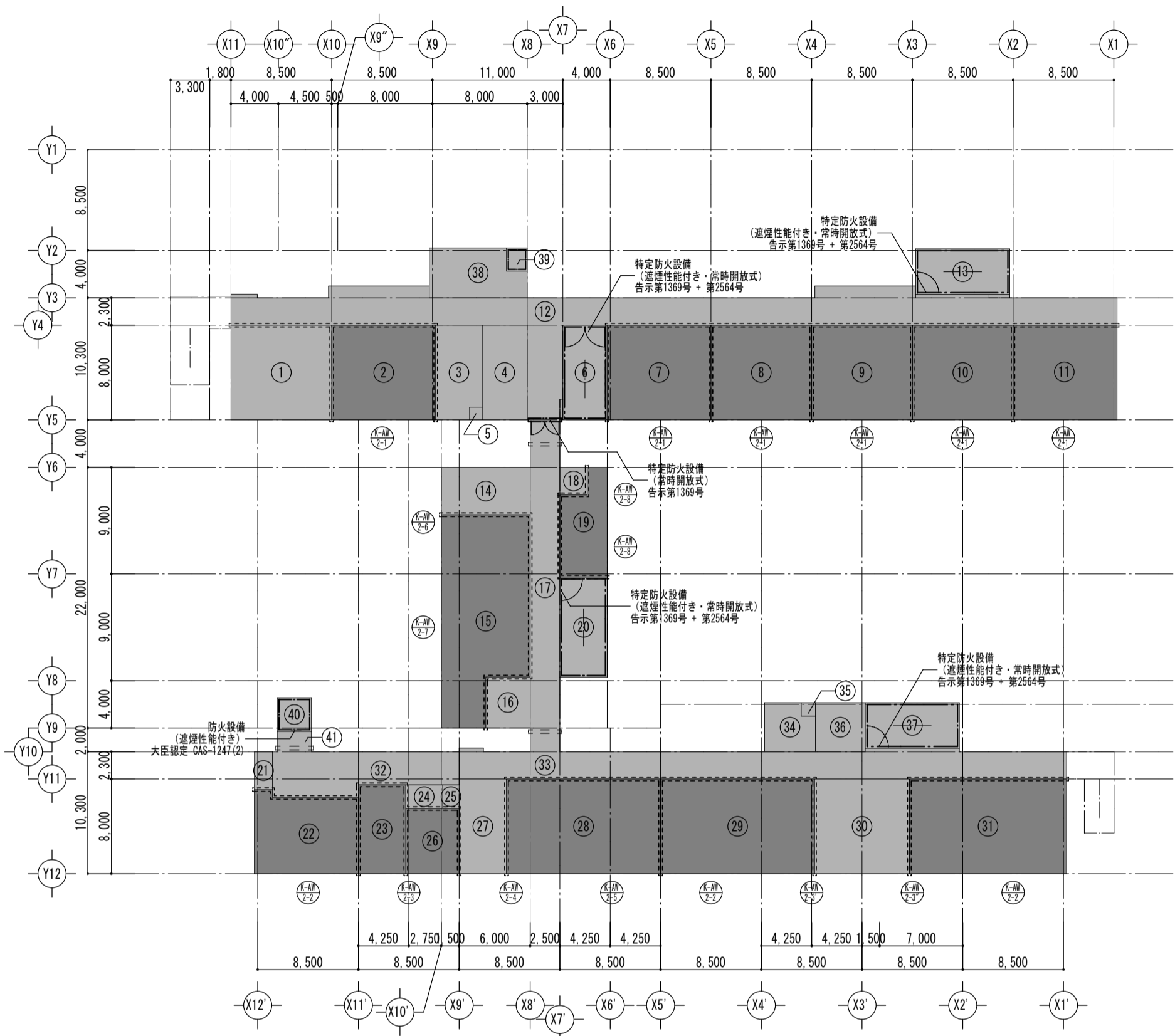
申請棟面積			
建築面積	昇降機棟・駐輪場①・駐輪場②	13.17 + 6.28 + 5.05	24.50 m ²
延床面積	昇降機棟・駐輪場①・駐輪場②	39.51 + 12.01 + 9.65	61.17 m ²



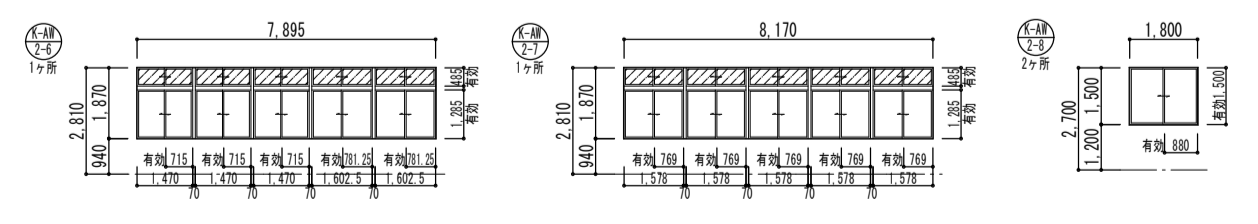
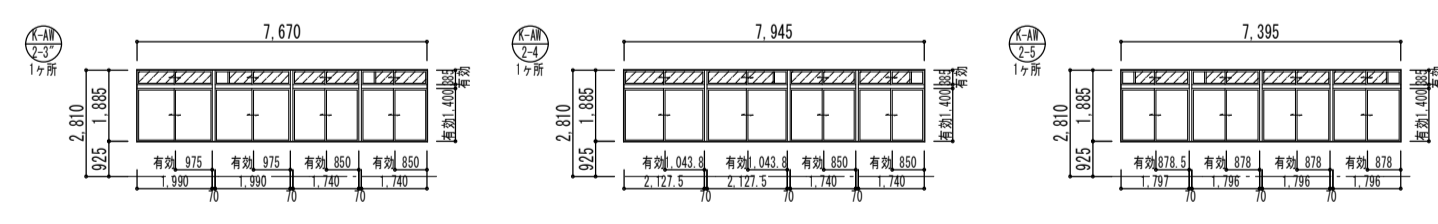
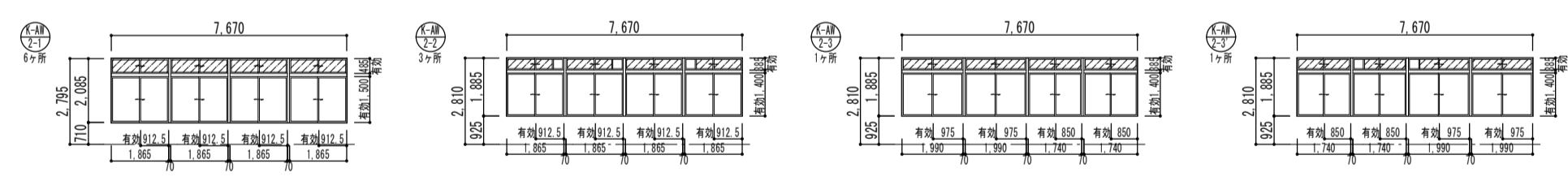
面積表			
場所	符号	計算式 (m)	面積 (m ²)
建築面積			
駐輪場①	①	5.734 × 1.096	6.28 m ²
駐輪場②	②	4.605 × 1.096	5.05 m ²
延床面積			
駐輪場①	①	5.734 × 1.096	6.28 m ²
	③	5.734 × 1.000	5.73 m ²
合計			12.01 m ²
駐輪場②	②	4.605 × 1.096	5.05 m ²
	④	4.605 × 1.000	4.60 m ²
合計			9.65 m ²



面積表			
階	符号	計算式 (m)	面積 (m ²)
建築面積			
1	①	2.895 × 2.847	8.24 m ²
	②	2.895 × 1.705	4.93 m ²
合計			13.17 m ²
延床面積			
1	①	2.895 × 2.847	8.24 m ²
	②	2.895 × 1.705	4.93 m ²
2	③	2.895 × 2.847	8.24 m ²
	④	2.895 × 1.705	4.93 m ²
3	③	2.895 × 2.847	8.24 m ²
	④	2.895 × 1.705	4.93 m ²
合計			39.51 m ²



2階平面図 S=1/400



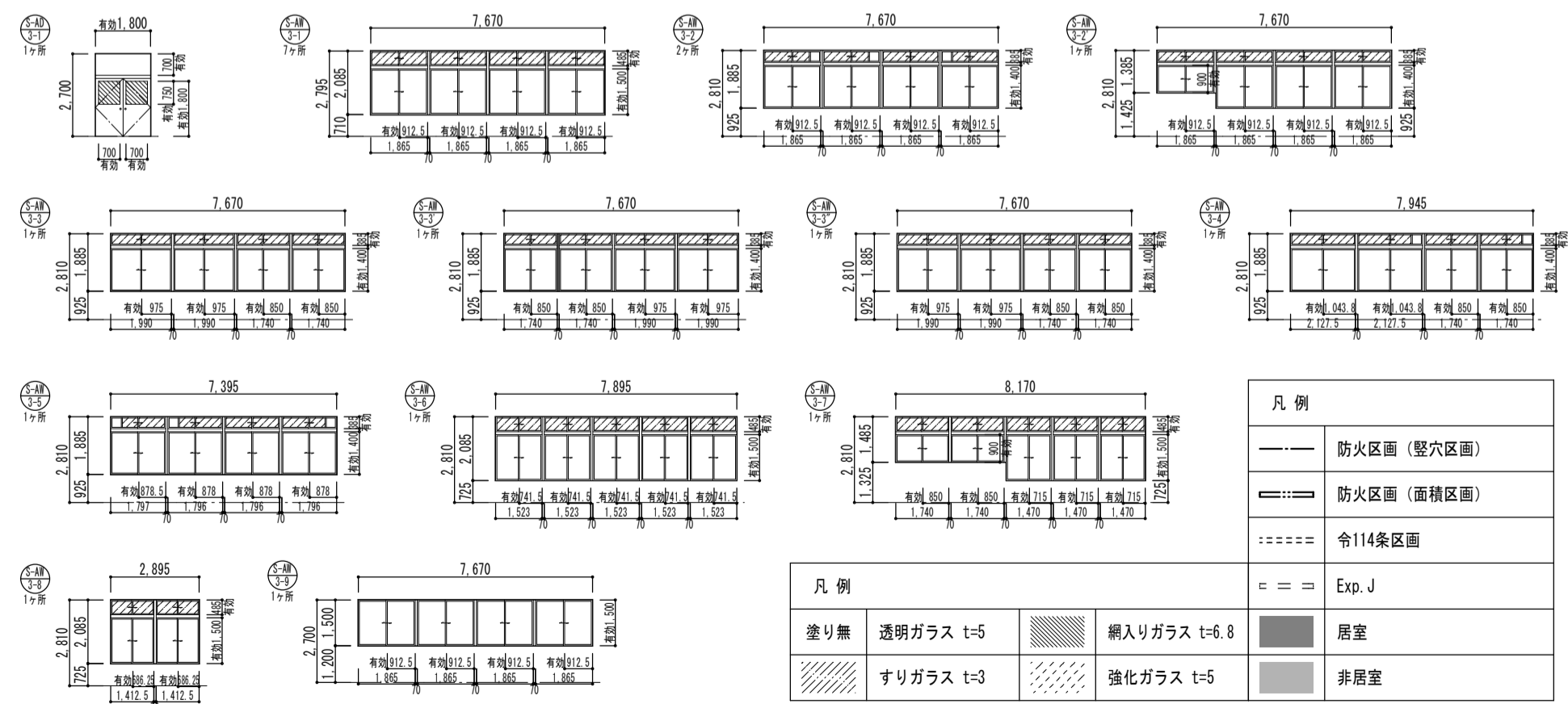
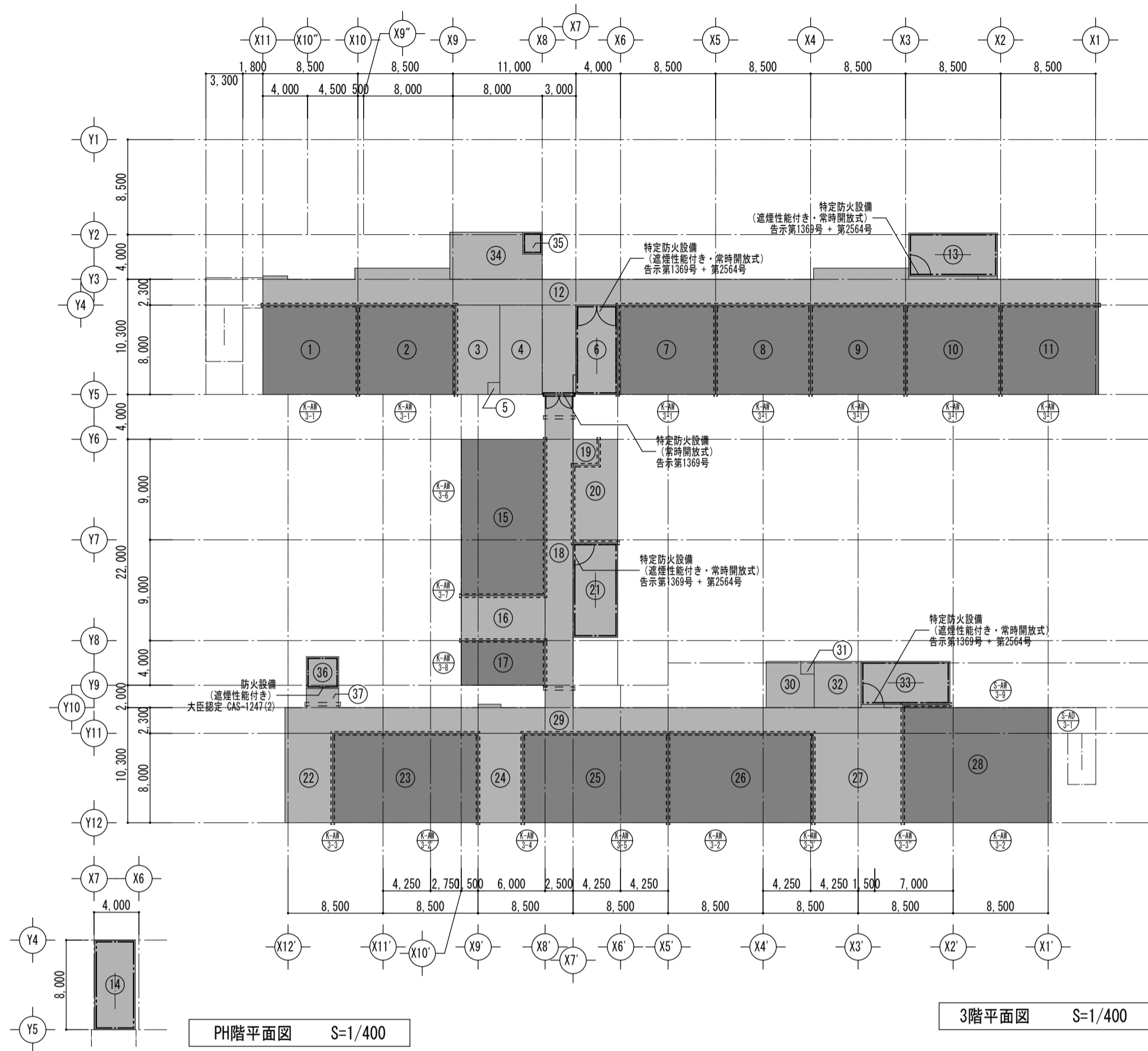
凡例	
	防火区画(穴区画)
	防火区画(面積区画)
	令114条区画
	Exp. J
	居室
	非居室
	塗り無し
	透明ガラス t=5
	すりガラス t=3
	網入りガラス t=6.8
	強化ガラス t=5



法規チェック表

棟	階数	No.	床面積 (㎡)	天井高	採光		換気		排煙				
					法第28条、法第35条の3、令第19条、令第111条1項、令第116条の2	必要面積(※) 1/5、1/20	有効採光面積	必要面積 1/20	有効換気面積	必要面積 1/50	有効排煙面積		
普通教室棟	2	①	68.00	3.020	非居室								
		②	70.20	3.020	14.04	1.86×1.50×4+1.86×0.48×4 = 14.73 → OK	3.51	0.91×1.50×4+0.91×0.48×4 = 7.20 → OK	1.40	0.91×0.48×4 = 1.74 → OK			
		③	30.26	2.400	非居室								
		④	30.40	2.400	非居室								
		⑤	1.14	—	非居室								
		⑥	29.92	—	非居室								
		⑦	70.08	3.020	14.02	1.86×1.50×4+1.86×0.48×4 = 14.73 → OK	3.50	0.91×1.50×4+0.91×0.48×4 = 7.20 → OK	1.40	0.91×0.48×4 = 1.74 → OK			
		⑧	68.00	3.020	13.60	1.86×1.50×4+1.86×0.48×4 = 14.73 → OK	3.40	0.91×1.50×4+0.91×0.48×4 = 7.20 → OK	1.36	0.91×0.48×4 = 1.74 → OK			
		⑨	68.00	3.020	13.60	1.86×1.50×4+1.86×0.48×4 = 14.73 → OK	3.40	0.91×1.50×4+0.91×0.48×4 = 7.20 → OK	1.36	0.91×0.48×4 = 1.74 → OK			
		⑩	68.00	3.020	13.60	1.86×1.50×4+1.86×0.48×4 = 14.73 → OK	3.40	0.91×1.50×4+0.91×0.48×4 = 7.20 → OK	1.36	0.91×0.48×4 = 1.74 → OK			
		⑪	70.20	3.020	14.04	1.86×1.50×4+1.86×0.48×4 = 14.73 → OK	3.51	0.91×1.50×4+0.91×0.48×4 = 7.20 → OK	1.04	0.91×0.48×4 = 1.74 → OK			
		⑫	222.19	2.731	非居室								
		昇降口棟	2	⑭	30.00	3.035	非居室						
⑮	118.88			3.035	23.78	1.47×(1.28+0.48)×3+1.57×(1.28+0.48)×5 +1.42×(1.28+0.48)×2 = 26.57 → OK	5.94	0.71×(1.28+0.48)×3+0.76×(1.28+0.48)×5 +0.68×(1.28+0.48)×2 = 12.83 → OK	2.38	0.71×0.48×3+0.76×0.48×5+0.68×0.48×2 = 3.49 → OK			
⑯	16.12			3.020	非居室								
⑰	59.76			2.731	非居室								
⑱	5.35			2.500	非居室								
⑲	31.75			2.731	6.35	(1.80×1.50×2)×3(※1) = 16.20 → OK	1.59	0.88×1.50×2 = 2.64 → OK	対象外				
⑳	33.80			—	非居室								
特別教室管理棟	2			㉑	4.88	2.500	非居室						
				㉒	57.48	3.020	6.35	1.86×1.40×4+1.86×0.38×4 = 13.24 → OK	1.59	0.91×1.40×4+0.91×0.38×4 = 6.47 → OK	0.64	0.91×0.10×4+0.91×0.38×4 = 1.74 → OK	
				㉓	30.00	3.020	6.35	1.74×1.40×2+1.74×0.38×2×3(※1) = 18.57 → OK	1.59	0.85×1.40×2+0.85×0.38×2 = 6.19 → OK	対象外		
		㉔	6.23	2.750	非居室								
		㉕	2.77	2.631	非居室								
		㉖	24.75	3.020	4.95	1.99×1.40×2+1.99×0.38×2 = 7.08 → OK	1.24	0.97×1.40×2+0.97×0.38×2 = 3.45 → OK	対象外				
		㉗	32.00	3.020	非居室								
		㉘	104.00	3.020	20.80	(2.12×(1.40+0.38)×2+1.79×(1.40+0.38)×4) ×3(※1) = 60.87 → OK	5.20	1.04×(1.40+0.38)×2+0.87×(1.40+0.38)×4 = 9.89 → OK	2.08	1.04×(0.10+0.38)×2+0.87×(0.10+0.38)×4 = 2.66 → OK			
		㉙	104.00	3.035	20.80	(1.86×(1.40+0.38)×4+1.99×(1.40+0.38)×2) ×3(※1) = 60.98 → OK	5.20	0.91×(1.40+0.38)×4+0.97×(1.40+0.38)×2 = 9.93 → OK	2.08	0.91×0.38×4+0.97×0.38×2 = 2.12 → OK			
		㉚	64.00	3.035	非居室								
		㉛	106.20	3.035	21.24	(1.86×(1.40+0.38)×4+1.99×(1.40+0.38)×2) ×3(※1) = 60.98 → OK	5.31	0.91×(1.40+0.38)×4+0.97×(1.40+0.38)×2 = 9.93 → OK	2.12	0.91×(0.10+0.38)×4+0.97×(0.10+0.38)×2 = 2.67 → OK			
		㉜	51.82	2.631	非居室								
		㉝	124.88	2.731	非居室								
		給食棟	2	㉞	31.50	2.700	非居室						
㉟	3.46			—	非居室								
㊱	4.93			2.731	非居室								
昇降口棟	2	㊲	8.24	—	非居室								
		㊳	4.93	2.731	非居室								

(※)採光必要面積は、教室：1/5・その他居室：1/20とする。(※1)採光補正係数は3とする。



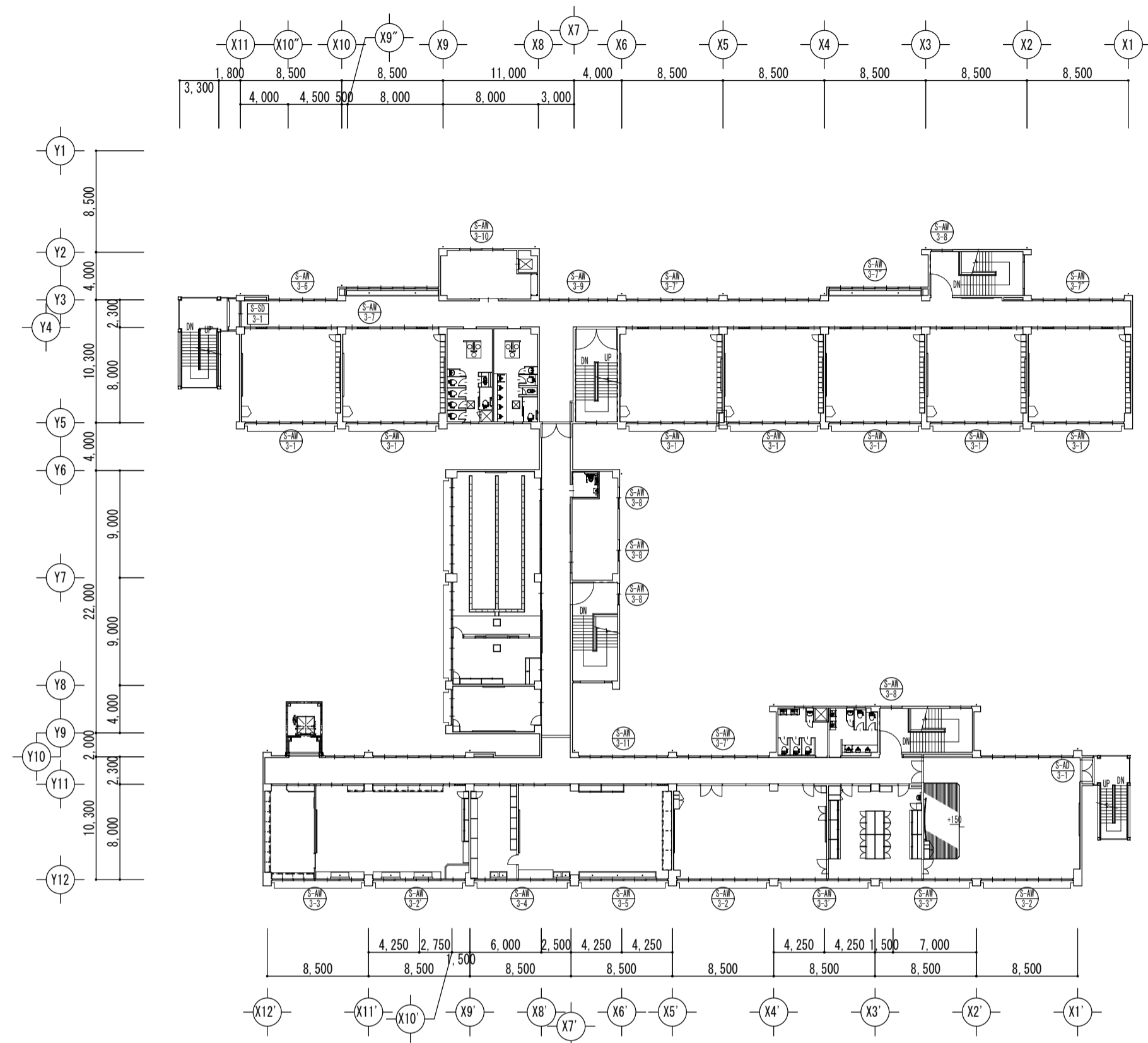
凡例

---	防火区画 (壁区画)	■	居室
---	防火区画 (面積区画)	■	非居室
----	令114条区画	□	Exp. J
□	塗り無し	■	透明ガラス t=5
■	すりガラス t=3	■	網入りガラス t=6.8
■		■	強化ガラス t=5

法規チェック表

棟	階数	No.	室詳細	床面積 (㎡)	天井高	採光		換気		排煙				
						必要面積 (※) 1/5, 1/20	有効採光面積	必要面積 1/20	有効換気面積	必要面積 1/50	有効排煙面積			
普通教室棟	3	①	居室	68.00	3,020	13.60	1.86 × 1.50 × 4 + 1.86 × 0.48 × 4 = 14.73 → OK	3.40	0.91 × 1.50 × 4 + 0.91 × 0.48 × 4 = 7.20 → OK	1.36	0.91 × 0.48 × 4 = 1.74 → OK			
		②	居室	70.20	3,020	14.04	1.86 × 1.50 × 4 + 1.86 × 0.48 × 4 = 14.73 → OK	3.51	0.91 × 1.50 × 4 + 0.91 × 0.48 × 4 = 7.20 → OK	1.40	0.91 × 0.48 × 4 = 1.74 → OK			
		③	非居室	30.26	2,400	非居室		非居室		非居室				
		④	非居室	30.40	2,400	非居室		非居室		非居室				
		⑤	非居室	1.14	—	非居室		非居室		非居室				
		⑥	非居室	29.92	—	非居室		非居室		非居室				
		⑦	居室	70.08	3,020	14.02	1.86 × 1.50 × 4 + 1.86 × 0.48 × 4 = 14.73 → OK	3.50	0.91 × 1.50 × 4 + 0.91 × 0.48 × 4 = 7.20 → OK	1.40	0.91 × 0.48 × 4 = 1.74 → OK			
		⑧	居室	68.00	3,020	13.60	1.86 × 1.50 × 4 + 1.86 × 0.48 × 4 = 14.73 → OK	3.40	0.91 × 1.50 × 4 + 0.91 × 0.48 × 4 = 7.20 → OK	1.36	0.91 × 0.48 × 4 = 1.74 → OK			
		⑨	居室	68.00	3,020	13.60	1.86 × 1.50 × 4 + 1.86 × 0.48 × 4 = 14.73 → OK	3.40	0.91 × 1.50 × 4 + 0.91 × 0.48 × 4 = 7.20 → OK	1.36	0.91 × 0.48 × 4 = 1.74 → OK			
		⑩	居室	68.00	3,020	13.60	1.86 × 1.50 × 4 + 1.86 × 0.48 × 4 = 14.73 → OK	3.40	0.91 × 1.50 × 4 + 0.91 × 0.48 × 4 = 7.20 → OK	1.36	0.91 × 0.48 × 4 = 1.74 → OK			
		⑪	居室	70.20	3,020	14.04	1.86 × 1.50 × 4 + 1.86 × 0.48 × 4 = 14.73 → OK	3.51	0.91 × 1.50 × 4 + 0.91 × 0.48 × 4 = 7.20 → OK	1.40	0.91 × 0.48 × 4 = 1.74 → OK			
		⑫	非居室	222.19	2,731	非居室		非居室		非居室				
		⑬	非居室	30.61	—	非居室		非居室		非居室				
		PH	⑭	29.12	—	非居室		非居室		非居室				
昇降口棟	3	⑮	居室	105.00	3,000 ~ 3,150	21.00	1.52 × (1.50 + 0.48) × 5 + 1.47 × (1.50 + 0.48) × 3 = 23.78 → OK	5.25	0.74 × (1.50 + 0.48) × 5 + 0.71 × (1.50 + 0.48) × 3 = 11.54 → OK	2.10	0.74 × 0.48 × 5 + 0.71 × 0.48 × 3 = 2.79 → OK			
		⑯	非居室	30.00	2,435	非居室		非居室		非居室				
		⑰	非居室	30.00	3,020	1.50	1.41 × 1.50 × 2 + 1.41 × 0.48 × 2 = 5.58 → OK	1.50	0.68 × 1.50 × 2 + 0.68 × 0.48 × 2 = 2.69 → OK	対象外				
		⑱	非居室	59.76	2,731	非居室		非居室		非居室				
		⑲	非居室	5.35	2,500	非居室		非居室		非居室				
		⑳	非居室	31.75	2,731	非居室		非居室		非居室				
		㉑	非居室	33.80	—	非居室		非居室		非居室				
		特別教室管理棟	3	㉒	非居室	34.20	2,935 ~ 3,035	非居室		非居室		非居室		
				㉓	居室	104.00	3,035	20.80	(1.86 × (1.40 + 0.38) × 3 + 1.86 × (0.90 + 0.38) × 3) + 1.99 × (1.40 + 0.38) × 2 × 3 (※1) = 58.19 → OK	5.20	0.91 × (1.40 + 0.38) × 3 + 0.91 × (0.90 + 0.38) × 3 + 0.97 × (1.40 + 0.38) × 2 = 5.21 → OK	2.08	0.91 × 0.38 × 4 + 0.97 × 0.38 × 2 = 2.12 → OK	
				㉔	非居室	32.00	3,020	非居室		非居室		非居室		
				㉕	居室	104.00	3,020	20.80	(2.12 × (1.40 + 0.38) × 2 + 1.79 × (1.40 + 0.38) × 4) × 3 (※1) = 60.87 → OK	5.20	1.04 × (1.40 + 0.38) × 2 + 0.87 × (1.40 + 0.38) × 4 = 9.89 → OK	2.08	1.04 × (0.10 + 0.38) × 2 + 0.87 × (0.10 + 0.38) × 4 = 2.66 → OK	
㉖	居室			104.00	2,960 ~ 3,110	20.80	(1.86 × (1.40 + 0.38) × 4 + 1.99 × (1.40 + 0.38) × 2) × 3 (※1) = 60.98 → OK	5.20	0.91 × (1.40 + 0.38) × 4 + 0.97 × (1.40 + 0.38) × 2 = 9.93 → OK	2.08	0.91 × 0.38 × 4 + 0.97 × 0.38 × 2 = 2.12 → OK			
㉗	非居室			64.00	3,035	非居室		非居室		非居室				
㉘	居室			137.94	2,960 ~ 3,110	27.59	1.86 × (1.40 + 0.38) × 4 + 1.99 × (1.40 + 0.38) × 2 + 1.86 × 1.50 × 4 + 1.80 × 0.70 × 0.75 × 2 = 33.79 → OK	6.90	0.91 × (1.40 + 0.38) × 4 + 0.97 × (1.40 + 0.38) × 2 + 0.91 × 1.50 × 4 + 1.80 × 1.80 = 18.63 → OK	2.76	0.91 × 0.38 × 4 + 0.97 × 0.38 × 2 + 0.91 × 0.46 × 4 = 3.79 → OK			
㉙	非居室			132.87	2,731	非居室		非居室		非居室				
㉚	非居室			16.40	2,400	非居室		非居室		非居室				
㉛	非居室			1.36	—	非居室		非居室		非居室				
給食棟	3			㉜	非居室	31.50	2,700	非居室		非居室		非居室		
		㉝	非居室	3.46	—	非居室		非居室		非居室				
昇降機棟	3	㉞	非居室	8.24	—	非居室		非居室		非居室				
		㉟	非居室	4.93	2,731	非居室		非居室		非居室				

(※) 採光必要面積は、教室：1/5・その他居室：1/20とする。(※1) 採光補正係数は3とする。



3階平面図 S=1/400

法規チェック表

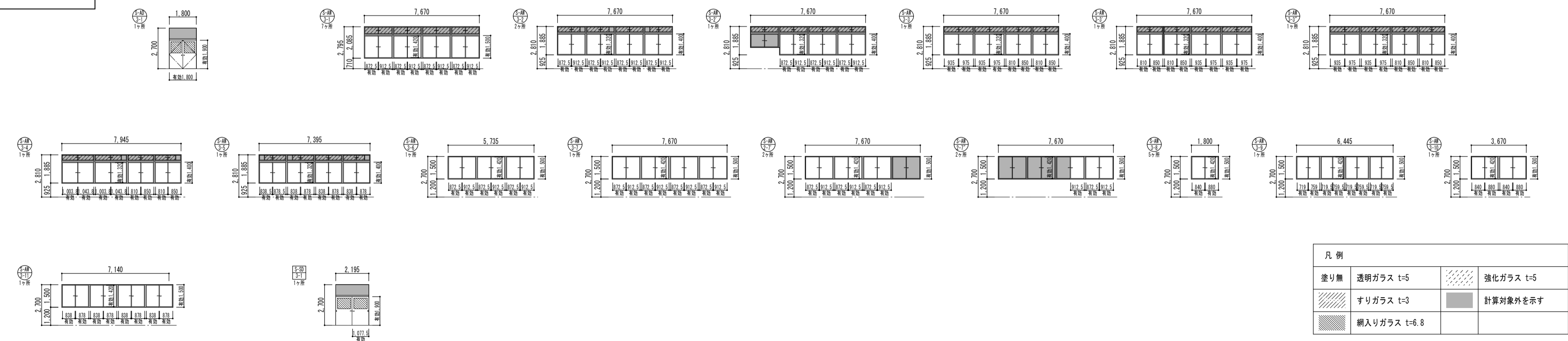
階数	床面積 (m ²)	係数	必要面積 (m ²)	建具記号	建具種類	ガラス種類	ガラス厚 (mm)	計算式	小計 (m ²)	箇所数	開口面積 (m ²)	合計 (m ²)	判定
3	1,949.55	1/30	64.99	S-30 3-1	アルミ両開き戸	網入りガラス	6.8	1.80 × 1.90	3.42	1	3.42	226.71	OK
					アルミ引違い窓	透明ガラス	5	0.91 × 1.50 × 4 + 0.87 × 1.42 × 4	10.40	7	72.80		
					アルミ引違い窓	透明ガラス	5	0.91 × 1.40 × 4 + 0.87 × 1.32 × 4	9.68	2	19.36		
					アルミ引違い窓	透明ガラス	5	0.91 × 1.40 × 3 + 0.87 × 1.32 × 3	7.26	1	7.26		
					アルミ引違い窓	透明ガラス	5	0.97 × 1.40 × 2 + 0.93 × 1.32 × 2 + 0.85 × 1.40 × 2 + 0.81 × 1.32 × 2	9.68	1	9.68		
					アルミ引違い窓	透明ガラス	5	0.85 × 1.40 × 2 + 0.81 × 1.32 × 2 + 0.97 × 1.40 × 2 + 0.93 × 1.32 × 2	9.68	1	9.68		
					アルミ引違い窓	透明ガラス	5	0.97 × 1.40 × 2 + 0.93 × 1.32 × 2 + 0.85 × 1.40 × 2 + 0.81 × 1.32 × 2	9.68	1	9.68		
					アルミ引違い窓	透明ガラス	5	1.04 × 1.40 × 2 + 1.00 × 1.32 × 2 + 0.85 × 1.40 × 2 + 0.81 × 1.32 × 2	10.07	1	10.07		
					アルミ引違い窓	透明ガラス	5	0.87 × 1.40 × 4 + 0.83 × 1.32 × 4	9.25	1	9.25		
					アルミ引違い窓	透明ガラス	5	0.91 × 1.50 × 3 + 0.87 × 1.42 × 3	7.80	1	7.80		
					アルミ引違い窓	透明ガラス	5	0.91 × 1.50 × 4 + 0.87 × 1.42 × 4	10.40	1	10.40		
					アルミ引違い窓	透明ガラス	5	0.91 × 1.50 × 3 + 0.87 × 1.42 × 3	7.80	2	15.60		
					アルミ引違い窓	透明ガラス	5	0.91 × 1.50 × 2 + 0.87 × 1.42 × 1	3.96	2	7.92		
アルミ引違い窓	透明ガラス	5	0.88 × 1.50 + 0.84 × 1.42	2.51	5	12.55							
アルミ引違い窓	透明ガラス	5	0.75 × 1.50 × 2 + 0.71 × 1.42 × 2	4.26	1	4.26							
アルミ引違い窓	透明ガラス	5	0.88 × 1.50 × 2 + 0.84 × 1.42 × 2	5.02	1	5.02							
アルミ引違い窓	透明ガラス	5	0.87 × 1.50 × 4 + 0.83 × 1.42 × 4	9.93	1	9.93							
S-30 3-1	スチール引違い戸	網入りガラス	6.8	1.07 × 1.90	2.03	1	2.03						

有窓階

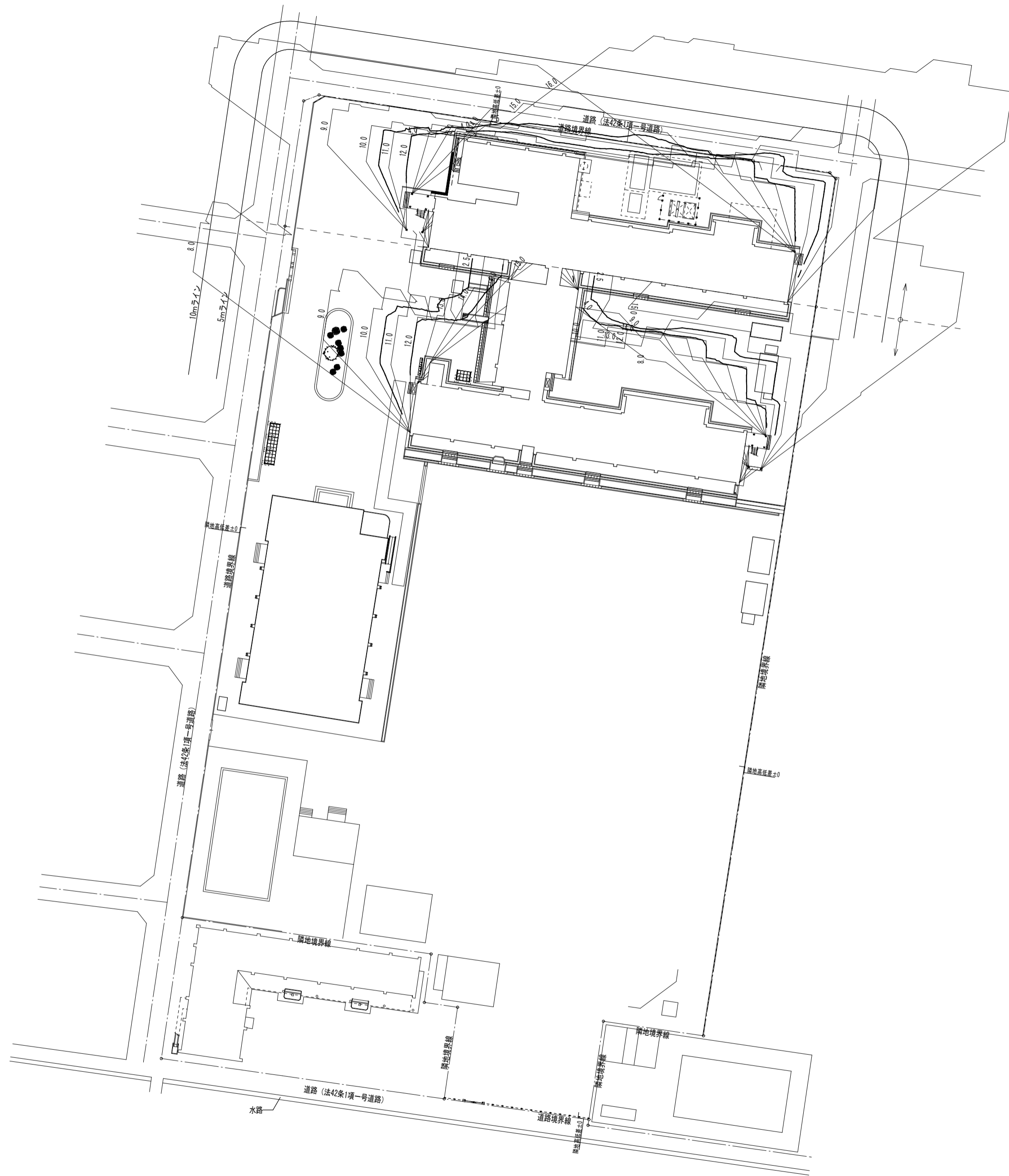
階収容人数

1階	140人	2階	130人	3階	105人
合計					375人

建具姿図 S=1/200



塗り無	透明ガラス t=5	強化ガラス t=5
すりガラス t=3	網入りガラス t=6.8	計算対象外を示す

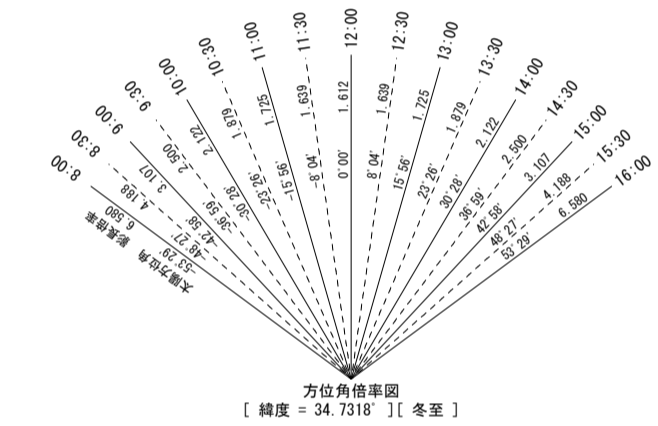


日影長さ表 [緯度 = 34.7318°] [冬至]
 高さ = 10.000 (m) 測定面高さ = 4 (m)
 計算高さ = 6.000 (m)

時刻	影長倍率	日影長さ (m)
8:00	6.580	39.480
8:30	4.188	25.128
9:00	3.107	18.642
9:30	2.500	15.000
10:00	2.122	12.732
10:30	1.879	11.274
11:00	1.725	10.350
11:30	1.639	9.834
12:00	1.612	9.672
12:30	1.639	9.834
13:00	1.725	10.350
13:30	1.879	11.274
14:00	2.122	12.732
14:30	2.500	15.000
15:00	3.107	18.642
15:30	4.188	25.128
16:00	6.580	39.480

影倍率表 [緯度 = 34.7318°] [冬至]

時刻	太陽高度	太陽方位角	影長倍率	X倍率	Y倍率
8:00	8°38'	-53°29'	6.580	-5.288	3.916
8:30	13°26'	-48°27'	4.188	-3.134	2.778
9:00	17°51'	-42°58'	3.107	-2.117	2.274
9:30	21°48'	-36°59'	2.500	-1.504	1.997
10:00	25°14'	-30°28'	2.122	-1.076	1.829
10:30	28°01'	-23°26'	1.879	-0.747	1.724
11:00	30°06'	-15°56'	1.725	-0.473	1.659
11:30	31°23'	-8°04'	1.639	-0.230	1.623
12:00	31°49'	0°00'	1.612	0.000	1.612
12:30	31°23'	8°04'	1.639	0.230	1.623
13:00	30°06'	15°56'	1.725	0.473	1.659
13:30	28°01'	23°26'	1.879	0.747	1.724
14:00	25°14'	30°28'	2.122	1.076	1.829
14:30	21°48'	36°59'	2.500	1.504	1.997
15:00	17°51'	42°58'	3.107	2.117	2.274
15:30	13°26'	48°27'	4.188	3.134	2.778
16:00	8°38'	53°29'	6.580	5.288	3.916



日影図 S=1/700



外部仕上表（普通教室棟・特別教室管理棟・昇降口棟）									
屋上 （普通教室棟）	改修前	コンクリート金ゴテ押えの上、アスファルト防水の上、豆砂利コンクリートt=100金ゴテ押え			外壁 （普通教室棟）	改修前	モルタル刷毛引き下地の上、アクリル系リシン吹付仕上（※一部、塗材含有）【塗材撤去（集塵装置付超高压水洗工法（100Mpa以上）、集塵装置付湿式ディスクグラインダーケレン併用工法）】		
	改修後	平場：水洗い・ポリマーセメント下地調整（目地処理共）の上、ウレタンゴム系塗膜防水（フッ素仕上・密着工法） 「X-1」工法【新設】 立上り・清部：水洗い・ポリマーセメント下地調整の上、ウレタンゴム系塗膜防水（フッ素仕上・密着工法） 「X-2」工法【新設】				改修後	超高压水洗（30～50MPa）の上、下地調整（C-1（アスベスト除去部：C-2）の上、複層塗材E（フッ素仕上）塗替え		
PH （普通教室棟）	改修前	コンクリート金ゴテ押えの上、アスファルト防水の上、豆砂利コンクリートt=60～80金ゴテ押え			外壁 （特別教室管理棟） （昇降口棟）	改修前	モルタル刷毛引き下地の上、アクリル系リシン吹付仕上【一部撤去】		
	改修後	平場：水洗い・ポリマーセメント下地調整の上、ウレタンゴム系塗膜防水（フッ素仕上・密着工法） 「X-2」工法【新設】 立上り・清部：水洗い・ポリマーセメント下地調整の上、ウレタンゴム系塗膜防水（フッ素仕上・密着工法） 「X-2」工法【新設】				改修後	鉄筋防錆処理・コンクリート下地・モルタル刷毛引き下地の上、複層塗材E（フッ素仕上）【一部新設】		
伸縮目地 （普通教室棟）	改修前	屋上：成形伸縮目地材【撤去】			外壁巾木	改修前	モルタル刷毛引き仕上		
	改修後	屋上：目地処理テープ【新設】				改修後	普通教室棟：水洗い 昇降口棟・特別管理教室棟：【既設のまま】		
機械基礎 （普通教室棟）	改修前	機械基礎：防水モルタル金ゴテ仕上 高置水槽架台：【撤去】			樋・ドレン （普通教室棟）	改修前	縦樋：配管用炭素鋼鋼管（SGP）白管φ100 OP塗装【撤去】		ドレン：鑄鉄縦引・横引きドレン（コールタール焼付）φ100【撤去】
	改修後	機械基礎立上り：水洗い・ポリマーセメント下地調整の上、ウレタンゴム系塗膜防水（フッ素仕上・密着工法） 「X-2」工法【新設】 機械基礎天端：ポリマーセメント下地調整の上、自閉樹脂塗膜防水【新設】				改修後	縦樋：カラーVP管φ100（SUS製摺り金物φ1000、集水器共）【新設】		ドレン：改修用縦引・横引ドレンφ100（鑄鉄製キャップ共）【新設】
笠木 （普通教室棟）	改修前	屋上・PH：防水モルタル金ゴテ押え			脱気筒 （普通教室棟）	改修前	脱気筒：－		
	改修後	屋上・PH：水洗い・ポリマーセメント下地調整の上、ウレタンゴム系塗膜防水（フッ素仕上・密着工法） 「X-2」工法【新設】				改修後	脱気筒：SUS製脱気筒【新設】		
笠木 （特別教室管理棟）	改修前	防水モルタル金ゴテ押え【既設のまま】			屋上フェンス （普通教室棟）	改修前	ネットフェンスh=1,800（支柱、基礎つなぎ、扉共）【撤去】		
	改修後	－				改修後	既設基礎コア抜きの上、メッシュフェンスh=1,500（基礎つなぎ共） 、フェンス扉（鍵共）【新設】		
外部出入口庇 （普通教室棟）	改修前	合成ゴム塗膜防水の上、防水モルタル金ゴテ押え【防水モルタル撤去】			タラップ （普通教室棟）	改修前	タラップ：スチールφ19@300 OP塗装（枠：FB-50×6 OP塗装）		
	改修後	防水モルタル金ゴテ押えの上、自閉樹脂塗膜防水【新設】				改修後	タラップ：下地調整の上、DP塗替え（1級）		
窓上庇 （普通教室棟）	改修前	合成ゴム塗膜防水の上、防水モルタル金ゴテ押え			煙突 （普通教室棟）	改修前	煙突：コンクリート下地の上、防水モルタル金ゴテ押え 、 煙突蓋【撤去】		
	改修後	水洗いの上、自閉樹脂塗膜防水【新設】				改修後	煙突立上り：水洗い・ポリマーセメント下地調整の上、ウレタンゴム系塗膜防水（フッ素仕上・密着工法） 「X-2」工法【新設】 、 SUS製煙突蓋【新設】		
軒天 （普通教室棟）	改修前	コンクリート打放の上、アクリル系リシン吹付仕上（※一部下地調整材含有）【下地調整材撤去（集塵装置付湿式ディスクグラインダーケレン工法）】			外部フェンス	改修前	敷地南側：コンクリートブロック塀h=1,300（基礎共）【撤去】		受水槽周り：ネットフェンスh=1800（基礎共）【撤去】
	改修後	超高压水洗（30～50MPa）の上、下地調整（C-1（アスベスト除去部：C-2）の上、外装薄塗材E塗替え				改修後	敷地南側：メッシュフェンスh=1,800（基礎共）【新設】		受水槽周り：メッシュフェンスh=2,000（基礎共）、フェンス扉（鍵共）【新設】

外部仕上表（昇降機棟）									
屋根	改修前	平場：モルタル金ゴテ下地の上、ウレタンゴム系塗膜防水（フッ素仕上・密着工法） 「X-2」工法【新設】 立上り：コンクリート下地の上、ウレタンゴム系塗膜防水（フッ素仕上・密着工法） 「X-2」工法【新設】			笠木	アルミ笠木w=350（取付金物共）【新設】			
	改修後	－				－			
外壁	改修前	外壁：ALCパネルt=125の上、下地調整（C-1）の上、複層塗材E（フッ素仕上）【新設】 内壁：ALCパネルt=125素地【新設】			樋・ドレン	縦樋：カラーVP管φ75（SUS製つかみ金物、集水器共）【新設】 ドレン：横引ドレンφ75（鑄鉄製キャップ共）【新設】			
	改修後	－				－			
外壁巾木	改修前	コンクリート打放し下地の上、薄塗りモルタル仕上【新設】			－				
	改修後	－			－				

内部仕上表（普通教室棟）									
階	室名		床	巾木	壁	廻縁	天井	天井高	備考
1階	普通教室 ①～⑦	改修前	モルタル下地の上、ナラフローリングブロックt=15貼り OSW塗装【既設のまま】	米ツガ h=115 OP塗装	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装 梁（ボード面）：PB t=9目透し張り（※一部塗材含有） EP塗装	木製廻り縁【既設のまま】	(中央)有孔PB t=9目透し張り（※一部塗材含有） EP塗装【既設のまま】 (周囲)PB t=9目透し張り（※一部塗材含有） EP塗装【既設のまま】	3.020	掲示クロス【一部撤去】 パーティション：掲示クロス【撤去】
		改修後	－	下地調整の上、EP-G塗替え	下地調整の上、EP塗替え 梁（ボード面）：下地調整の上、EP塗替え	－	－	3.020	掲示クロス【一部新設】 パーティション：掲示クロス（押縁共）【新設】
2階	普通教室 ⑧～⑫	改修前	モルタル下地の上、ナラフローリングブロックt=15貼り OSW塗装【既設のまま】	米ツガ h=115 OP塗装	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装 梁（ボード面）：PB t=9目透し張り EP塗装	木製廻り縁【既設のまま】	(中央)有孔PB t=9目透し張り EP塗装【既設のまま】 (周囲)PB t=9目透し張り EP塗装【既設のまま】	3.020	掲示クロス【一部撤去】 パーティション：掲示クロス【撤去】
		改修後	－	下地調整の上、EP-G塗替え	下地調整の上、EP塗替え 梁（ボード面）：下地調整の上、EP塗替え	－	－	3.020	掲示クロス【一部新設】 パーティション：掲示クロス（押縁共）【新設】
3階	普通教室 ⑬～⑯	改修前	モルタル下地の上、ナラフローリングブロックt=15貼り OSW塗装【既設のまま】	米ツガ h=115 OP塗装	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装 梁（ボード面）：PB t=9目透し張り EP塗装	木製廻り縁【既設のまま】	(中央)有孔PB t=9目透し張り EP塗装【既設のまま】 (周囲)PB t=9目透し張り EP塗装【既設のまま】	3.020	掲示クロス【一部撤去】 パーティション：掲示クロス【撤去】
		改修後	－	下地調整の上、EP-G塗替え	下地調整の上、EP塗替え 梁（ボード面）：下地調整の上、EP塗替え	－	－	3.020	掲示クロス【一部新設】 パーティション：掲示クロス（押縁共）【新設】
共通	階段室①	改修前	踊場：モルタル金ゴテ下地の上、ビニル床タイルt=2.0貼り（※主材含有）【既設のまま】 踏面・蹴上：モルタル金ゴテ下地の上、ビニル床タイルt=2.0貼り（※主材含有）【既設のまま】	モルタル金ゴテ仕上h=115 VP塗装	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装	木製廻り縁【既設のまま】	(中央)有孔PB t=9目透し張り EP塗装【既設のまま】 (周囲)PB t=9目透し張り EP塗装【既設のまま】 (上裏)合板型枠コンクリート打放しヒル石吹付	－	手すり：積層材φ60 OL塗装【既設のまま】、笠木：人研ぎt=25【既設のまま】
		改修後	－	下地調整の上、EP塗替え	下地調整の上、EP塗替え	－	(上裏)下地調整の上、EP塗替え	－	－
	階段室②	改修前	踊場：モルタル金ゴテ下地の上、ビニル床タイルt=2.0貼り（※主材含有）【既設のまま】 踏面・蹴上：モルタル金ゴテ下地の上、ビニル床タイルt=2.0貼り（※主材含有）【既設のまま】	モルタル金ゴテ仕上h=115 VP塗装	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装	木製廻り縁【既設のまま】	(中央)有孔PB t=9目透し張り EP塗装【既設のまま】 (周囲)PB t=9目透し張り EP塗装【一部撤去】 (上裏)合板型枠コンクリート打放しヒル石吹付	－	手すり：積層材φ60 OL塗装【既設のまま】、笠木：人研ぎt=25【既設のまま】
		改修後	－	下地調整の上、EP塗替え	下地調整の上、EP塗替え	－	(周囲)PB t=9目透し張り EP塗装【一部新設】 (上裏)下地調整の上、EP塗替え	－	－
	廊下	改修前	モルタル金ゴテ下地の上、ビニル床タイルt=2.0貼り（※主材含有）【既設のまま】	米ツガ h=115 OP塗装【一部撤去】	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装 一部、シナ合板t=6目透し張り OP塗装	木製廻り縁【既設のまま】	(中央)有孔PB t=9目透し張り EP塗装【既設のまま】 (周囲)PB t=9目透し張り EP塗装【一部撤去】	2.731	掲示クロス【一部撤去】、タブレット保管庫【一時撤去】
		改修後	－	下地調整の上、EP-G塗替え 一部、米ツガ h=115 EP-G塗装【新設】	下地調整の上、EP塗替え 一部、下地調整の上、EP-G塗替え	－	(周囲)PB t=9目透し張り EP塗装【一部新設】	2.731	掲示クロス【一部新設】、タブレット保管庫【再取付】
備考	・右記の材料は新規に使用しない。①吹付け石綿 ②吹付ロックウール（含有石綿0.1%超） ・内装材（天井裏等の措置も含む）は全てF☆☆☆☆とする。			・塗装塗替えはモルタル面、ボード面、木部、鉄部、各下地調整を行うものとする。			・内壁改修部は全面調査のもと、監督職員と協議し、改修範囲を決定すること。		

内 部 仕 上 表 (昇 降 口 棟)									
階	室 名		床	巾 木	壁	廻 縁	天 井	天井高	備 考
1階	作業室	改修前	モルタル金ゴテ下地の上、ビニル床タイルt=2.0貼り(※主材含有)【既設のまま】	米ツガ h=115 OP塗装【一部撤去】	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装【一部撤去】	木製廻り縁【既設のまま】	(中央)有孔PB t=9目透し張り EP塗装【一部撤去】(LGS下地【一部撤去】) (周囲)PB t=9目透し張り EP塗装【一部撤去】(LGS下地【一部撤去】)	2.731	—
		改修後	—	ラワンh=115 EP-G塗装【一部新設】	鉄筋防錆処理、コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 EP塗装【一部新設】	—	LGS下地の上、化粧PB t=9.5張り【一部新設】	2.731	—
2階	特別教室	改修前	モルタル金ゴテ下地の上、ビニル床タイルt=2.0貼り(※主材含有)【一部撤去】 一部、ビニル床タイルt=2.0貼り(※主材含有)の上、畳敷き【撤去】 一部、モルタル金ゴテ下地の上、ラワン合板【撤去】	米ツガ h=115 OP塗装【一部撤去】	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装【一部撤去】 一部、ラワン合板t=9張り【撤去】	木製廻り縁【既設のまま】	(中央)有孔PB t=9目透し張り EP塗装【一部撤去】(LGS下地【一部撤去】) (周囲)PB t=9目透し張り EP塗装【一部撤去】(LGS下地【一部撤去】)	2.731	資料棚・棚板【撤去】、本棚【一時取外し】 掲示板②【一時取外し】
		改修後	セルフベリングの上、ビニル床タイルt=2.0貼り【新設】 一部、床組・構造用合板t=18の上、畳敷きt=55(B種)【新設】 一部、モルタル補修【新設】	ラワンh=115 EP-G塗装【一部新設】 下地調整の上、EP-G替え	下地調整の上、EP替え(一部モルタル補修、下地調整の上、EP替え) LGS下地の上、PB t=12.5張り EP塗装【新設】	—	LGS下地の上、化粧PB t=9.5張り【一部新設】	2.731	本棚【再取付】 ふかし壁:LGS下地の上、PB t=12.5張り EP塗装【新設】
3階	多目的トイレ	改修前	—	—	—	—	—	—	—
		改修後	セルフベリングの上、長尺ビニルシートt=2.0(防滑・防汚仕様)貼り【新設】 一部、モルタル補修・セルフベリングの上、長尺ビニルシートt=2.0 (防滑・防汚仕様)貼り【新設】	ビニル巾木h=60【新設】	LGS下地、耐水PB t=12.5張りの上、メラミン不燃化粧板t=3張り【新設】 コンクリート下地、耐水PB t=12.5張り(GL工法)の上、メラミン不燃化粧板t=3張り【新設】 一部、鉄筋防錆処理、モルタル金ゴテ押えの上、耐水PB t=12.5張り(GL工法)の上、 メラミン不燃化粧板t=3張り【新設】	塩ビ製廻り縁【新設】	LGS下地の上、化粧PB t=9.5張り【新設】	2.500	SUS製面台【新設】、ライニング【新設】、室名札(持出型)200角【新設】
3階	倉庫	改修前	モルタル金ゴテ下地の上、ビニル床タイルt=2.0貼り(※主材含有)【一部撤去】	米ツガ h=115 OP塗装【一部撤去】	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装【一部撤去】	木製廻り縁【既設のまま】	(中央)有孔PB t=9目透し張り EP塗装【一部撤去】(LGS下地【一部撤去】) (周囲)PB t=9目透し張り EP塗装【一部撤去】(LGS下地【一部撤去】)	2.731	資料棚【撤去】
		改修後	モルタル補修の上、ビニル床タイルt=2.0貼り【一部新設】	ラワンh=115 EP-G塗装【一部新設】 下地調整の上、EP-G替え	下地調整の上、EP替え 一部、モルタル補修の上、下地調整の上、EP替え 一部、LGS下地の上、PB t=12.5張り EP塗装【新設】	—	LGS下地の上、化粧PB t=9.5張り【一部新設】	2.731	資料棚【新設】
2・3階	廊下	改修前	モルタル金ゴテ下地の上、ビニル床タイルt=2.0貼り(※主材含有)【一部撤去】	米ツガ h=115 OP塗装【一部撤去】	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装【一部撤去】 一部、シタ合板t=6目透し張り OP塗装【既設のまま】	木製廻り縁【既設のまま】	(中央)有孔PB t=9目透し張り EP塗装【既設のまま】 (周囲)PB t=9目透し張り EP塗装【既設のまま】	—	黒板【一時取外し】、掲示板①【既設のまま】
		改修後	セルフベリングの上、ビニル床タイルt=2.0貼り【一部新設】	ラワンh=115 EP-G塗装【一部新設】 下地調整の上、EP-G替え	鉄筋防錆処理、コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 EP塗装【新設】	—	—	—	黒板【再取付】、掲示板②【再取付】
備考 ・右記の材料は新規に使用しない。①吹付け石綿 ②吹付ロックウール(含有石綿0.1%超) ・内装材(天井裏等の措置も含む)は全てF☆☆☆☆とする。 ・塗装替えはモルタル面、ボード面、木部、鉄部、各下地調整を行うものとする。 ・鏡、便所内手摺、洗面器等の【撤去】、【新設】は設備工事とする。									

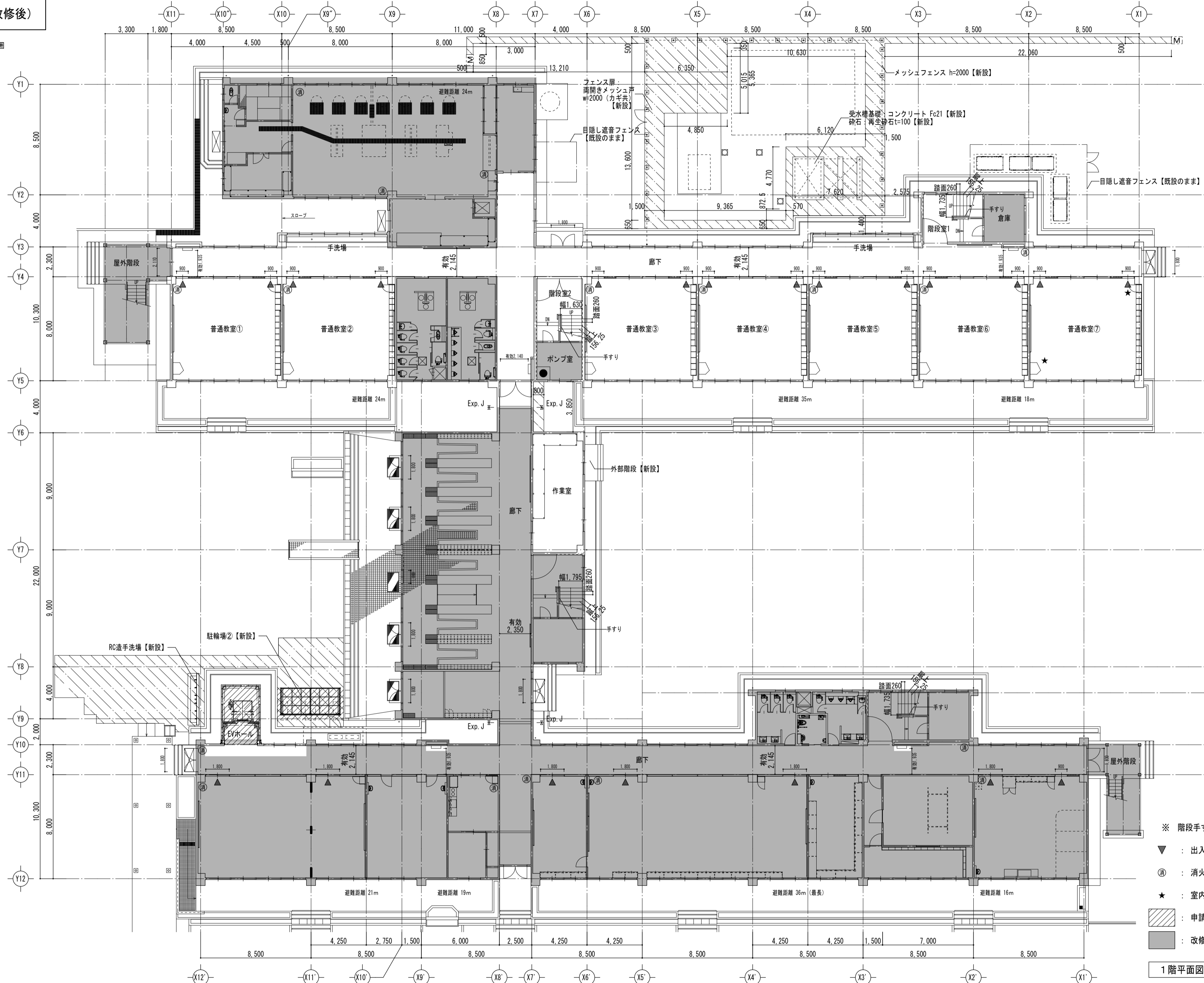
内 部 仕 上 表 (特 別 教 室 管 理 棟)									
階	室 名		床	巾 木	壁	廻 縁	天 井	天井高	備 考
1階 3階	廊下	改修前	モルタル金ゴテ下地の上、ビニル床タイルt=2.0貼り【一部撤去】	米ツガ h=115 OP塗装【一部撤去】	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装(※下地調整材含有) 【下地調整材撤去(集塵装置付湿式ディスクライナー工法)】	木製廻り縁【既設のまま】	(中央)有孔PB t=9目透し張り(※塗材含有) EP塗装【既設のまま】 (周囲)PB t=9目透し張り(※塗材含有) EP塗装【一部撤去】	2.731	—
		改修後	セルフベリングの上、ビニル床タイルt=2.0貼り【一部新設】	ラワンh=115 EP-G塗装【一部新設】 下地調整の上、EP-G替え	鉄筋防錆処理、コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 EP塗装【一部新設】 モルタル下地、下地調整の上、EP替え	—	PB t=9.5目透し張り EP塗装【一部新設】	—	3階:消火栓撤去部 LGS下地の上、PB t=12.5張り EP塗装【新設】
2階	廊下	改修前	モルタル金ゴテ下地の上、ビニル床タイルt=2.0貼り【一部撤去】	米ツガ h=115 OP塗装【既設のまま】	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装(※下地調整材含有)	木製廻り縁【既設のまま】	(中央)有孔PB t=9目透し張り(※塗材含有) EP塗装【既設のまま】 (周囲)PB t=9目透し張り(※塗材含有) EP塗装【既設のまま】	2.631	ライニング【撤去】、掃除用具入れ【撤去】
		改修後	モルタル金ゴテ下地の上、ニードルパンチカーベット敷き【撤去】 一部、モルタル下地の上、モザイクタイルφ19貼り【撤去】	米ツガ h=115 OP塗装【一部撤去】	コンクリート下地の上、テーパーPB t=12張りの上、ビニルクロス貼り【撤去】 一部、木下地w=100 テーパーPB t=12張りの上、ビニルクロス貼り【一部撤去】 コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装(※下地調整材含有) 【下地調整材撤去(集塵装置付湿式ディスクライナー工法)】	塩ビ製廻り縁【一部撤去】	PB t=9捨張の上、岩綿吸音板t=12張り(※主材含有)【撤去】 (LGS下地【撤去】)	2.631	SUS製床見切り【撤去】、カーテンBOX【撤去】、ライニング【撤去】 ホワイトボード1,800×1,200【一時取外し、移設】
	収納室	改修前	モルタル金ゴテ下地の上、ビニル床タイルt=2.0貼り【撤去】	米ツガ h=115 OP塗装【撤去】	コンクリート下地の上、テーパーPB t=12張りの上、ビニルクロス貼り【撤去】 一部、木下地w=100の上、テーパーPB t=12張りの上、ビニルクロス貼り【撤去】	—	PB t=9目透し張り(※塗材含有) EP塗装【撤去】(LGS下地【撤去】)	2.100	棚【撤去】
	踏込	改修前	モルタル金ゴテ下地の上、ニードルパンチカーベット敷き【撤去】	米ツガ h=115 OP塗装【一部撤去】	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装(※下地調整材含有) 一部、木下地w=100の上、テーパーPB t=12張りの上、ビニルクロス貼り【一部撤去】	塩ビ製廻り縁【一部撤去】	PB t=9捨張の上、岩綿吸音板t=12張り(※主材含有)【撤去】 (LGS下地【撤去】)	2.631	—
2階	廊下	改修前	モルタル金ゴテ下地の上、ビニル床タイルt=2.0貼り【一部撤去】	米ツガ h=115 OP塗装【一部撤去】	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装(※下地調整材含有) 一部、木下地w=100の上、テーパーPB t=12張りの上、ビニルクロス貼り【一部撤去】	塩ビ製廻り縁【一部撤去】	PB t=9捨張の上、岩綿吸音板t=12張り(※主材含有)【撤去】 (LGS下地【撤去】)	2.631	—
		改修後	セルフベリングの上、ビニル床タイルt=2.0貼り【一部新設】 一部、目荒し・コンクリート下地の上、ビニル床タイルt=2.0貼り【新設】	ラワンh=115 EP-G塗装【一部新設】 下地調整の上、EP-G替え	鉄筋防錆処理の上、コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 EP塗装【一部新設】 一部、既設木下地の上、PB t=12.5張り EP塗装【一部新設】 既設木下地の上、モルタル金ゴテ平滑処理 EP塗装【一部新設】 モルタル下地、下地調整の上、EP替え	塩ビ製廻り縁【一部新設】	LGS下地の上、化粧PB t=9.5張り【一部新設】	2,630~2,731	—
備考 ・右記の材料は新規に使用しない。①吹付け石綿 ②吹付ロックウール(含有石綿0.1%超) ・内装材(天井裏等の措置も含む)は全てF☆☆☆☆とする。 ・塗装替えはモルタル面、ボード面、木部、鉄部、各下地調整を行うものとする。 ・鏡、便所内手摺、洗面器等の【撤去】、【新設】は設備工事とする。									

内 部 仕 上 表 (昇 降 機 棟)									
階	室 名		床	巾 木	壁	廻 縁	天 井	天井高	備 考
共通	EVホール	改修前	モルタル金ゴテ仕上の上、ビニル床タイルt=2.0貼り【一部新設】	ラワンh=115 EP-G塗装【新設】	EVビット面:LGS100下地の上、PB t=12.5張りの上、EP塗装【新設】 側面:LGS65下地の上、PB t=12.5張りの上、EP塗装【新設】	塩ビ製廻り縁【新設】	LGS下地の上、化粧PB t=9.5張り【新設】	1・3階 2.731 2階 2.631	Exp.Jカバー【新設】
		改修後	コンクリート金ゴテ仕上の上、ケイ酸質系塗布防水(C-SUI)【新設】	—	EVホール面:LGS100下地の上、強化PB t=21+21張り素地仕上【新設】 他面:ALCパネルt=125素地【新設】 ビット:コンクリート金ゴテ仕上の上、ケイ酸質系塗布防水(C-SUI)【新設】	—	—	—	—
備考 ・右記の材料は新規に使用しない。①吹付け石綿 ②吹付ロックウール(含有石綿0.1%超) ・内装材(天井裏等の措置も含む)は全てF☆☆☆☆とする。 ・塗装はモルタル面、ボード面、木部、鉄部、各下地調整を行うものとする。 ・									

耐 火 性 能 表							
既存建築物				増築建築物			
法規技術的基準 : 【耐火建築物】							
壁	1時間耐火構造	鉄筋コンクリート造	建設省告示第1399号	壁	1時間耐火構造	鉄骨造、ALC/パネルt=125	建設省告示第1399号
梁	1時間耐火構造	鉄筋コンクリート造	建設省告示第1399号	壁	1時間耐火構造	耐火中空二重壁 軽量鉄骨壁下地w100、強化PB t=21+21(片面)	FP060NP-0189
柱	1時間耐火構造	鉄筋コンクリート造	建設省告示第1399号	梁	1時間耐火構造	鉄骨造、耐火被覆(ロックウール吹付t=25)	FP060BM-9408
屋根	30分耐火構造	鉄筋コンクリート造	建設省告示第1399号	柱	1時間耐火構造	鉄骨造、耐火被覆(ロックウール吹付t=25)	FP060CN-9460
階段	30分耐火構造	鉄筋コンクリート造	建設省告示第1399号	屋根	30分耐火構造	QLデッキ(QL99-50)下地、コンクリート山上80	デッキ耐火構造認定番号:FP060FL-9095(連続支持) . FP060FL-9101(単純支持) 建設省告示第1399号

校舎 1階平面図 (改修後)

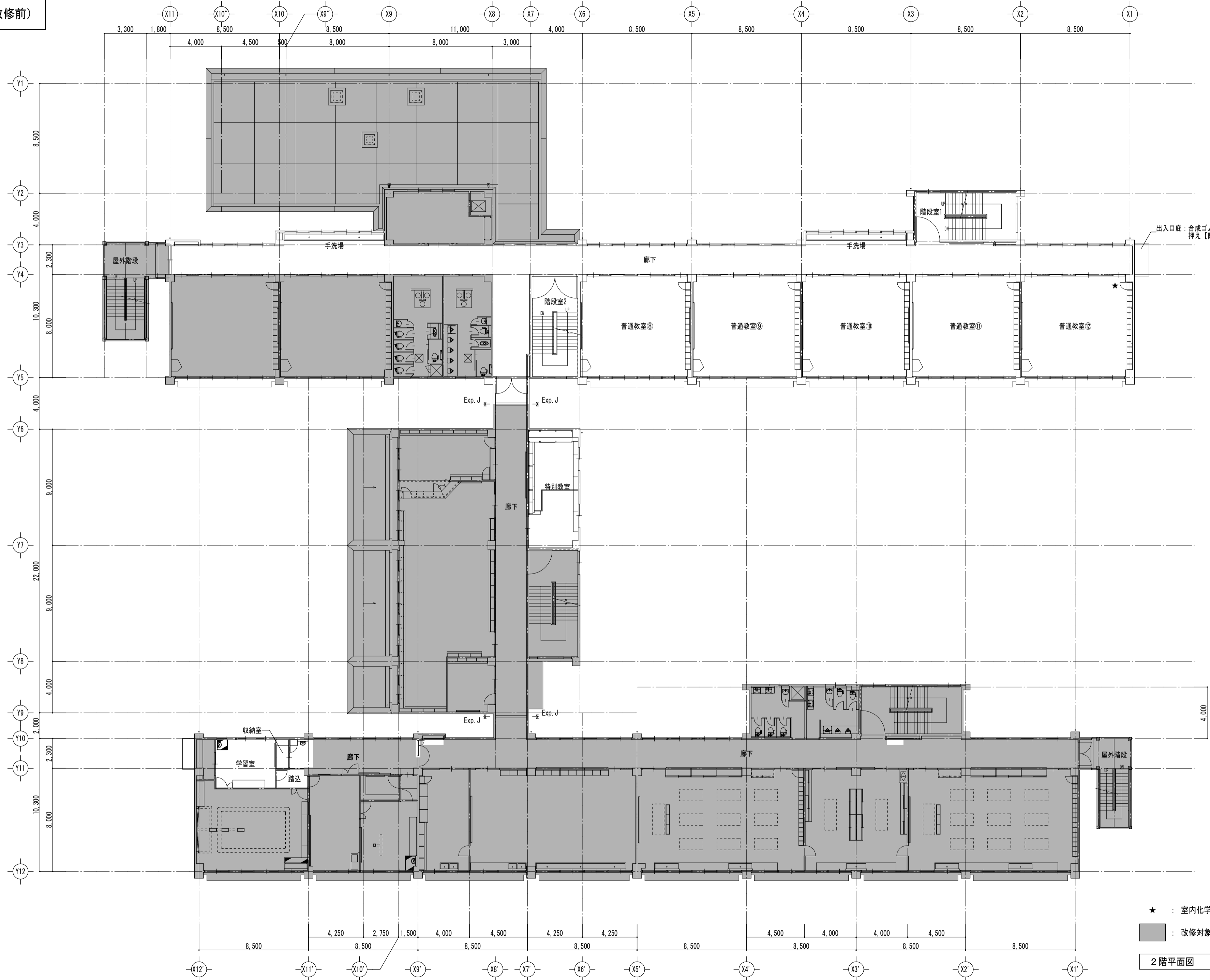
コンクリート舗装【新設】範囲



- ※ 階段手すり出幅は10cmのためないものとみなす
- ▼ : 出入口を示す
- ⊕ : 消火器 (ABC粉末10型) (既設)
- ★ : 室内化学物質濃度測定箇所を示す
- ▨ : 申請建物 (増築部)
- : 改修対象外を示す

1階平面図 S=1/200

校舎 2階平面図 (改修前)



出入口底：合成ゴム塗膜防水の上、防水モルタル金ゴテ押え【防水モルタル撤去】

★：室内化学物質濃度測定箇所を示す

■：改修対象外を示す

2階平面図 S=1/200

1. 設計者 2. 監理者 3. 施工者	1. 設計代表者 2. 設計担当者 3. 監理者 4. 施工者	1. 設計代表者 2. 設計担当者 3. 監理者 4. 施工者
----------------------------	--	--

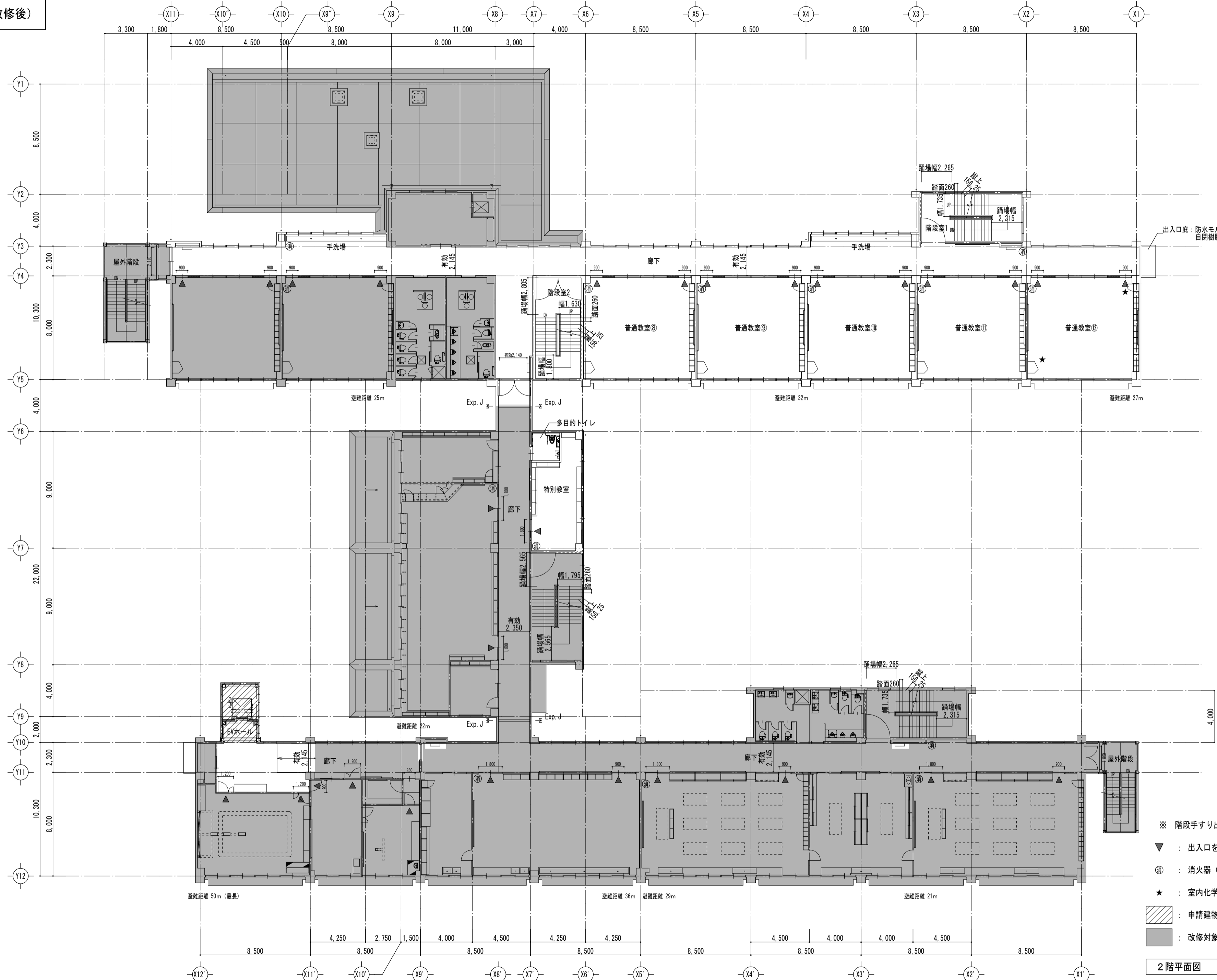
田端隆建築設計 (株) 田端隆建築設計
 三重県知事登録第1-8-01 一般建築士 No.352551 田端 隆也

SCALE
 A2 1/200
 A3 1/280
 DATE
 R 8 . 2

工事名称 津市立南立誠小学校長寿命化改修工事
 図面名称 2階平面図 (改修前)

A-023
 原図：A2

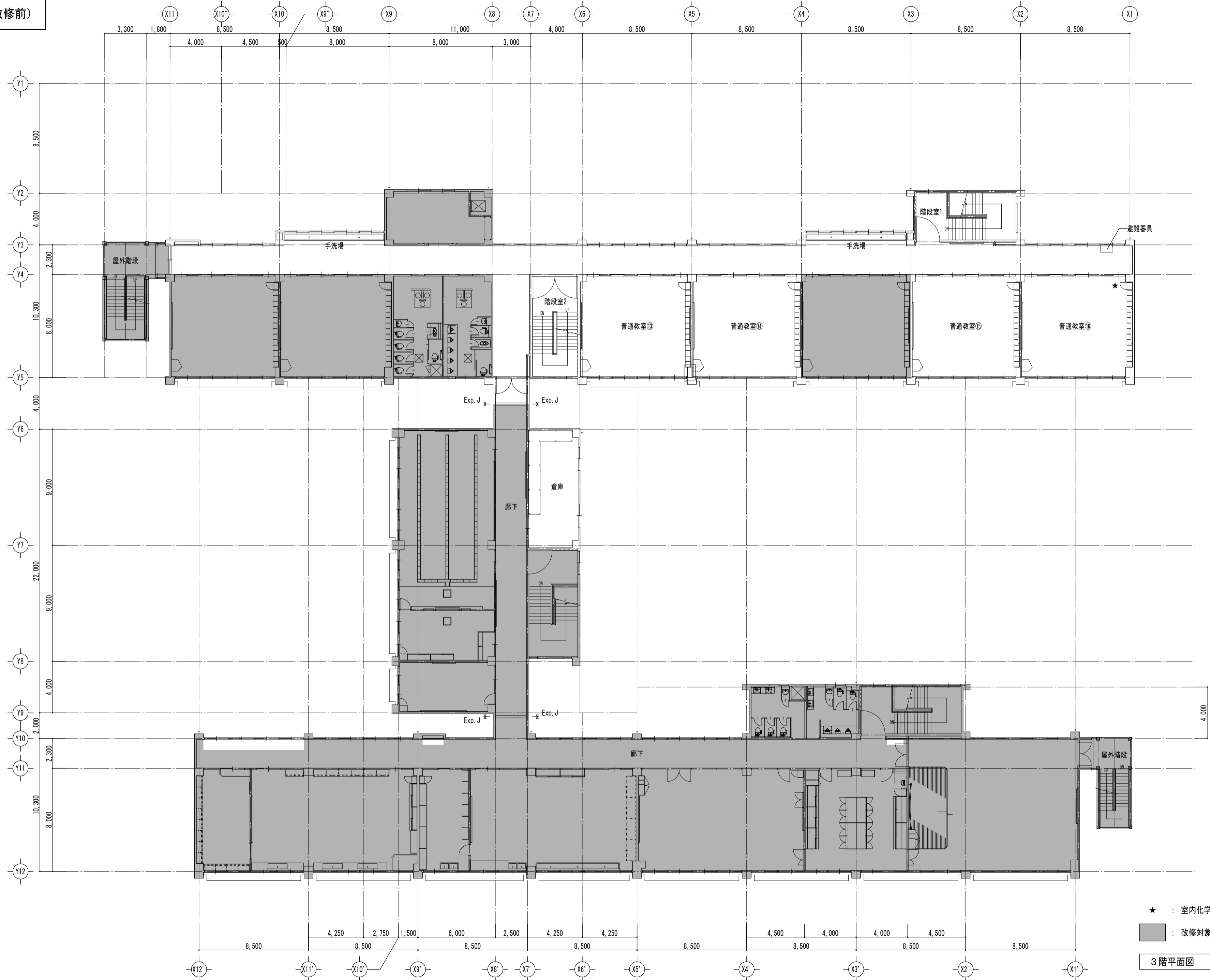
校舎 2階平面図 (改修後)



- ※ 階段手すり出幅は10cmのためないものとみなす
- ▼ : 出入口を示す
- ⊕ : 消火器 (ABC粉末10型) (既設)
- ★ : 室内化学物質濃度測定箇所を示す
- ▨ : 申請建物 (増築部)
- : 改修対象外を示す

2階平面図 S=1/200

校舎 3階平面図 (改修前)



★ : 室内化学物質濃度測定箇所を示す
 [Grey Box] : 改修対象外を示す

3階平面図 S=1/200

設計者 監理者 施工者	設計代表者 一級建築士 No.352551 田端 進也	設計担当者 一級建築士 No.352075 横倉 健一 二級建築士 No.352076 岸上 貴智	SCALE A2 : 1/200 A3 : 1/280 DATE R 8 . 2	工事名称 津市立南立誠小学校長寿命化改修工事 図面名称 3階平面図 (改修前)	A - 025 原図 : A2
-------------------	--------------------------------------	---	--	--	--------------------

田端隆建築設計
 三重県知事登録第1-8-01 一級建築士 No.352551 田端 進也

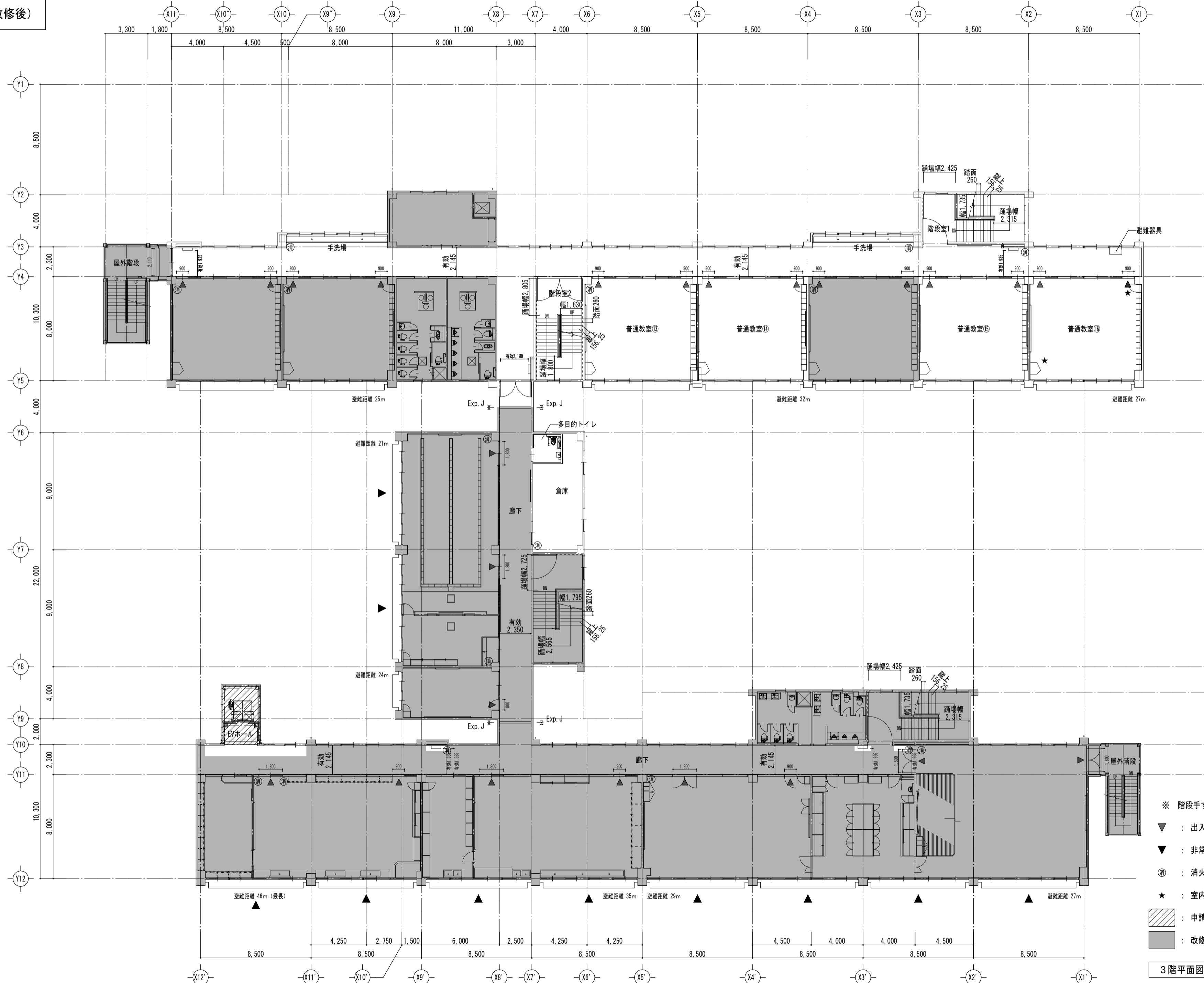
設計代表者 一級建築士 No.352551 田端 進也	設計担当者 一級建築士 No.352075 横倉 健一 二級建築士 No.352076 岸上 貴智
--------------------------------------	---

SCALE
 A2 : 1/200
 A3 : 1/280
 DATE
 R 8 . 2

工事名称 津市立南立誠小学校長寿命化改修工事
 図面名称 3階平面図 (改修前)

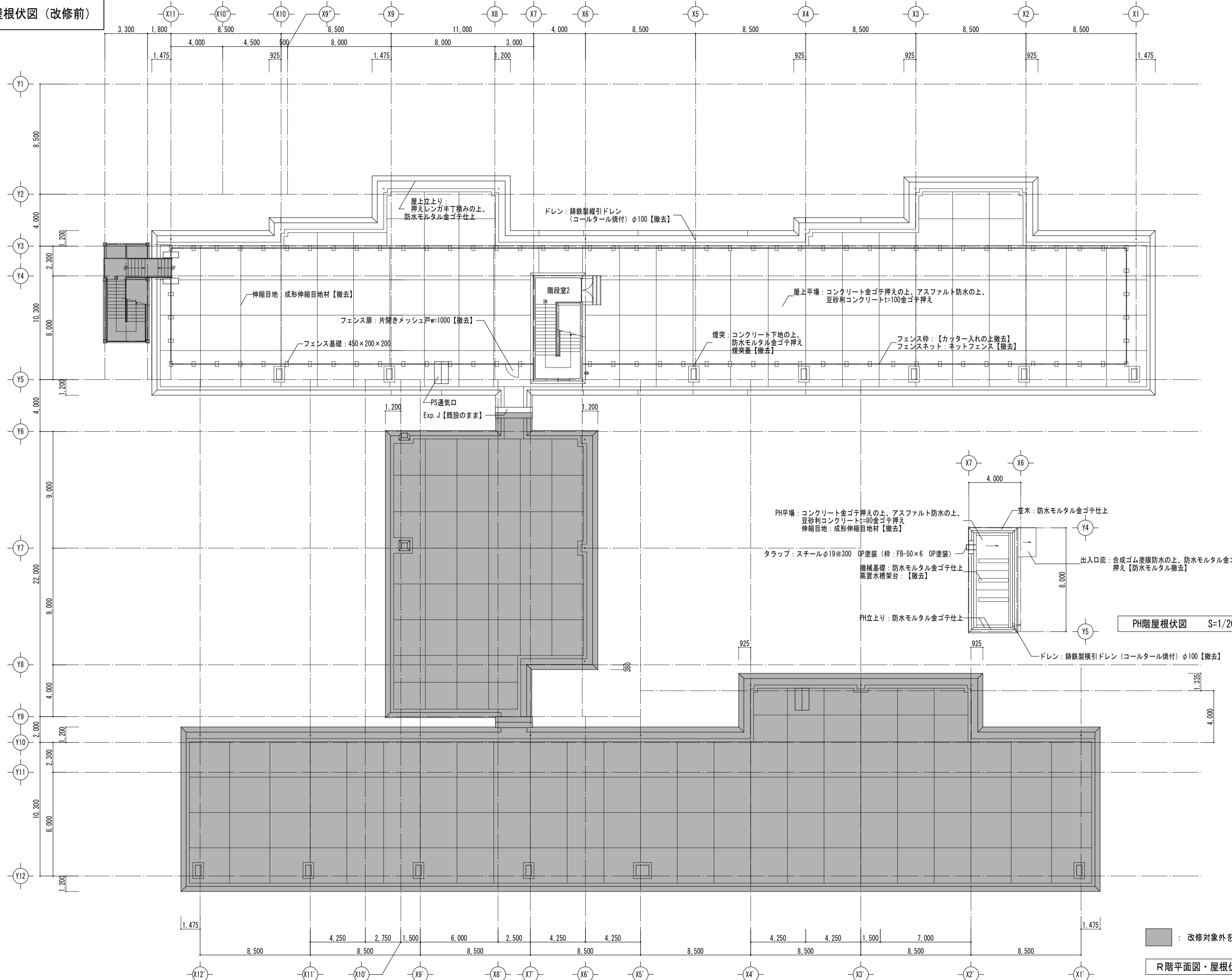
A - 025
 原図 : A2

校舎 3階平面図 (改修後)



- ※ 階段手すり出幅は10cmのためないものとみなす
- ▼ : 出入口を示す
- ▼ : 非常用出入口を示す
- ⊕ : 消火器 (ABC粉末10型) (既設)
- ★ : 室内化学物質濃度測定箇所を示す
- ▨ : 申請建物 (増築部)
- : 改修対象外を示す

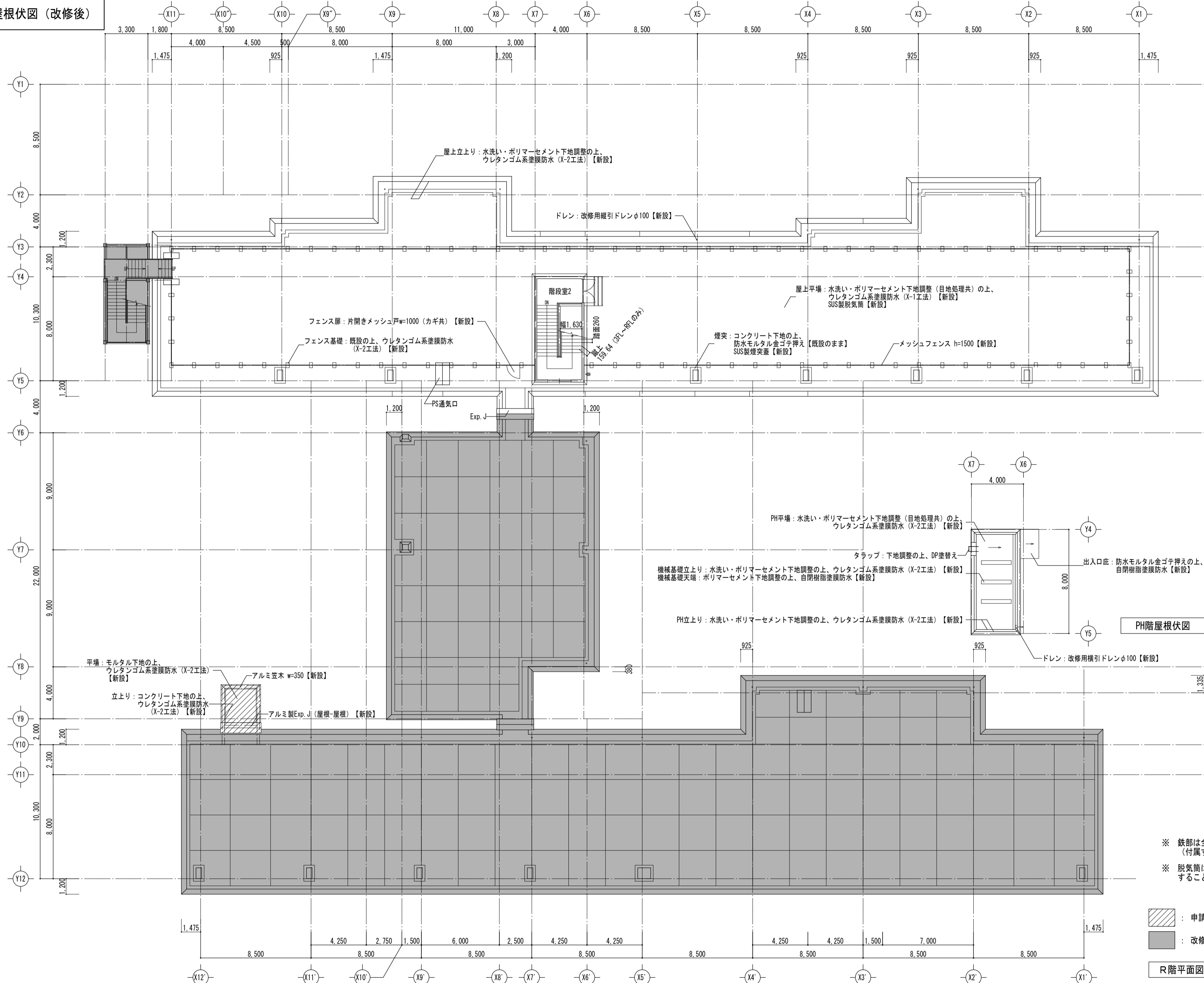
3階平面図 S=1/200



PH階屋根伏図 S=1/200

■ : 改修対象外を示す

R階平面図・屋根伏図 S=1/200



※ 鉄部は全て下地調整の上、DP塗替え (1級) (付属する電気配管・ボックス類含む)

※ 脱気筒はSUS製とし、1ヶ所/50m程度設置すること

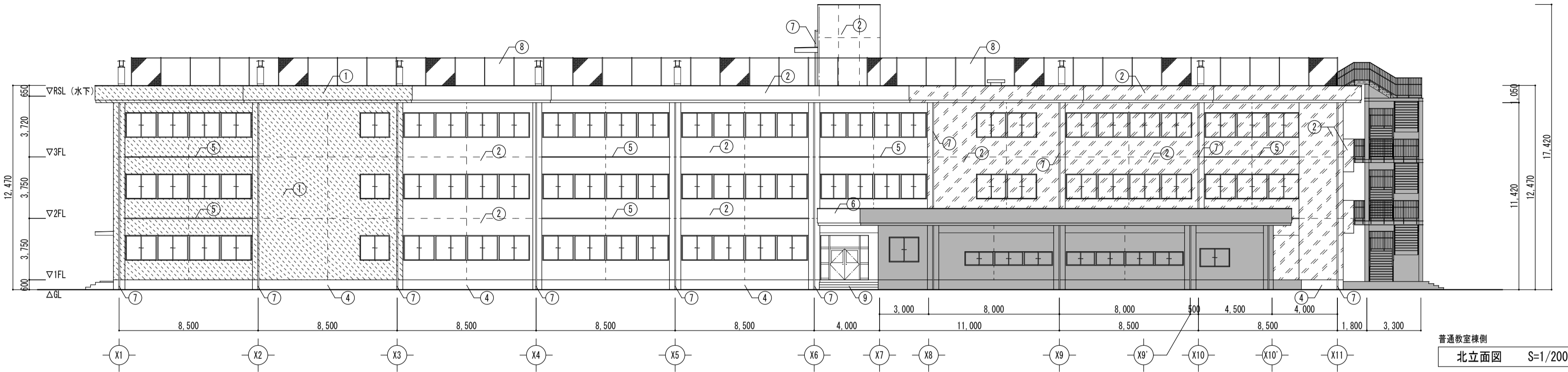
▨ : 申請建物 (増築部)

■ : 改修対象外を示す

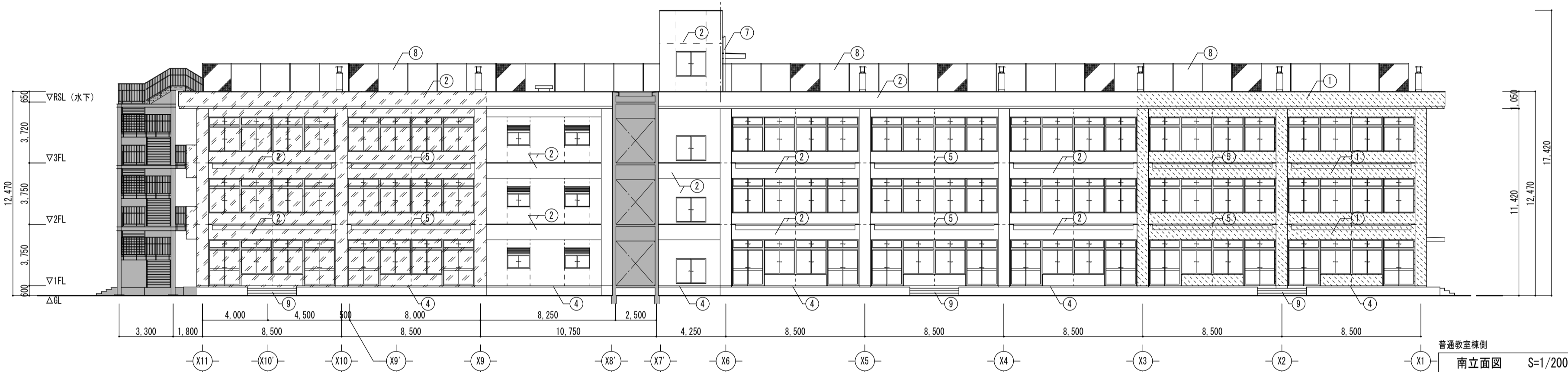
R階平面図・屋根伏図 S=1/200

校舎 立面図 (改修前)

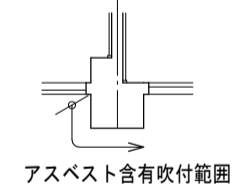
凡例	
①	外壁：モルタル刷毛引き下地の、 アクリル系リシン吹付仕上(※)
②	外壁(庇)：モルタル刷毛引き下地の、 アクリル系リシン吹付仕上
③	外壁(EV機増設部、建具改修部)： モルタル刷毛引き下地の、アクリル系 リシン吹付仕上【撤去】
④	巾木：モルタル刷毛引き仕上【既設のまま】
⑤	窓上庇：合成ゴム塗膜防水の上、防水モルタル 金ゴテ押え
⑥	玄関ポーチ庇：モルタル刷毛引き下地の、 アクリル系リシン吹付仕上
⑦	縦樋：配管用炭素鋼管(SGP) 白管φ100 OP塗装 【撤去】
⑧	フェンス：ネットフェンスH=1800【ネット撤去】
⑨	階段・花壇：モルタル金ゴテ押え【既設のまま】
外壁目地：アスベスト含有範囲 油性コーキングw=15(※)【撤去】 建具周囲目地：油性コーキング(※)【撤去】 建具水切目地：油性コーキング(※)【撤去】	
⑩ 改修備考 ・サッシ廻りのシール材については、撤去の上新設を行う ・外壁目地部は、シール材(PU-2)新設を行う ・外壁改修は、施工数量調査を行う ・外壁に取付く設備配管は、養生し脱着しないものとする ・(※)は7A ⁺ 以上含有建材を示す ※外壁改修特記仕様 【施工数量調査】 ・調査項目：クラック、剥がれ及び剥落部、浮き部 ・調査方法：打診、目視、クラックメーター等 ・報告書：2部(補修方法別に調査数量を集計する) 【外壁クラック補修仕様】 ・1mm以上のひび割れ補修：Uカット+充填工法 ・1mm未満のひび割れ補修：自動式低圧注材+樹脂注入工法 ・浮き部補修：7A ⁺ シール材のE ⁺ 樹脂注入工法 (16本/m ² 、25ml/穴、25本/m ² 、25ml/穴) ・欠損部改修工法：鉄筋防錆処理の上、樹脂モルタル充填 【外壁・軒天庇裏吹付】 ・軒天：モルタル刷毛引きリシン【下地調整材に7A ⁺ 以上含有】 ・外壁： " " 【塗材に7A ⁺ 以上含有】 ・集塵装置付超高压水洗工法、 集塵装置付湿式吹き付け工法併用 ※各種申請及び届出を行うこと	



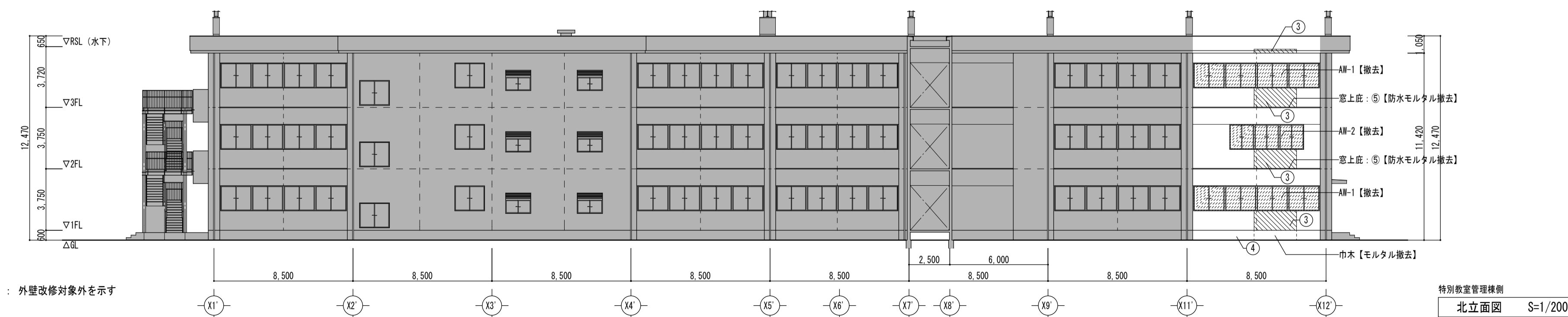
普通教室棟側
北立面図 S=1/200



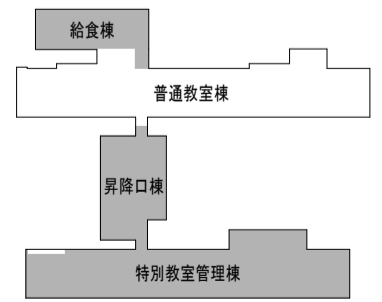
普通教室棟側
南立面図 S=1/200



アスベスト含有吹付範囲



特別教室管理棟側
北立面図 S=1/200



：外壁改修対象外を示す

(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。

田端隆建築設計 (株)

設計代表者 一級建築士 No.35251 田端 隆也
設計担当者 一級建築士 No.35207 横倉 隆一
構造設計一級建築士 No.4011 村上 貴智

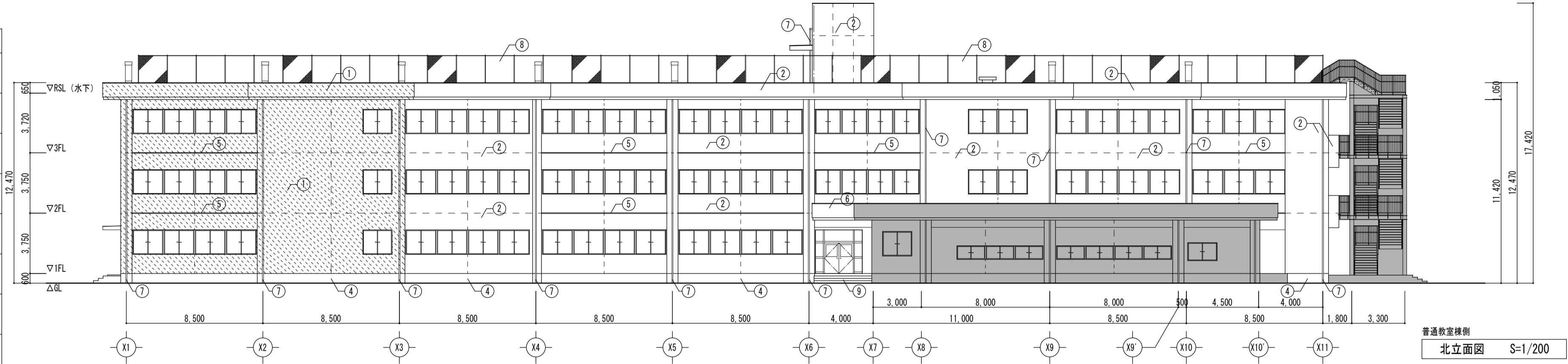
SCALE A2 1/200
A3 1/280
DATE R 8. 2

工事名称 津市立南立誠小学校長寿寿命化改修工事
図面名称 立面図①(改修前)

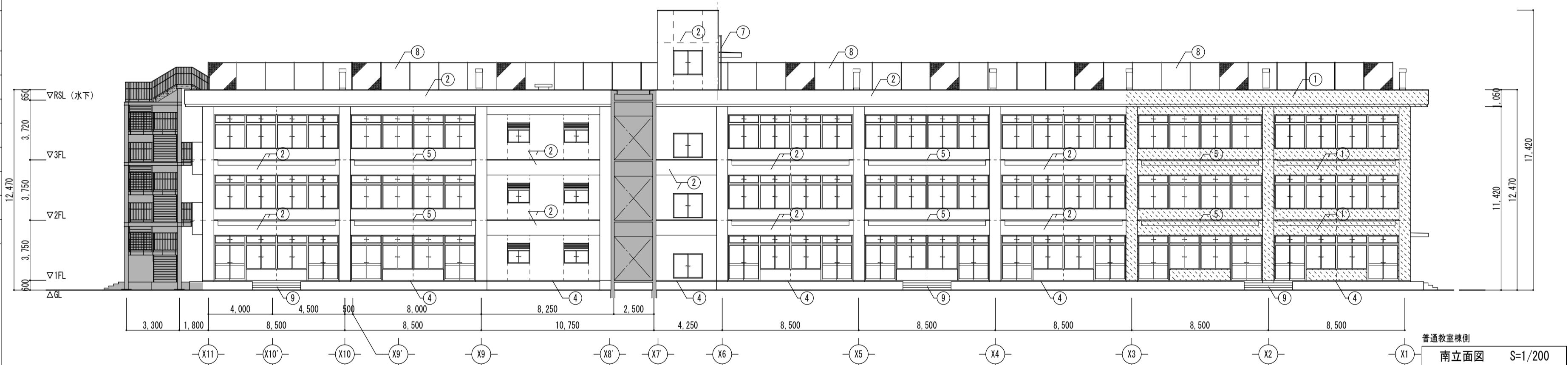
A-029
原図：A2

校舎 立面図 (改修後)

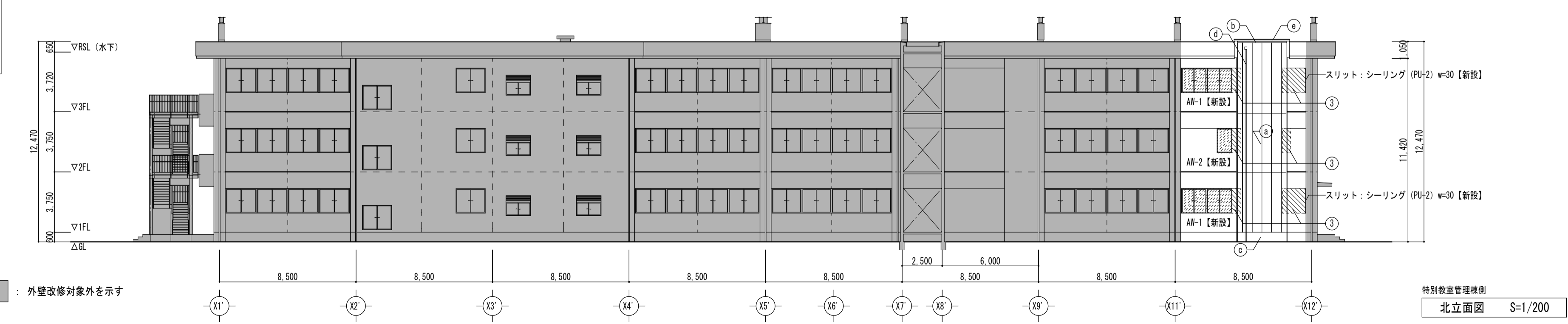
凡例	
①	外壁：【高圧水洗、下地調整 (C-2) の上、複層塗材E (フッ素仕上) 塗替え】
②	外壁：【高圧水洗、下地調整 (C-1) の上、複層塗材E (フッ素仕上) 塗替え】
③	外壁 (EV棟増築部)：コンクリート下地の下、モルタル刷毛引き下地、複層塗材E (フッ素仕上) 【新設】
④	巾木：【水洗い】
⑤	窓上庇：【水洗いの上、自閉樹脂塗膜防水】
⑥	玄関ポーチ底：【高圧水洗、下地調整 (C-1) の上、複層塗材E (フッ素仕上) 塗替え】
⑦	縦樋：カラーVP管φ100【新設】(SUS製組み金物、集水器共)
⑧	フェンス：既設基礎コア抜きの上、メッシュフェンスH=1,500【新設】(支柱：角型リブ鋼管共)
⑨	階段・花壇：モルタル金ゴテ押え【既設のまま】
a	外壁：ALCパネルt=125下地調整 (C-1) の上、複層塗材E (フッ素仕上) 【新設】
b	笠木：アルミ笠木w=350【新設】
c	巾木：コンクリート打放し下地の下、薄塗りモルタル仕上【新設】
d	縦樋：カラーVP管φ75【新設】(SUS製組み金物、集水器共)
e	Exp. Jカバー (アルミ製) 【新設】
◎ 改修備考	<ul style="list-style-type: none"> ・カッパのソーリングについては、撤去の上新設を行う ・外壁目地部は、シーリング (PU-2) 新設を行う ・外壁改修は、施工数量調査を行う ・外壁に取付く設備配管は、養生し脱着しないものとする ・(*)は7x8に含有建材を示す
※外壁改修特記仕様	<p>【施工数量調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査項目：クラック、剥がれ及び剥落部、浮き部 ・調査方法：打診、目視、クラックメーター等 ・報告書：2部 (補修方法別に調査数量を集計する) <p>【外壁クラック補修仕様】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1mm以上のひび割れ補修：Uカット+充填工法 ・1mm未満のひび割れ補修：自動式低圧球 樹脂注入工法 ・浮き部補修：7x8に含有の球 樹脂注入工法 (16本/m²、25ml/穴、25本/m²、25ml/穴) ・欠損部改修工法：鉄筋防錆処理の上、樹脂充填 <p>【外壁・軒天庇裏吹付】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軒天：モルタル刷毛引7x8系リソ 【下地調整材に7x8に含有】 ・外壁：複層塗材E (フッ素仕上) 【塗材に7x8に含有】 ・集塵装置付超高圧水洗工法、集塵装置付湿式デスリグライソ-ケソ工法 併用 <p>※各種申請及び届出を行うこと</p>



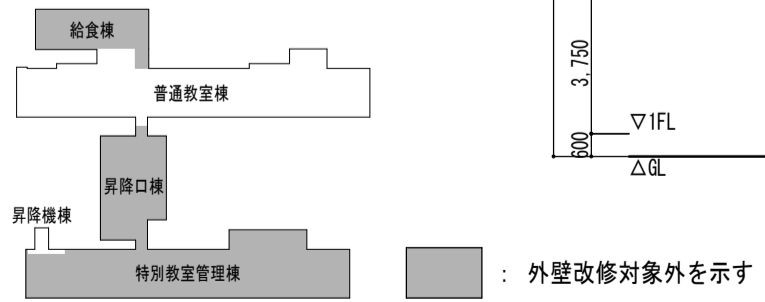
普通教室棟側
北立面図 S=1/200



普通教室棟側
南立面図 S=1/200

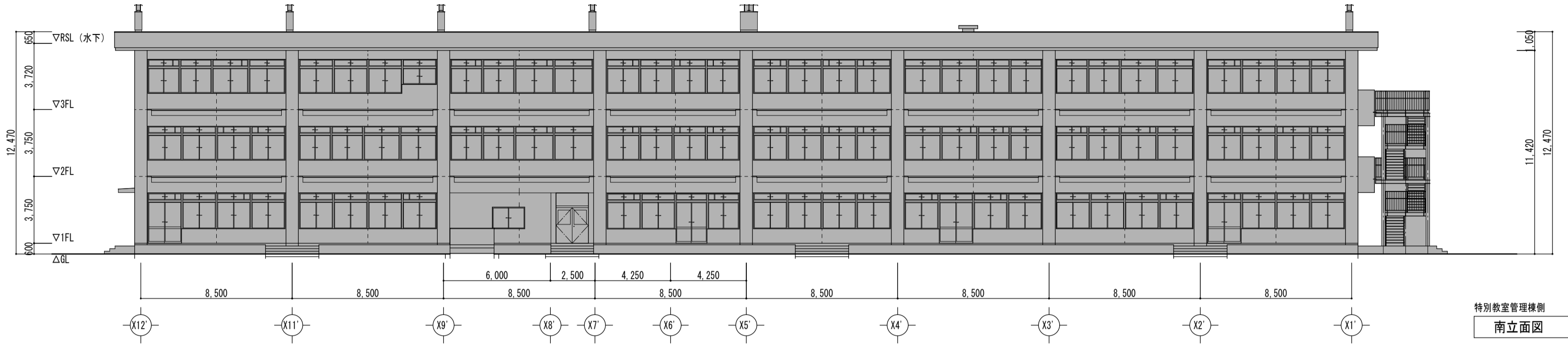


特別教室管理棟側
北立面図 S=1/200

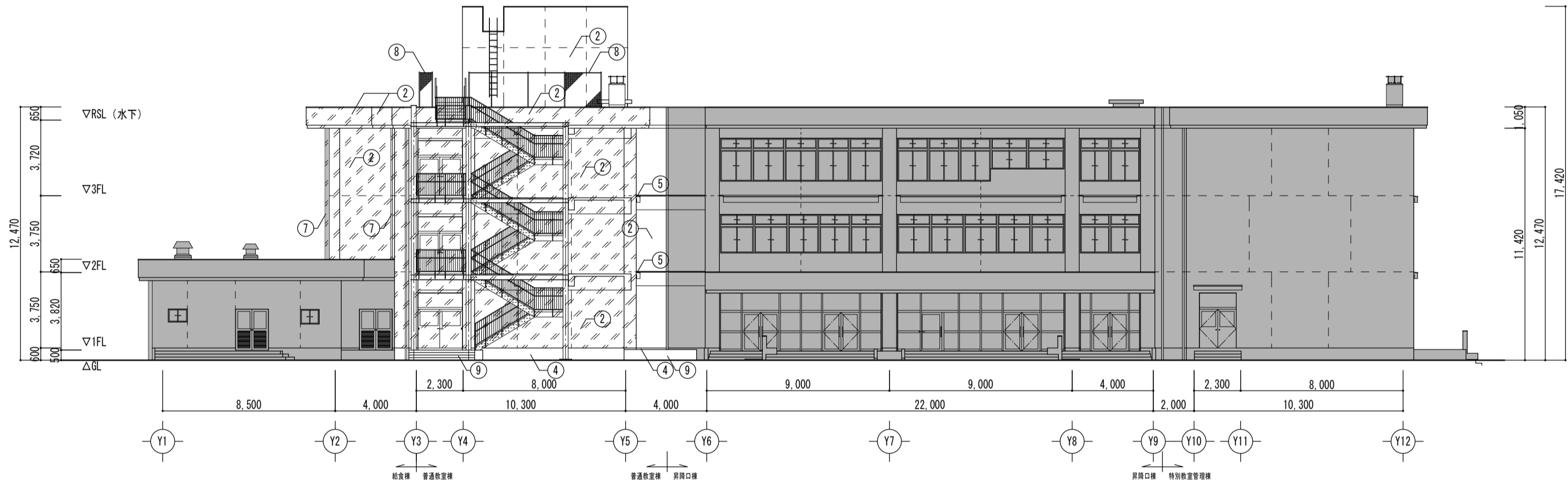


校舎 立面図 (改修前)

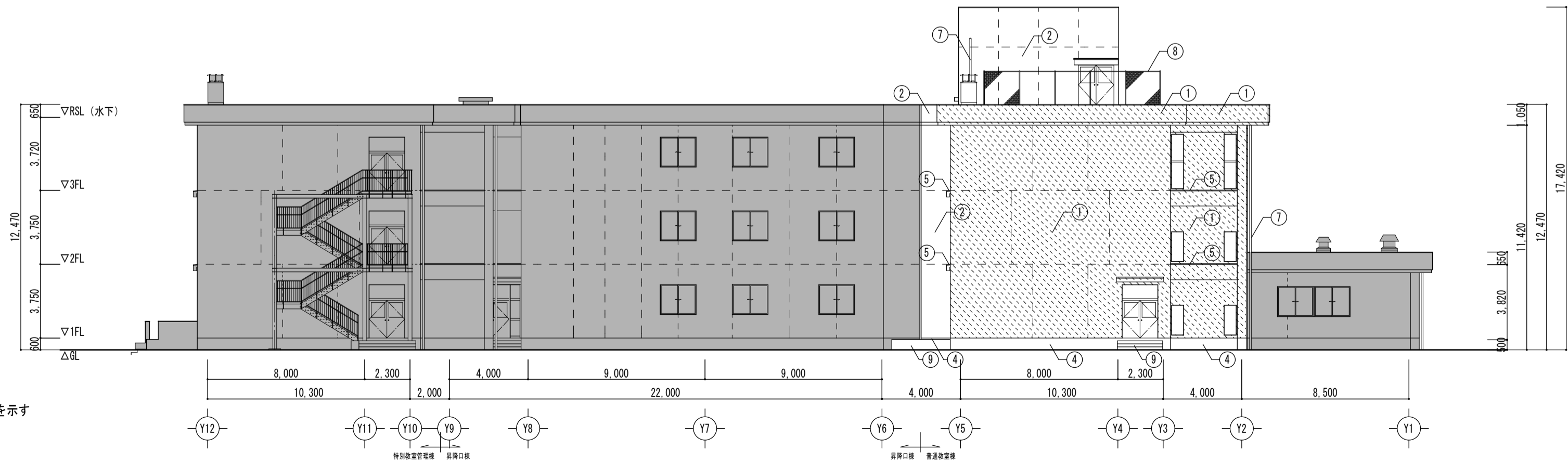
凡例	
①	外壁：モルタル刷毛引き下地の上、 アクリル系リシン吹付仕上(※)
②	外壁(庇)：モルタル刷毛引き下地の上、 アクリル系リシン吹付仕上
③	外壁 (EV棟増築部、建具改修部) ：モルタル刷毛引き下地の上、アクリル系 リシン吹付仕上【撤去】
④	巾木：モルタル刷毛引き仕上【既設のまま】
⑤	窓上庇：合成ゴム塗膜防水の上、防水モルタル 金ゴテ押え
⑥	玄関ポーチ庇：モルタル刷毛引き下地の上、 アクリル系リシン吹付仕上
⑦	壁：配管用炭素鋼管 (SGP) 白管φ100 OP塗装 【撤去】
⑧	フェンス：ネットフェンスh=1800【ネット撤去】
⑨	階段・花壇：モルタル金ゴテ押え【既設のまま】
	外壁目地：アスベスト含有範囲 油性コーキングw=15(※)【撤去】
	建具周囲目地：油性コーキング(※)【撤去】
	建具水切目地：油性コーキング(※)【撤去】
◎ 改修備考 ・サッシ廻りのシール材については、撤去の上新設を行う ・外壁目地部は、シール材 (PU-2) 新設を行う ・外壁改修は、施工数量調査を行う ・外壁に取付く設備配管は、養生し脱着しないものとする ・(※)は7A ⁺ 含有建材を示す	
※外壁改修特記仕様 【施工数量調査】 ・調査項目：クラック、剥がれ及び剥落部、浮き部 ・調査方法：打診、目視、クラックメーター等 ・報告書：2部(補修方法別に調査数量を集計する)	
【外壁クラック補修仕様】 ・1mm以上のひび割れ補修：Uカッター充填工法 ・1mm未満のひび割れ補修 自動式低圧球状樹脂注入工法 ・浮き部補修：7ホビートン部のEポキシ樹脂注入工法 (16本/m ² 、25ml/穴、25本/m ² 、25ml/穴) ・欠損部改修工法：鉄筋防錆処理の上、樹脂モルタル充填	
【外壁・軒天庇裏吹付】 ・軒天：モルタル刷毛引き下地系リシン【下地調整材に7A ⁺ 含有】 ・外壁： " " 【塗材に7A ⁺ 含有】 ・集塵装置付超高压水洗工法、 集塵装置付湿式ディスクライナー工法 併用 ※各種申請及び届出を行うこと	



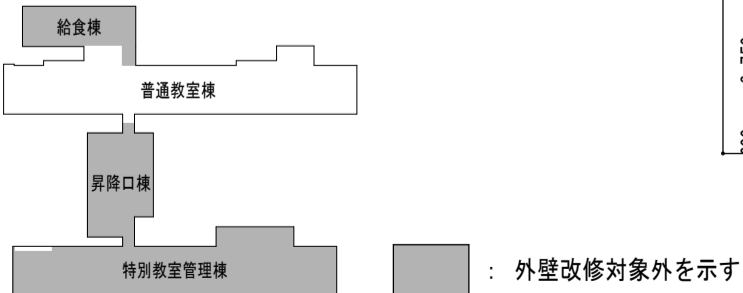
特別教室管理棟
南立面図 S=1/200



西立面図 S=1/200



東立面図 S=1/200



：外壁改修対象外を示す

・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。

田端隆建築設計 (株)

三重県知事登録第1-8-01 一級建築士 No.352551 田端 隆也

設計代表者
一級建築士
No.352551
田端 隆也

設計担当者
一級建築士
No.352077
横倉 隆一
井上 貴智

SCALE
A2 1/200
A3 1/280
DATE
R 8 . 2

工事名称 津市立南立誠小学校長寿命化改修工事
図面名称 立面図② (改修前)

A-031
原図：A2

校舎 立面図 (改修後)

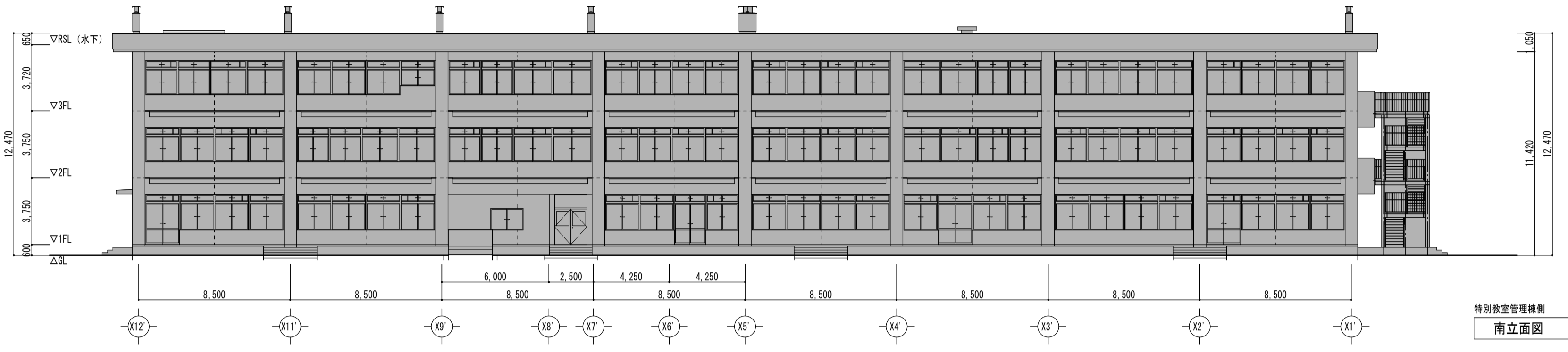
凡例	
①	外壁： 【高圧水洗、下地調整 (C-2) の上、 複層塗材E (フッ素仕上) 塗替え】
②	外壁： 【高圧水洗、下地調整 (C-1) の上、 複層塗材E (フッ素仕上) 塗替え】
③	外壁 (EV棟増築部)： ：コンクリート下地の上、モルタル刷毛引き下地 複層塗材E (フッ素仕上) 【新設】
④	巾木：【水洗い】
⑤	窓上庇：【水洗いの上、自閉樹脂塗膜防水】
⑥	玄関ポーチ底： 【高圧水洗、下地調整 (C-1) の上、 複層塗材E (フッ素仕上) 塗替え】
⑦	縦樋：カラーVP管φ100【新設】 (SUS製組み金物、集水器共)
⑧	フェンス：既設基礎コア抜きの上、 メッシュフェンスH=1,500【新設】 (支柱：角型リブ鋼管共)
⑨	階段・花壇：モルタル金ゴテ押え【既設のまま】
a	外壁：ALCパネル=125下地調整 (C-1) の上、 複層塗材E (フッ素仕上) 【新設】
b	笠木：アルミ笠木w=350【新設】
c	巾木：コンクリート打直し下地の上、薄塗り モルタル仕上【新設】
d	縦樋：カラーVP管φ75【新設】 (SUS製組み金物、集水器共)
e	Exp. Jカバー (アルミ製) 【新設】

◎ 改修備考
 ・カッパのソーリングについては、撤去の上新設を行う
 ・外壁目地部は、ソーリング (PU-2) 新設を行う
 ・外壁改修は、施工数量調査を行う
 ・外壁に取付く設備配管は、養生し脱着しないものとする
 ・(*)は7x8に含有建材を示す

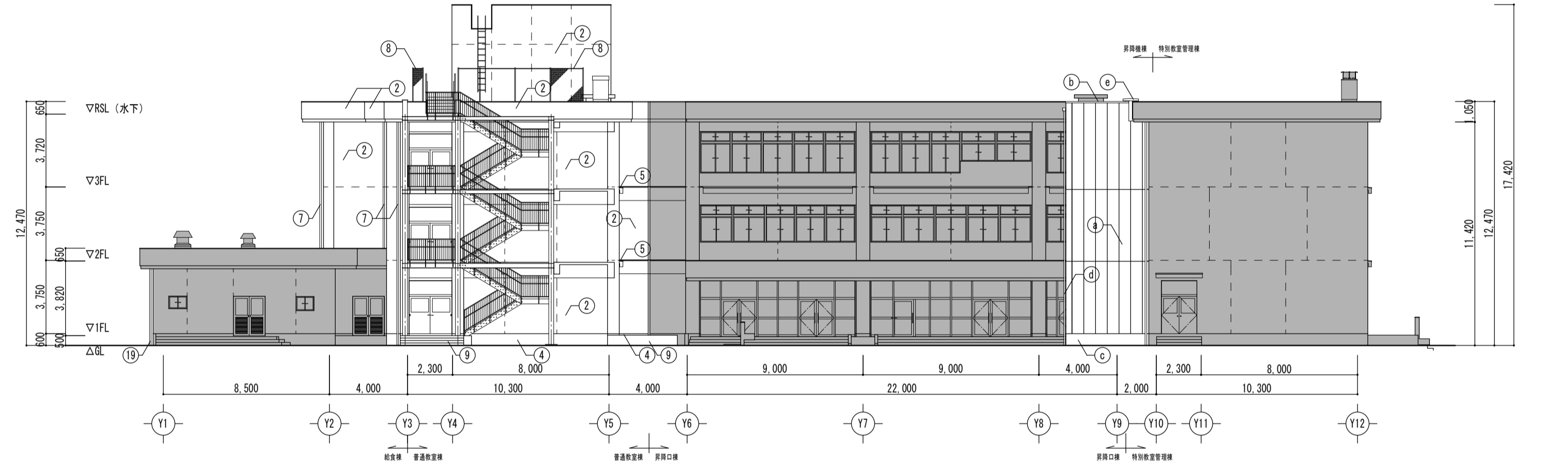
※外壁改修特記仕様
 【施工数量調査】
 ・調査項目：クラック、剥がれ及び剥落部、浮き部
 ・調査方法：打診、目視、クラックメーター等
 ・報告書：2部(補修方法別に調査数量を集計する)

【外壁クラック補修仕様】
 ・1mm以上のひび割れ補修：Uカット充填工法
 ・1mm未満のひび割れ補修
 自動式低圧球 樹脂注入工法
 ・浮き部補修：7x8に含有建材の球 樹脂注入工法
 (16本/m²、25ml/穴、25本/m²、25ml/穴)
 ・欠損部改修工法：鉄筋防錆処理の上、樹脂モルタル充填

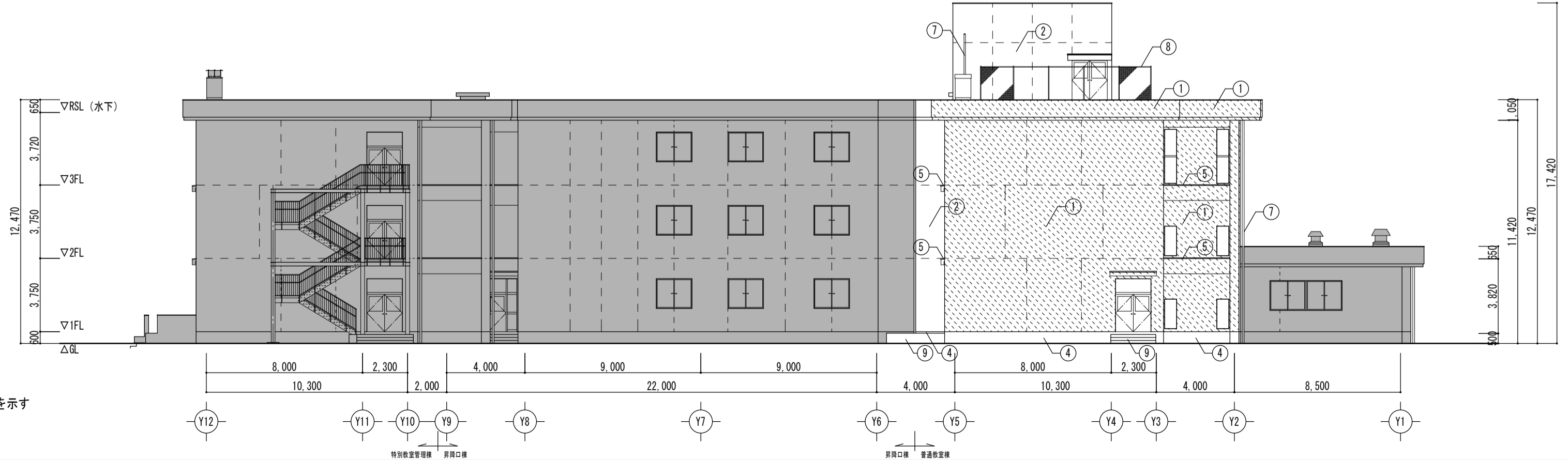
【外壁・軒天庇裏吹付】
 ・軒天：モルタル刷毛引7x8系リソ 【下地調整材に7x8に含有】
 ・外壁：
 ・集塵装置付超高圧水洗工法、
 集塵装置付浸式デフラグライソ工法 併用
 ※各種申請及び届出を行うこと



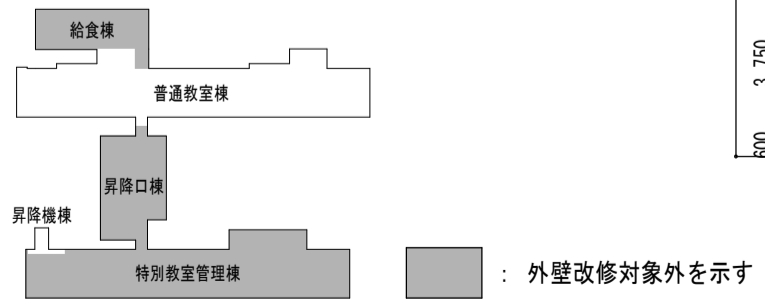
特別教室管理棟側
南立面図 S=1/200



西立面図 S=1/200

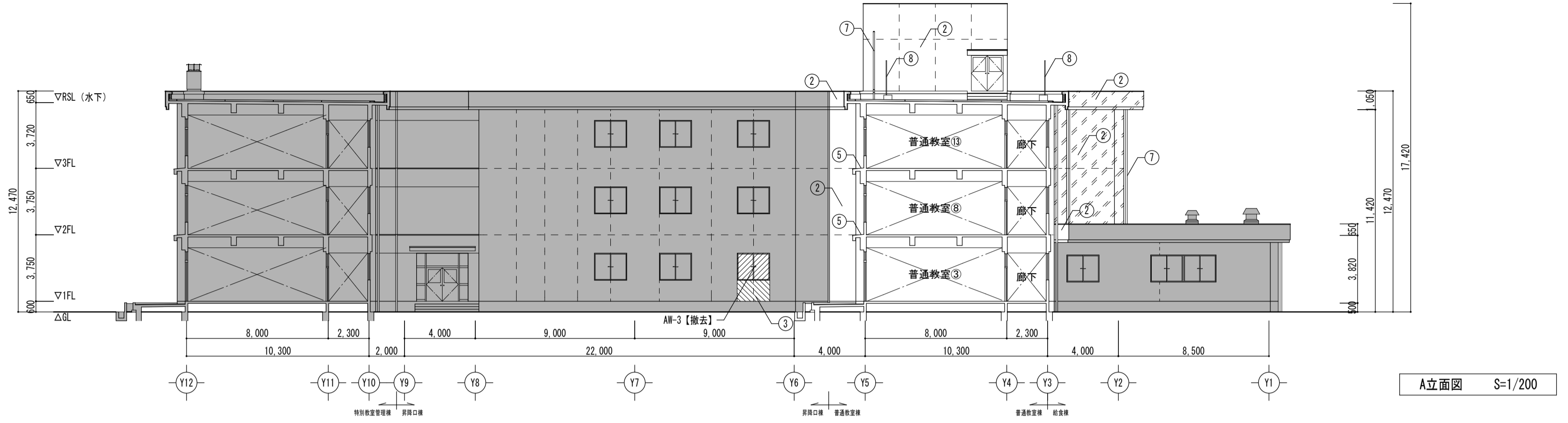


東立面図 S=1/200

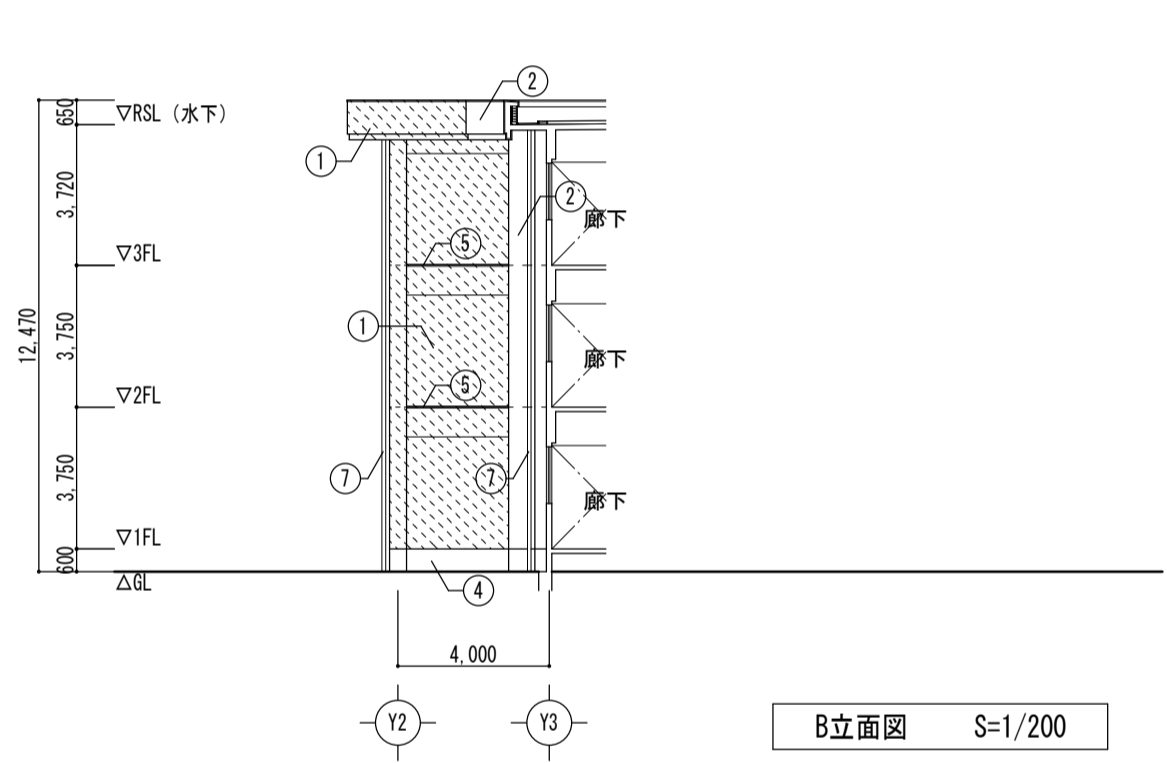


校舎 立面図 (改修前)

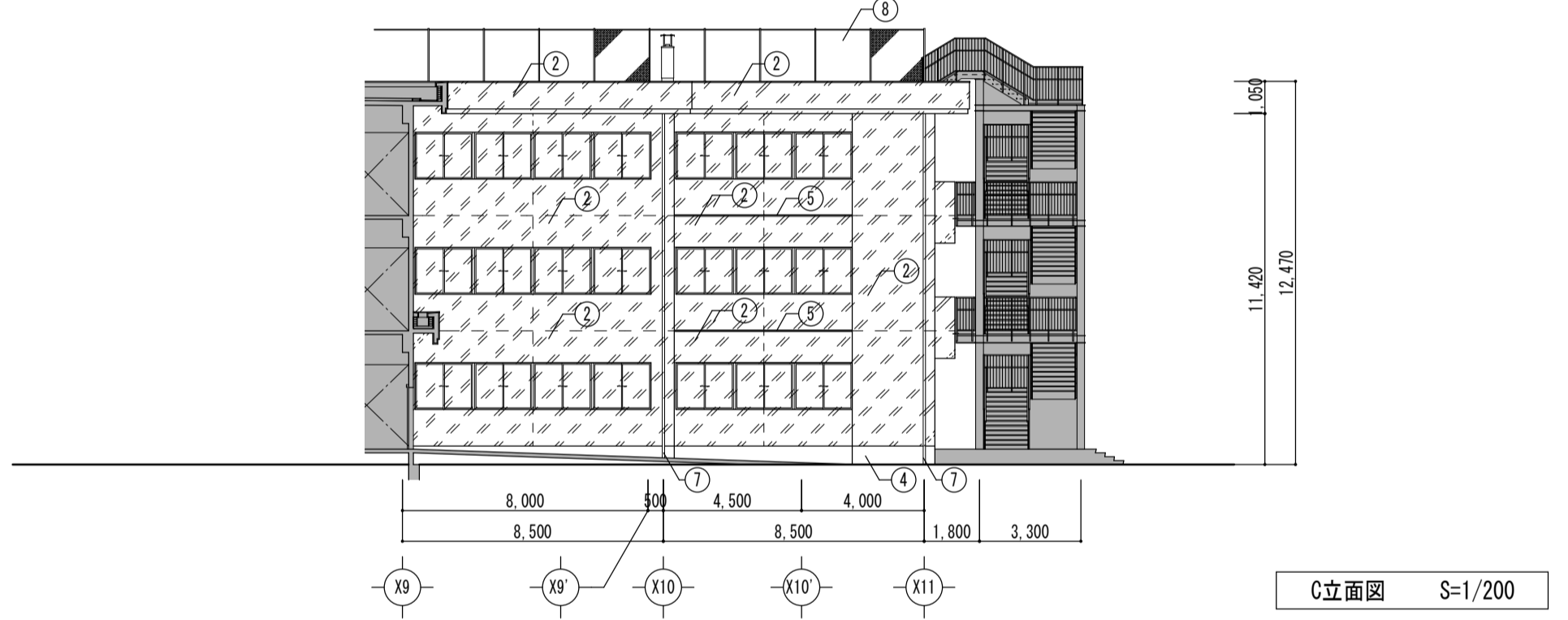
凡例	
①	外壁：モルタル刷毛引き下地の上、 アクリル系リシン吹付仕上(※)
②	外壁(庇)：モルタル刷毛引き下地の上、 アクリル系リシン吹付仕上
③	外壁(EV棟増築部、建具改修部)： モルタル刷毛引き下地の上、アクリル系 リシン吹付仕上【撤去】
④	巾木：モルタル刷毛引き仕上【既設のまま】
⑤	窓上庇：合成ゴム塗膜防水の上、防水モルタル 金ゴテ押え
⑥	玄関ポーチ底：モルタル刷毛引き下地の上、 アクリル系リシン吹付仕上
⑦	縦樋：配管用炭素鋼管(SGP) 白管φ100 OP塗装 【撤去】
⑧	フェンス：ネットフェンスh=1800【ネット撤去】
⑨	階段・花壇：モルタル金ゴテ押え【既設のまま】
	外壁目地：アスベスト含有範囲 油性コーキングw=15(※)【撤去】
	建具周囲目地：油性コーキング(※)【撤去】
	建具水切目地：油性コーキング(※)【撤去】
<p>◎ 改修備考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッシ廻りのシール材については、撤去の上新設を行う ・外壁目地部は、シール材(PU-2)新設を行う ・外壁改修は、施工数量調査を行う ・外壁に取付く設備配管は、養生し脱着しないものとする ・(※)は7A⁺ス含有建材を示す <p>※外壁改修特記仕様</p> <p>【施工数量調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査項目：クラック、剥がれ及び剥落部、浮き部 ・調査方法：打診、目視、クラックメーター等 ・報告書：2部(補修方法別に調査数量を集計する) <p>【外壁クラック補修仕様】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1mm以上のひび割れ補修：Uカット+充填工法 ・1mm未満のひび割れ補修：自動式低圧球状樹脂注入工法 ・浮き部補修：7A⁺シリンダー部のE⁺樹脂注入工法(16本/m²、25ml/穴、25本/m²、25ml/穴) ・欠損部改修工法：鉄筋防錆処理の上、樹脂モルタル充填 <p>【外壁・軒天庇裏吹付】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軒天：モルタル刷毛引アクリル系リシン【下地調整材に7A⁺ス含有】 ・外壁：モルタル刷毛引アクリル系リシン【塗材に7A⁺ス含有】 ・集塵装置付超高压水洗工法、集塵装置付湿式吹き付け工法併用 <p>※各種申請及び届出を行うこと</p>	



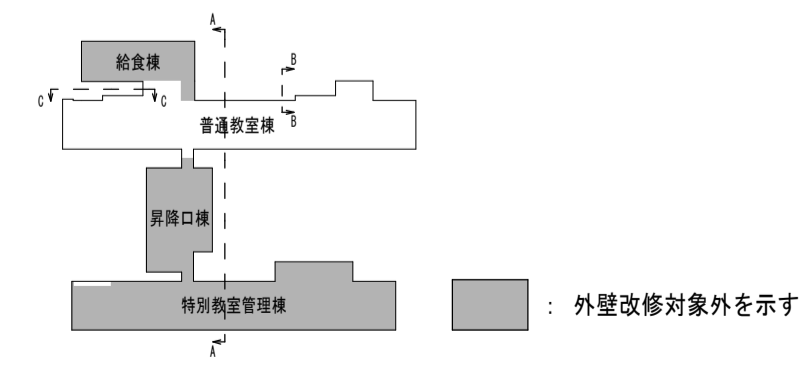
A立面図 S=1/200



B立面図 S=1/200

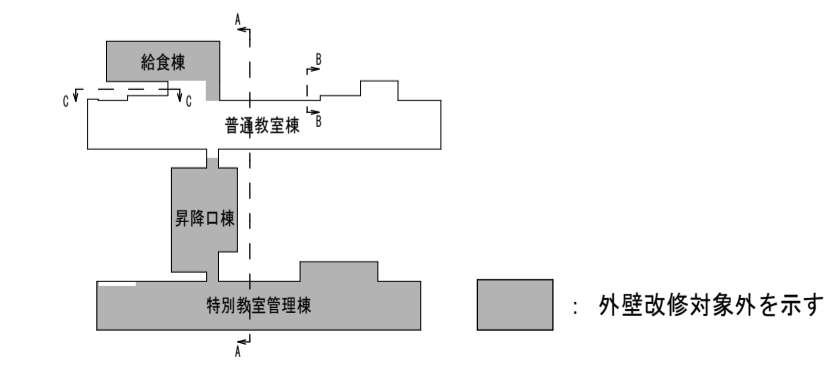
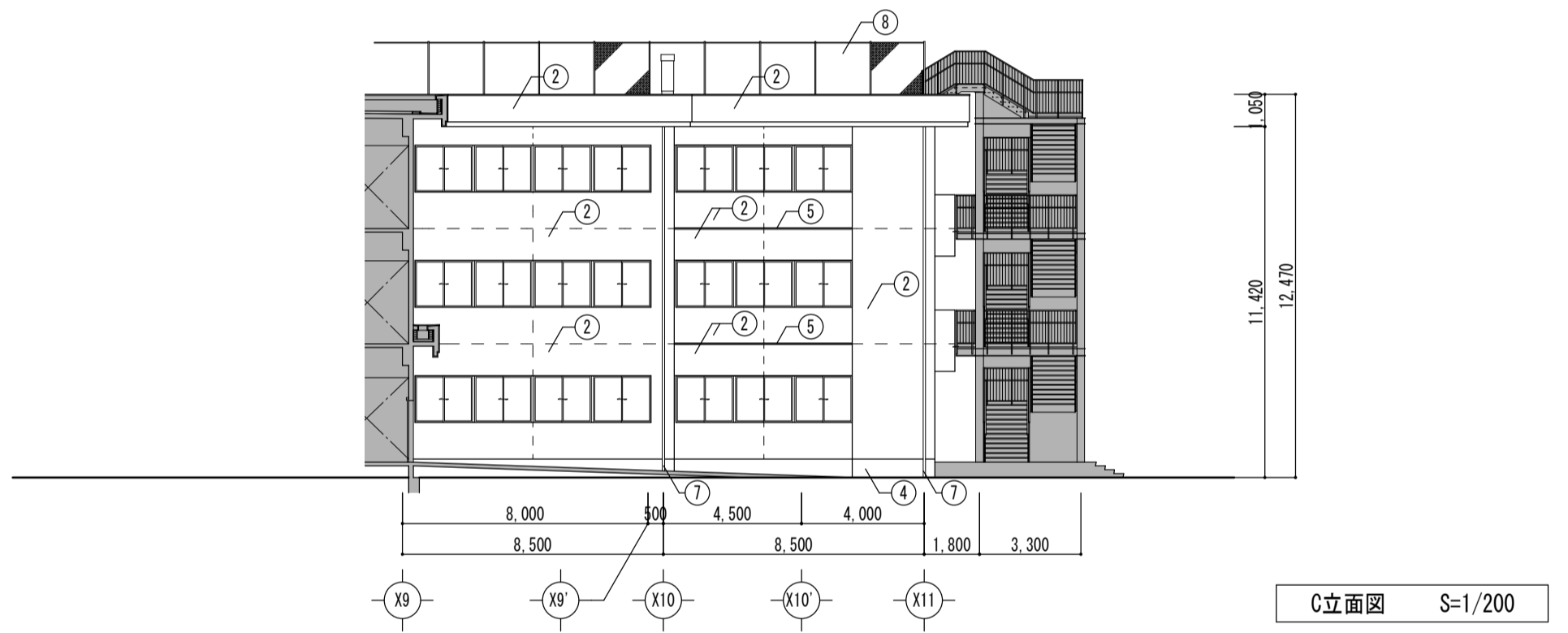
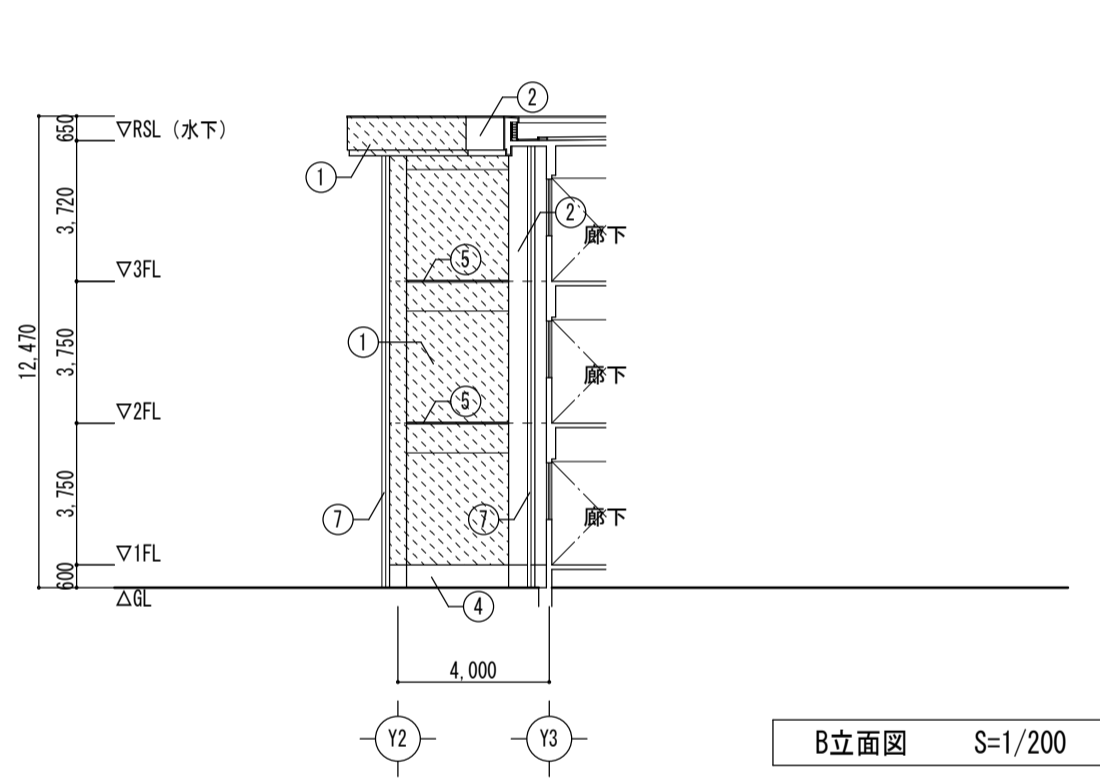
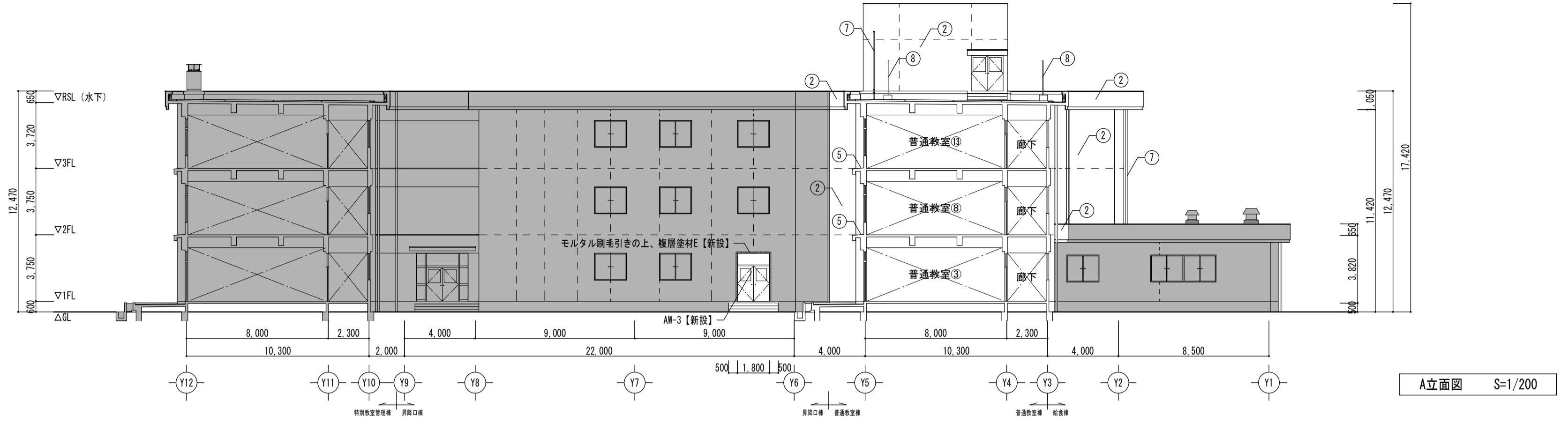


C立面図 S=1/200

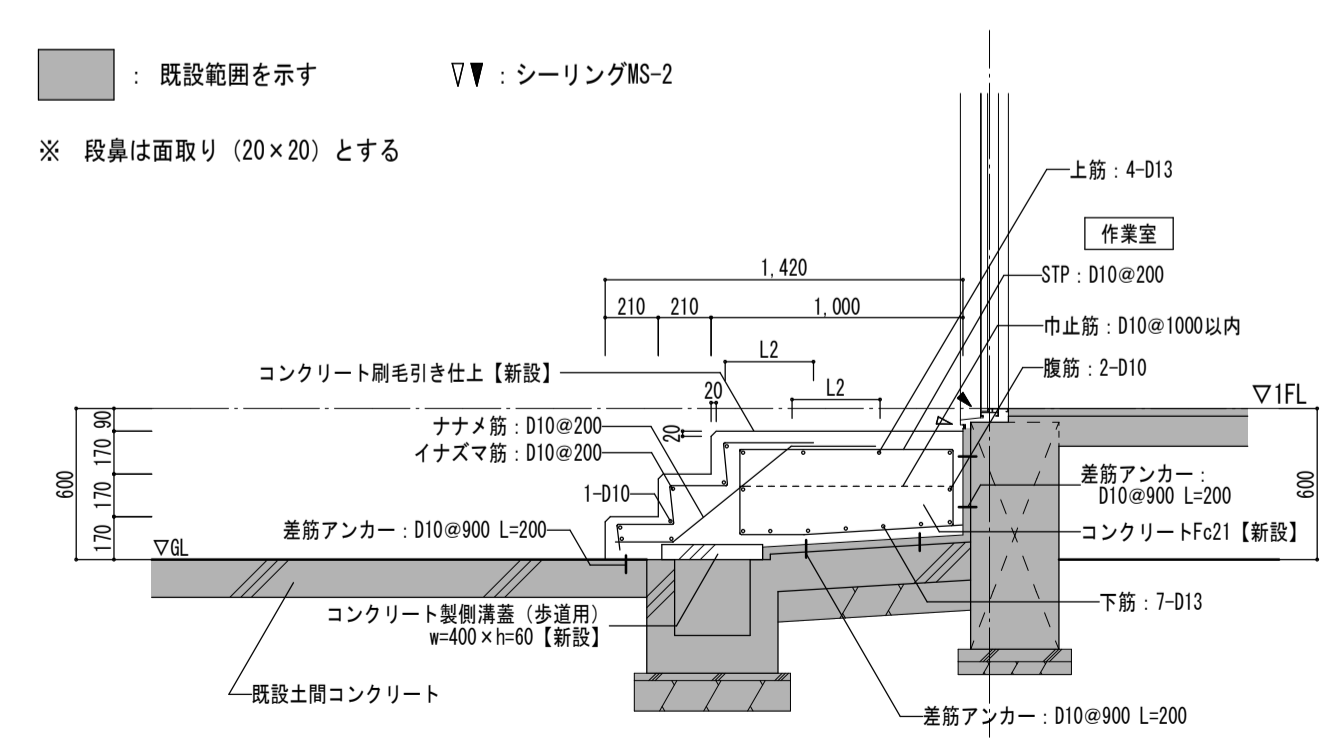


校舎 立面図 (改修後)

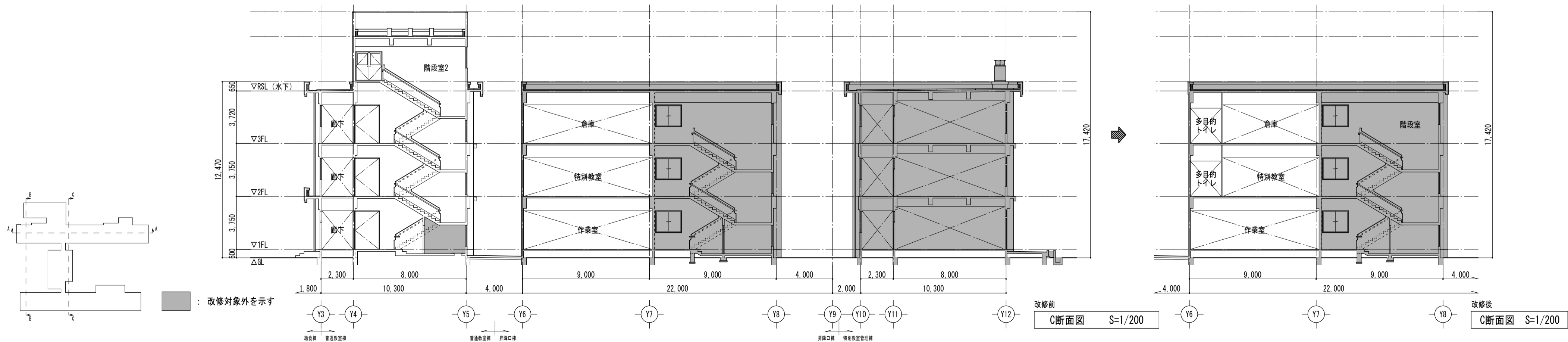
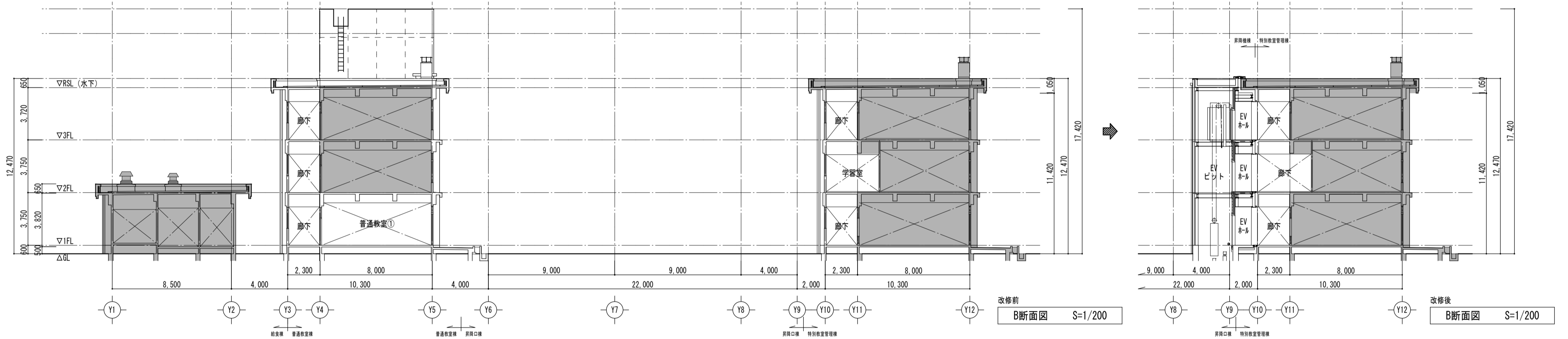
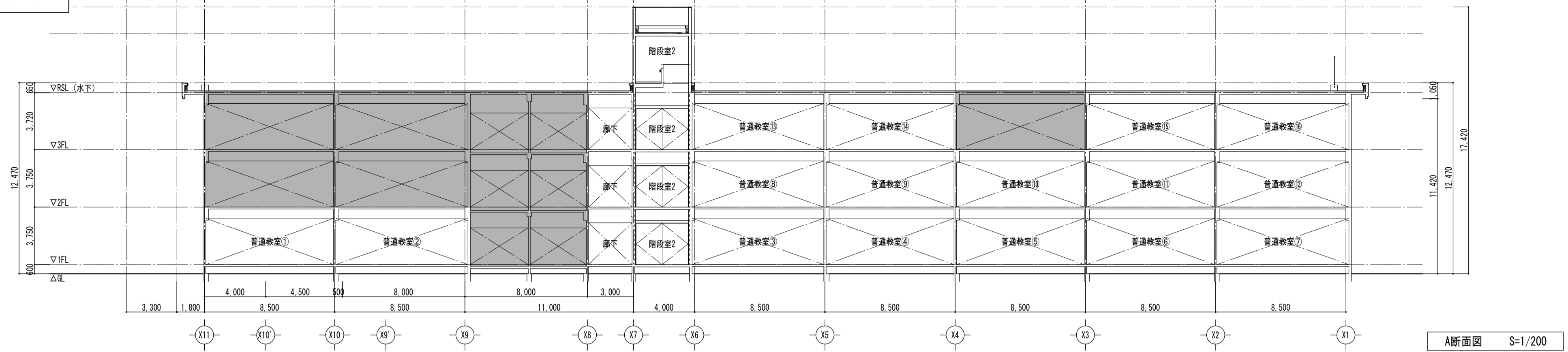
凡例	
①	外壁： 【高圧水洗、下地調整 (C-2) の上、 複層塗材E (フッ素仕上) 塗替え】
②	外壁： 【高圧水洗、下地調整 (C-1) の上、 複層塗材E (フッ素仕上) 塗替え】
③	外壁 (EV棟増築部)： ：コンクリート下地の上、モルタル刷毛引き下地 複層塗材E (フッ素仕上) 【新設】
④	巾木：【水洗い】
⑤	窓上庇：【水洗いの上、自閉樹脂塗膜防水】
⑥	玄関ポーチ底： 【高圧水洗、下地調整 (C-1) の上、 複層塗材E (フッ素仕上) 塗替え】
⑦	縦樋：カラ-VP管φ100【新設】 (SUS製組み金物、集水器共)
⑧	フェンス：既設基礎コア抜きの上、 メッシュフェンスh=1,500【新設】 (支柱：扇型リブ鋼管共)
⑨	階段・花壇：モルタル金ゴテ押え【既設のまま】
Ⓐ	外壁：ALCパネルt=125下地調整 (C-1) の上、 複層塗材E (フッ素仕上) 【新設】
Ⓑ	笠木：アルミ笠木w=350【新設】
Ⓒ	巾木：コンクリート打放し下地の上、薄塗り モルタル仕上【新設】
Ⓓ	縦樋：カラ-VP管φ75【新設】 (SUS製組み金物、集水器共)
Ⓔ	Exp. Jカバー (アルミ製) 【新設】
<p>◎ 改修備考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カッパのソーリングについては、撤去の上新設を行う ・外壁目地部は、ソーリング (PU-2) 新設を行う ・外壁改修は、施工数量調査を行う ・外壁に取付く設備配管は、養生し脱着しないものとする ・(*)は7x8'に含有建材を示す <p>※外壁改修特記仕様 【施工数量調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査項目：クラック、剥がれ及び剥落部、浮き部 ・調査方法：打診、目視、クラックメーター等 ・報告書：2部 (補修方法別に調査数量を集計する) <p>【外壁クラック補修仕様】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1mm以上のひび割れ補修：Uカット+充填工法 ・1mm未満のひび割れ補修：自動式低圧球 樹脂注入工法 ・浮き部補修：7x8' ショウ部 樹脂注入工法 (16本/m²、25ml/穴、25本/m²、25ml/穴) ・欠損部改修工法：鉄筋防錆処理の上、樹脂充填 <p>【外壁・軒天庇裏吹付】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軒天：モルタル刷毛引7x8'系リソ【下地調整材に7x8'に含有】 ・外壁：モルタル刷毛引7x8'系リソ【塗材に7x8'に含有】 ・集塵装置付超高压水洗工法、集塵装置付浸式デスケーティング工法 併用 <p>※各種申請及び届出を行うこと</p>	



昇降口棟 外部階段 断面図 S=1/30

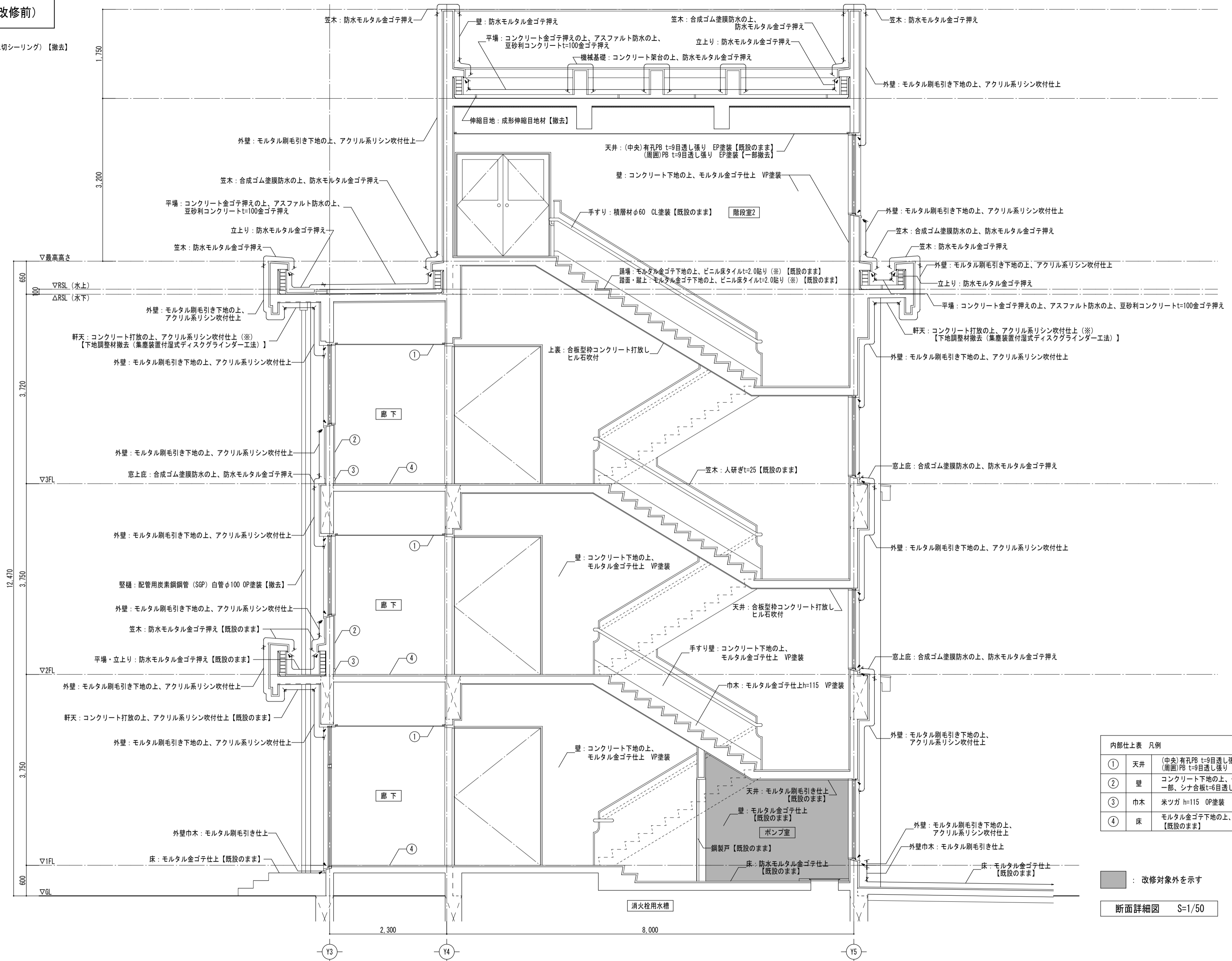


校舎 断面図 (改修前・後)



断面詳細図 (改修前)

▽ : 油性コーキング(※)
(建具周囲・建具水切シーリング)【撤去】



内部仕上表 凡例		
①	天井	(中央)有孔PB t=9目透し張り EP塗装【既設のまま】 (周囲)PB t=9目透し張り EP塗装【既設のまま】
②	壁	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装 一部、シナ合板t=6目透し張り OP塗装
③	巾木	米ツガ h=115 OP塗装
④	床	モルタル金ゴテ下地の上、ビニル床タイルt=2.0貼り(※) 【既設のまま】

■ : 改修対象外を示す

断面詳細図 S=1/50

(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。

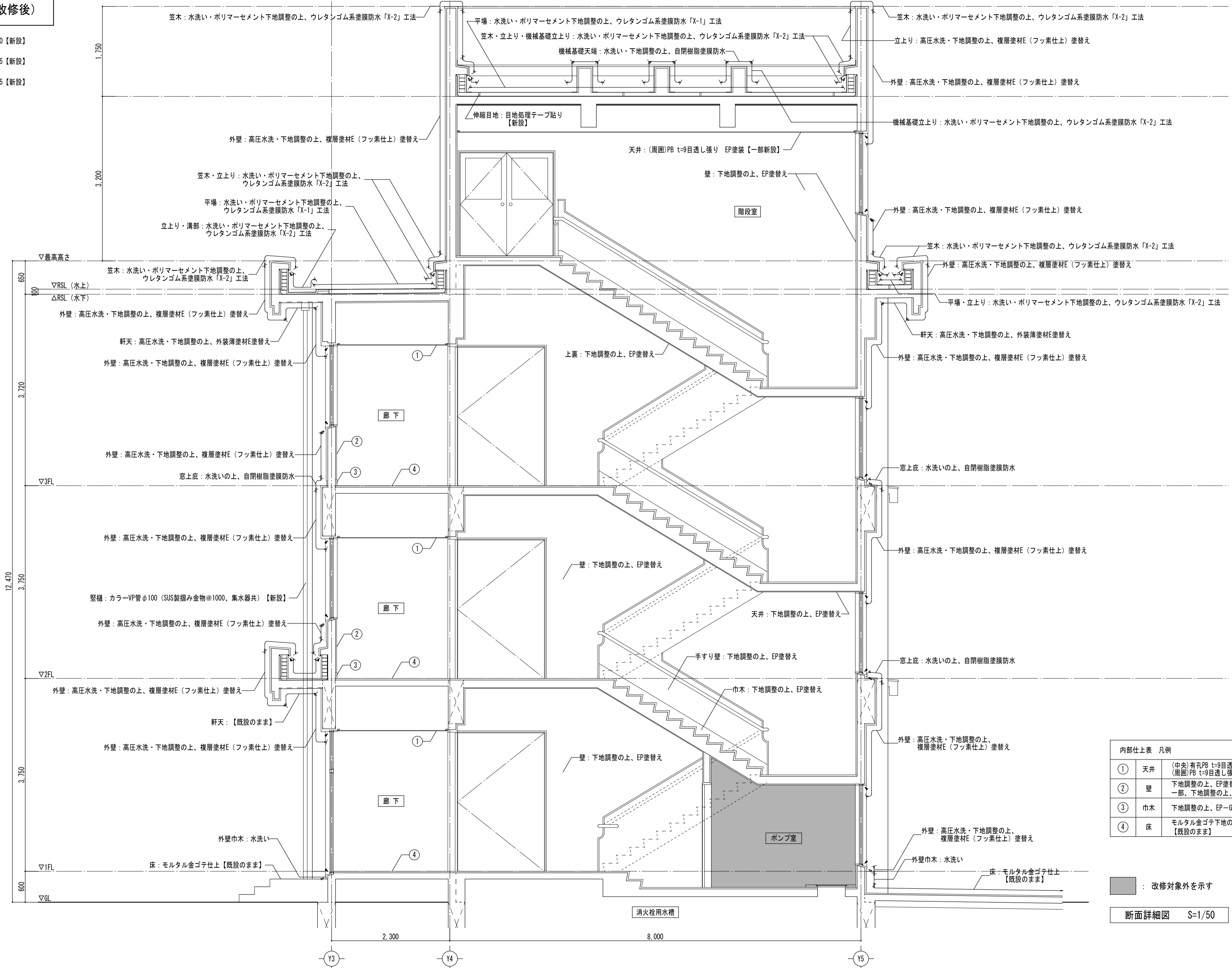
田端建築設計 (株)

設計代表者 田端 進也
設計担当者 田端 進也
SCALE A2 : 1/50
DATE R 8 . 2

工事名称 津市立南立誠小学校長寿化改修工事
図面名称 普通教室棟 断面詳細図 (改修前)
A-036
原図: A2

断面詳細図 (改修後)

- ▼ : シーリングMS-2 w=10【新設】
- ▽ : シーリングMS-2 w=15【新設】
- ▽ : シーリングPU-2 w=15【新設】



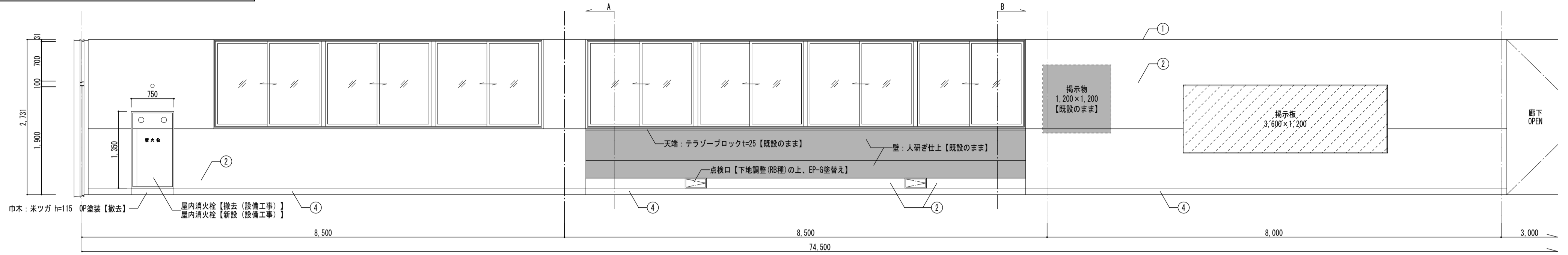
内部仕上表 凡例	
①	天井 (中央)有孔PB t=9目透し張り EP塗装【既設のまま】 (周囲)PB t=9目透し張り EP塗装【既設のまま】
②	壁 下地調整の上、EP塗装 一部、下地調整の上、EP-G塗装
③	巾木 下地調整の上、EP-G塗装
④	床 モルタル金ゴテ下地の上、ビニル床タイルt=2.0貼り (※) 【既設のまま】

■ : 改修対象外を示す

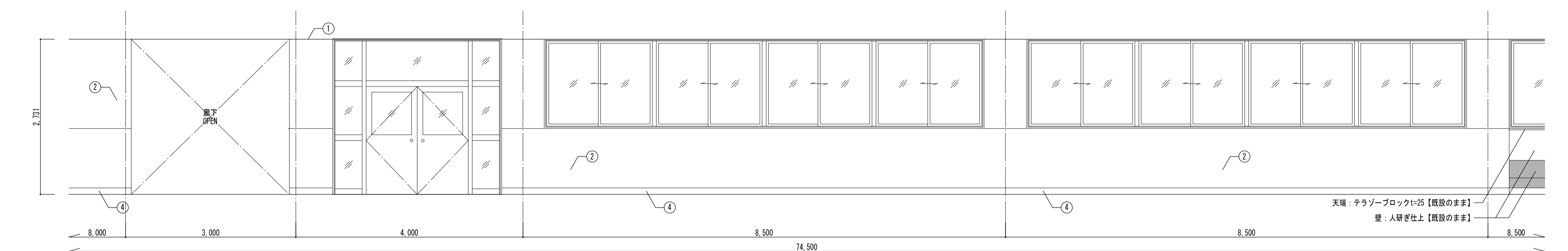
断面詳細図 S=1/50

(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。

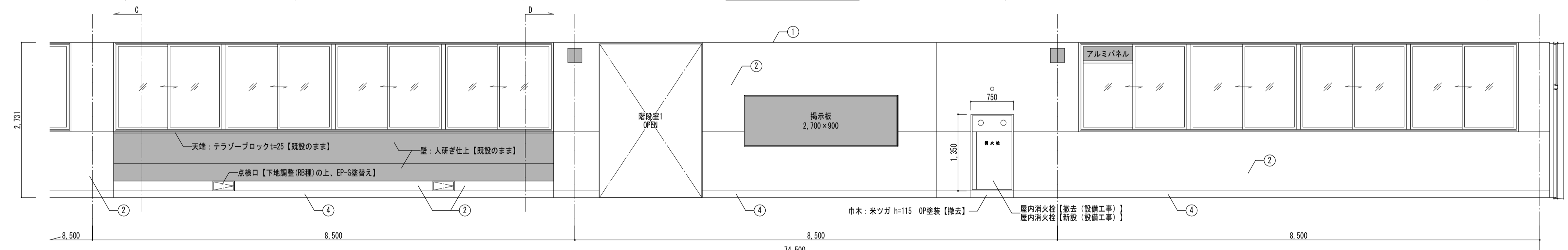
校舎 普通教室棟 1階廊下 (改修前・後)



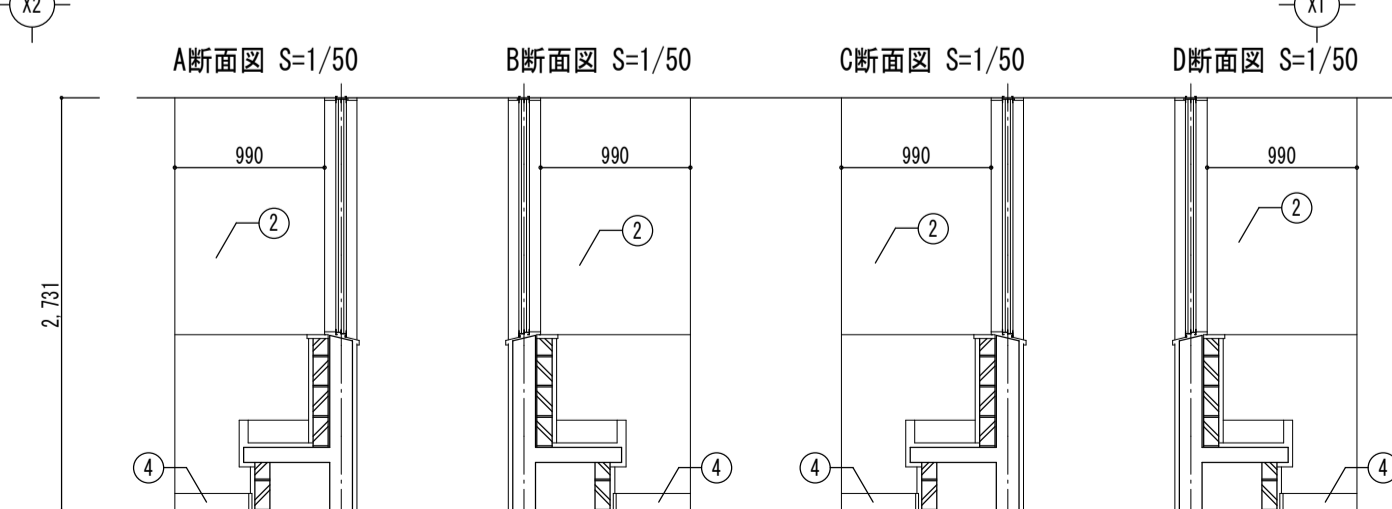
A面展開図 S=1/50



A面展開図 S=1/50



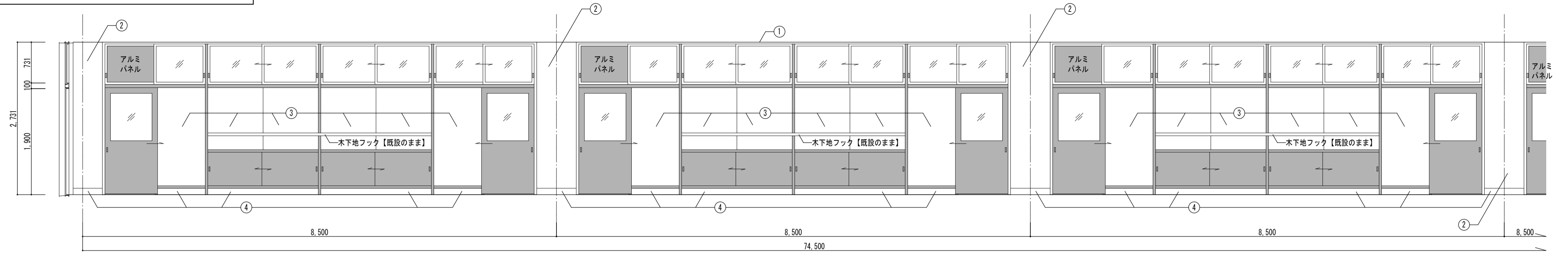
A面展開図 S=1/50



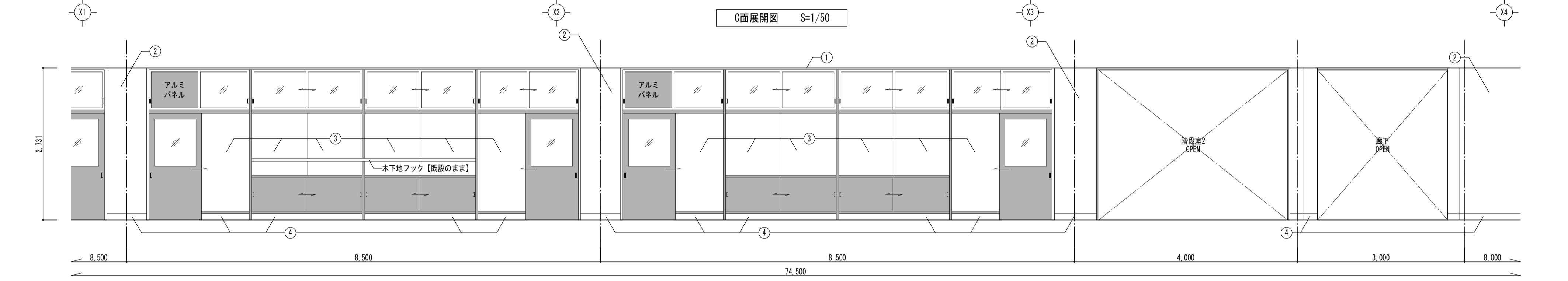
内部仕上表 凡例			
凡例	箇所	改修前	改修後
①	廻縁	木製廻り縁【既設のまま】	—
②	壁	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】
③	壁	シナ合板t=6目透し張り OP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既設のまま
④	巾木	米ツガ h=115 OP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】

・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
 ・点検表記の家具等は、【一時取外し】、【再取付】とする。
 ・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付随物の養生を行うこと。

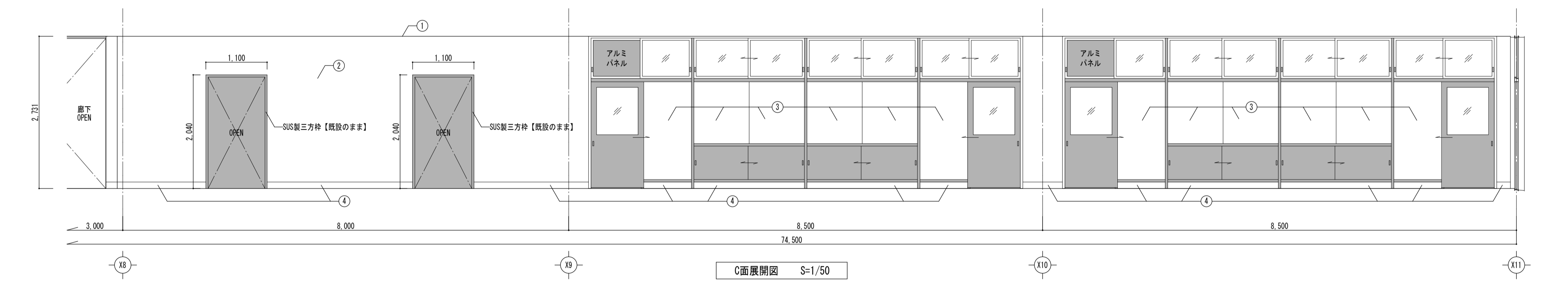
校舎 普通教室棟 1階廊下 (改修前・後)



C面展開図 S=1/50



C面展開図 S=1/50

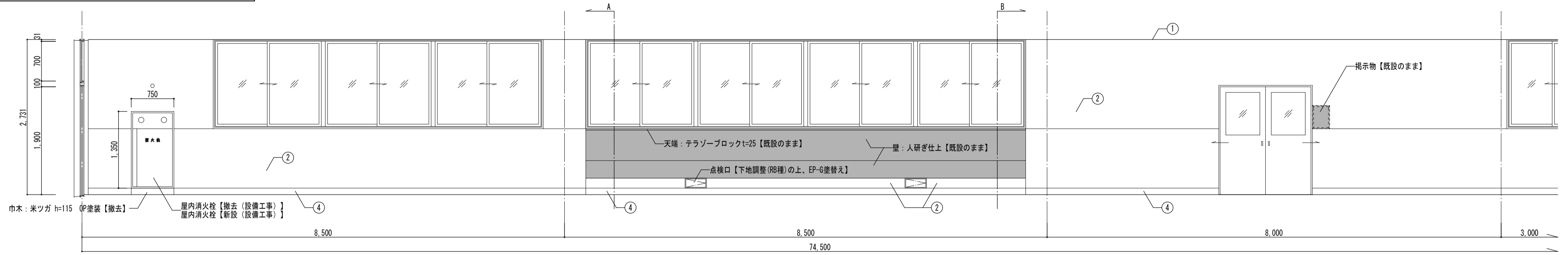


C面展開図 S=1/50

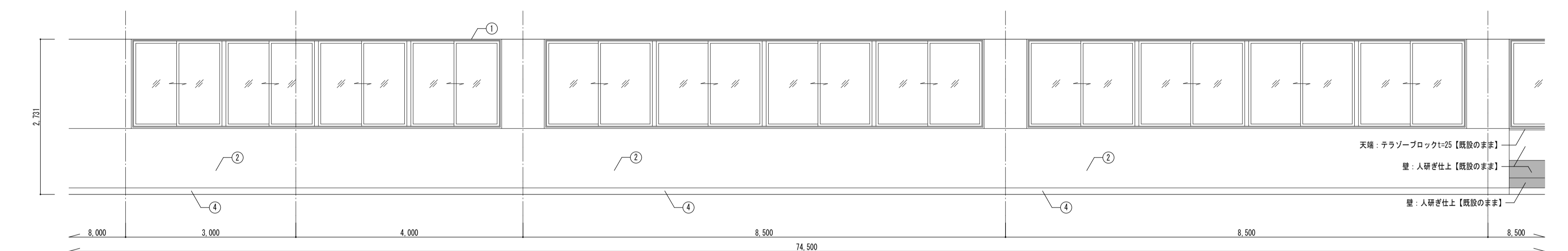
内部仕上表 凡例				
凡例	箇所	改修前	改修後	
①	廻縁	木製廻り縁【既設のまま】	-	掲示クロス張替え箇所を示す
②	壁	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】	建具 建具表参照
③	壁	シナ合板t=6目透し張り OP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既設のまま	
④	巾木	米ツガ h=115 OP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】	

・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
 ・点線表記の家具等は、【一時取外し】【再取付】とする。
 ・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付随物の養生を行うこと。

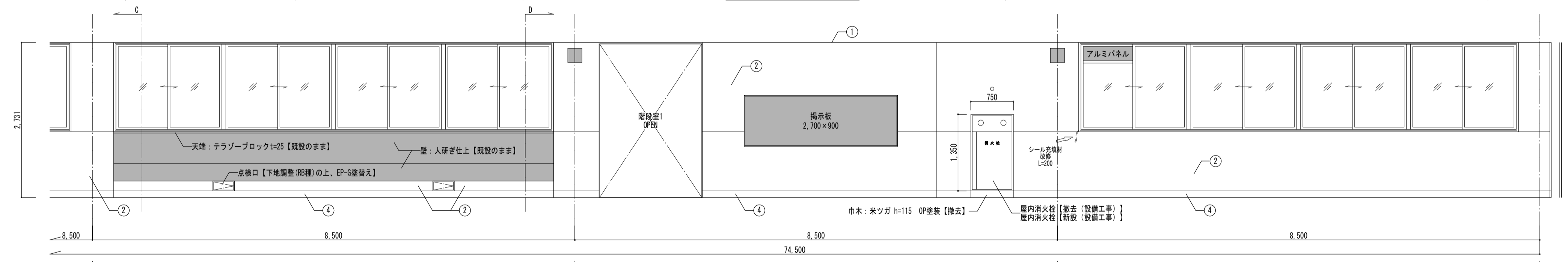
校舎 普通教室棟 2階廊下 (改修前・後)



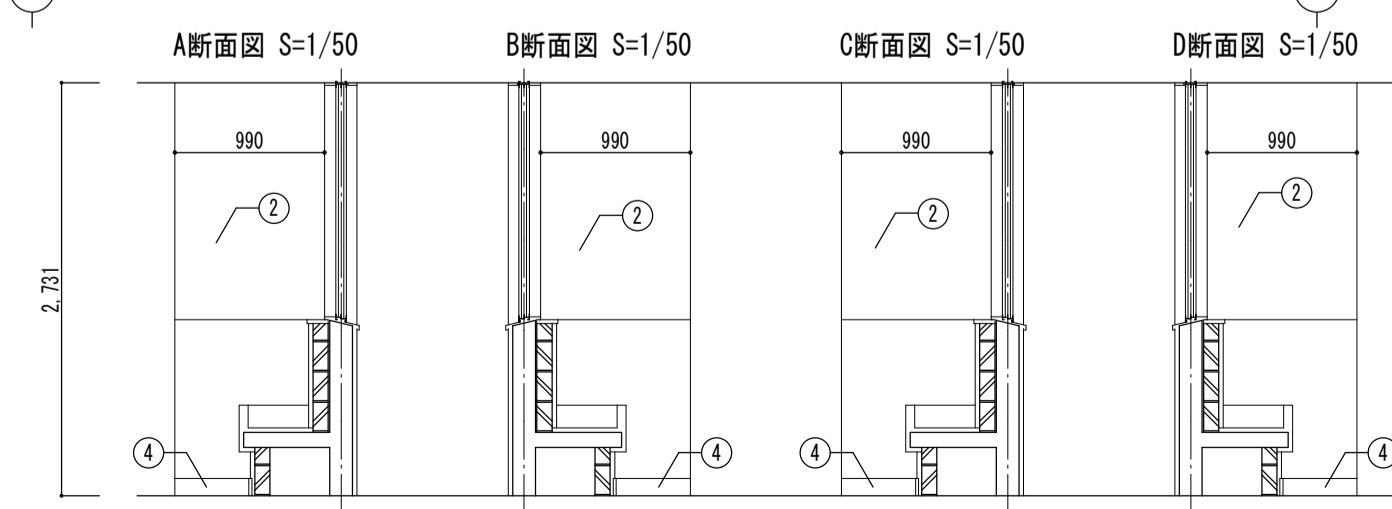
A面展開図 S=1/50



A面展開図 S=1/50



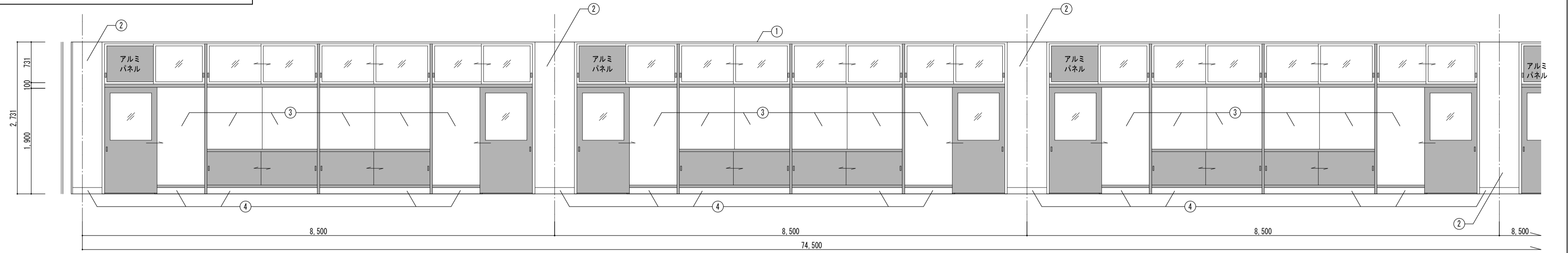
A面展開図 S=1/50



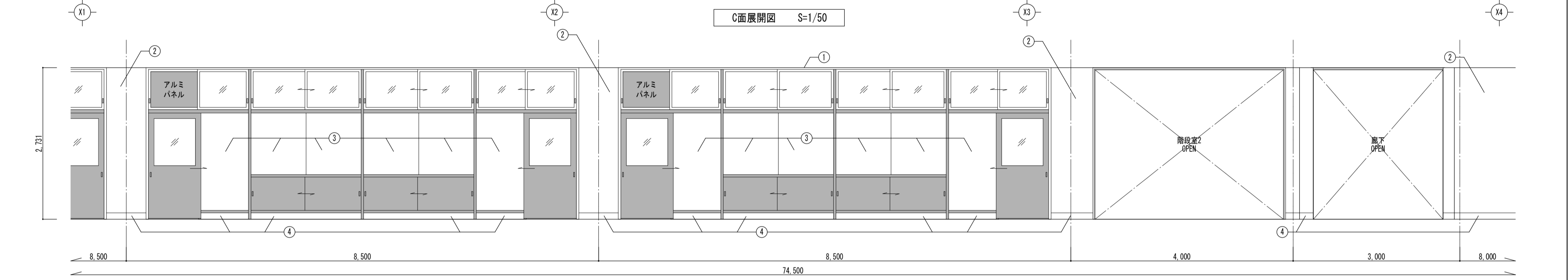
内部仕上表 凡例				
凡例	箇所	改修前	改修後	
①	廻縁	木製廻り縁【既存のままで】	-	掲示クロス張替え箇所を示す
②	壁	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】	改修対象外を示す
③	壁	シナ合板t=6目透し張り OP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既存のままで	建具
④	巾木	米ツガ h=115 OP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】	建具表参照

・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
 ・点検表記の家具等は、【一併取外し】、【再取付】とする。
 ・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付随物の養生を行うこと。

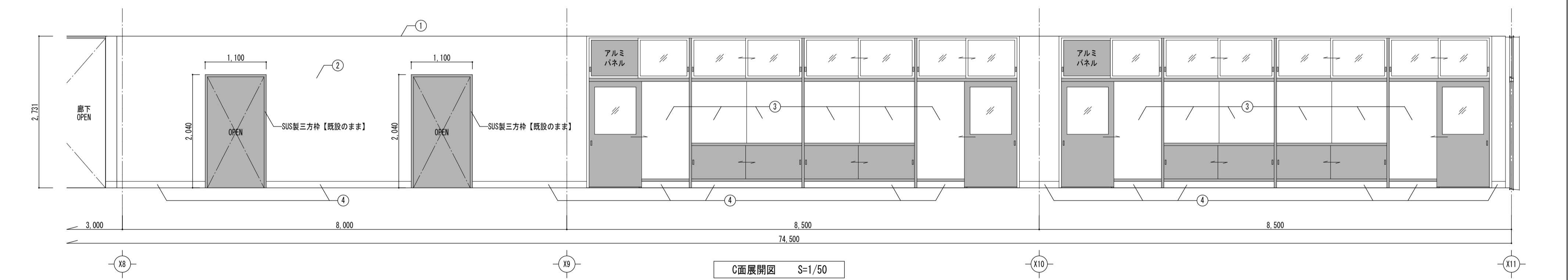
校舎 普通教室棟 2階廊下 (改修前・後)



C面展開図 S=1/50



C面展開図 S=1/50



C面展開図 S=1/50

内部仕上表 凡例			
凡例	箇所	改修前	改修後
①	廻縁	木製廻り縁【既設のまま】	—
②	壁	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③	壁	シナ合板t=6目透し張り OP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既設のまま
④	巾木	米ツガ h=115 OP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】

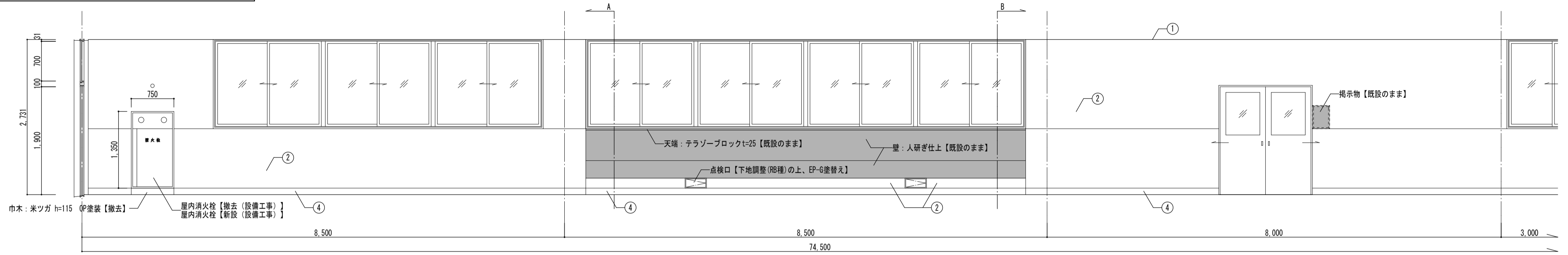
・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
 ・点検表記の家具等は、【一時取外し】【再取付】とする。
 ・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付随物の養生を行うこと。

田端建築設計 (株) 田端建築設計
 三重県知事登録第1-8-01 一般建築士 No.352551 田端 進也

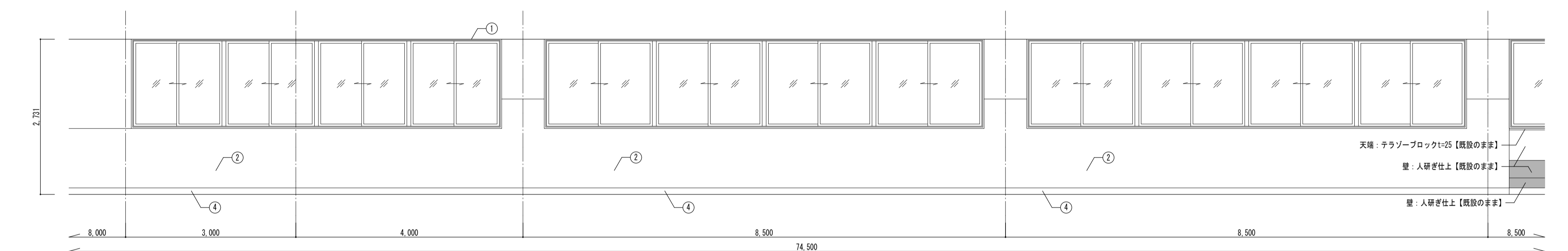
設計代表者 一級建築士 No.352551 田端 進也
 設計担当者 一級建築士 No.352075 横倉 健一 建築士 No.35404 井上 貴智

SCALE A2 1/200
 A3 1/280
 DATE R 8. 2
 工事名称 津市立南立誠小学校長寿命化改修工事
 図面名称 普通教室棟 展開図④ 2階廊下 (改修前・後)

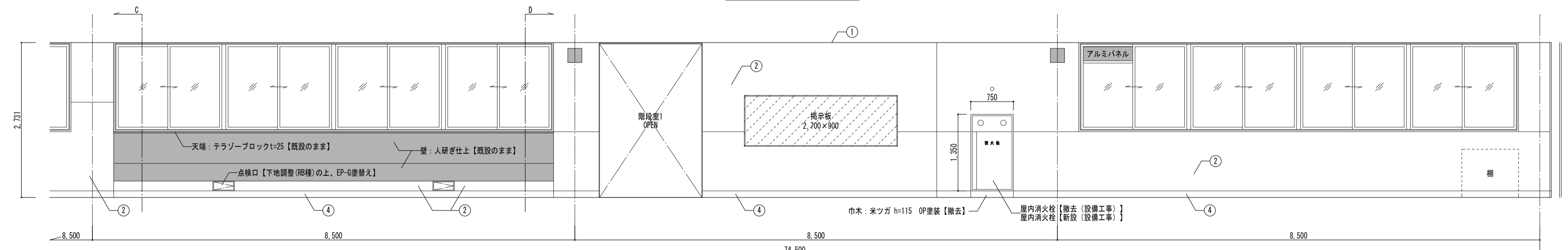
校舎 普通教室棟 3階廊下 (改修前・後)



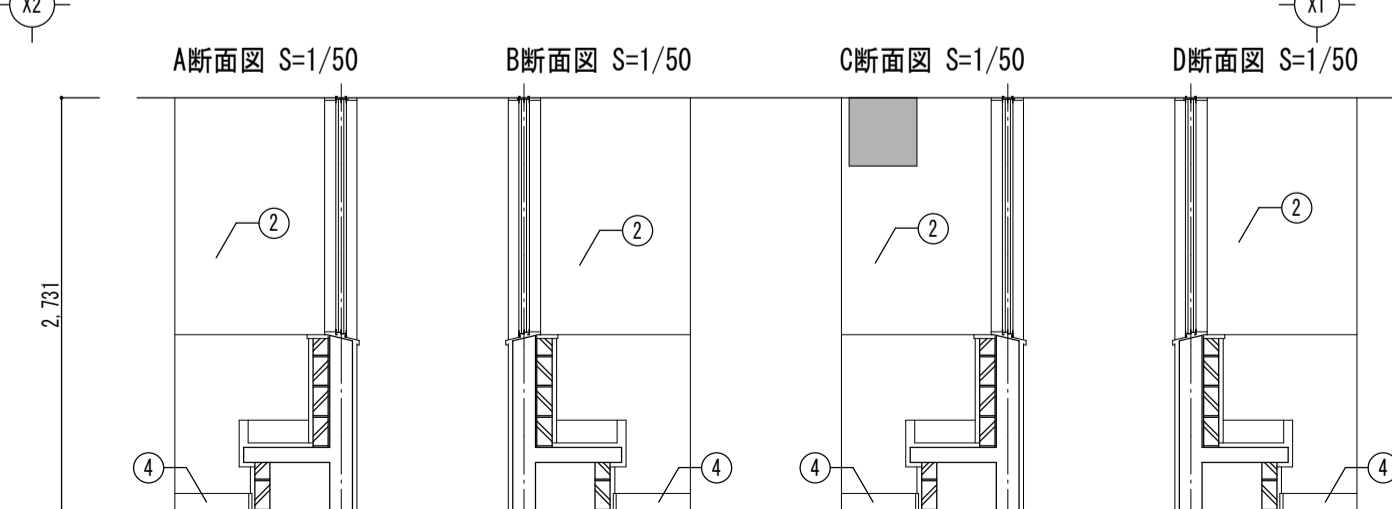
A面展開図 S=1/50



A面展開図 S=1/50



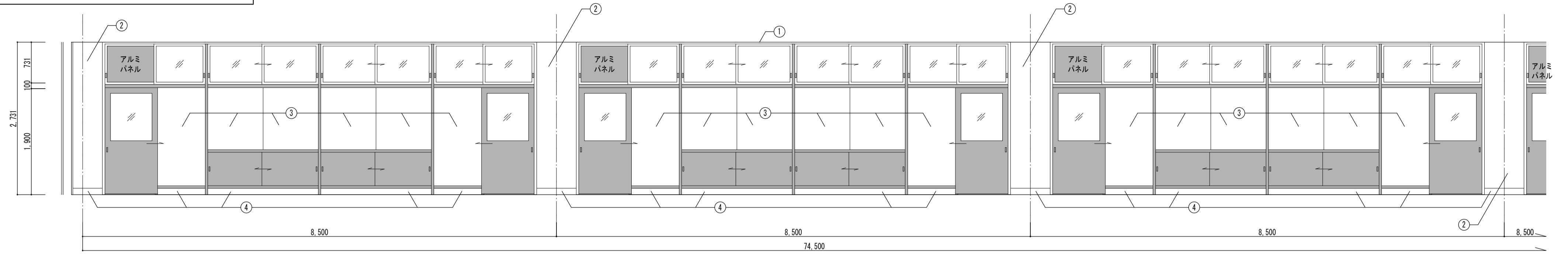
A面展開図 S=1/50



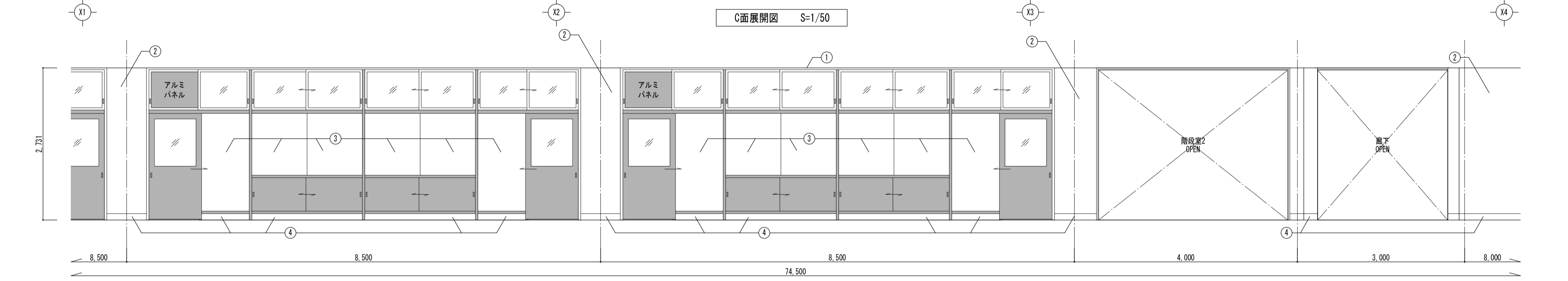
内部仕上表 凡例			
凡例	箇所	改修前	改修後
①	廻縁	木製廻り縁【既設のまま】	-
②	壁	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】
③	壁	シナ合板t=6目透し張り OP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既設のまま
④	巾木	米ツガ h=115 OP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】

・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
 ・点検表記の家具等は、【一併取外し】【再取付】とする。
 ・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付随物の養生を行うこと。

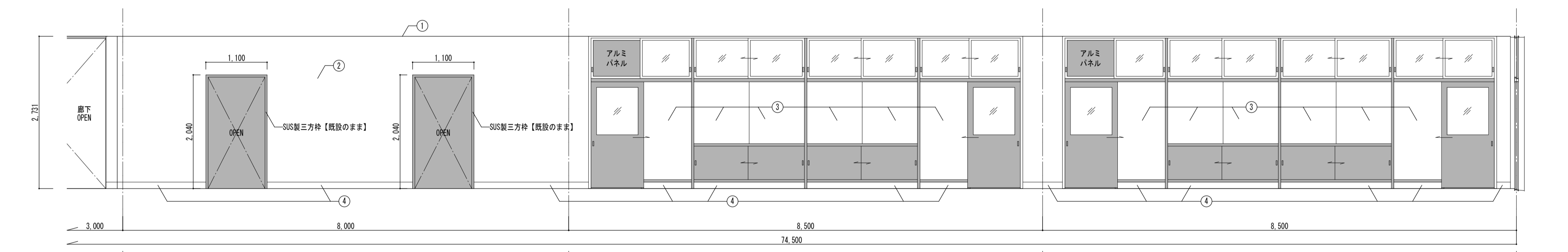
校舎 普通教室棟 3階廊下 (改修前・後)



C面展開図 S=1/50



C面展開図 S=1/50

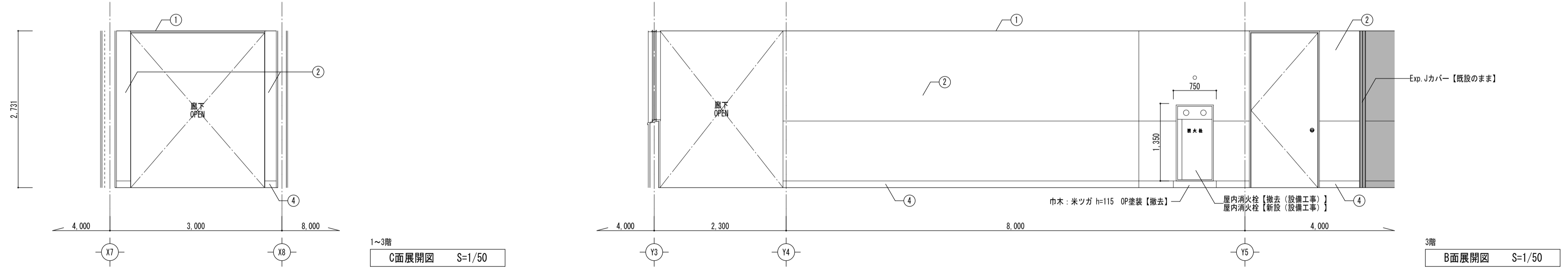
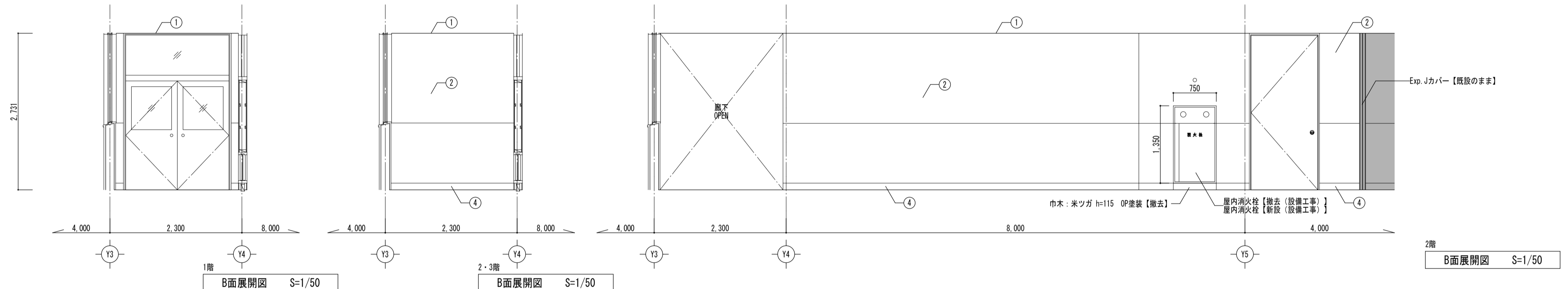
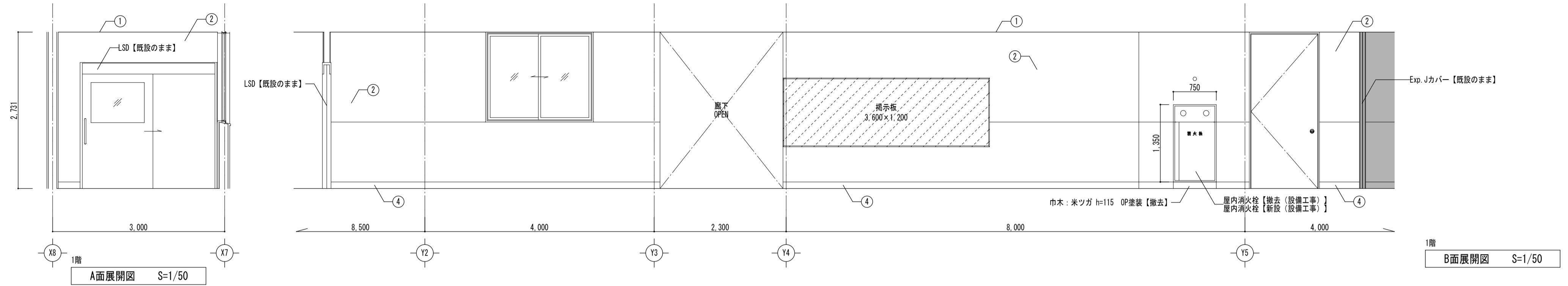


C面展開図 S=1/50

内部仕上表 凡例			
凡例	箇所	改修前	改修後
①	廻縁	木製廻り縁【既設のまま】	-
②	壁	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③	壁	シナ合板t=6目透し張り OP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既設のまま
④	巾木	米ツガ h=115 OP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】

・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
 ・点線表記の家具等は、【一時取外し】【再取付】とする。
 ・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付随物の養生を行うこと。

校舎 普通教室棟 1~3階廊下 (改修前・後)



内部仕上表 凡例			
凡例	箇所	改修前	改修後
①	廻縁	木製廻り縁【既設のまま】	—
②	壁	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③	壁	シナ合板t=6目透し張り OP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既設のまま
④	巾木	米ツガ h=115 OP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】

・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
 ・点検表記の家具等は、【一時取外し】【再取付】とする。
 ・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付随物の養生を行うこと。

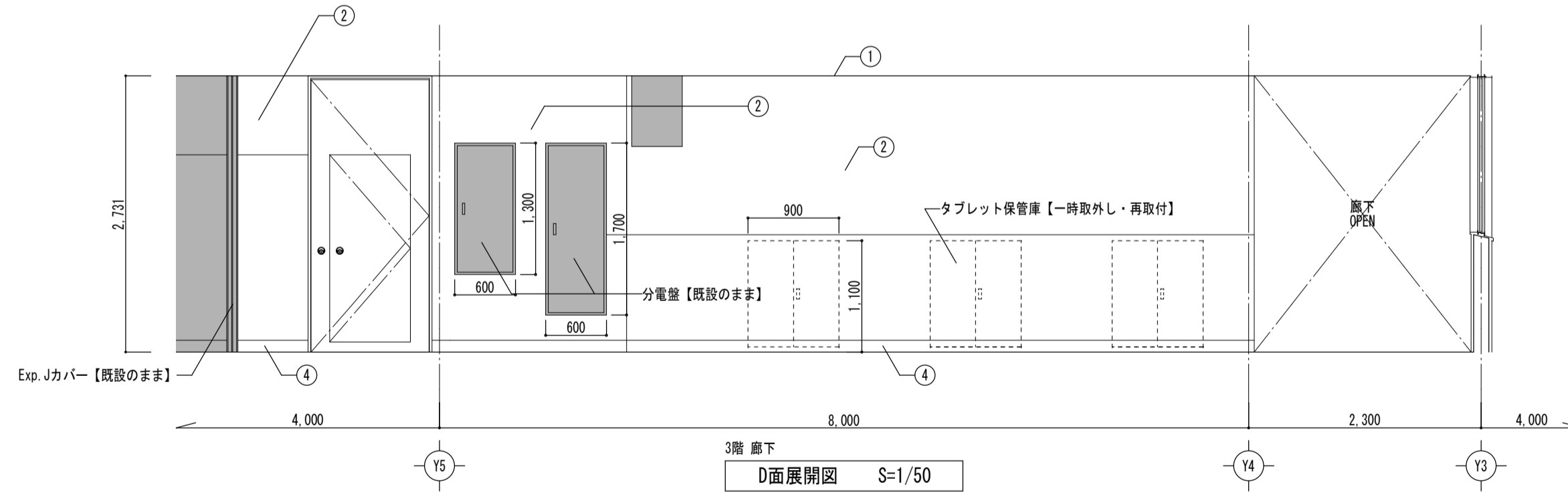
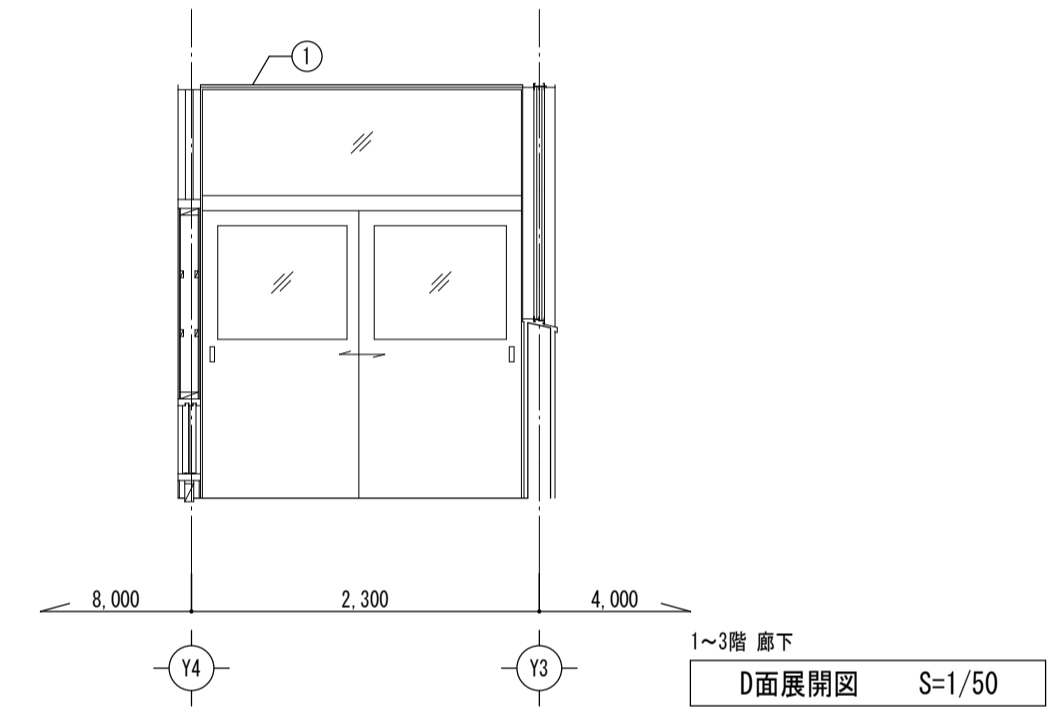
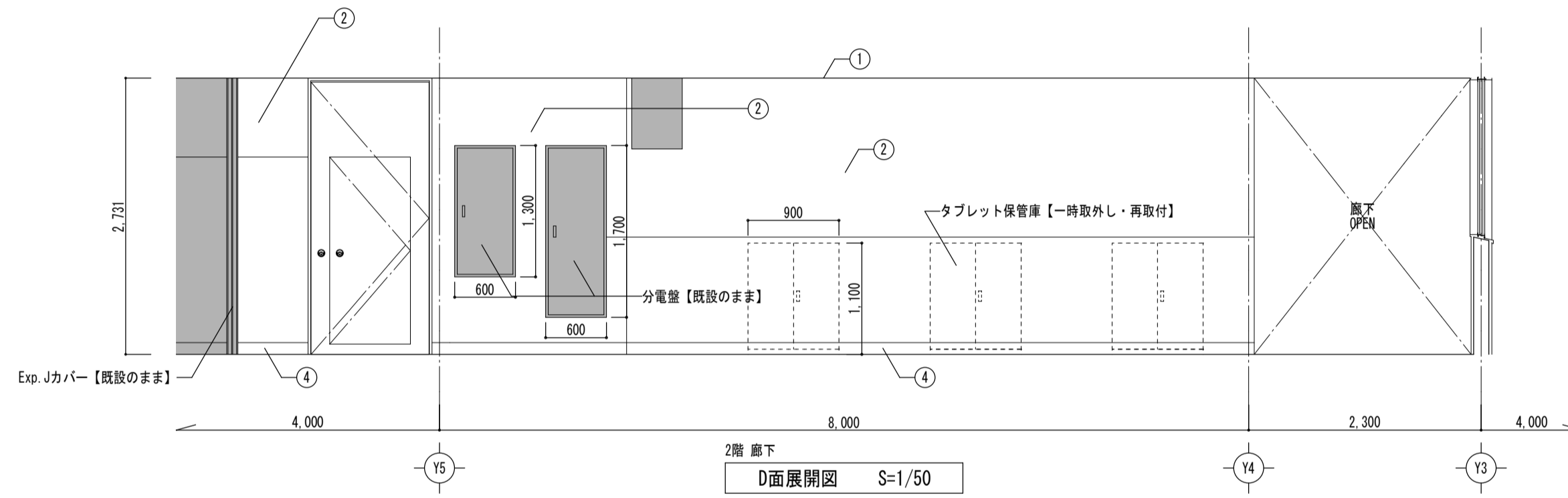
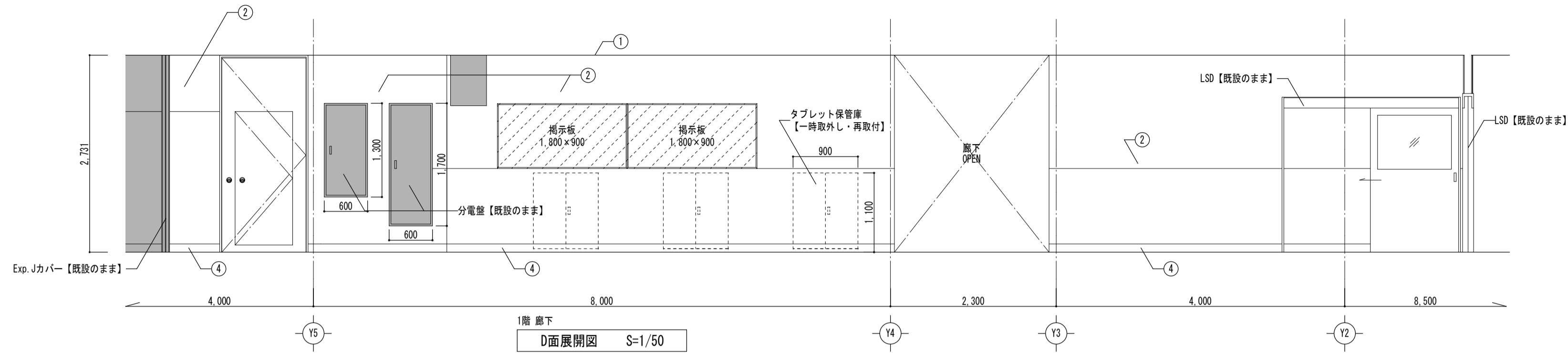
田端隆建築設計 (株)

設計代表者 一級建築士 No.352551 田端 隆也
 設計担当者 一級建築士 No.352077 横倉 健一 二級建築士 No.354041 村上 貴智

SCALE A2 1/200
 A3 1/280
 DATE R 8 . 2

工事名称 津市立南立誠小学校長寿命化改修工事
 図面名称 普通教室棟 展開図(7) 1~3階廊下 (改修前・後)

A-044
 原図: A2

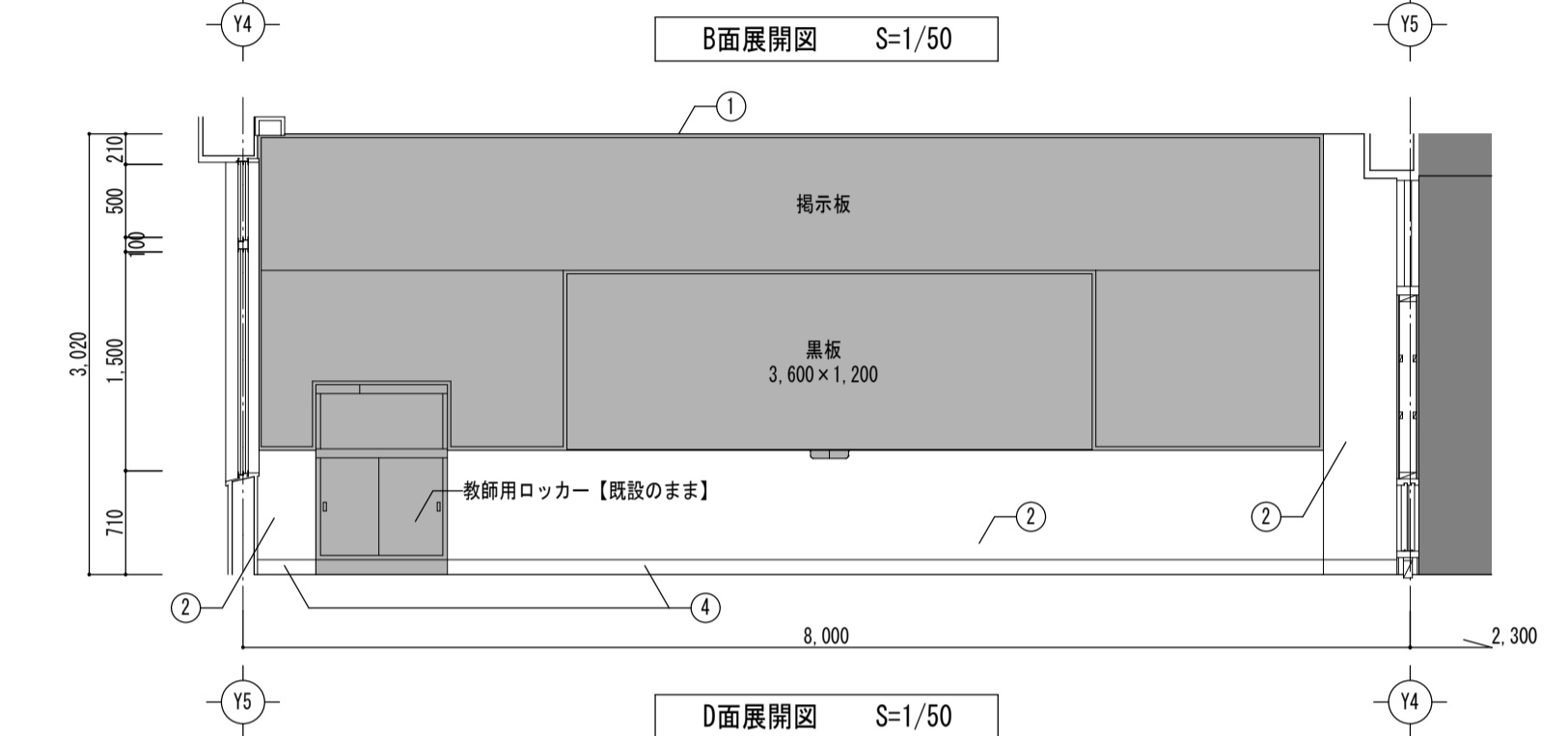
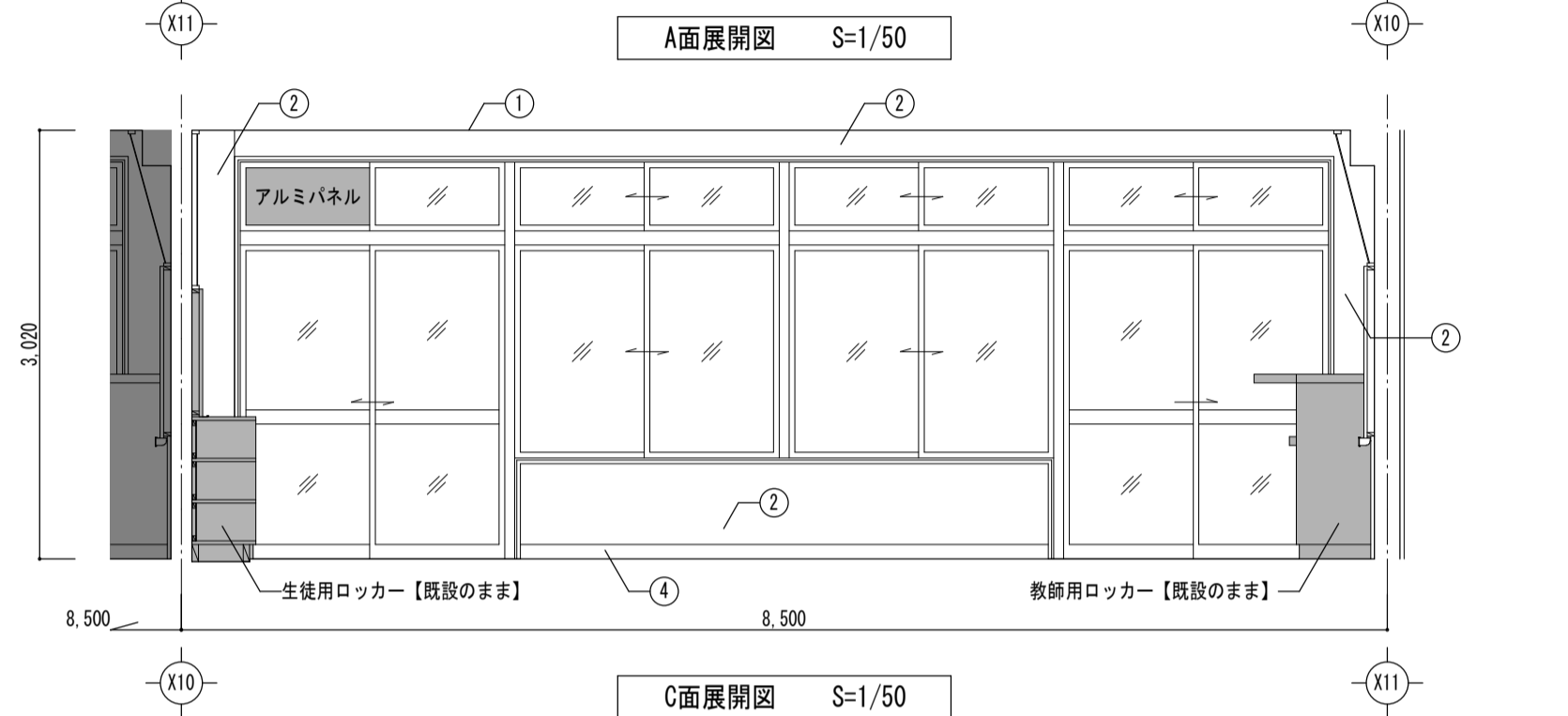
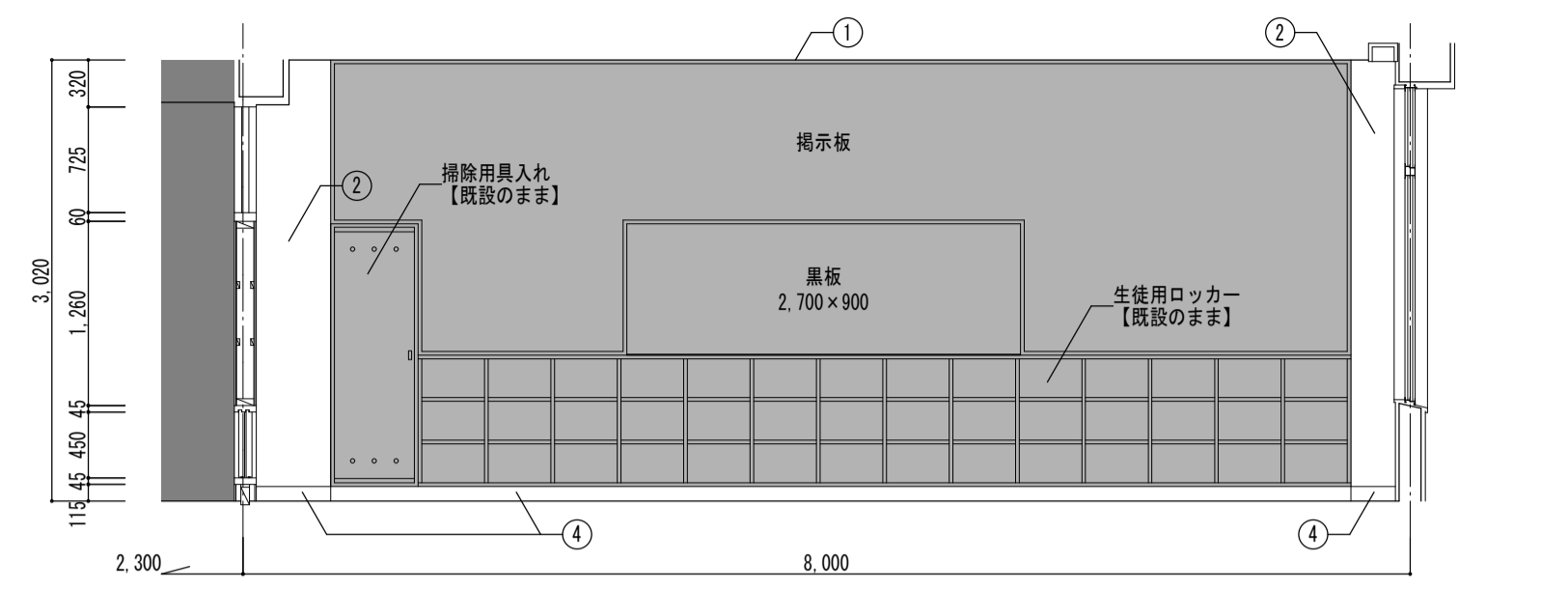
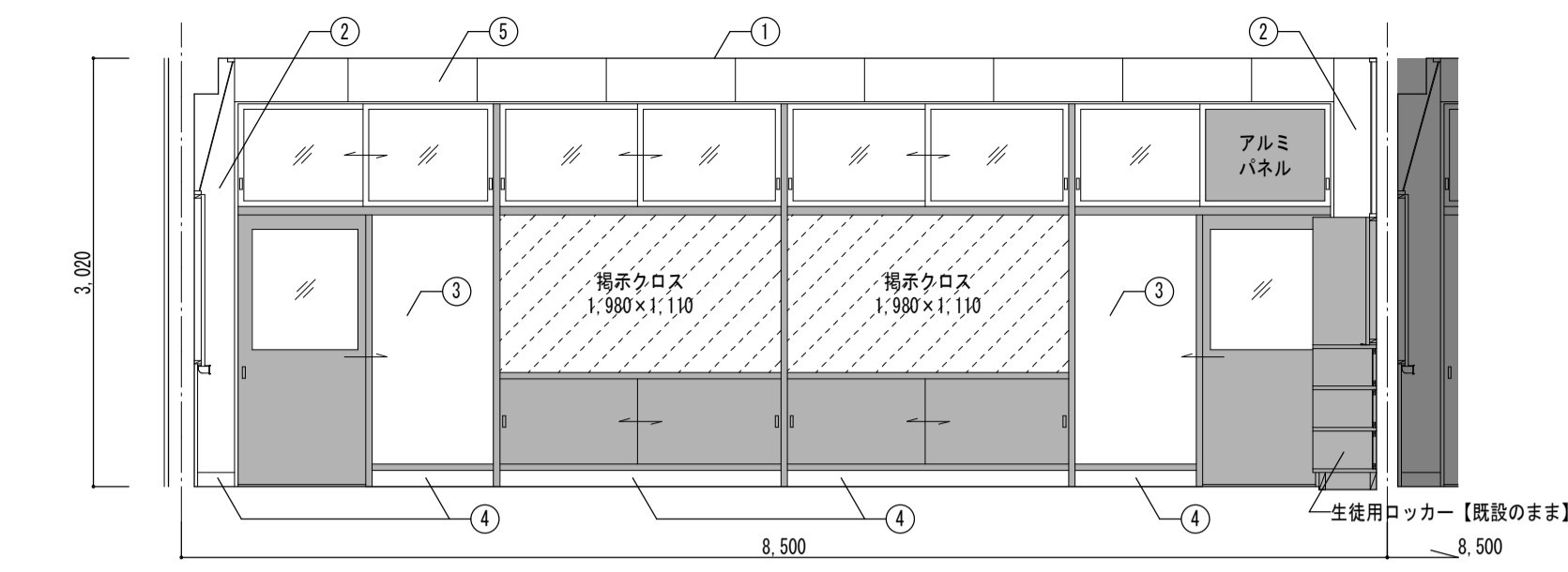


内部仕上表 凡例			
凡例	箇所	改修前	改修後
①	廻縁	木製廻り縁【既設のまま】	—
②	壁	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③	壁	シナ合板t=6目透し張り OP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既設のまま
④	巾木	米ツガ h=115 OP塗装	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】

・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
 ・点線表記の家具等は、【一時取外し】【再取付】とする。
 ・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付随物の養生を行うこと。

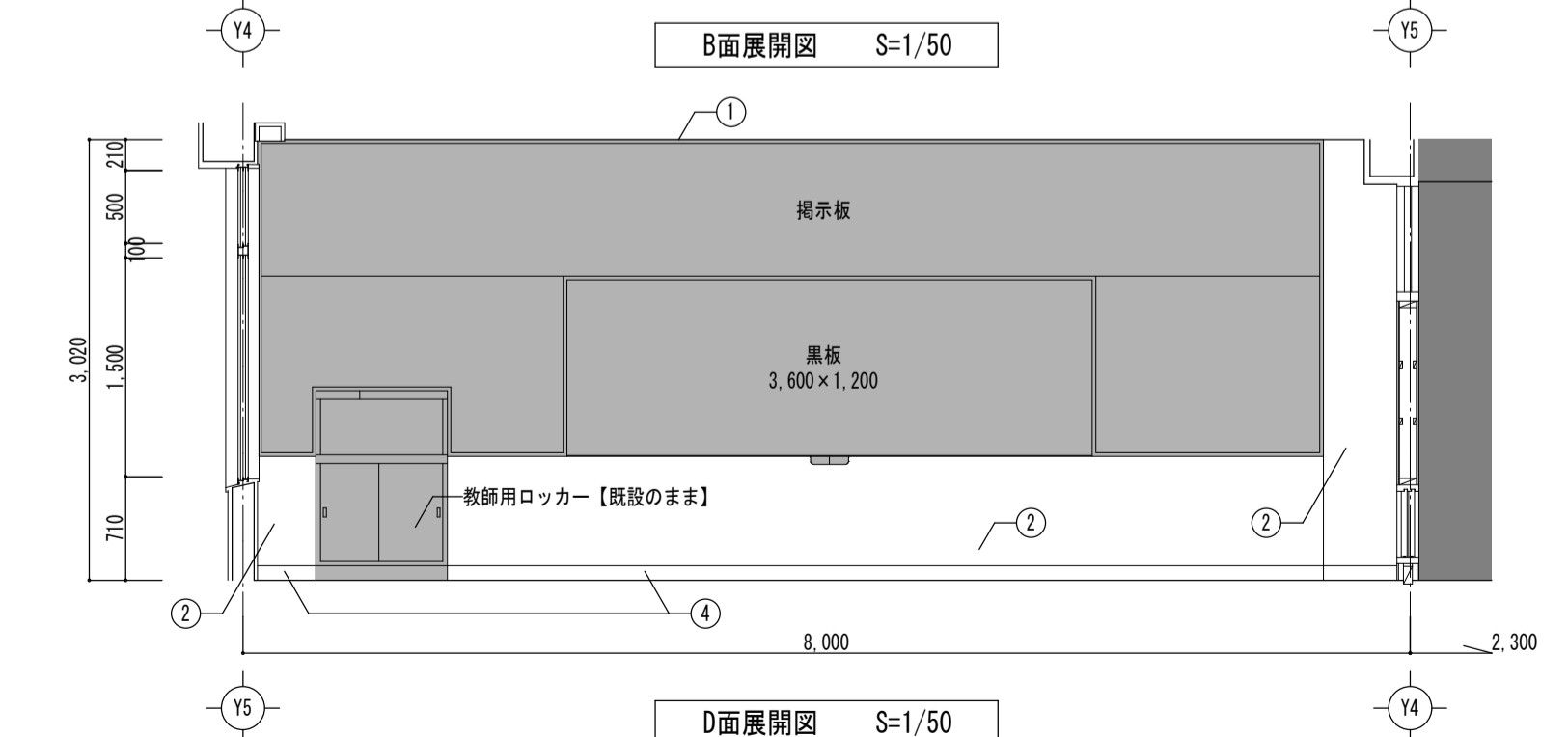
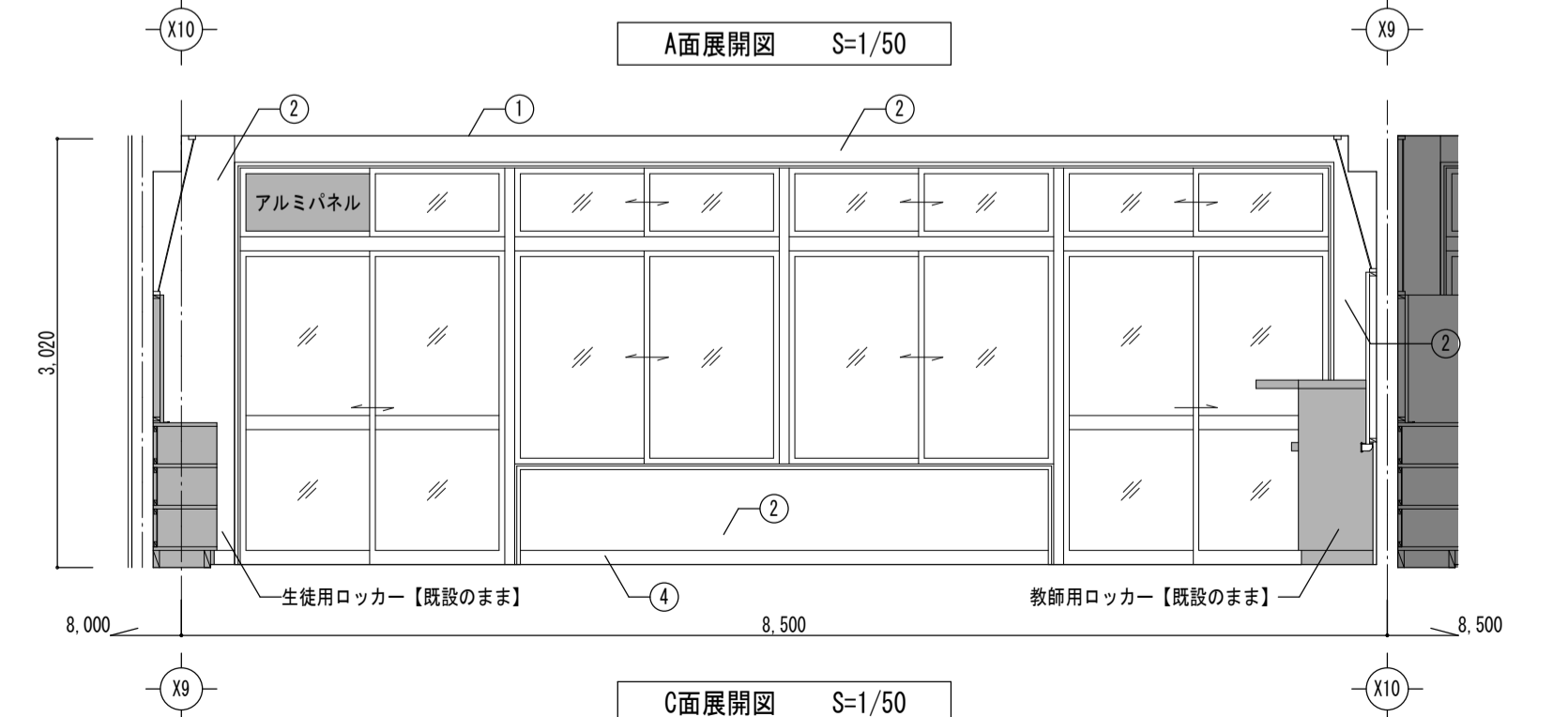
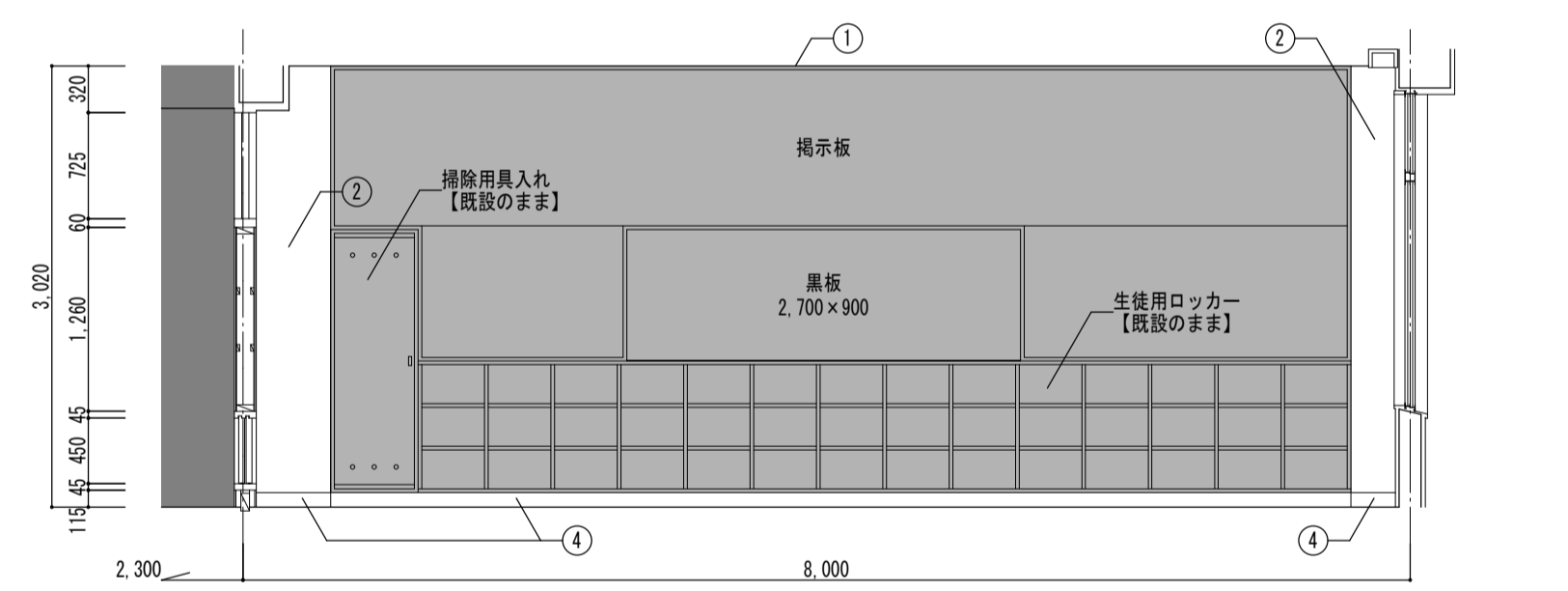
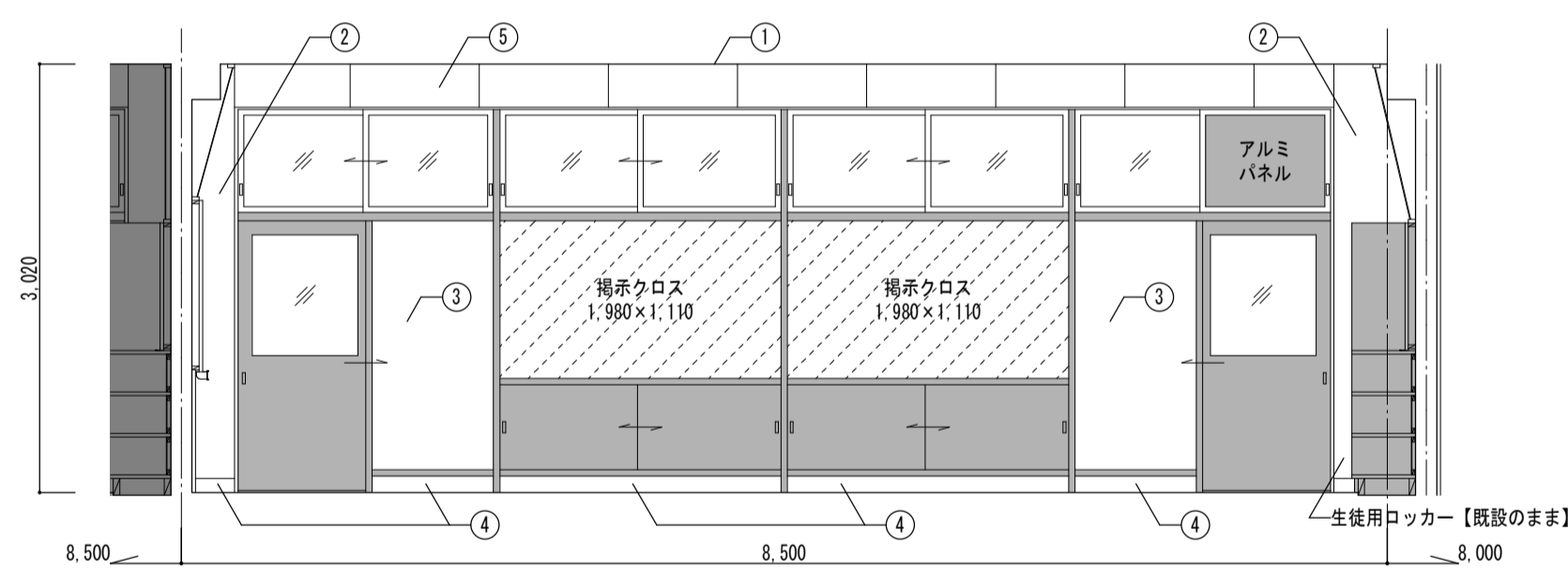
校舎 普通教室棟 1階普通教室① (改修前・後)

内部仕上表 凡例 (改修前)	
① 廻縁	木製廻り縁【既設のまま】
② 壁・柱	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③ 壁	シナ合板t=6目透し張り OP塗装
④ 巾木	米ツガ h=115 OP塗装
⑤ 梁	PB t=9目透し張り(※) EP塗装
内部仕上表 凡例 (改修後)	
① 廻縁	—
② 壁・柱	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③ 壁	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既存のまま
④ 巾木	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】
⑤ 梁	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
掲示クロス張替え箇所を示す 改修対象外を示す 別図参照 建具：建具表参照	



校舎 普通教室棟 1階普通教室② (改修前・後)

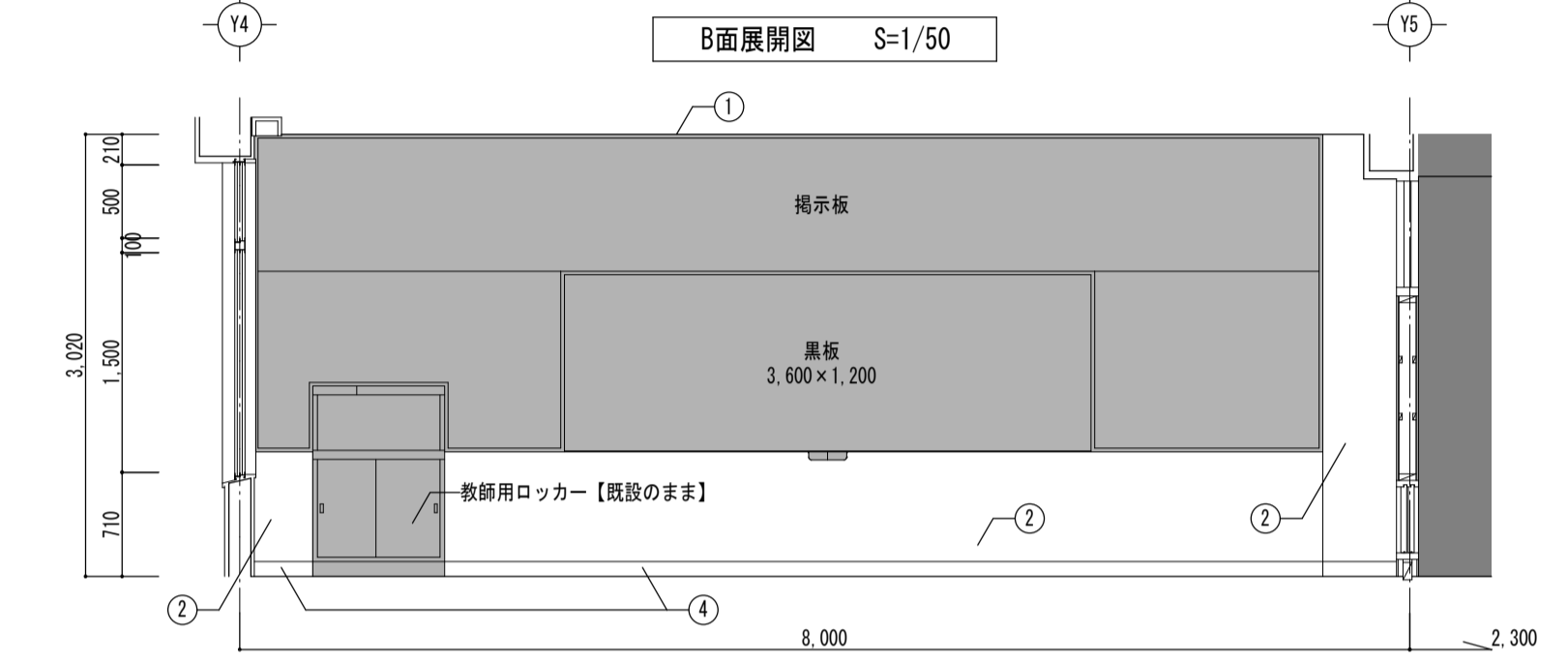
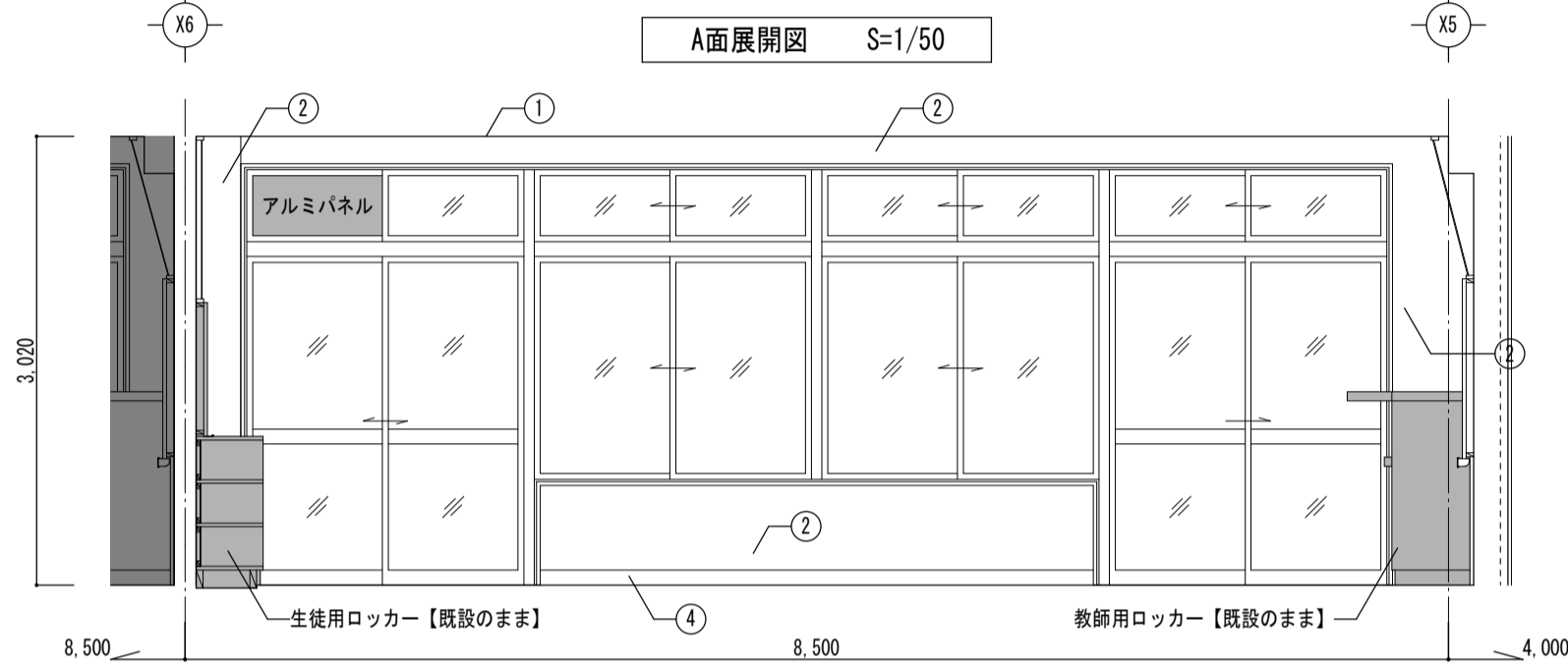
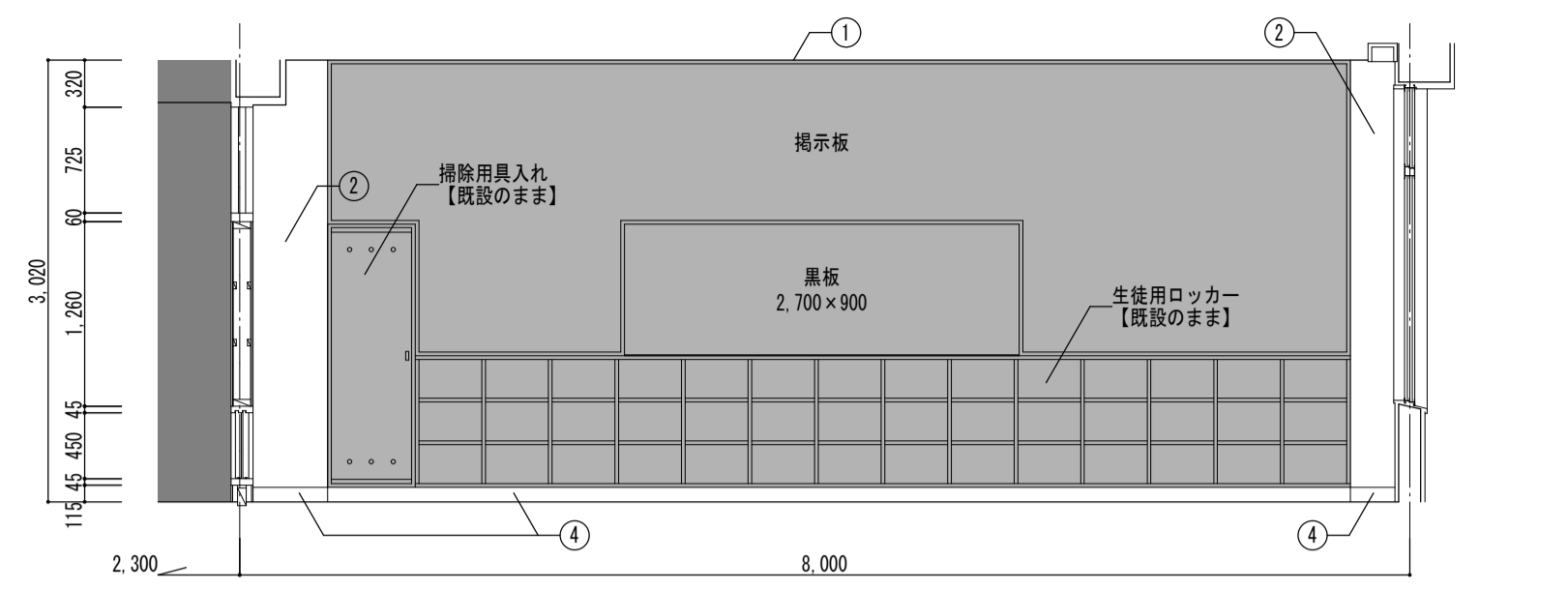
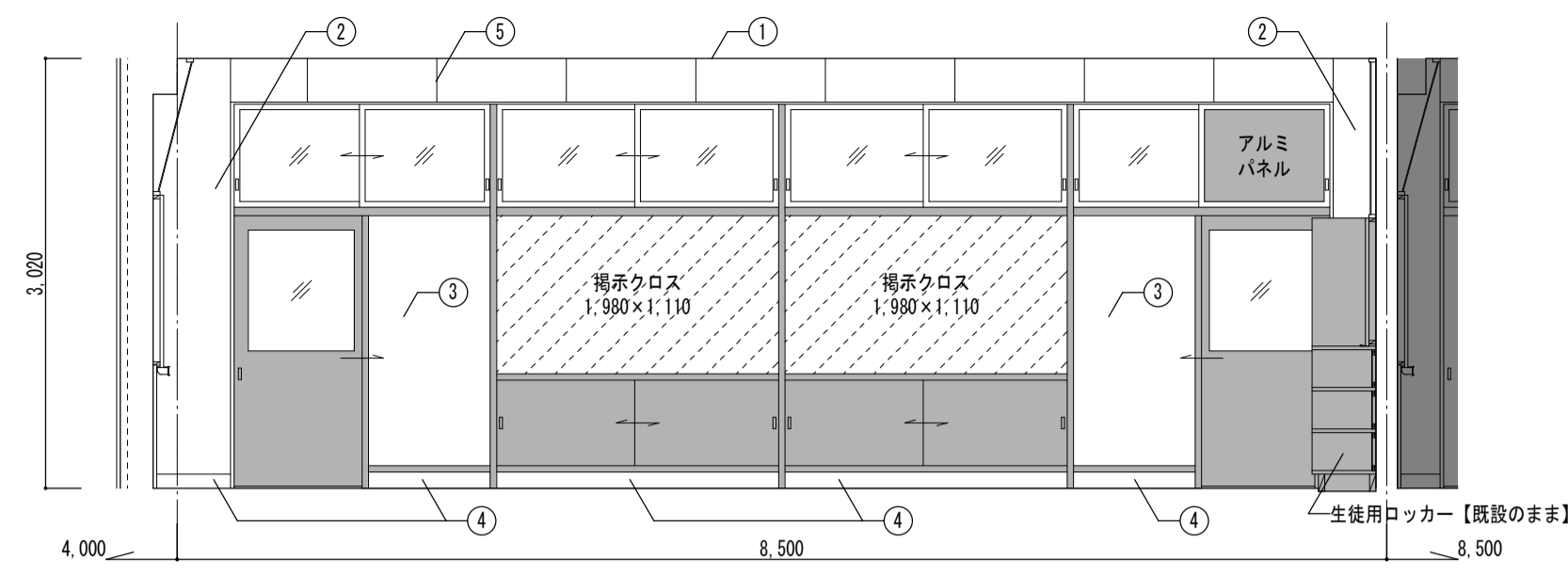
内部仕上表 凡例 (改修前)	
① 廻縁	木製廻り縁【既設のまま】
② 壁・柱	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③ 壁	シナ合板t=6目透し張り OP塗装
④ 巾木	米ツガ h=115 OP塗装
⑤ 梁	PB t=9目透し張り(※) EP塗装
内部仕上表 凡例 (改修後)	
① 廻縁	—
② 壁・柱	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③ 壁	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既存のまま
④ 巾木	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】
⑤ 梁	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
掲示クロス張替え箇所を示す 改修対象外を示す 別図参照 建具：建具表参照	



・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
 ・点線表記の家具等は、【一時的取外し】【再取付】とする。
 ・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付随物の養生を行うこと。

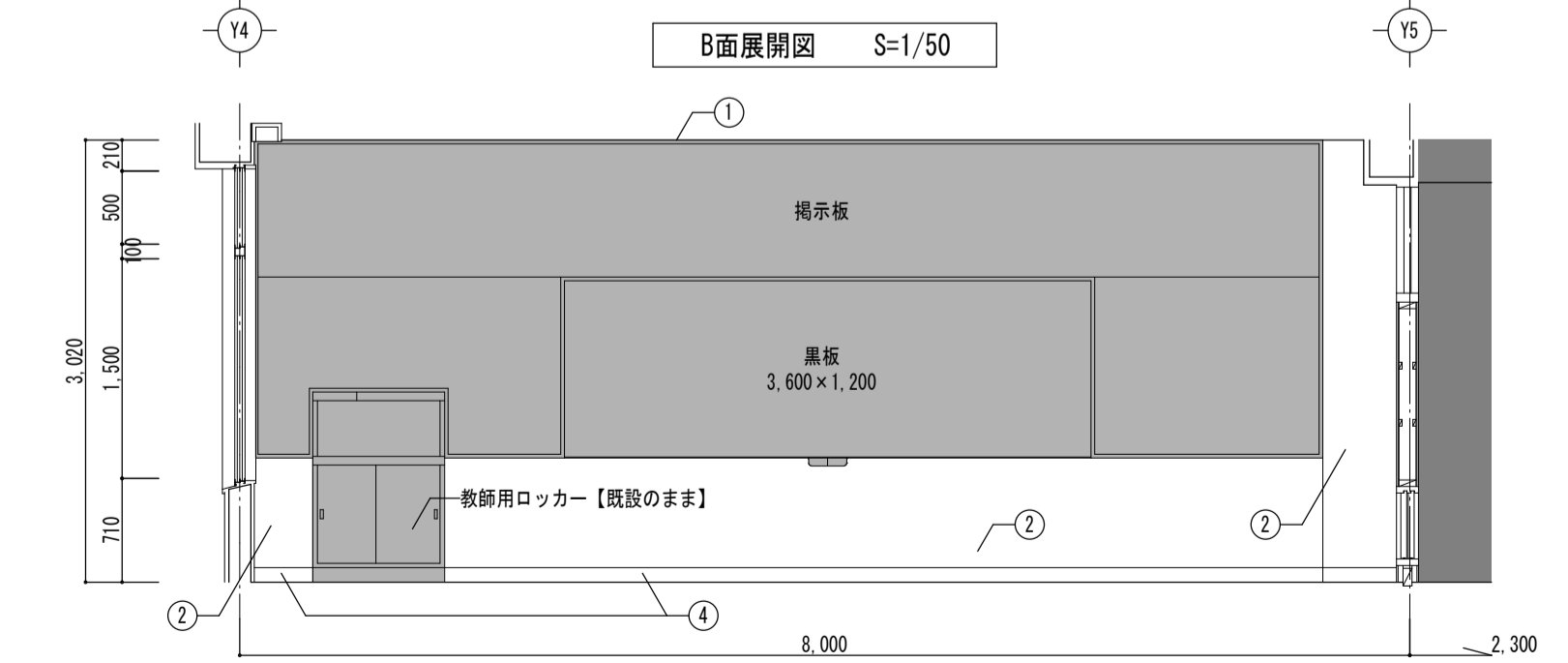
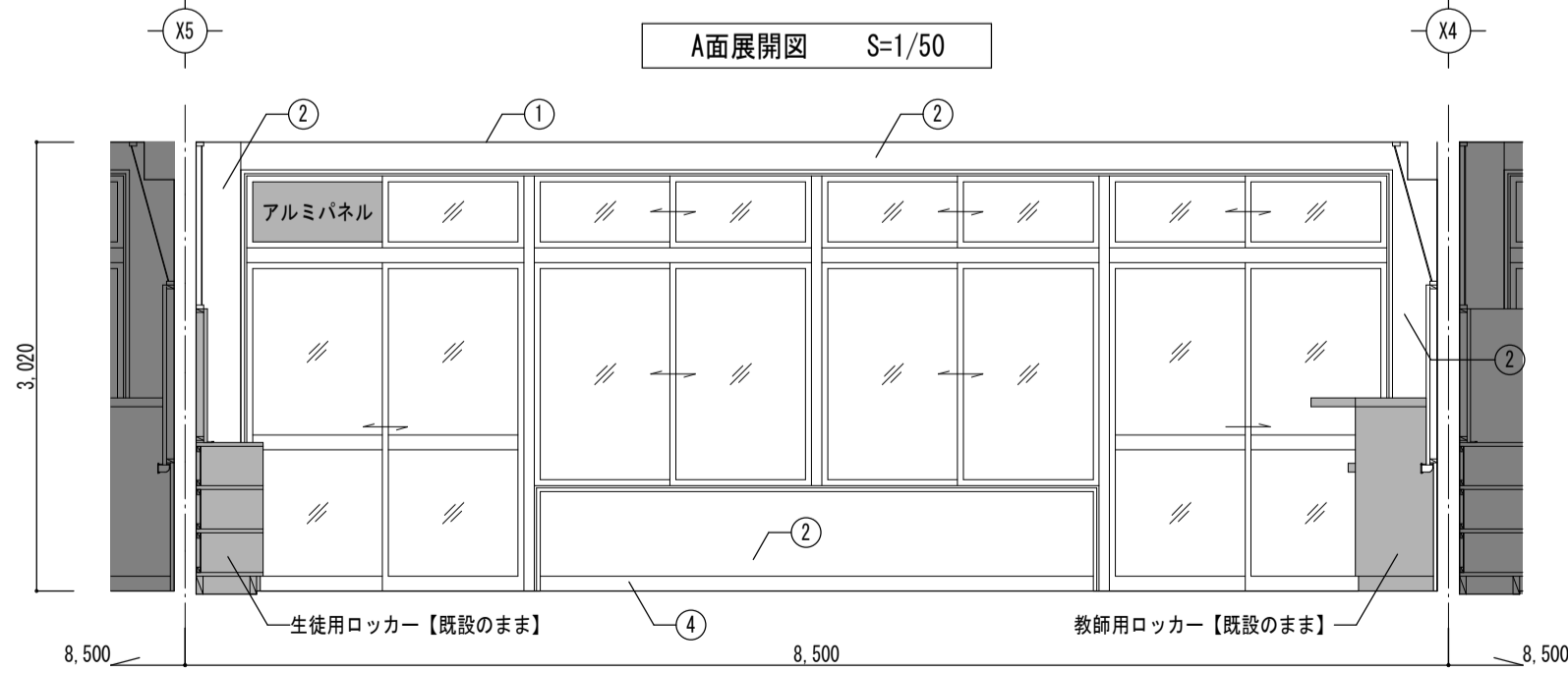
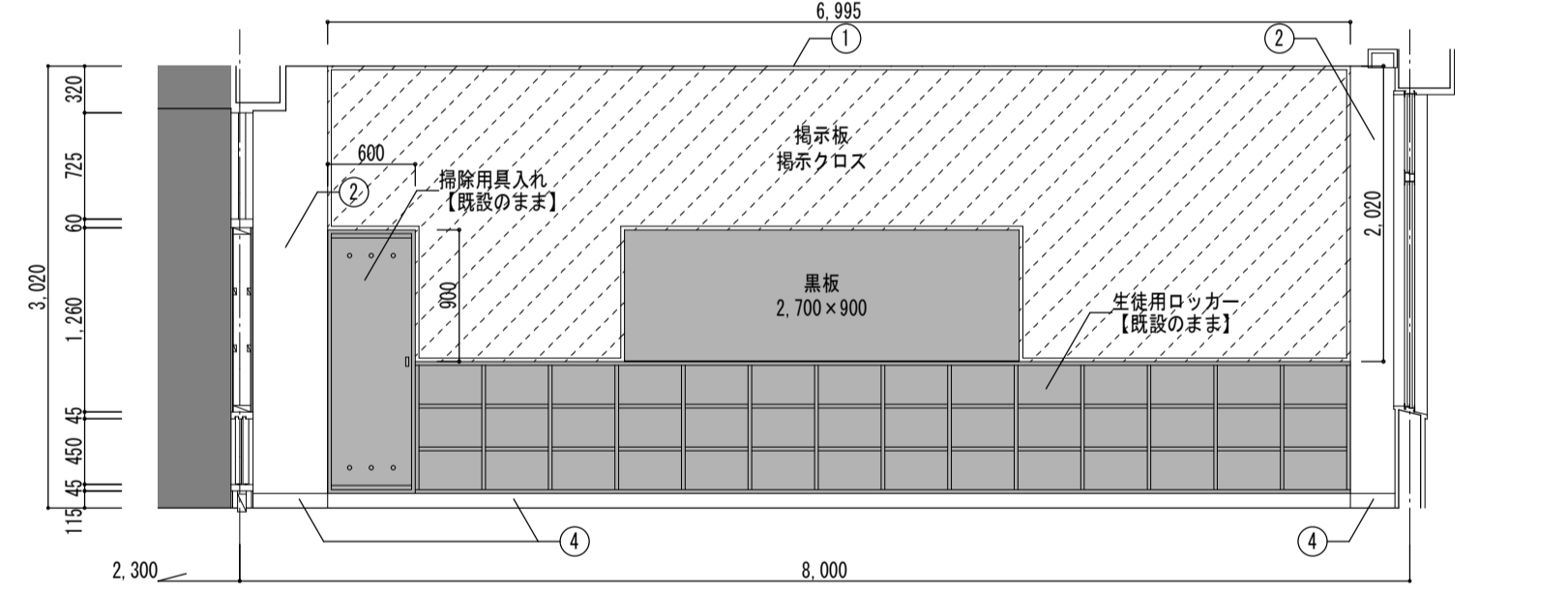
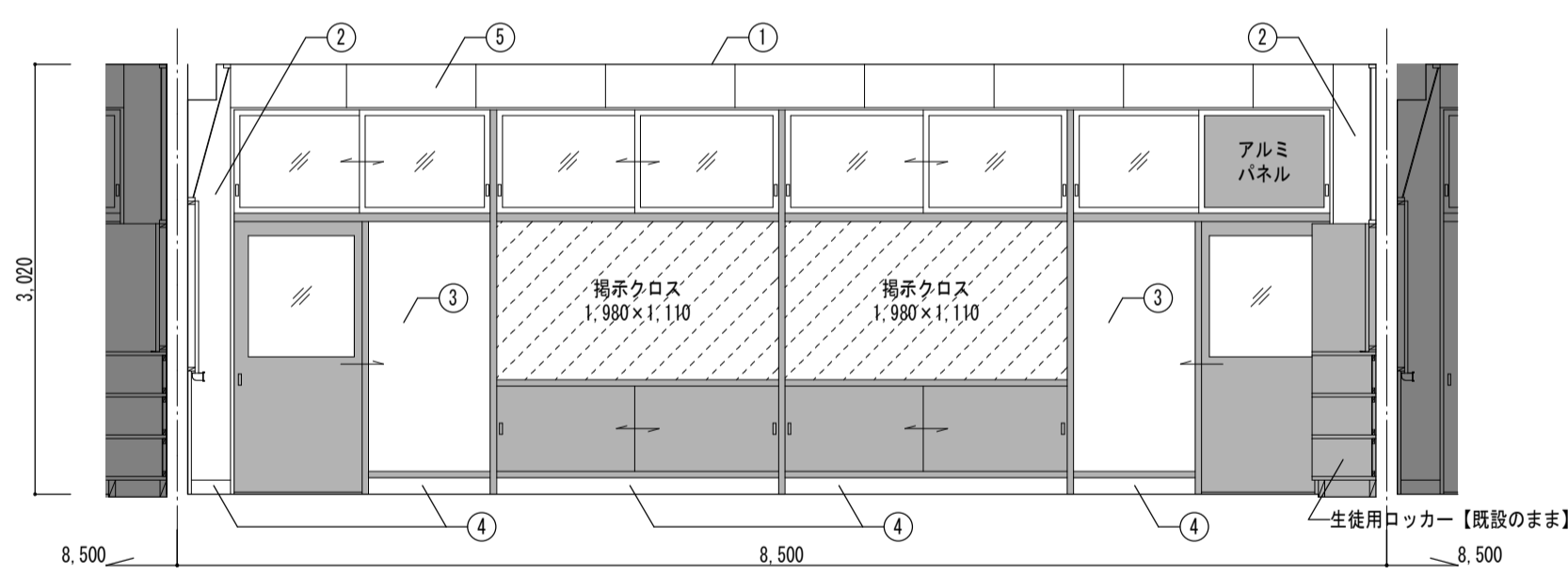
校舎 普通教室棟 1階普通教室③ (改修前・後)

内部仕上表 凡例 (改修前)	
① 廻縁	木製廻り縁【既設のまま】
② 壁・柱	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③ 壁	シナ合板t=6目透し張り OP塗装
④ 巾木	米ツガ h=115 OP塗装
⑤ 梁	PB t=9目透し張り EP塗装
内部仕上表 凡例 (改修後)	
① 廻縁	—
② 壁・柱	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③ 壁	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既存のまま
④ 巾木	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】
⑤ 梁	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
掲示クロス張替え箇所を示す 改修対象外を示す 別図参照 建具：建具表参照	



校舎 普通教室棟 1階普通教室④ (改修前・後)

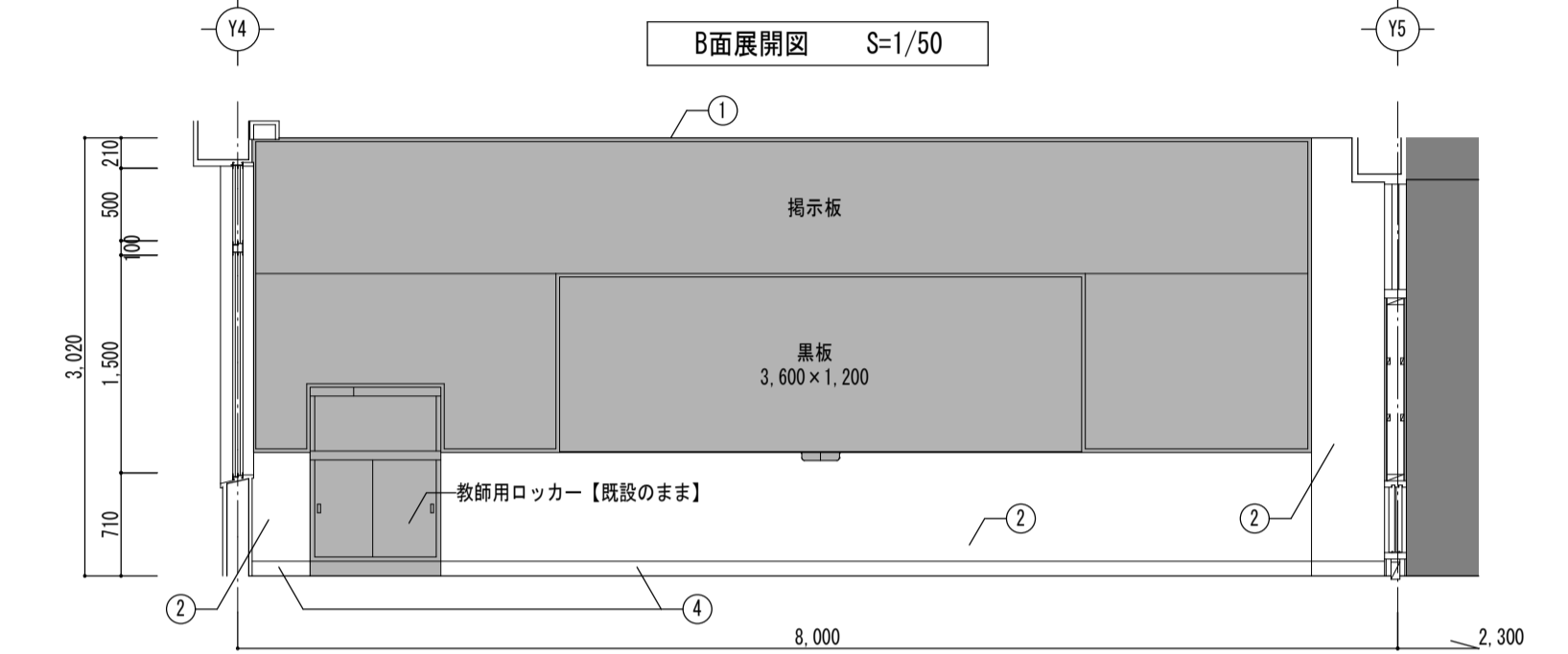
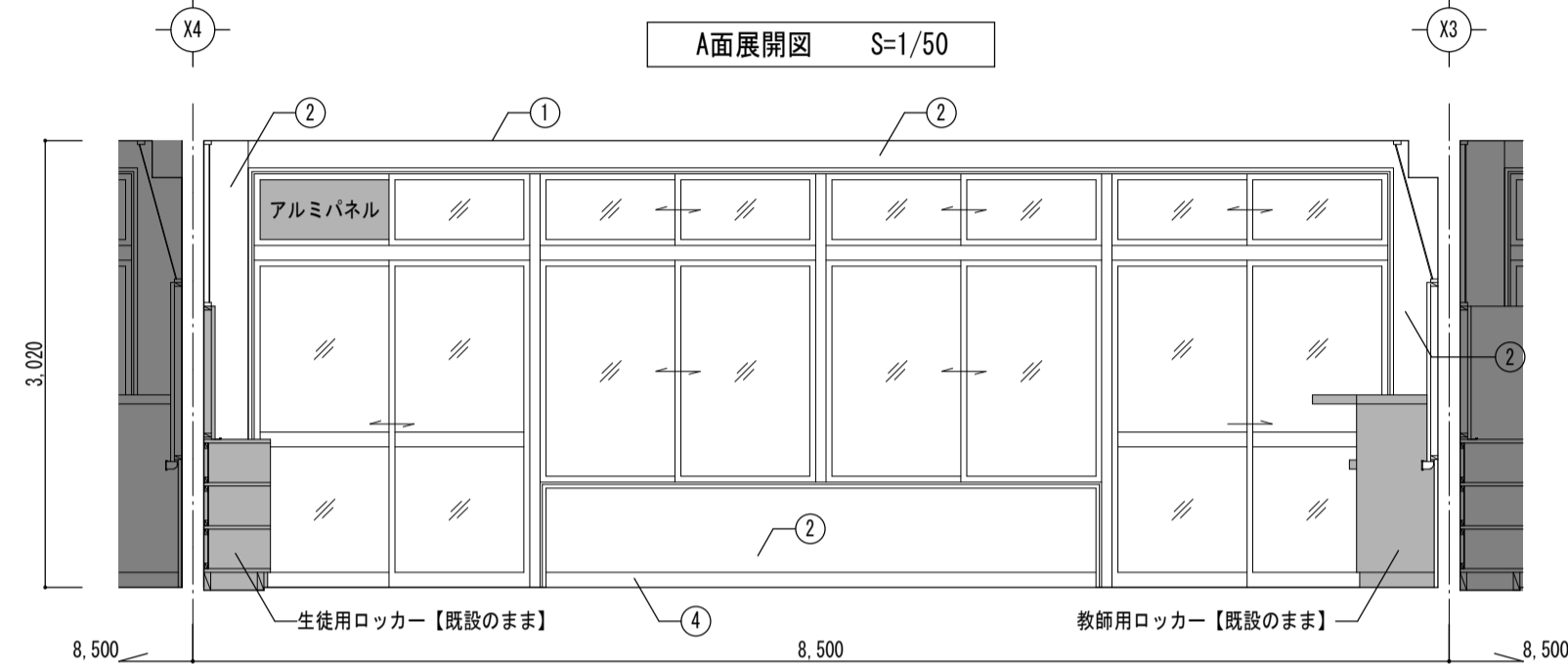
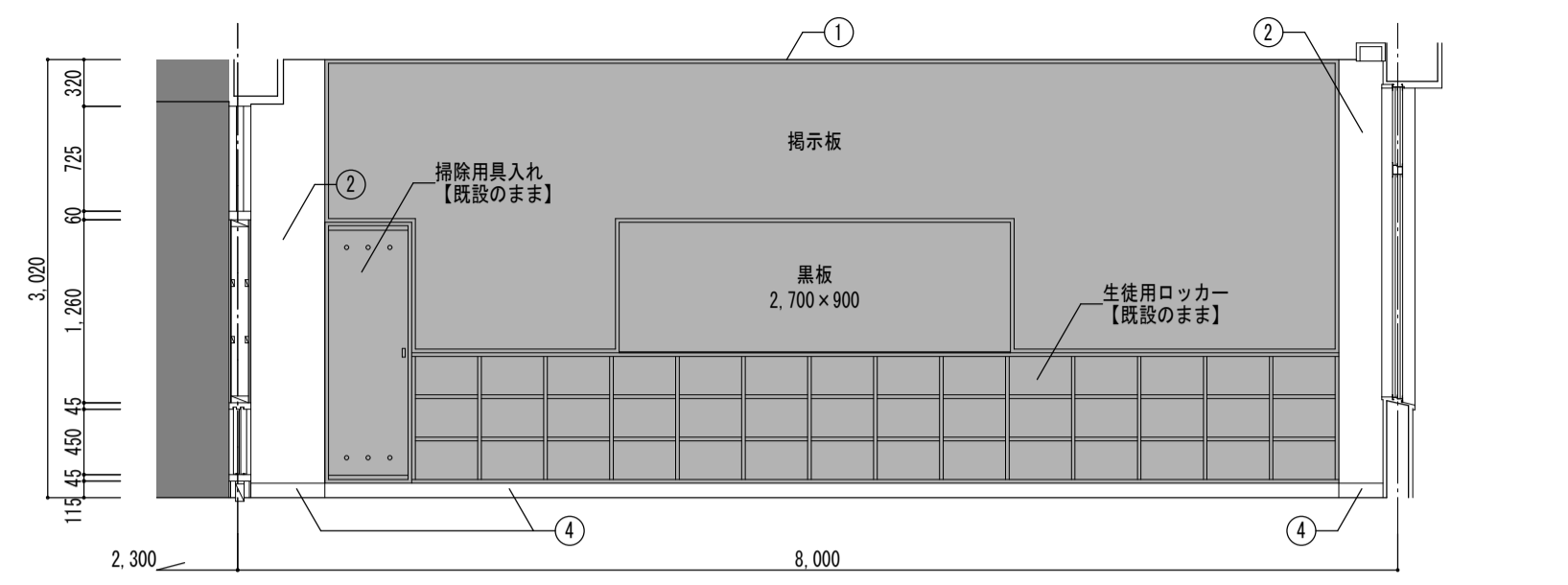
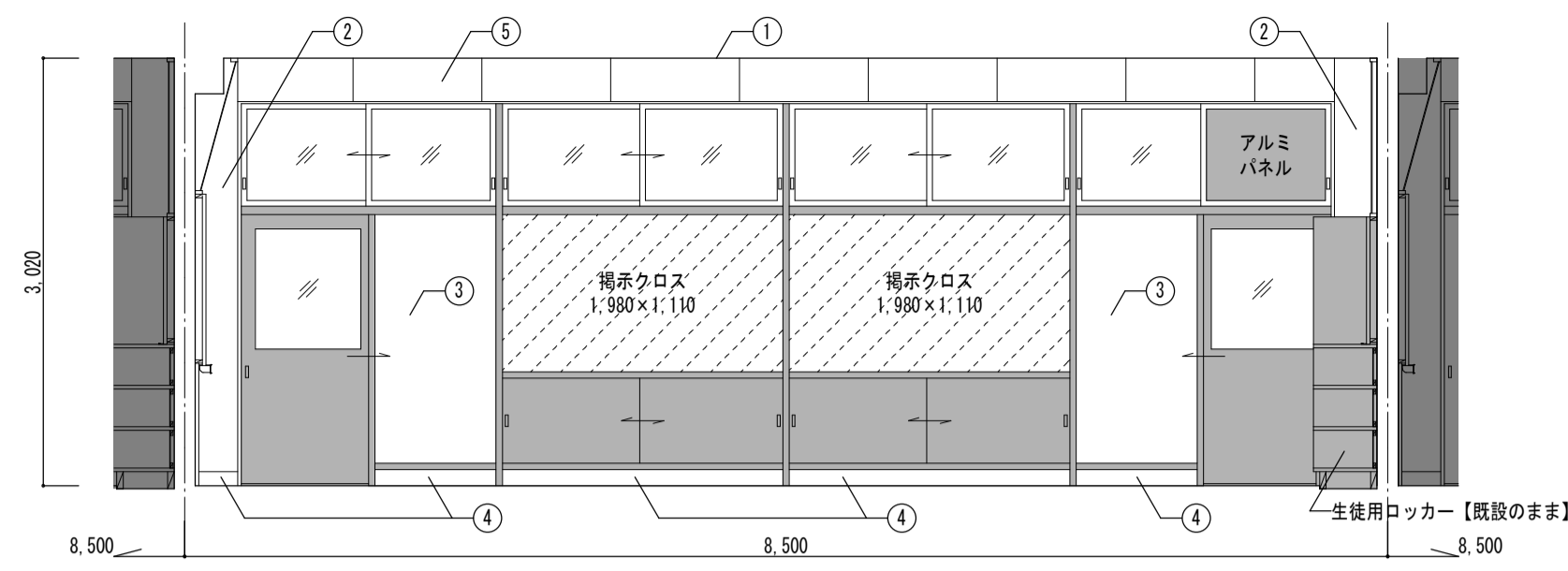
内部仕上表 凡例 (改修前)	
① 廻縁	木製廻り縁【既設のまま】
② 壁・柱	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③ 壁	シナ合板t=6目透し張り OP塗装
④ 巾木	米ツガ h=115 OP塗装
⑤ 梁	PB t=9目透し張り EP塗装
内部仕上表 凡例 (改修後)	
① 廻縁	—
② 壁・柱	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③ 壁	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既存のまま
④ 巾木	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】
⑤ 梁	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
掲示クロス張替え箇所を示す 改修対象外を示す 別図参照 建具：建具表参照	



・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
 ・点検表記の家具等は、(一)取外し、(再取付)とする。
 ・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付随物の養生を行うこと。

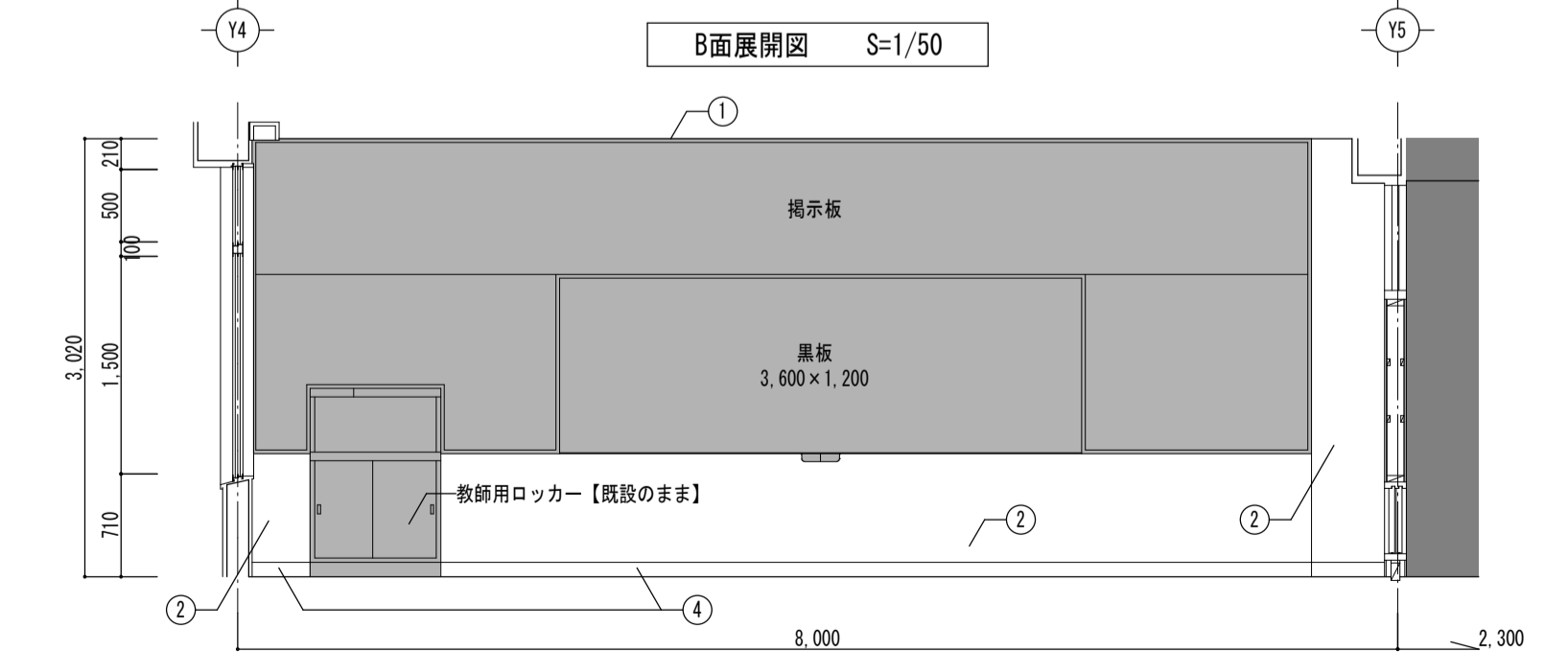
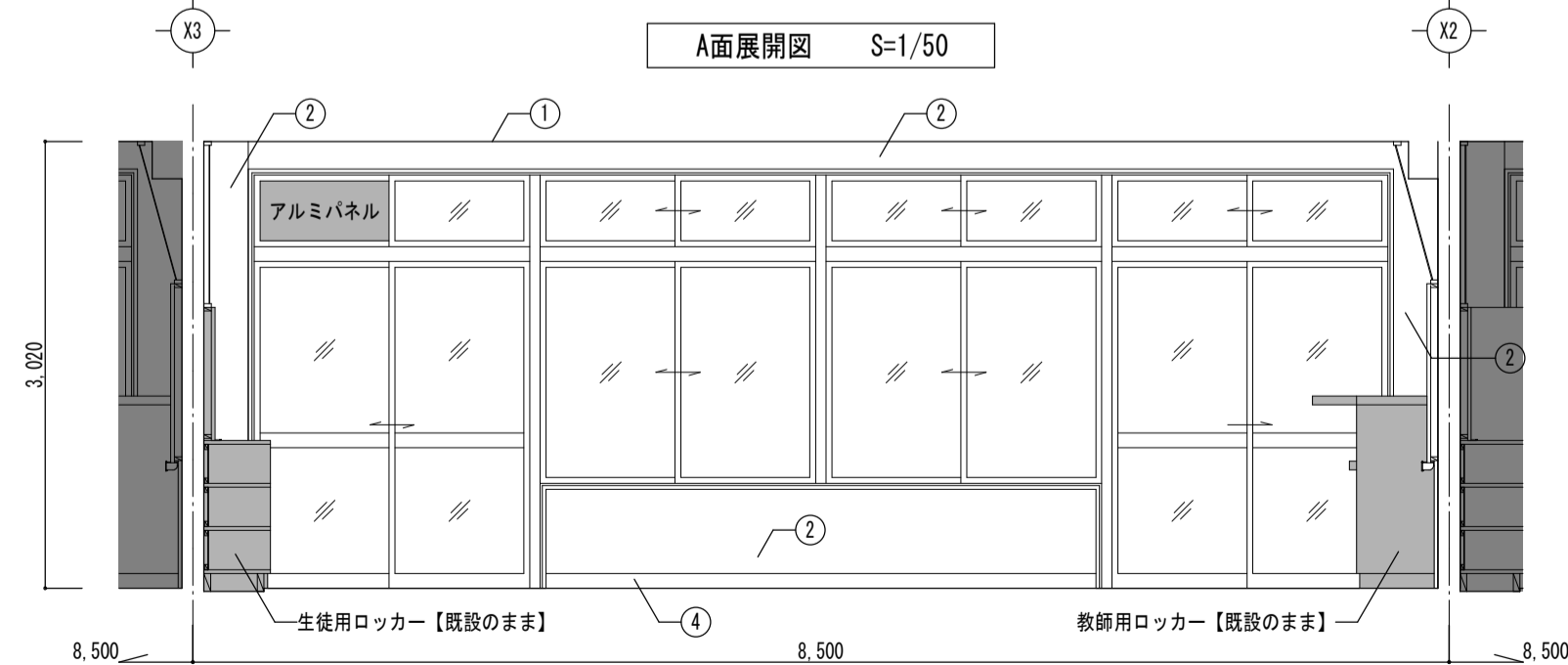
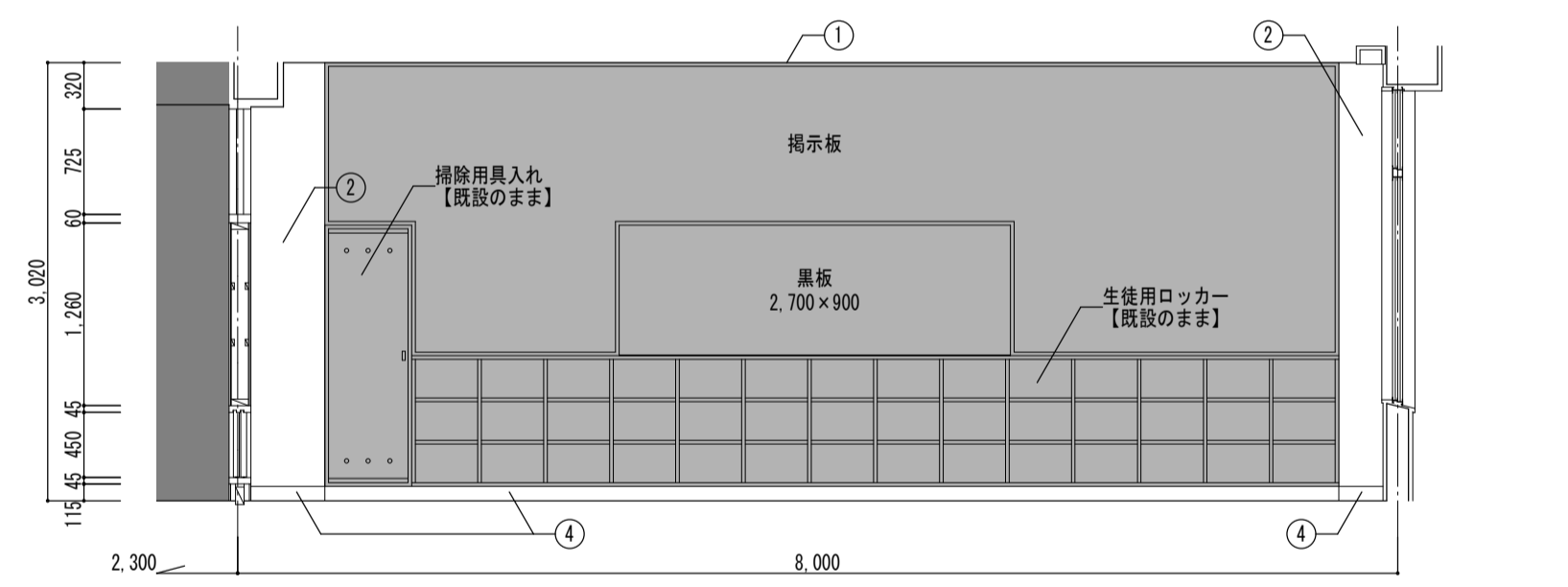
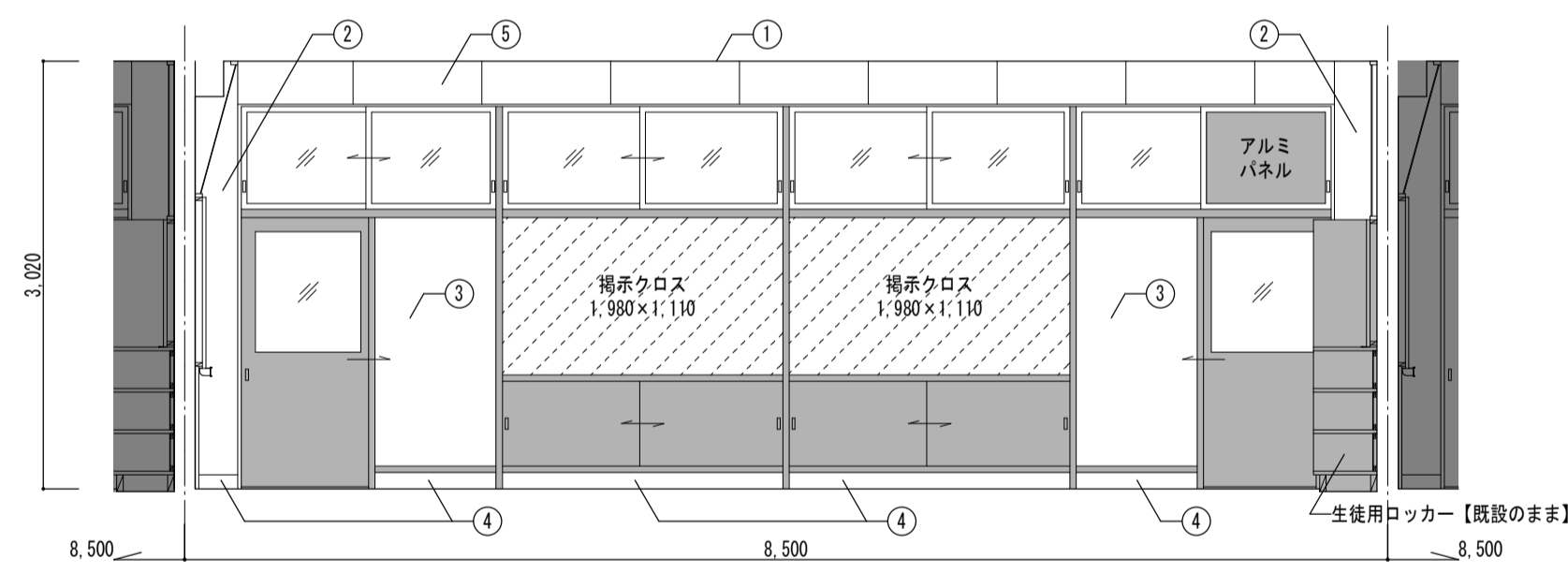
校舎 普通教室棟 1階普通教室⑤ (改修前・後)

内部仕上表 凡例 (改修前)	
①	廻縁 木製廻り縁【既設のまま】
②	壁・柱 コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③	壁 シナ合板t=6目透し張り OP塗装
④	巾木 米ツガ h=115 OP塗装
⑤	梁 PB t=9目透し張り EP塗装
内部仕上表 凡例 (改修後)	
①	廻縁 -
②	壁・柱 【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③	壁 【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既存のまま
④	巾木 【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】
⑤	梁 【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
掲示クロス張替え箇所を示す 改修対象外を示す 別図参照 建具: 建具表参照	



校舎 普通教室棟 1階普通教室⑥ (改修前・後)

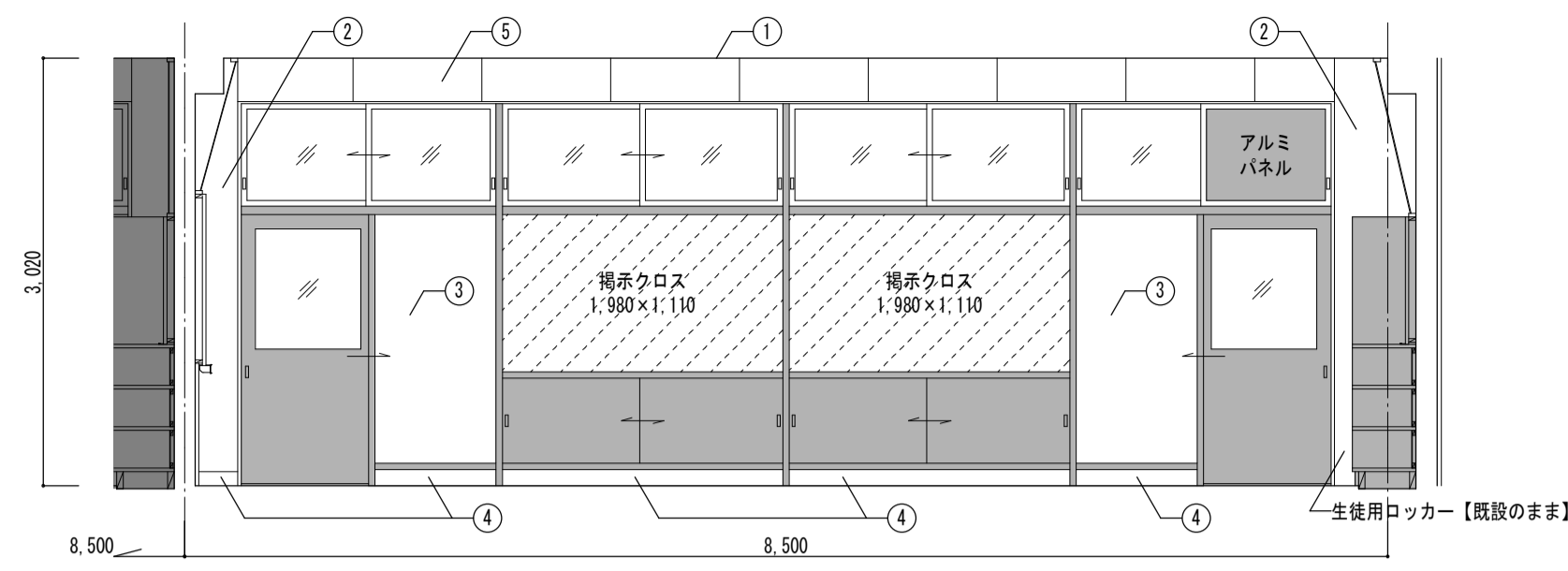
内部仕上表 凡例 (改修前)	
①	廻縁 木製廻り縁【既設のまま】
②	壁・柱 コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③	壁 シナ合板t=6目透し張り OP塗装
④	巾木 米ツガ h=115 OP塗装
⑤	梁 PB t=9目透し張り EP塗装
内部仕上表 凡例 (改修後)	
①	廻縁 -
②	壁・柱 【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③	壁 【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既存のまま
④	巾木 【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】
⑤	梁 【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
掲示クロス張替え箇所を示す 改修対象外を示す 別図参照 建具: 建具表参照	



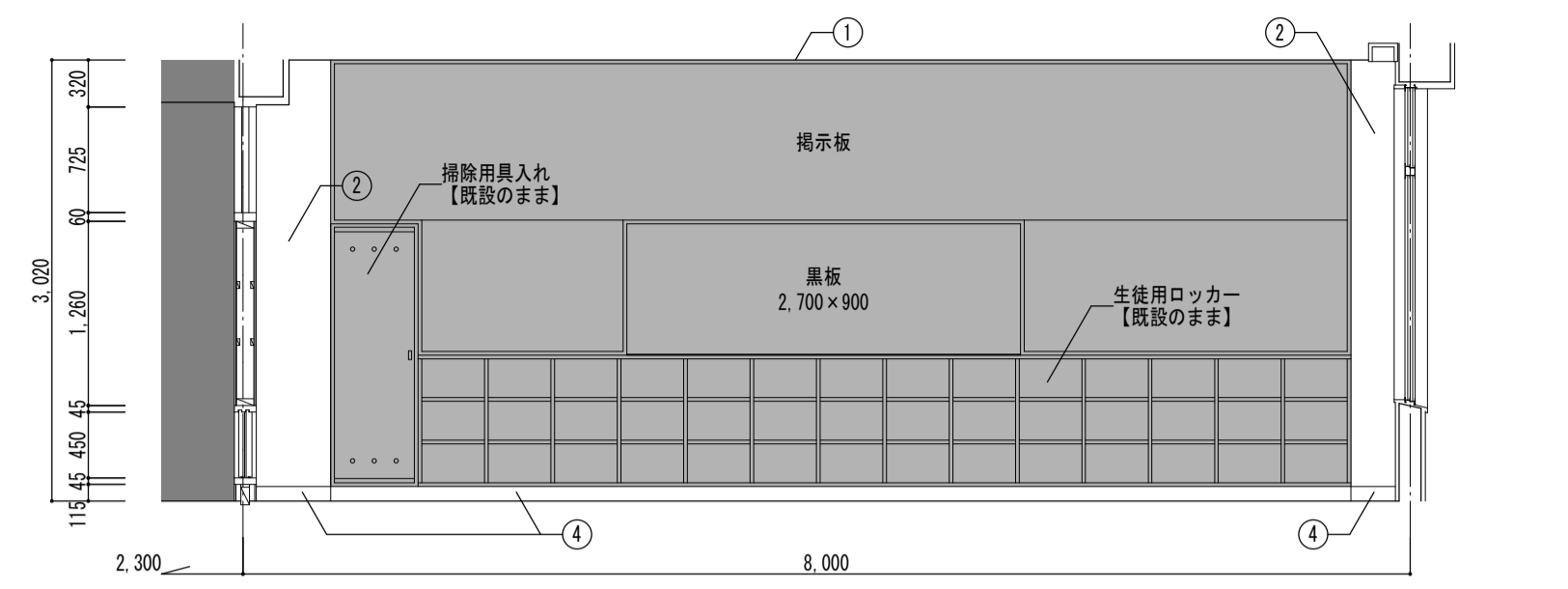
・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
 ・点線表記の家具等は、【一時的取外し】【再取付】とする。
 ・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付随物の養生を行うこと。

校舎 普通教室棟 1階普通教室⑦ (改修前・後)

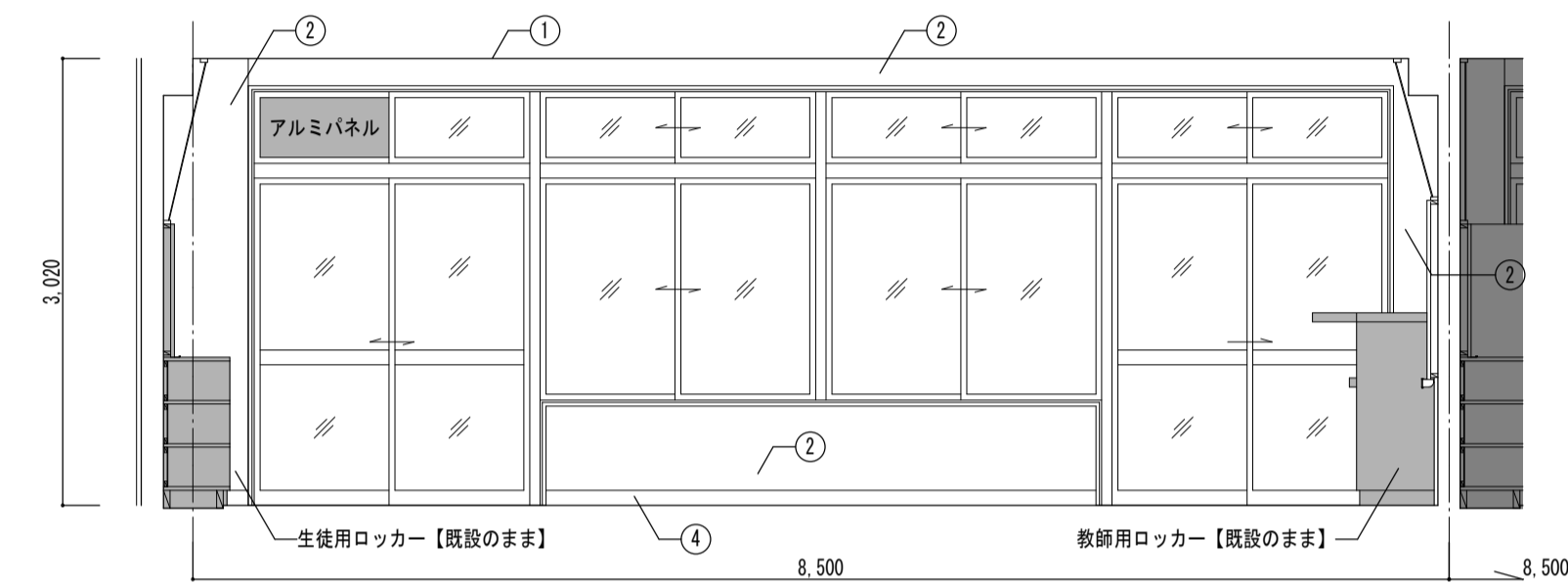
内部仕上表 凡例 (改修前)	
① 廻縁	木製廻り縁【既設のまま】
② 壁・柱	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③ 壁	シナ合板t=6目透し張り OP塗装
④ 巾木	米ツガ h=115 OP塗装
⑤ 梁	PB t=9目透し張り EP塗装
内部仕上表 凡例 (改修後)	
① 廻縁	—
② 壁・柱	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③ 壁	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既存のまま
④ 巾木	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】
⑤ 梁	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
掲示クロス張替え箇所を示す 改修対象外を示す 別図参照 建具：建具表参照	



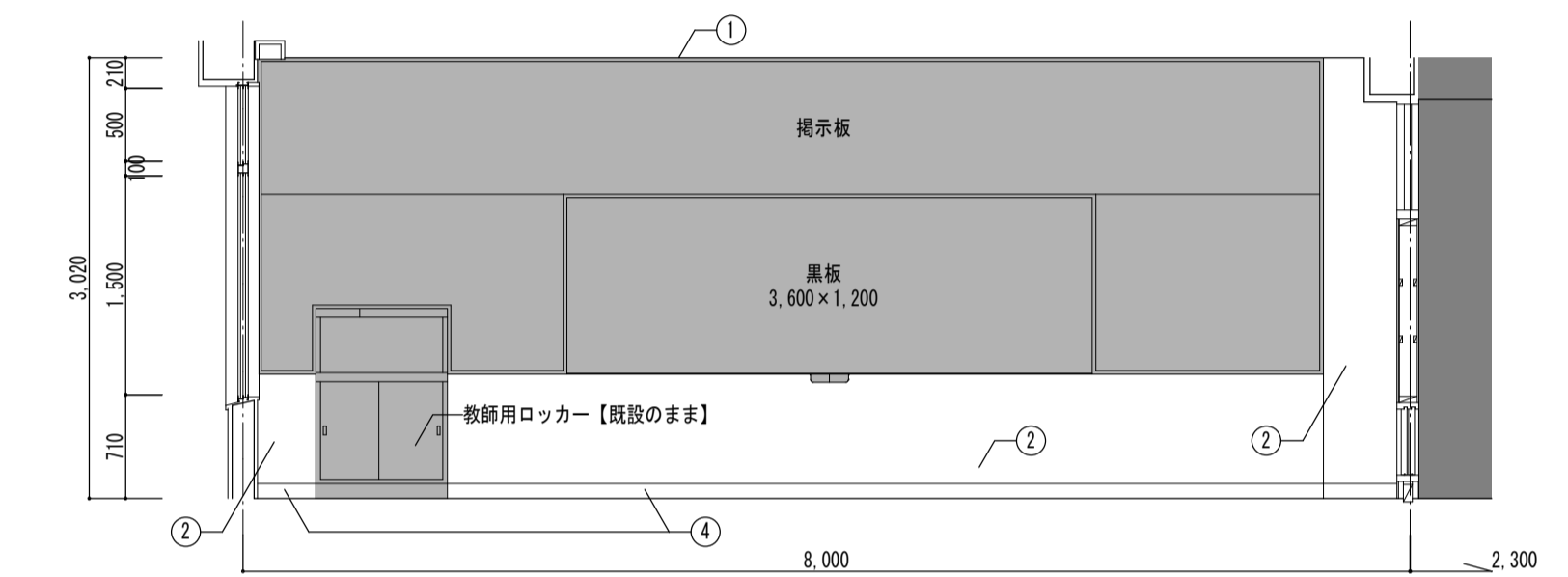
A面展開図 S=1/50



B面展開図 S=1/50



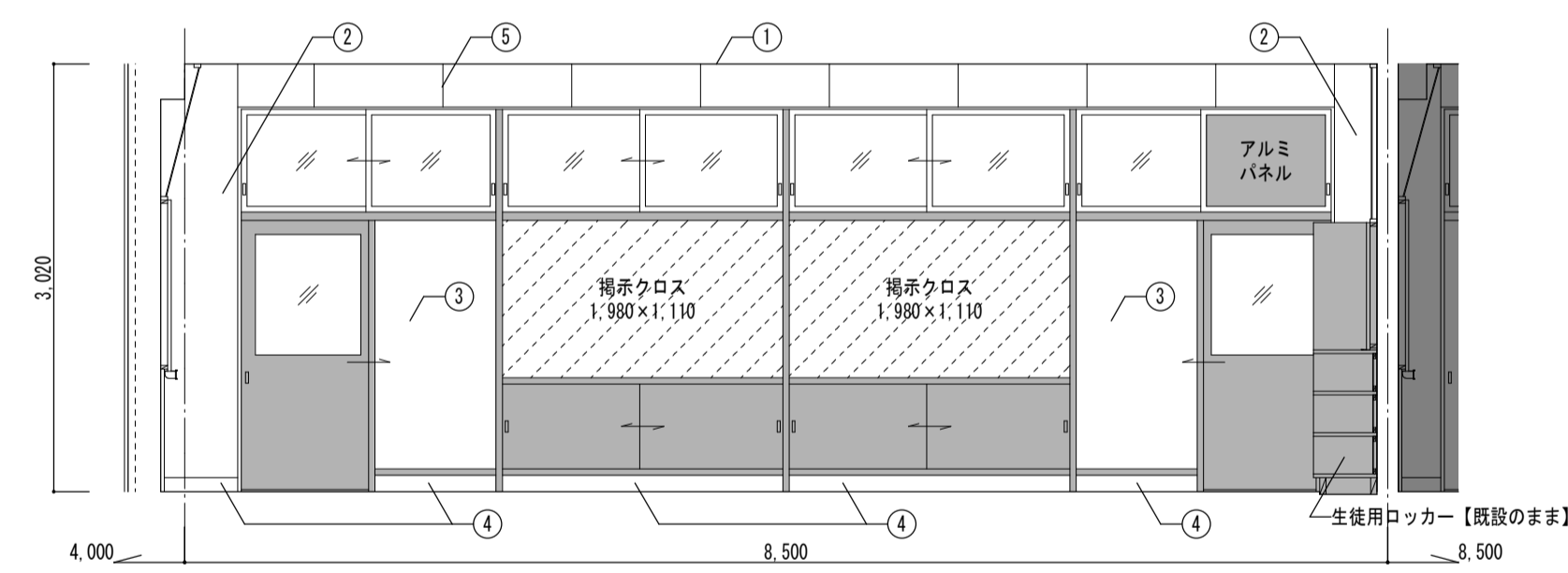
C面展開図 S=1/50



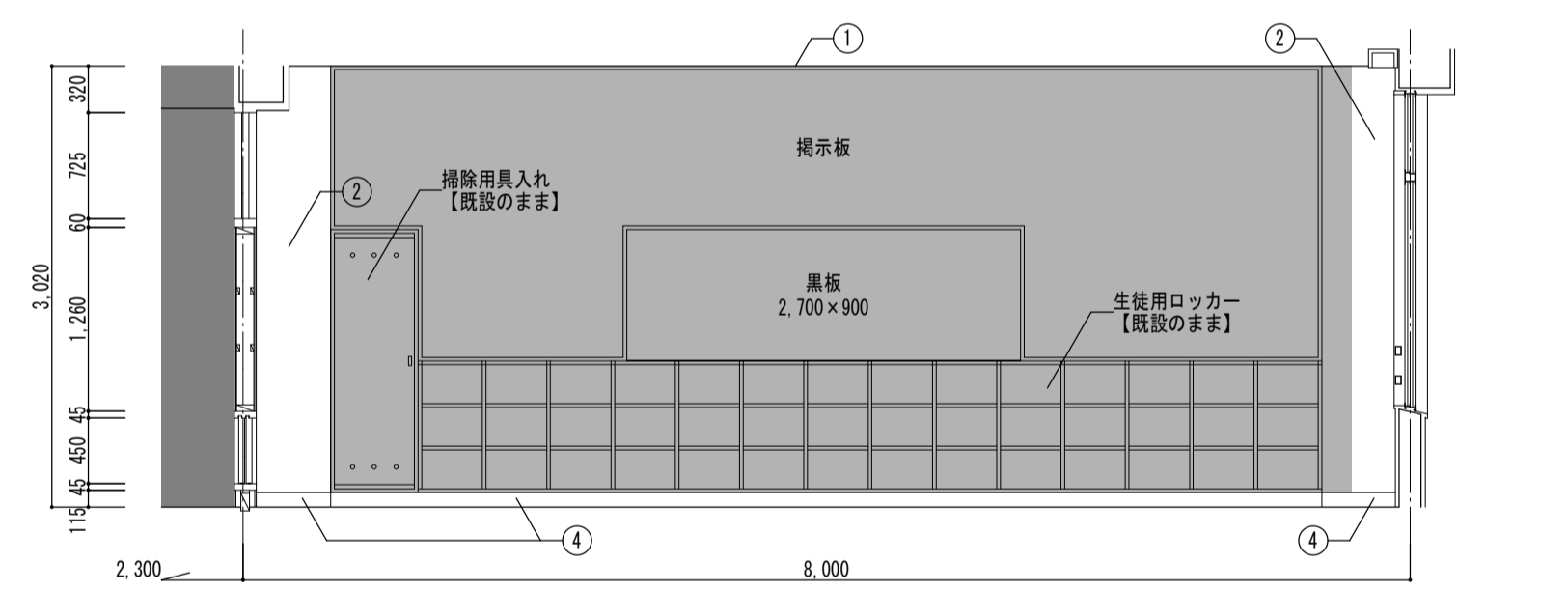
D面展開図 S=1/50

校舎 普通教室棟 2階普通教室⑧ (改修前・後)

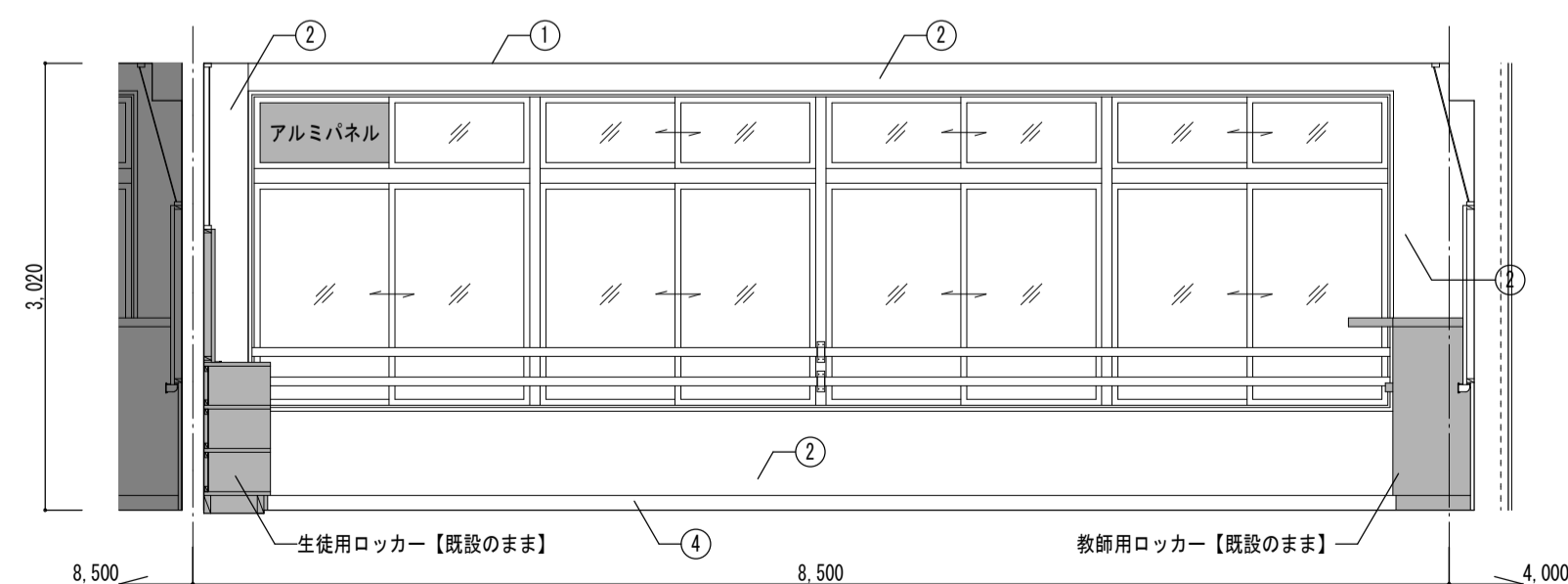
内部仕上表 凡例 (改修前)	
① 廻縁	木製廻り縁【既設のまま】
② 壁・柱	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③ 壁	シナ合板t=6目透し張り OP塗装
④ 巾木	米ツガ h=115 OP塗装
⑤ 梁	PB t=9目透し張り EP塗装
内部仕上表 凡例 (改修後)	
① 廻縁	—
② 壁・柱	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③ 壁	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既存のまま
④ 巾木	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】
⑤ 梁	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
掲示クロス張替え箇所を示す 改修対象外を示す 別図参照 建具：建具表参照	



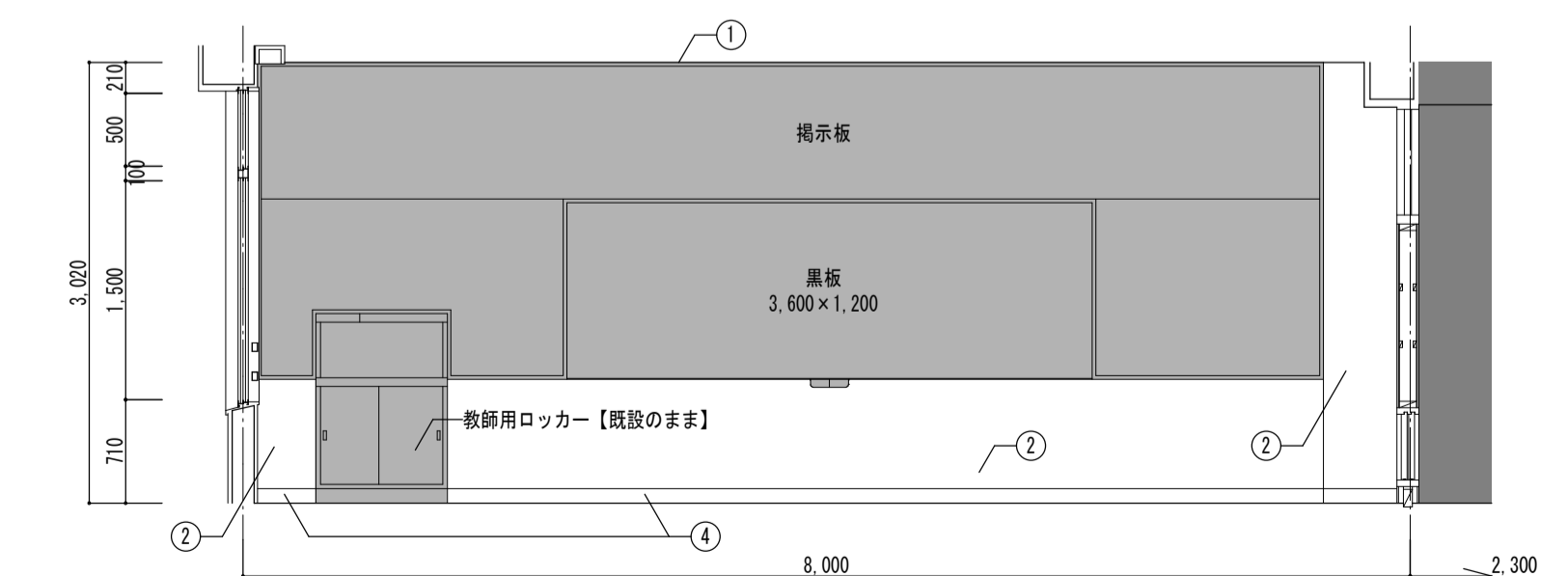
A面展開図 S=1/50



B面展開図 S=1/50



C面展開図 S=1/50

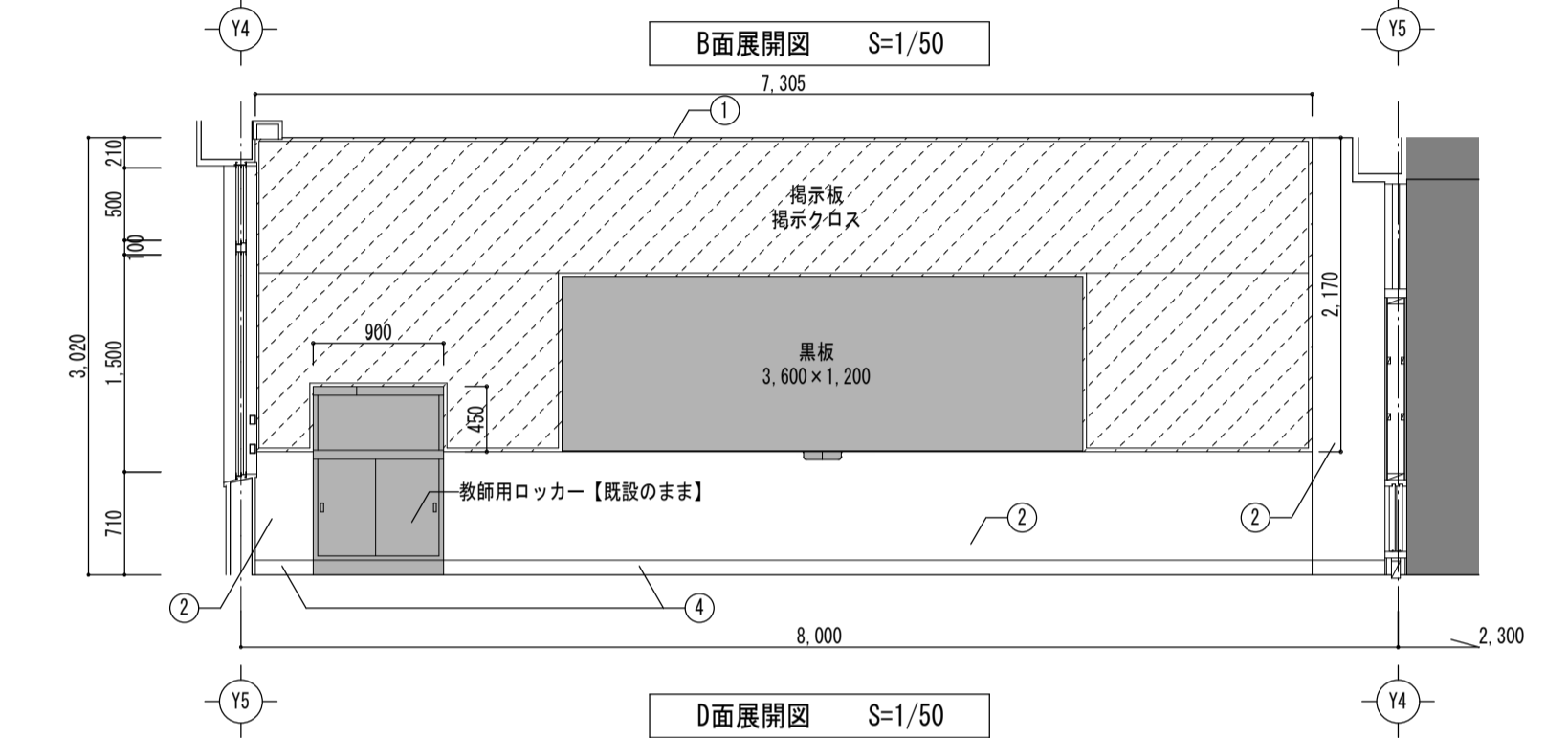
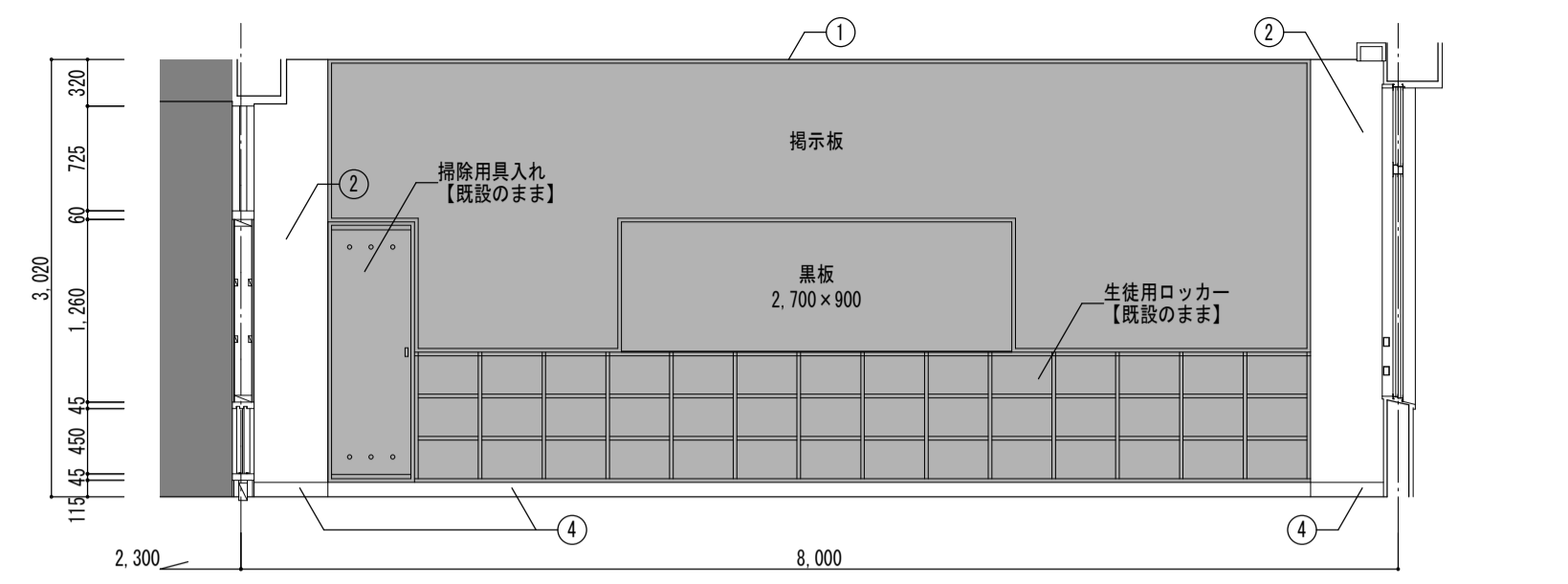
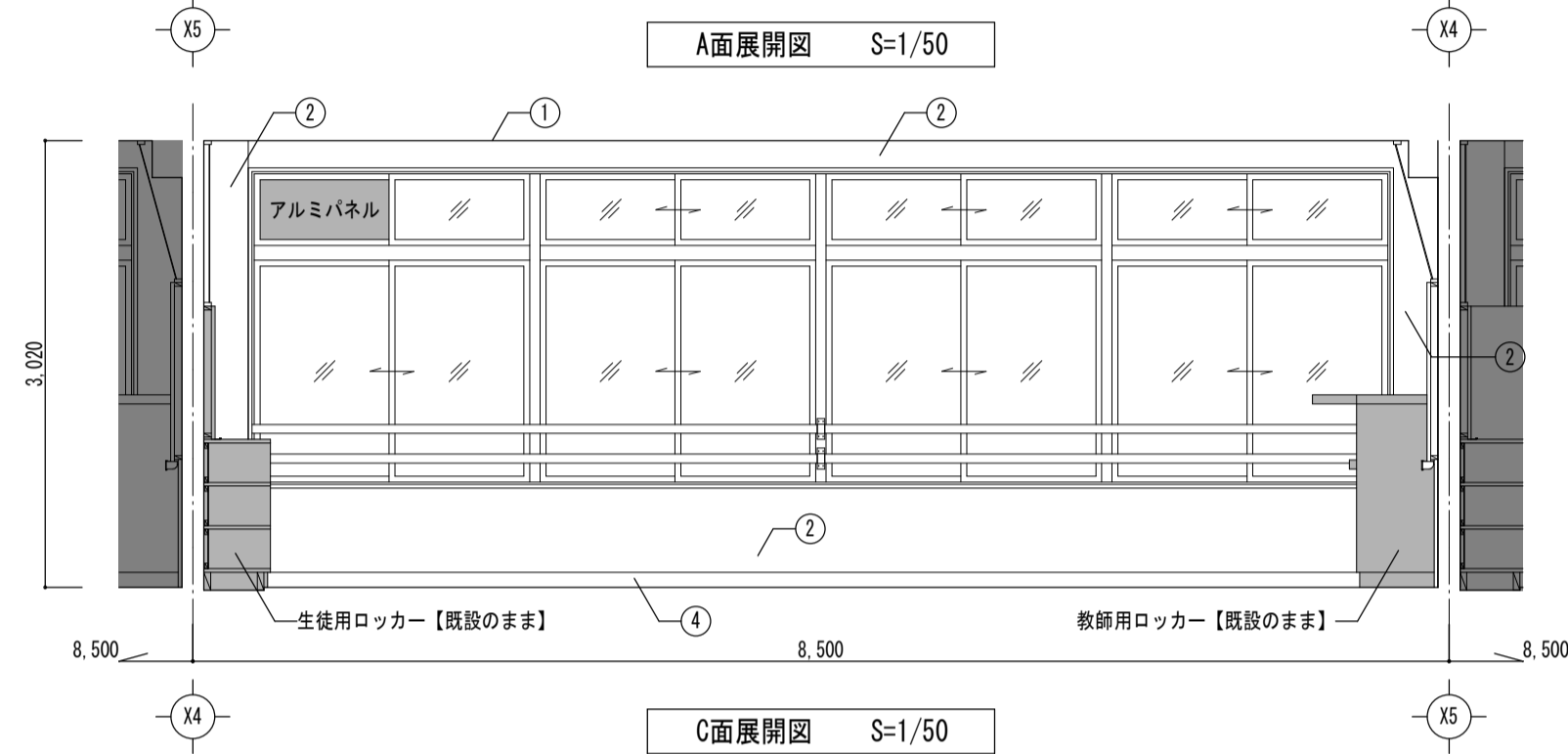
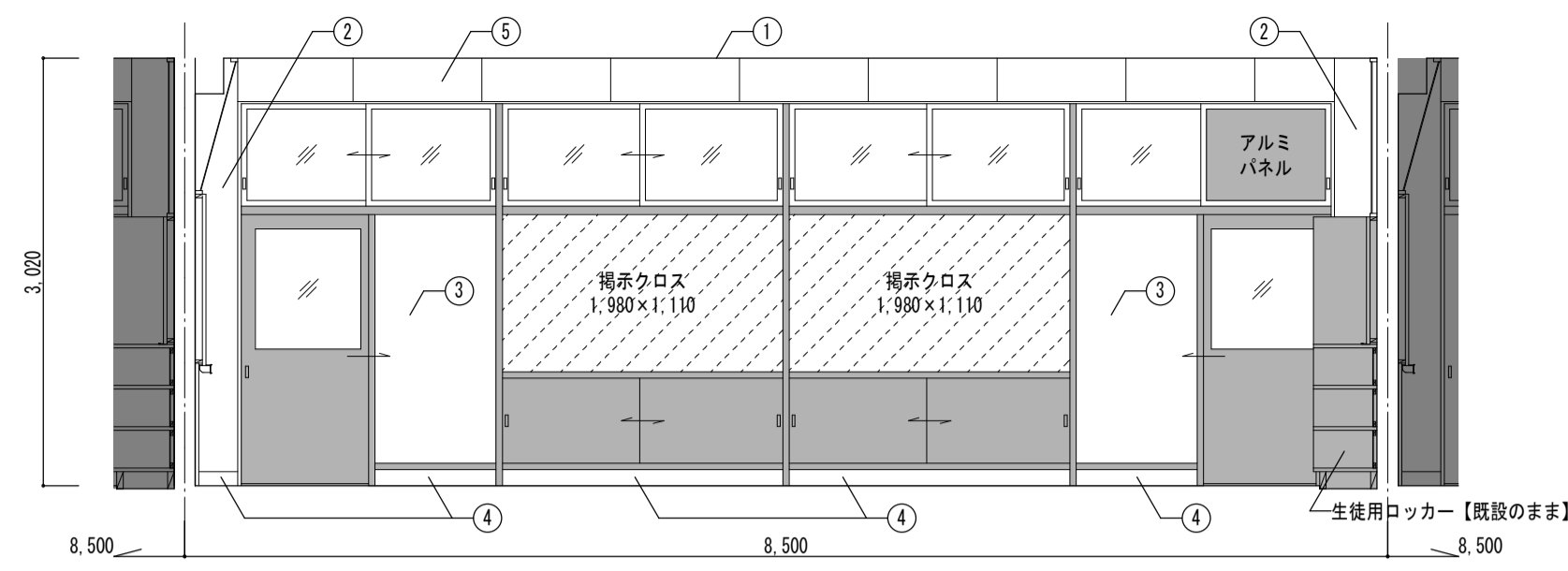


D面展開図 S=1/50

・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
 ・点線表記の家具等は、【一時取外し】【再取付】とする。
 ・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付随物の養生を行うこと。

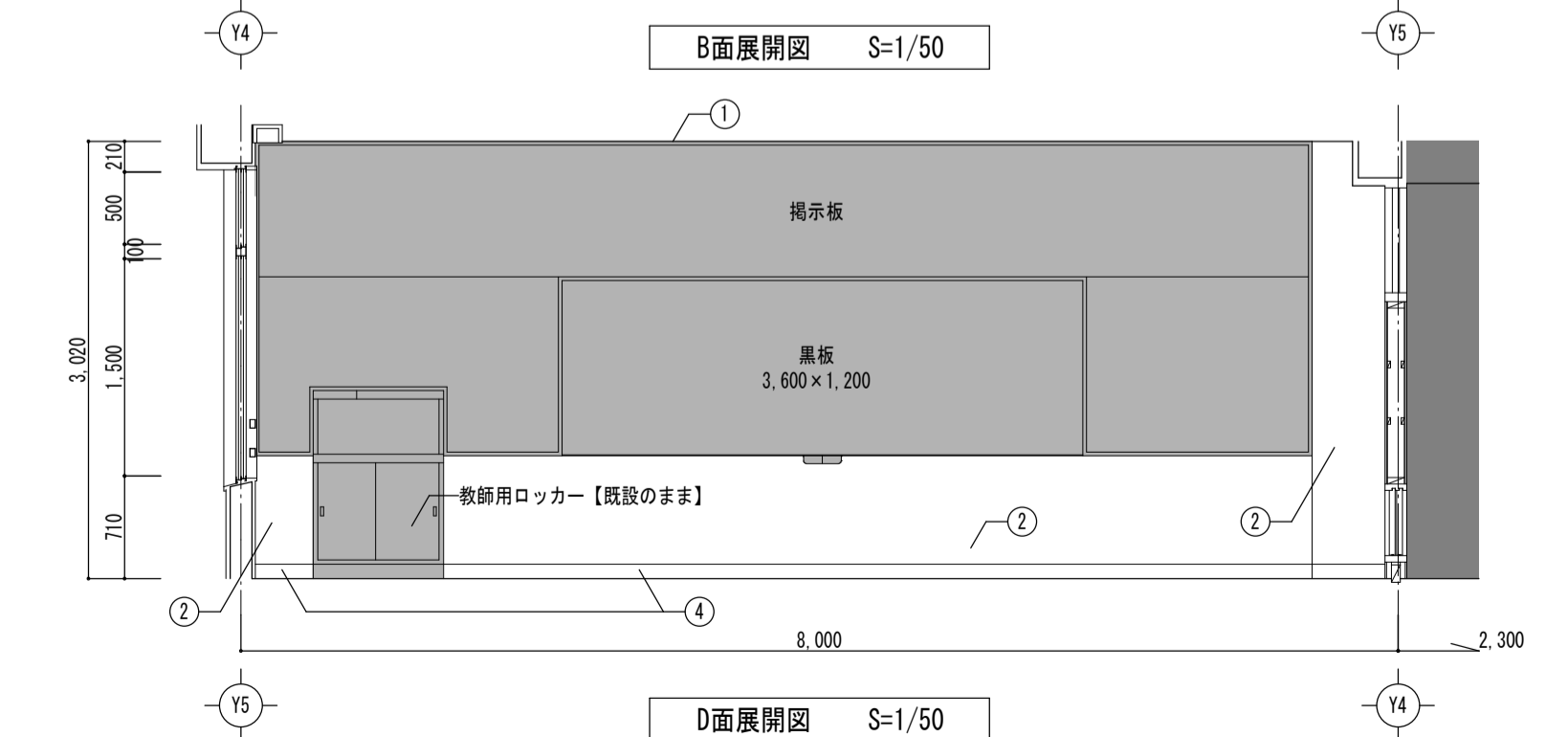
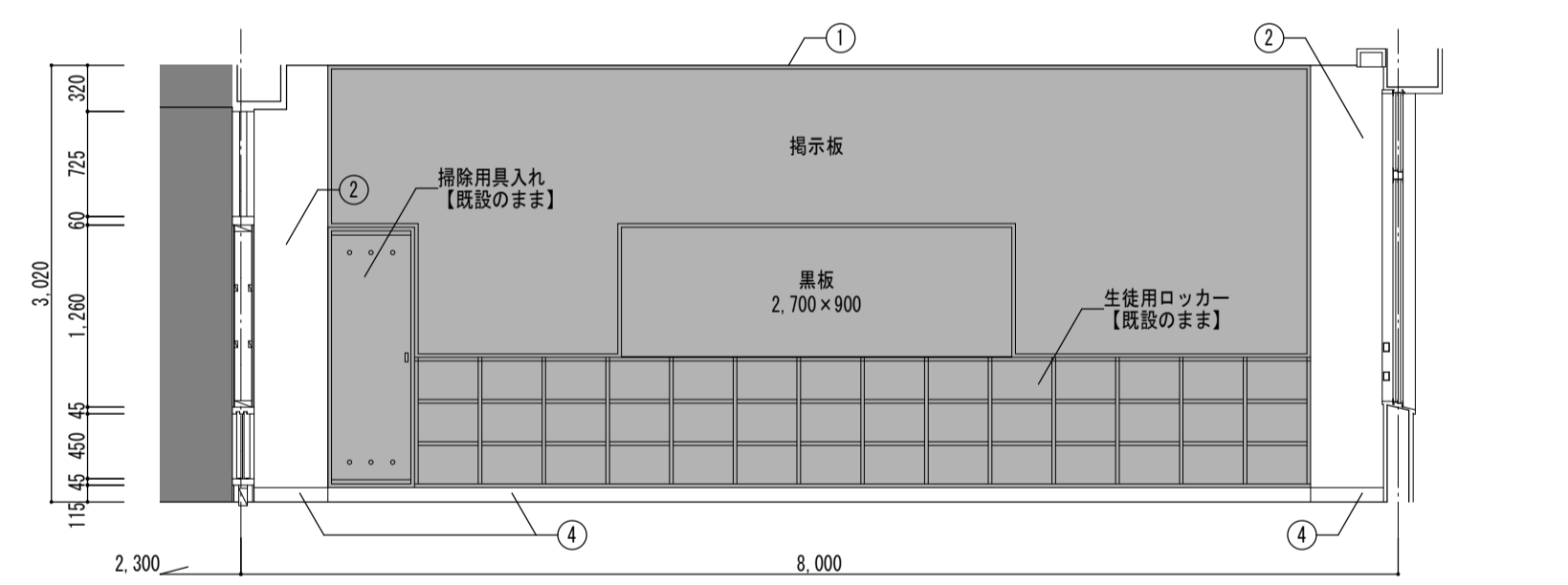
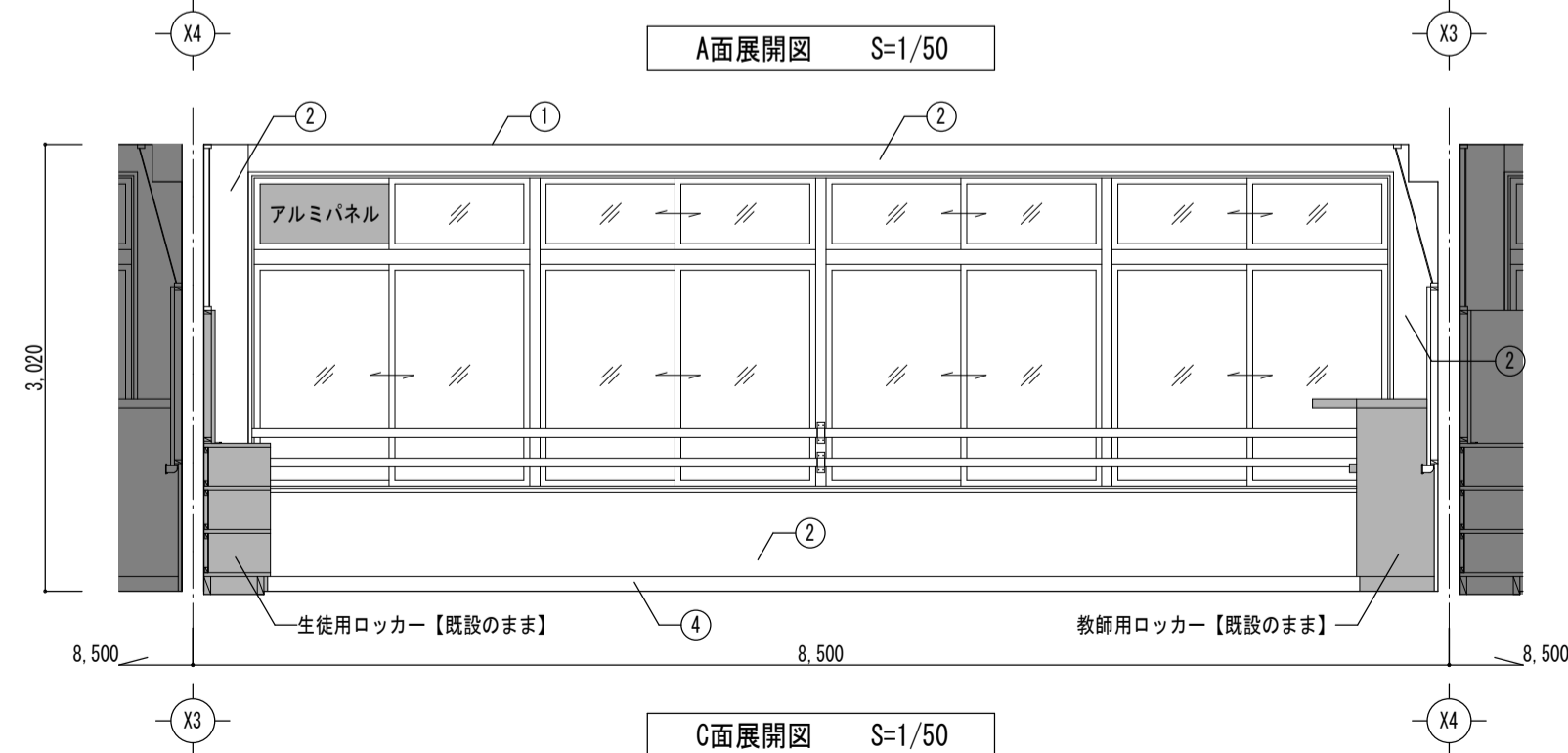
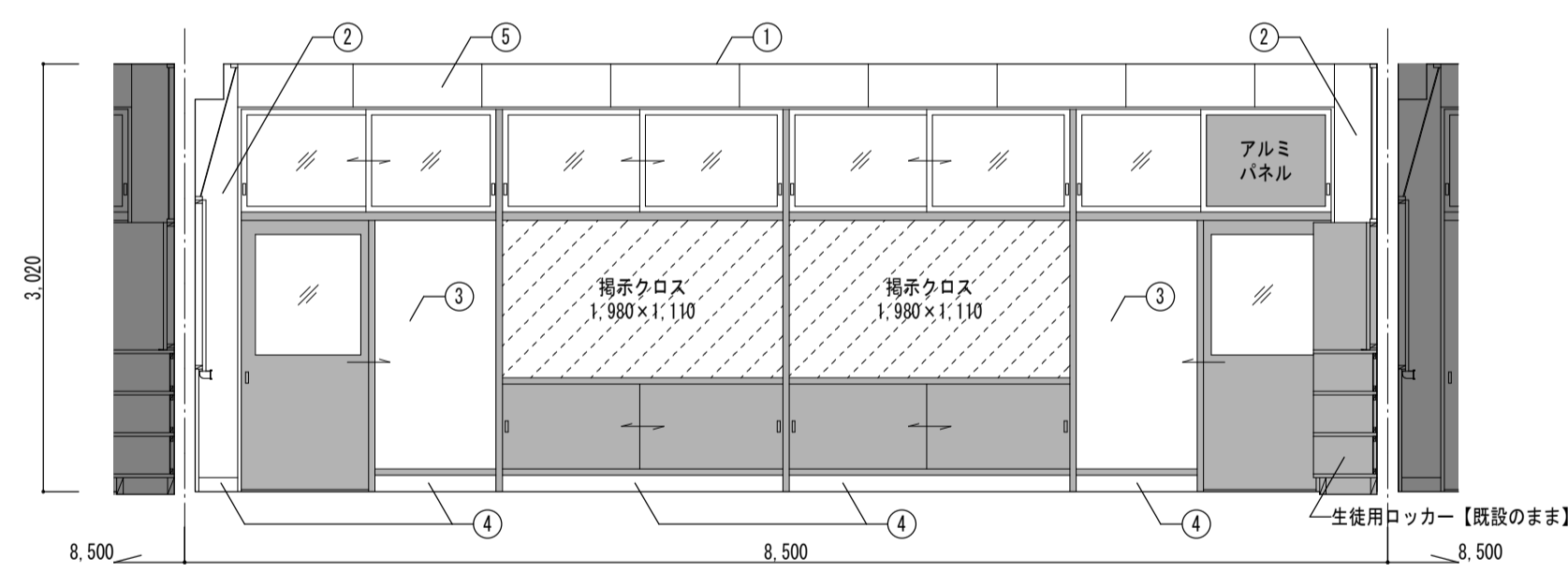
校舎 普通教室棟 2階普通教室⑨ (改修前・後)

内部仕上表 凡例 (改修前)	
① 廻縁	木製廻り縁【既設のまま】
② 壁・柱	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③ 壁	シナ合板t=6目透し張り OP塗装
④ 巾木	米ツガ h=115 OP塗装
⑤ 梁	PB t=9目透し張り EP塗装
内部仕上表 凡例 (改修後)	
① 廻縁	—
② 壁・柱	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③ 壁	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既存のまま
④ 巾木	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】
⑤ 梁	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
掲示クロス張替え箇所を示す 改修対象外を示す 別図参照 建具：建具表参照	



校舎 普通教室棟 2階普通教室⑩ (改修前・後)

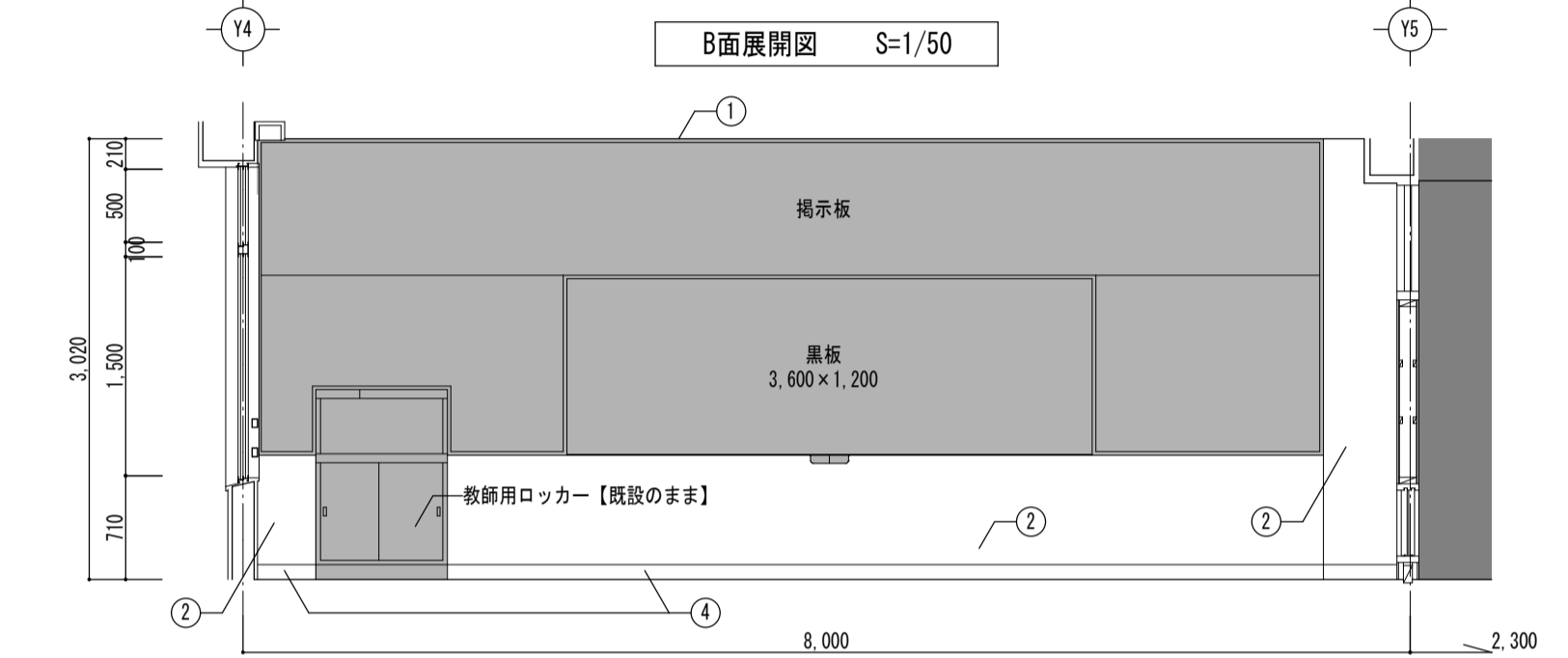
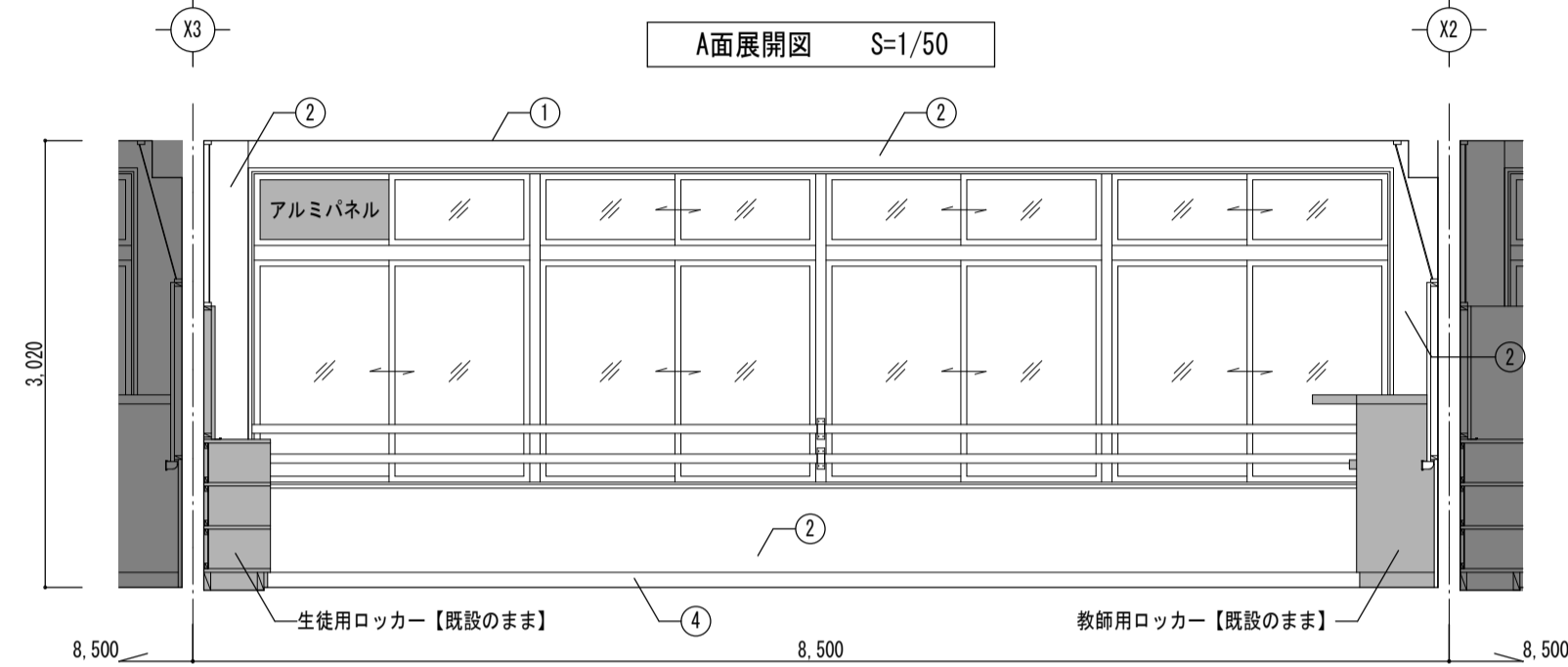
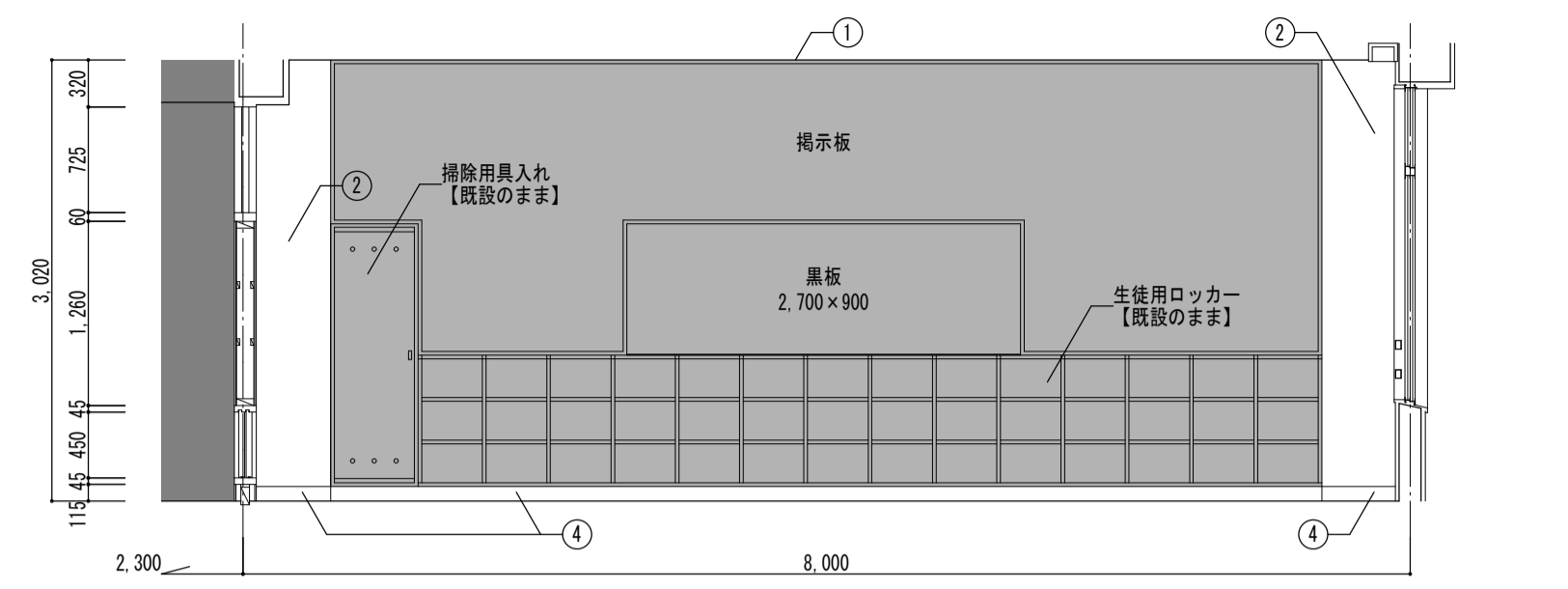
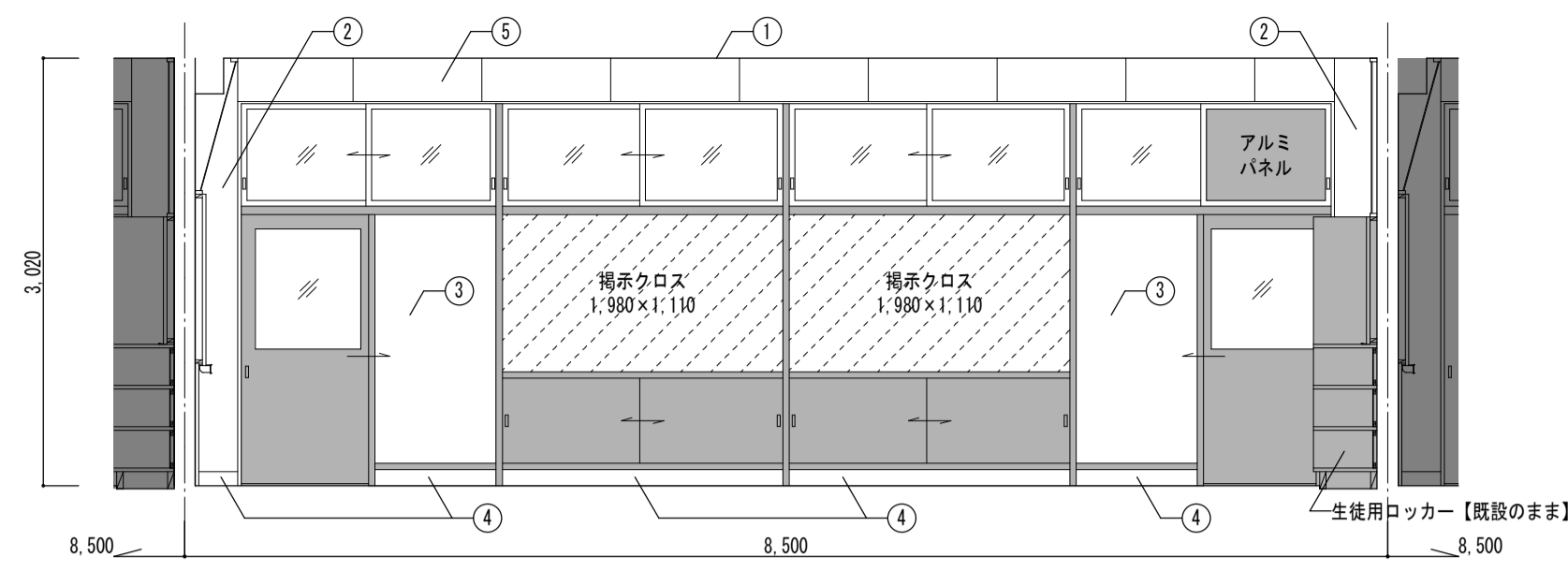
内部仕上表 凡例 (改修前)	
① 廻縁	木製廻り縁【既設のまま】
② 壁・柱	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③ 壁	シナ合板t=6目透し張り OP塗装
④ 巾木	米ツガ h=115 OP塗装
⑤ 梁	PB t=9目透し張り EP塗装
内部仕上表 凡例 (改修後)	
① 廻縁	—
② 壁・柱	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③ 壁	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既存のまま
④ 巾木	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】
⑤ 梁	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
掲示クロス張替え箇所を示す 改修対象外を示す 別図参照 建具：建具表参照	



・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
 ・点線表記の家具等は、【一時取外し】【再取付】とする。
 ・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付随物の養生を行うこと。

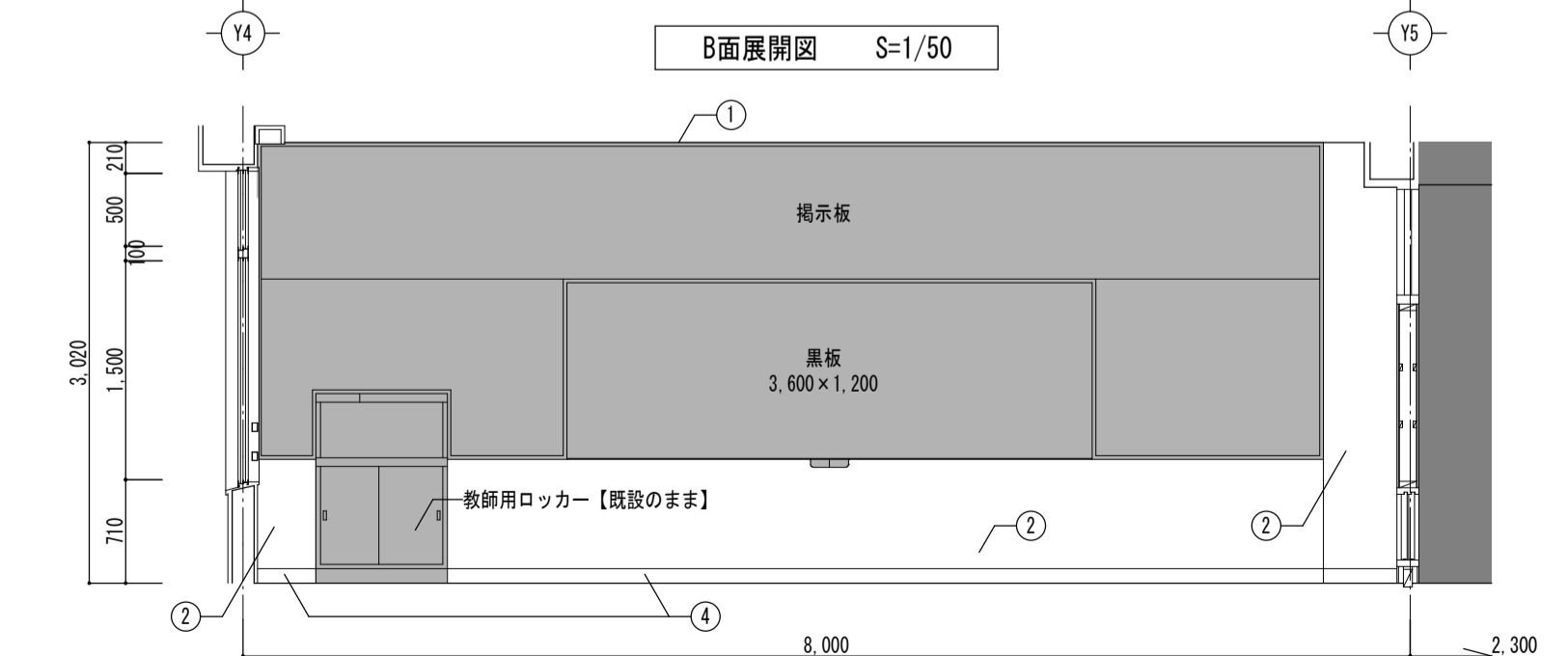
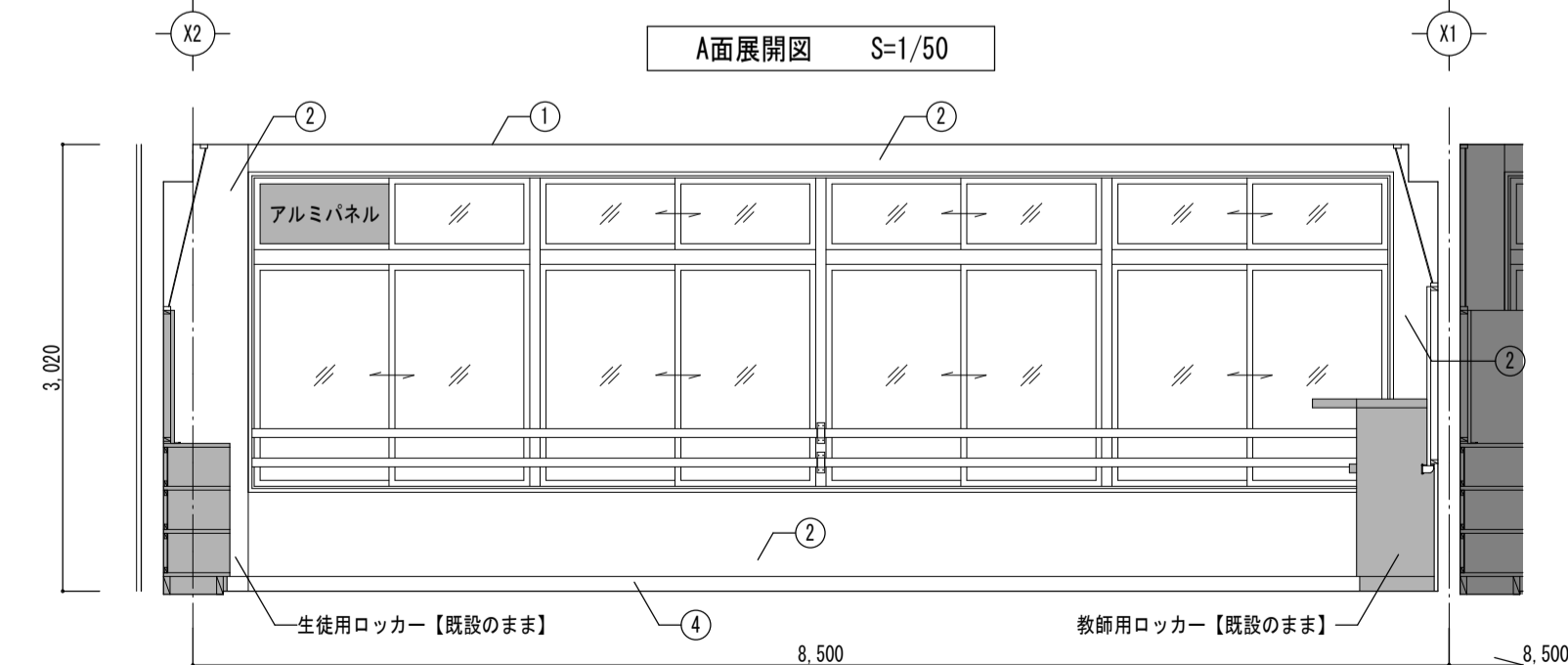
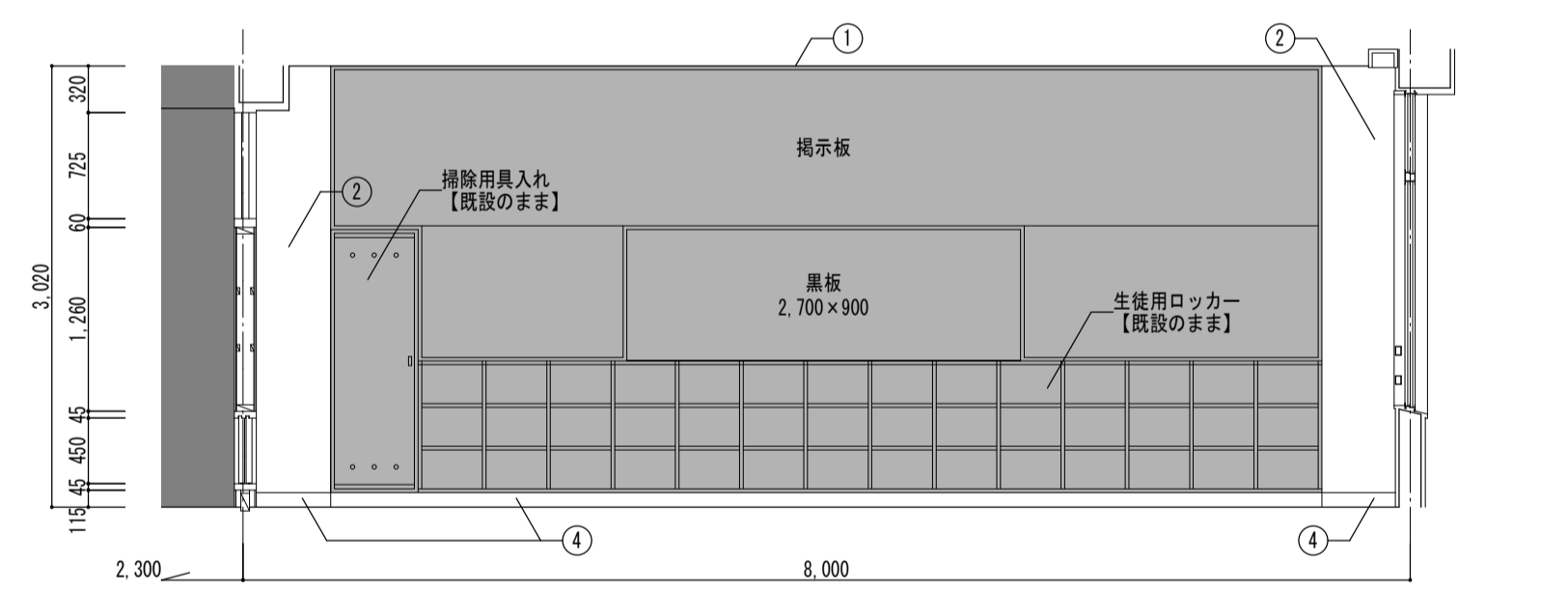
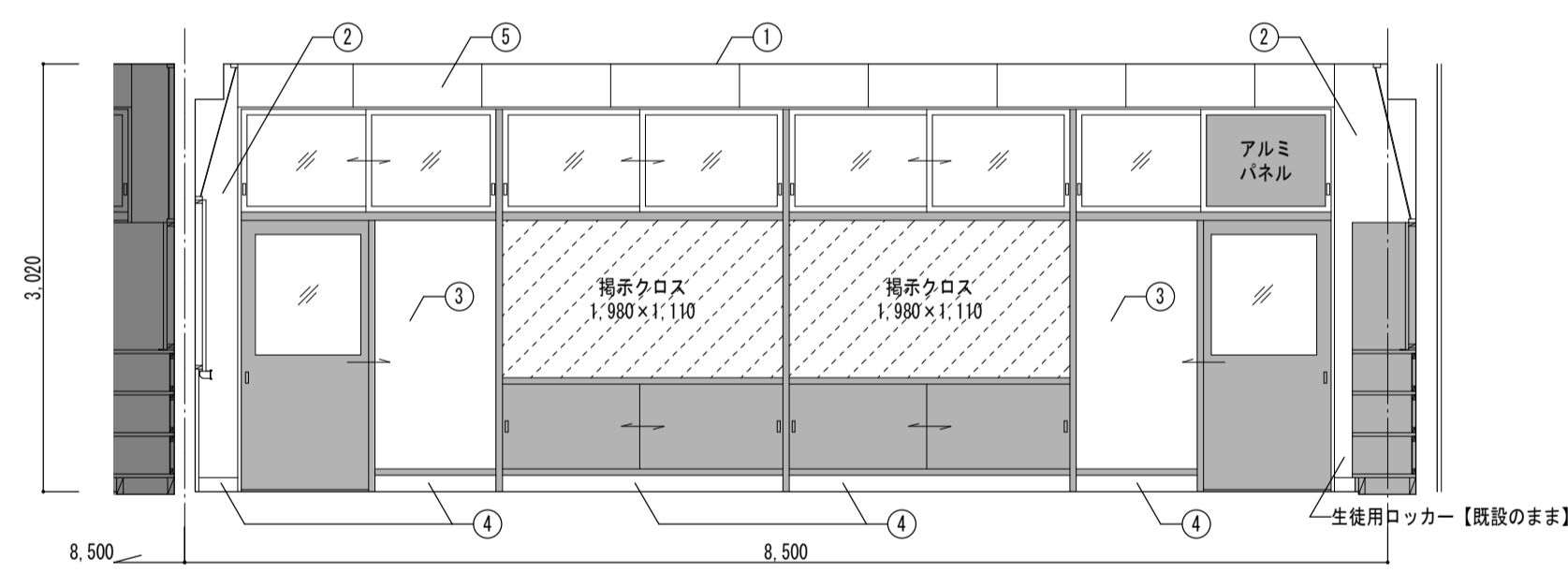
校舎 普通教室棟 2階普通教室⑪ (改修前・後)

内部仕上表 凡例 (改修前)	
① 廻縁	木製廻り縁【既設のまま】
② 壁・柱	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③ 壁	シナ合板t=6目透し張り OP塗装
④ 巾木	米ツガ h=115 OP塗装
⑤ 梁	PB t=9目透し張り EP塗装
内部仕上表 凡例 (改修後)	
① 廻縁	—
② 壁・柱	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③ 壁	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既存のまま
④ 巾木	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】
⑤ 梁	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
掲示クロス張替え箇所を示す 改修対象外を示す 別図参照 建具：建具表参照	



校舎 普通教室棟 2階普通教室⑫ (改修前・後)

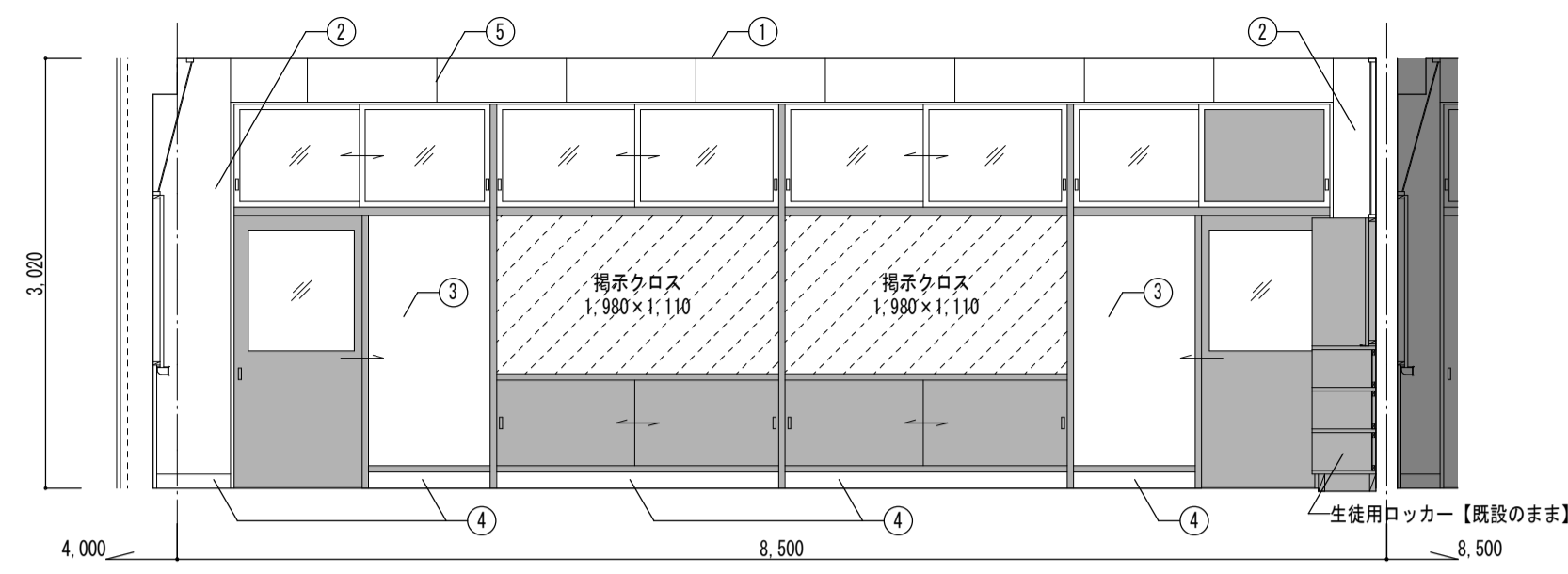
内部仕上表 凡例 (改修前)	
① 廻縁	木製廻り縁【既設のまま】
② 壁・柱	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③ 壁	シナ合板t=6目透し張り OP塗装
④ 巾木	米ツガ h=115 OP塗装
⑤ 梁	PB t=9目透し張り EP塗装
内部仕上表 凡例 (改修後)	
① 廻縁	—
② 壁・柱	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③ 壁	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既存のまま
④ 巾木	【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】
⑤ 梁	【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
掲示クロス張替え箇所を示す 改修対象外を示す 別図参照 建具：建具表参照	



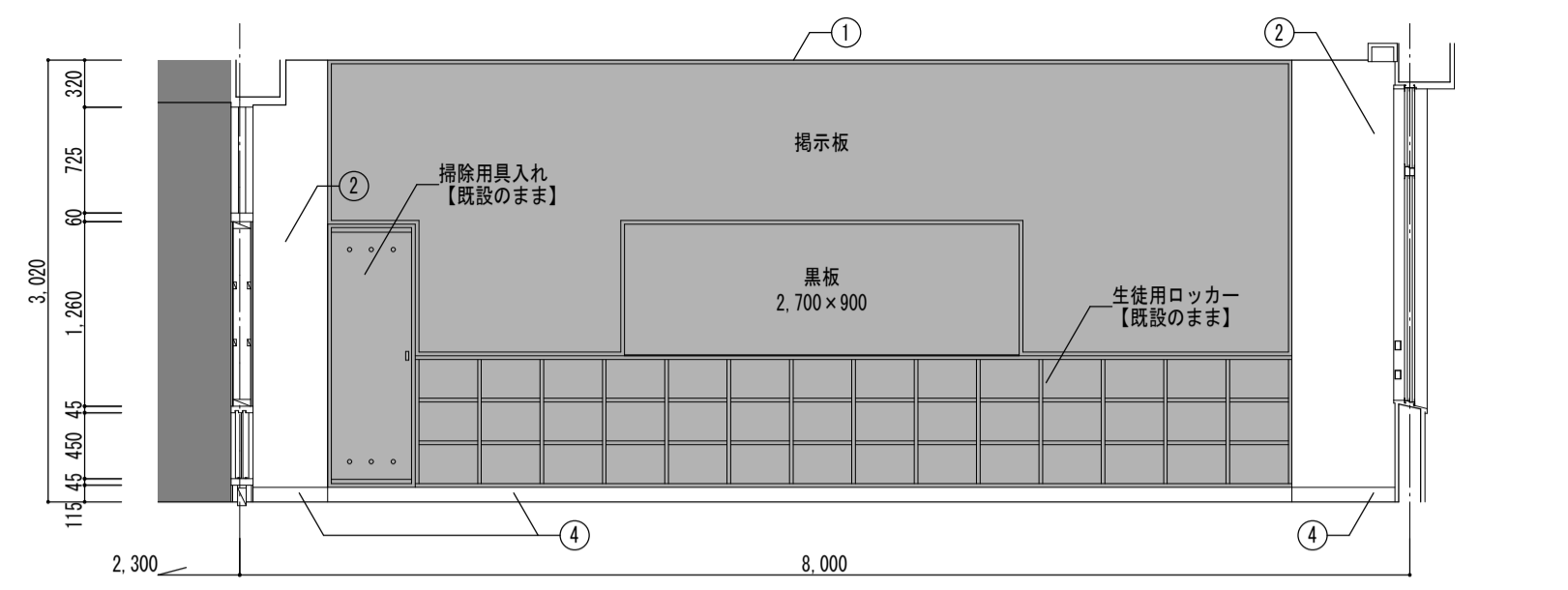
・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
 ・点検表記の家具等は、【一併取外し】【再取付】とする。
 ・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付随物の養生を行うこと。

校舎 普通教室棟 3階普通教室⑬ (改修前・後)

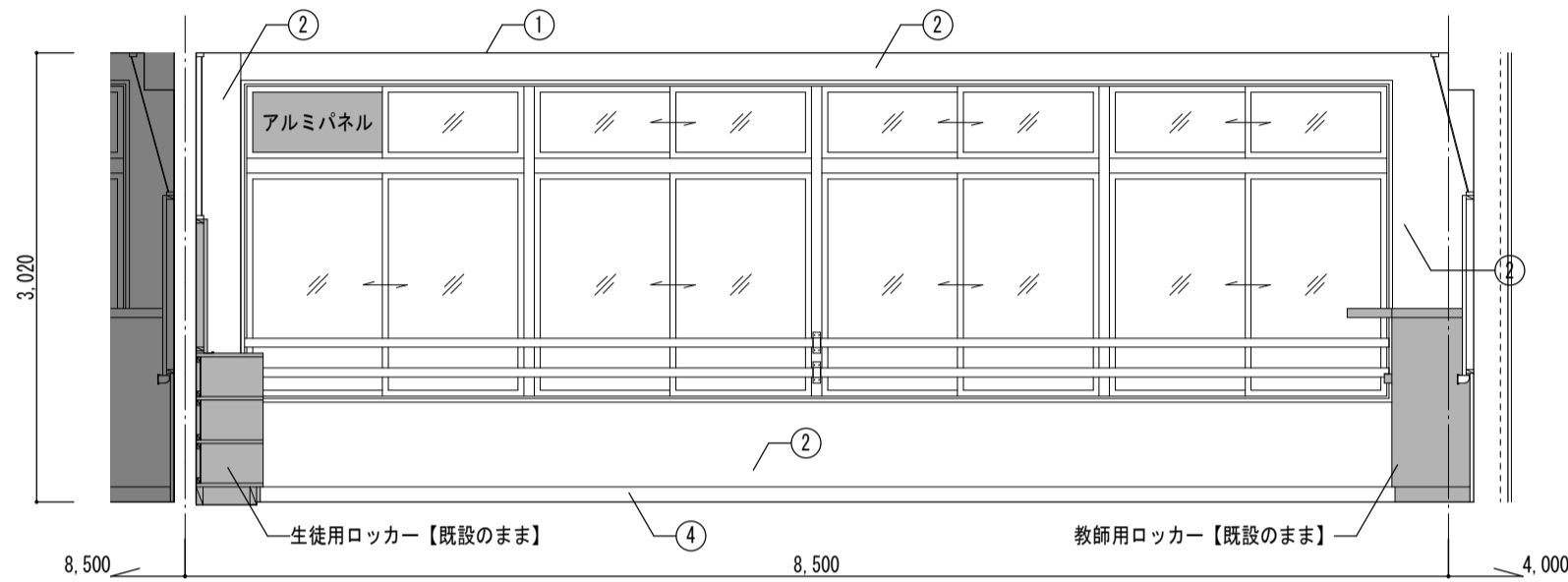
内部仕上表 凡例 (改修前)	
①	廻縁 木製廻り縁【既設のまま】
②	壁・柱 コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③	壁 シナ合板t=6目透し張り OP塗装
④	巾木 米ツガ h=115 OP塗装
⑤	梁 PB t=9目透し張り EP塗装
内部仕上表 凡例 (改修後)	
①	廻縁 -
②	壁・柱 【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③	壁 【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既存のまま
④	巾木 【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】
⑤	梁 【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
掲示クロス張替え箇所を示す 改修対象外を示す 別図参照 建具：建具表参照	



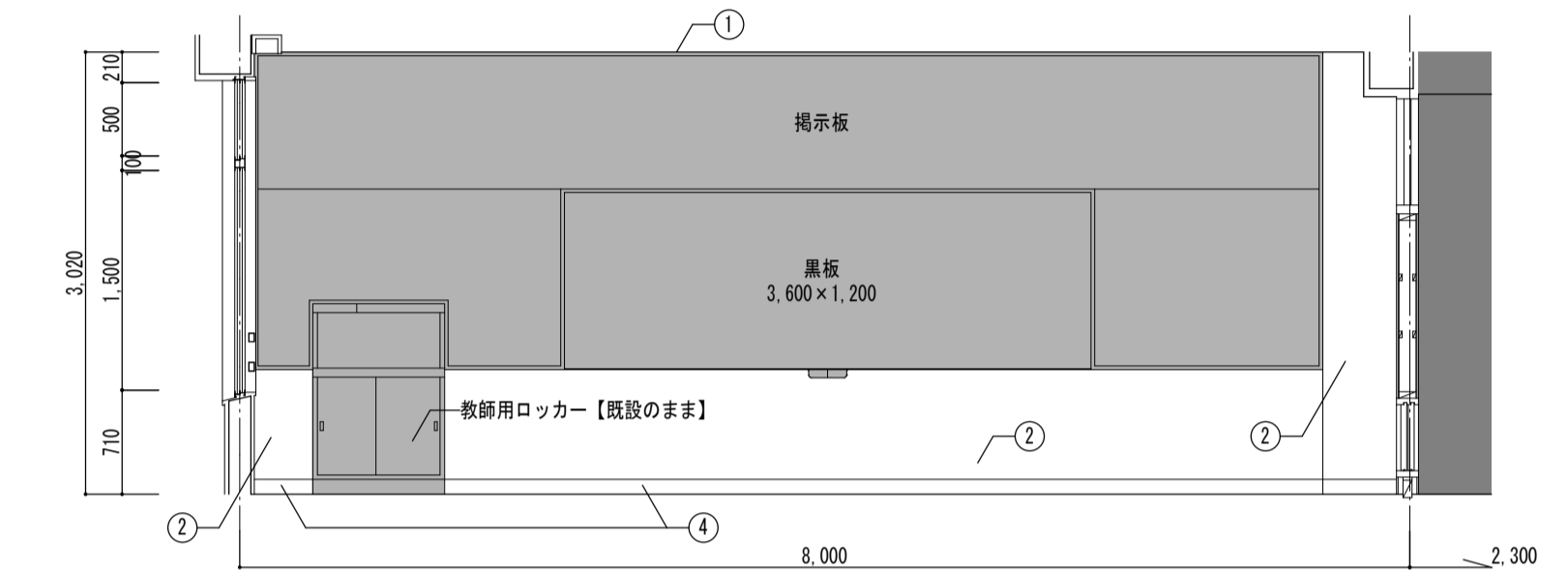
A面展開図 S=1/50



B面展開図 S=1/50



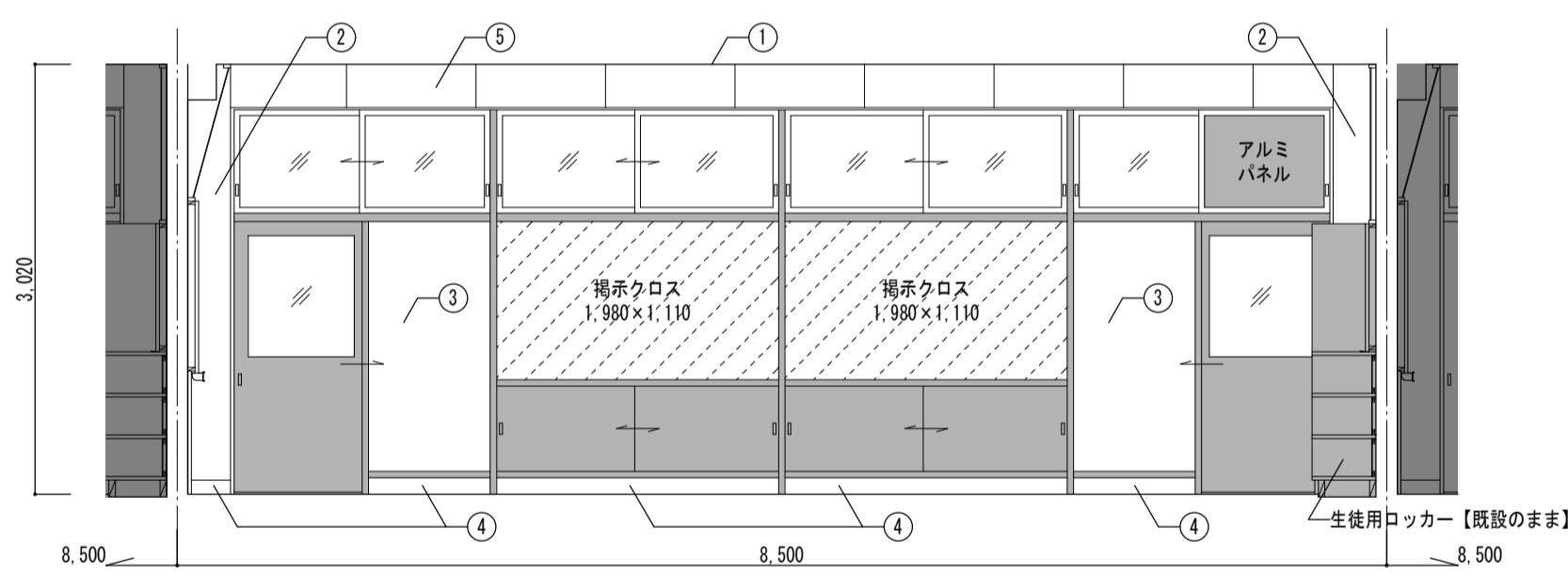
C面展開図 S=1/50



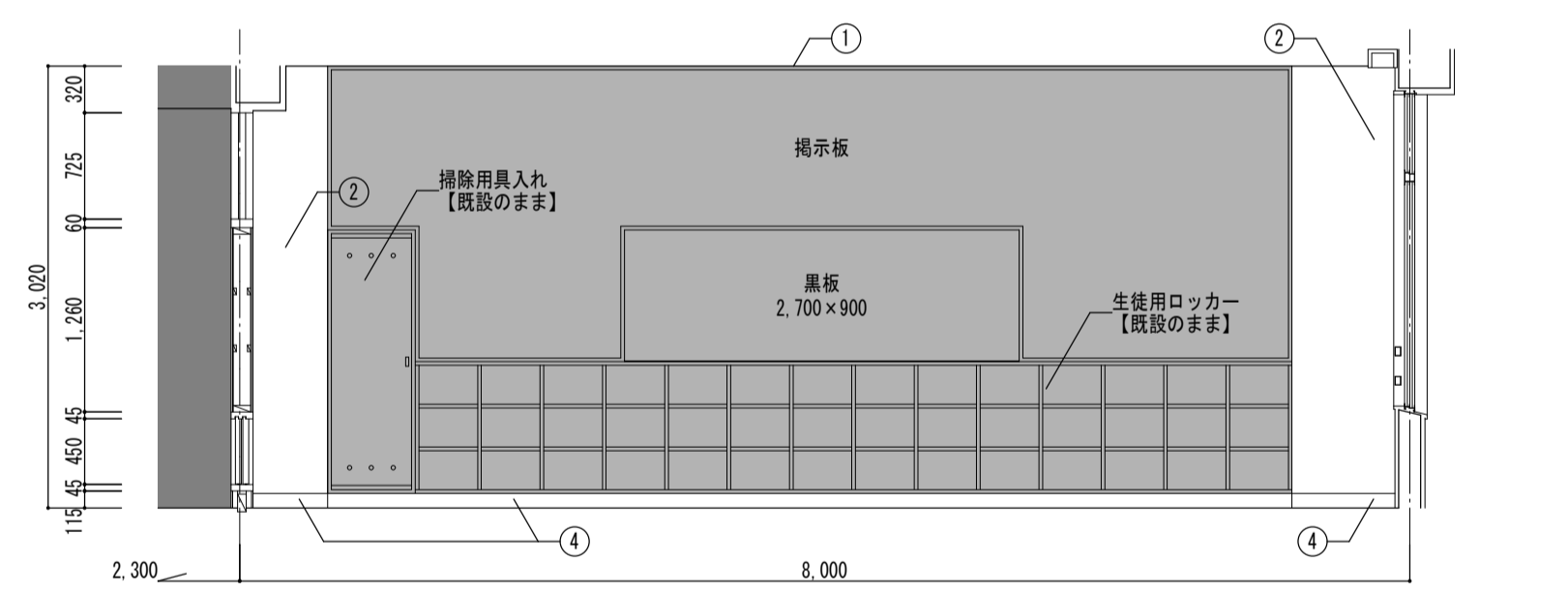
D面展開図 S=1/50

校舎 普通教室棟 3階普通教室⑭ (改修前・後)

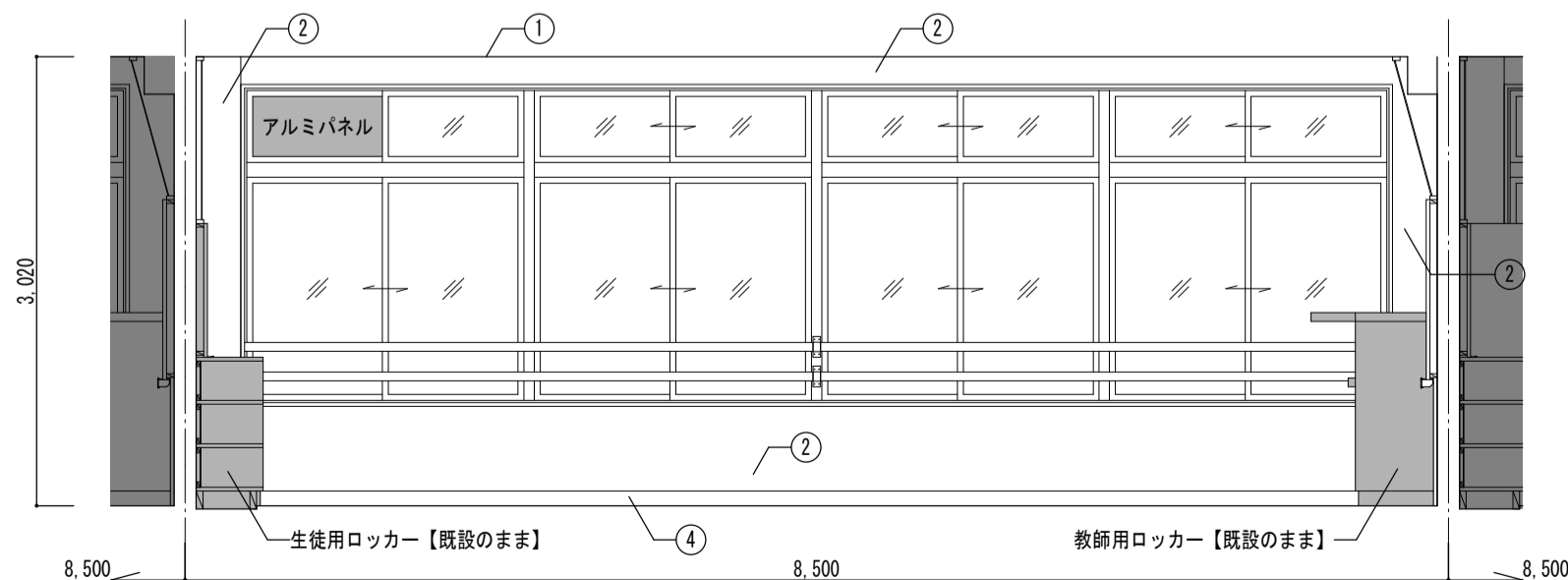
内部仕上表 凡例 (改修前)	
①	廻縁 木製廻り縁【既設のまま】
②	壁・柱 コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③	壁 シナ合板t=6目透し張り OP塗装
④	巾木 米ツガ h=115 OP塗装
⑤	梁 PB t=9目透し張り EP塗装
内部仕上表 凡例 (改修後)	
①	廻縁 -
②	壁・柱 【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③	壁 【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既存のまま
④	巾木 【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】
⑤	梁 【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
掲示クロス張替え箇所を示す 改修対象外を示す 別図参照 建具：建具表参照	



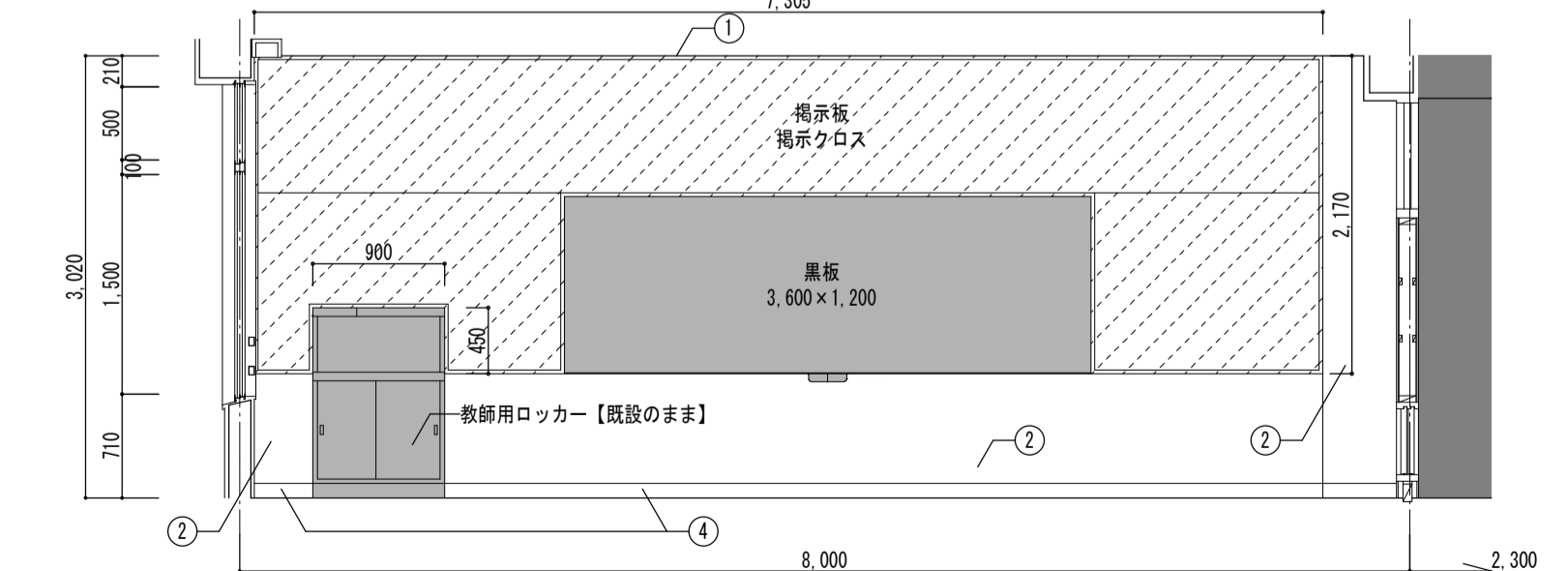
A面展開図 S=1/50



B面展開図 S=1/50



C面展開図 S=1/50

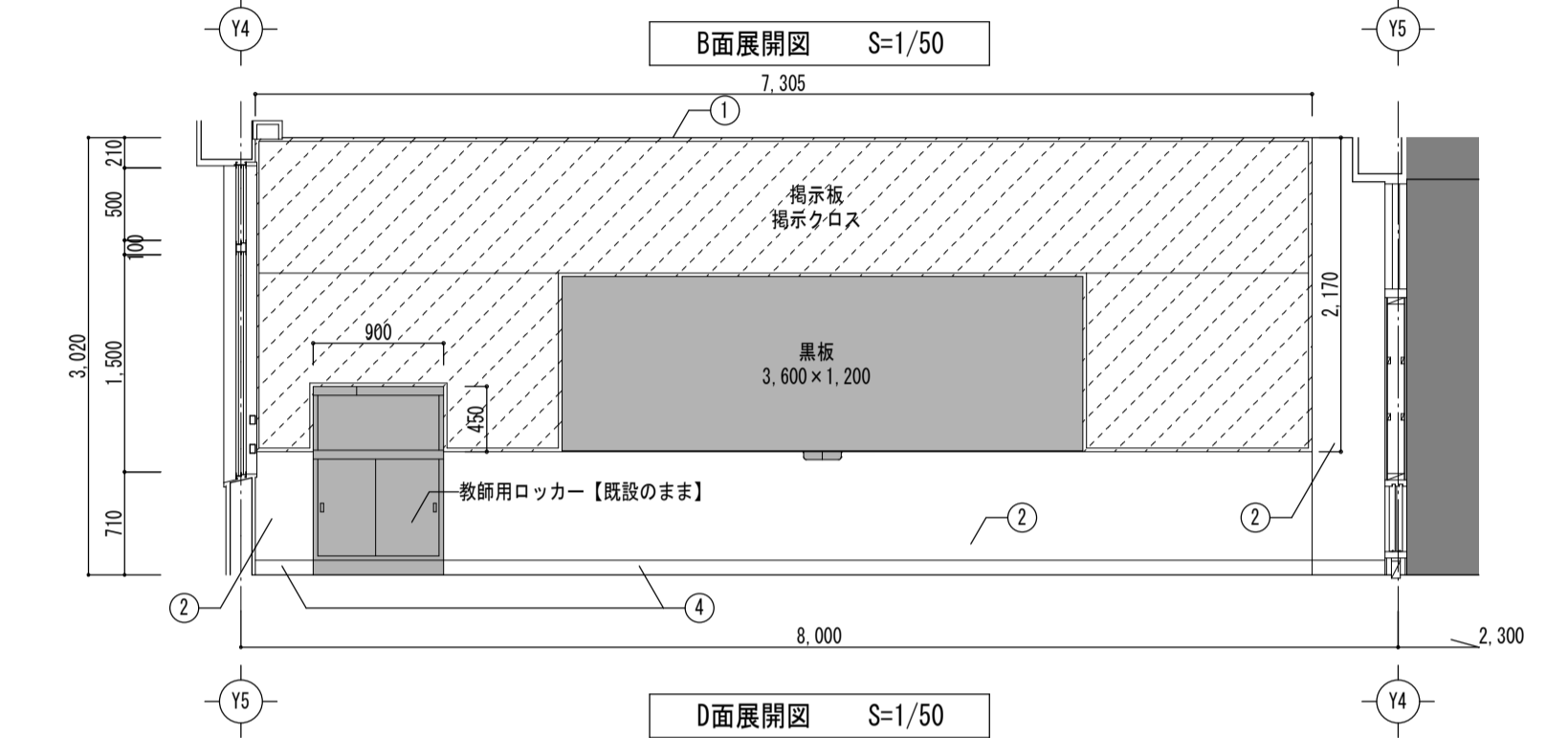
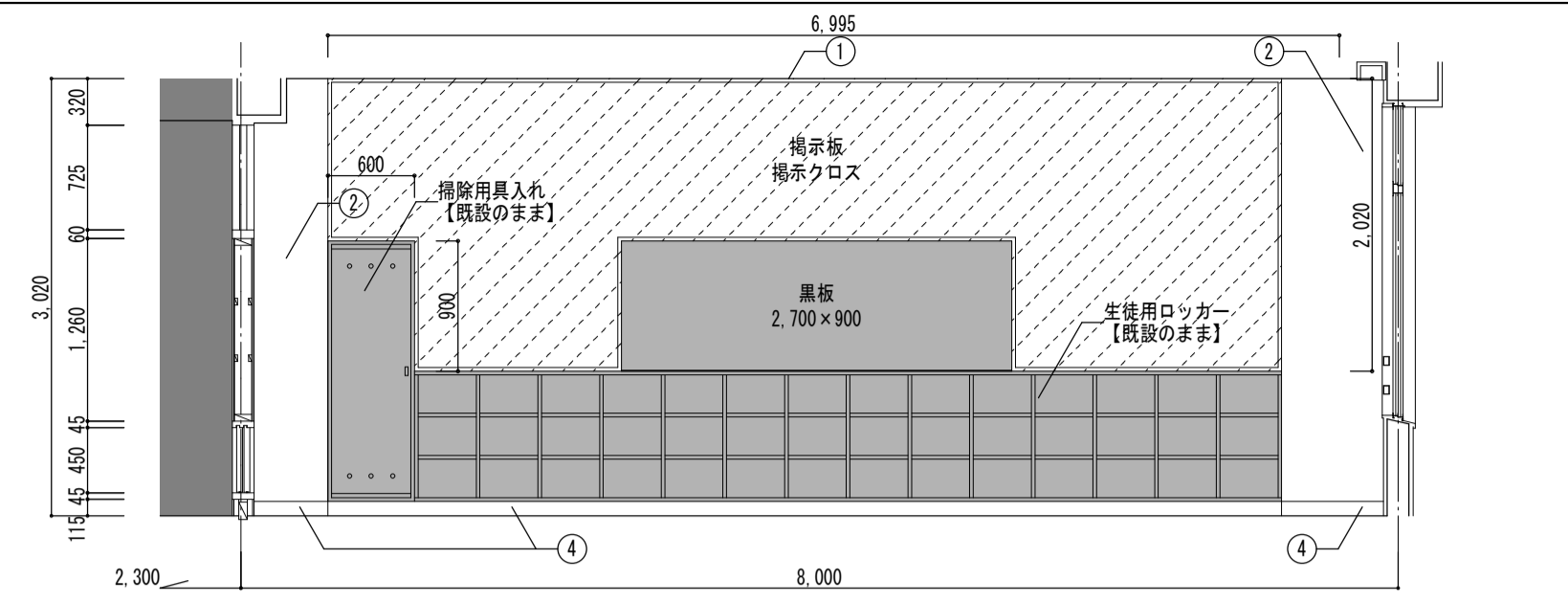
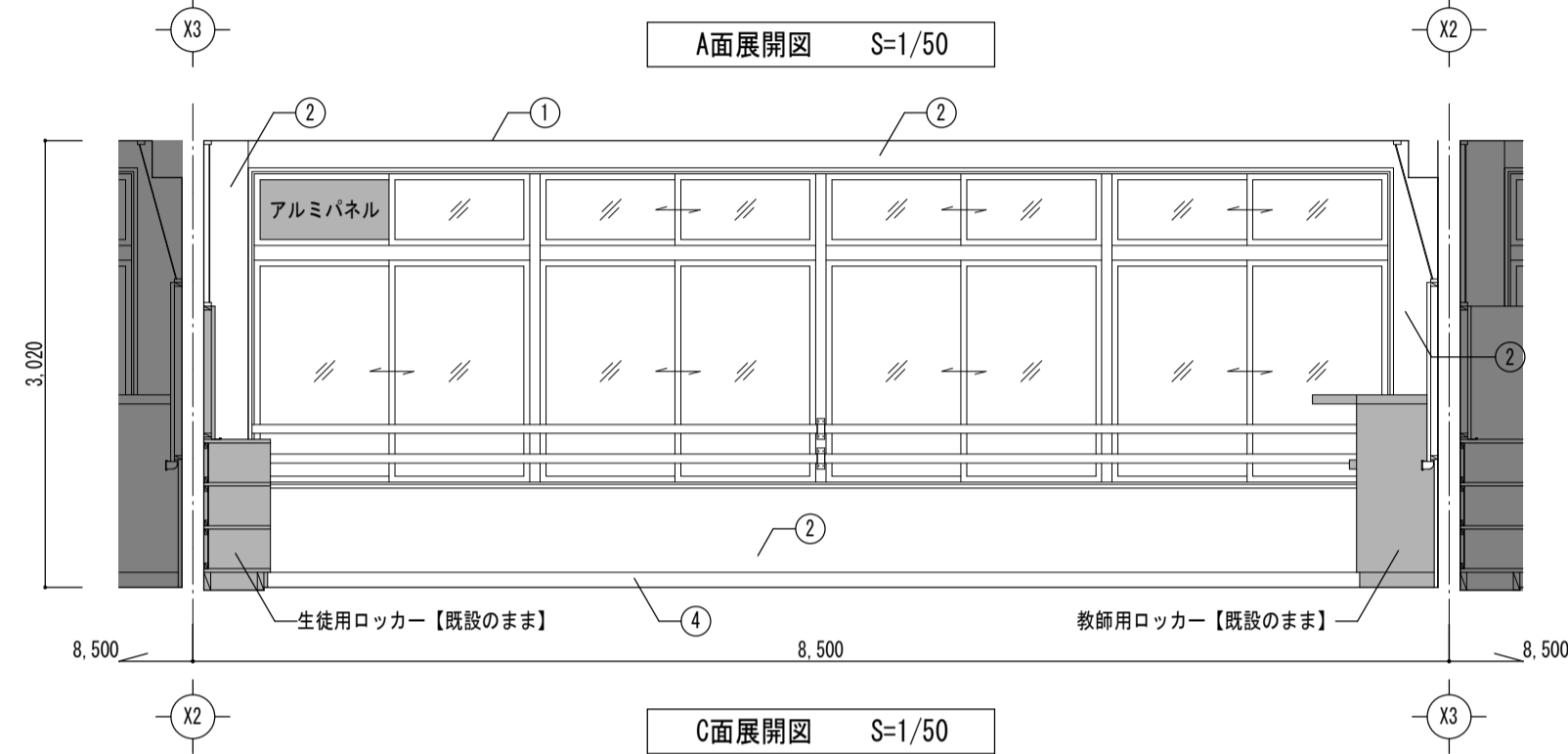
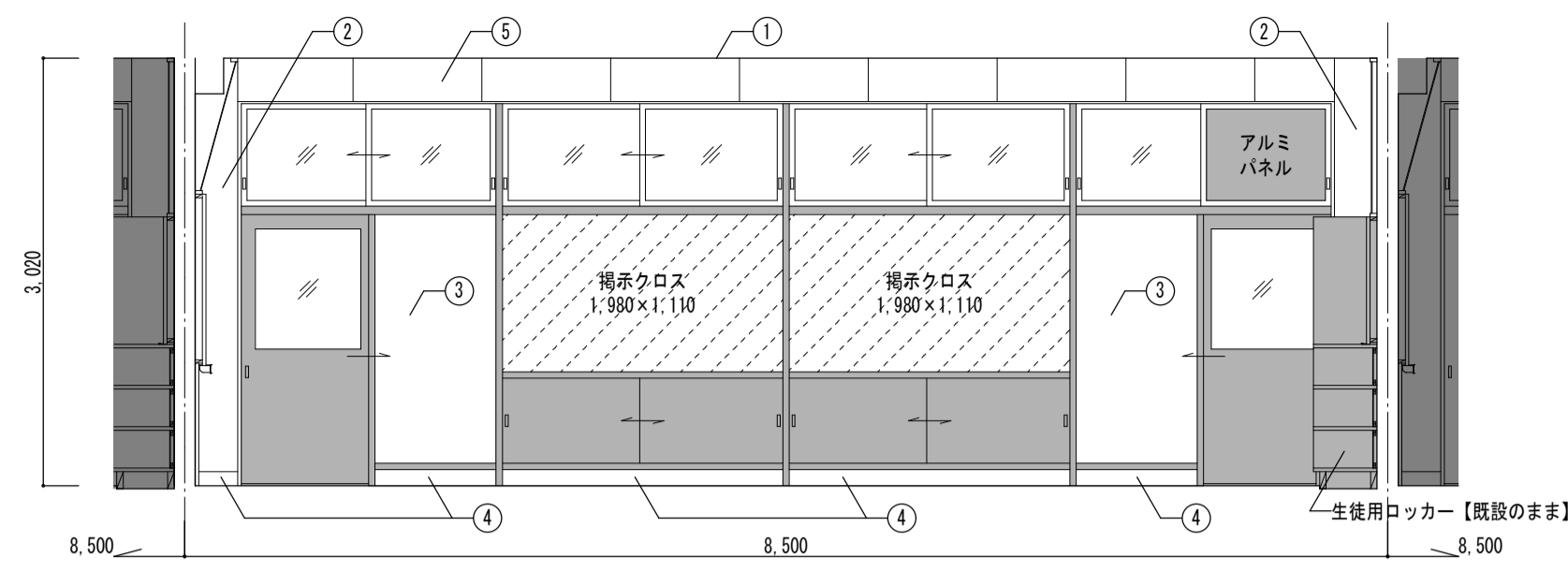


D面展開図 S=1/50

・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
 ・点検表記の家具等は、(一)取外し、(再取付)とする。
 ・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付随物の養生を行うこと。

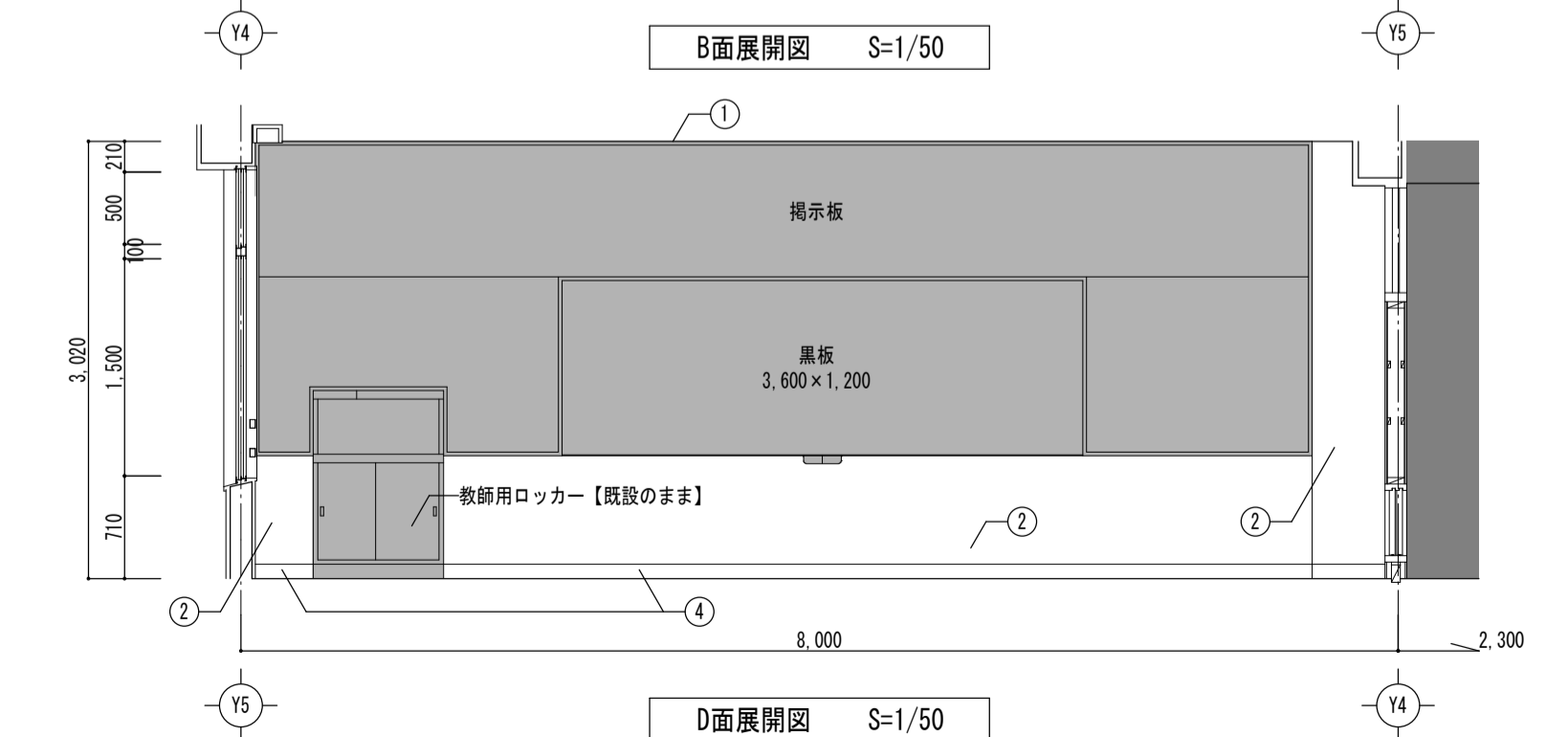
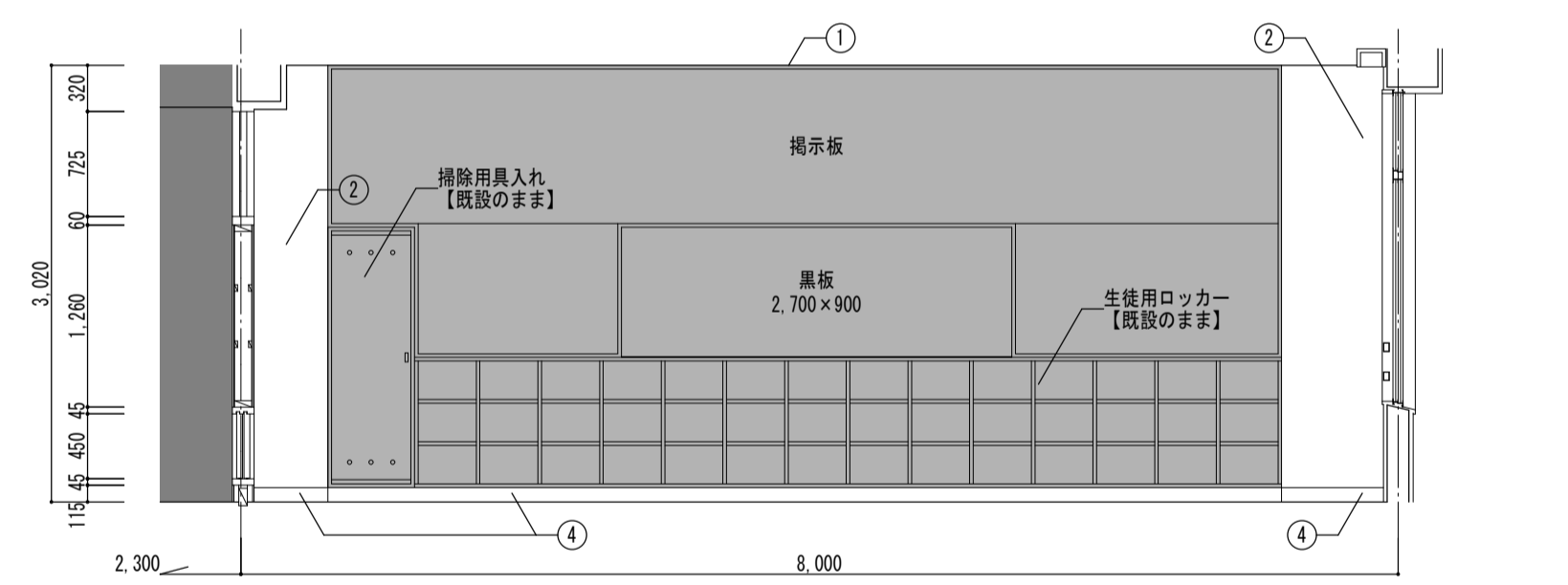
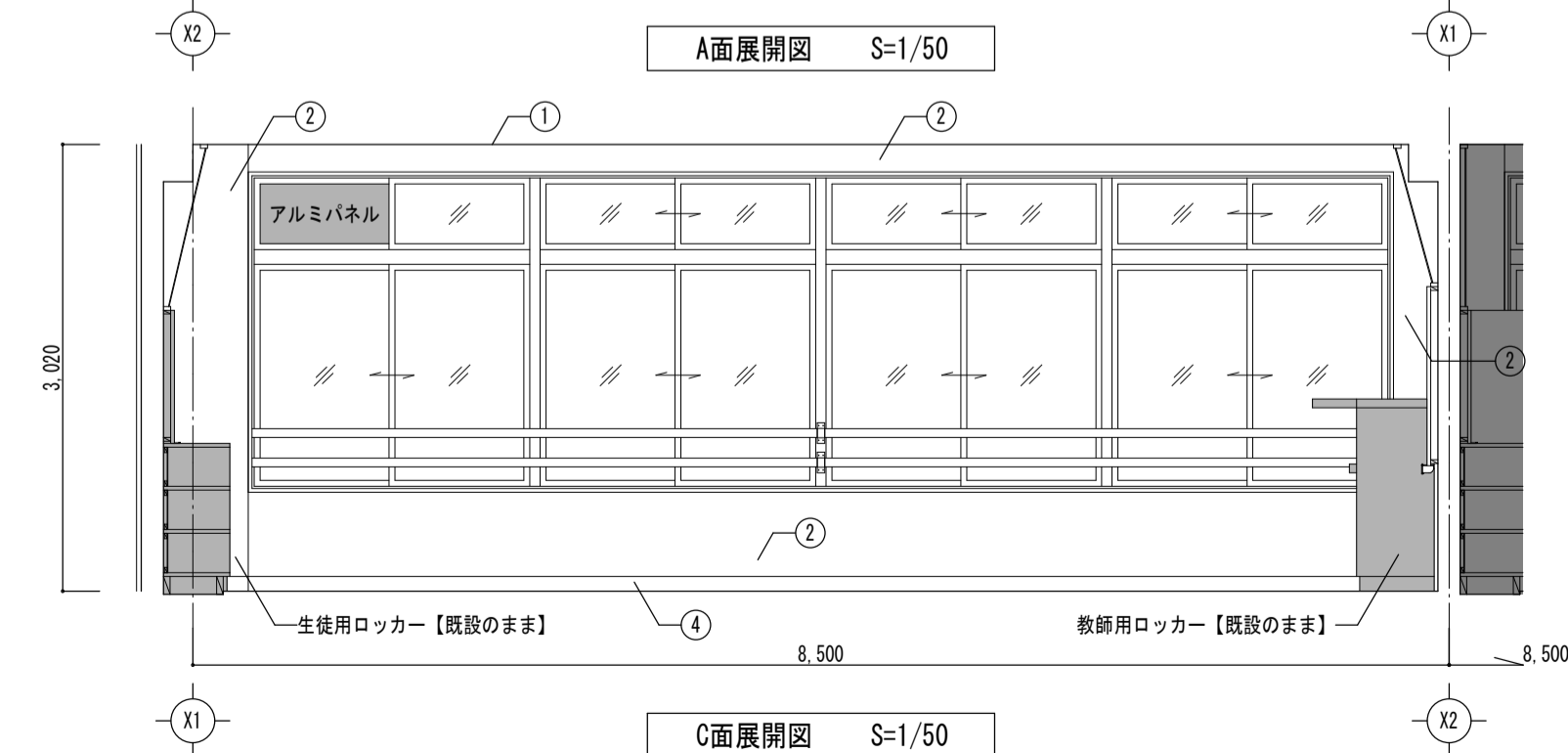
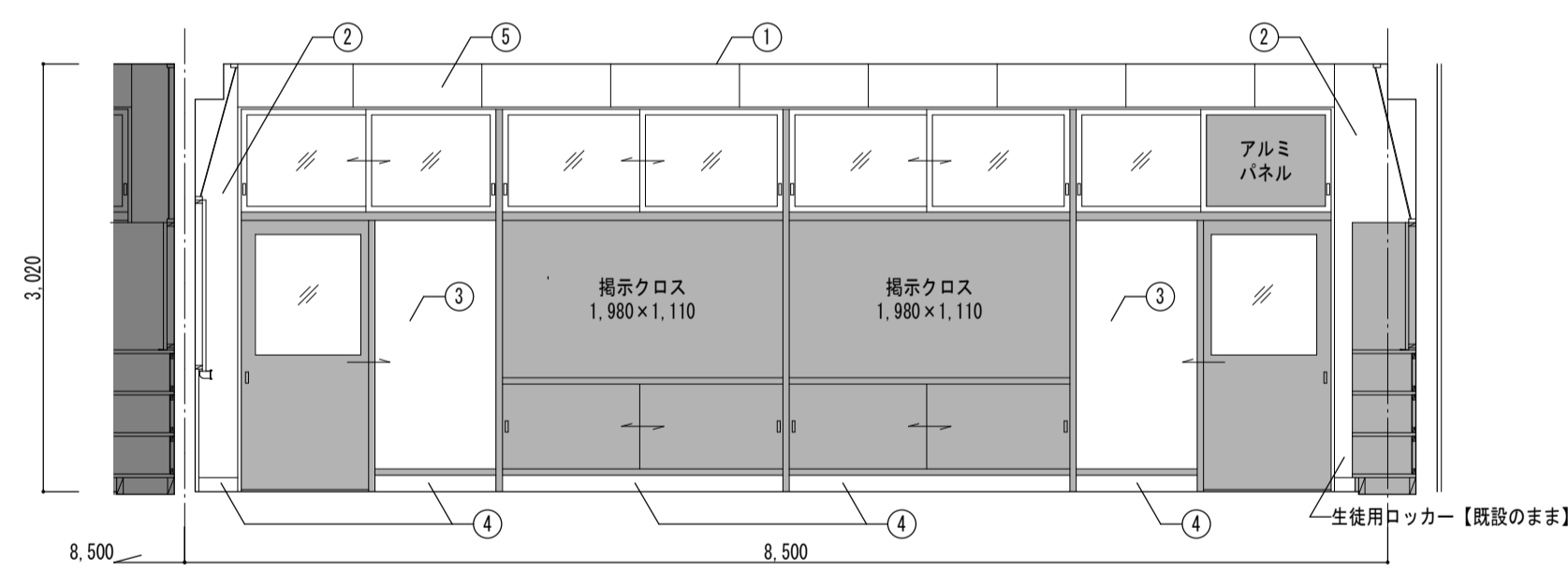
校舎 普通教室棟 3階普通教室⑮ (改修前・後)

内部仕上表 凡例 (改修前)	
①	廻縁 木製廻り縁【既設のまま】
②	壁・柱 コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③	壁 シナ合板t=6目透し張り OP塗装
④	巾木 米ツガ h=115 OP塗装
⑤	梁 PB t=9目透し張り EP塗装
内部仕上表 凡例 (改修後)	
①	廻縁 -
②	壁・柱 【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③	壁 【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既存のまま
④	巾木 【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】
⑤	梁 【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
掲示クロス張替え箇所を示す 改修対象外を示す 別図参照 建具: 建具表参照	

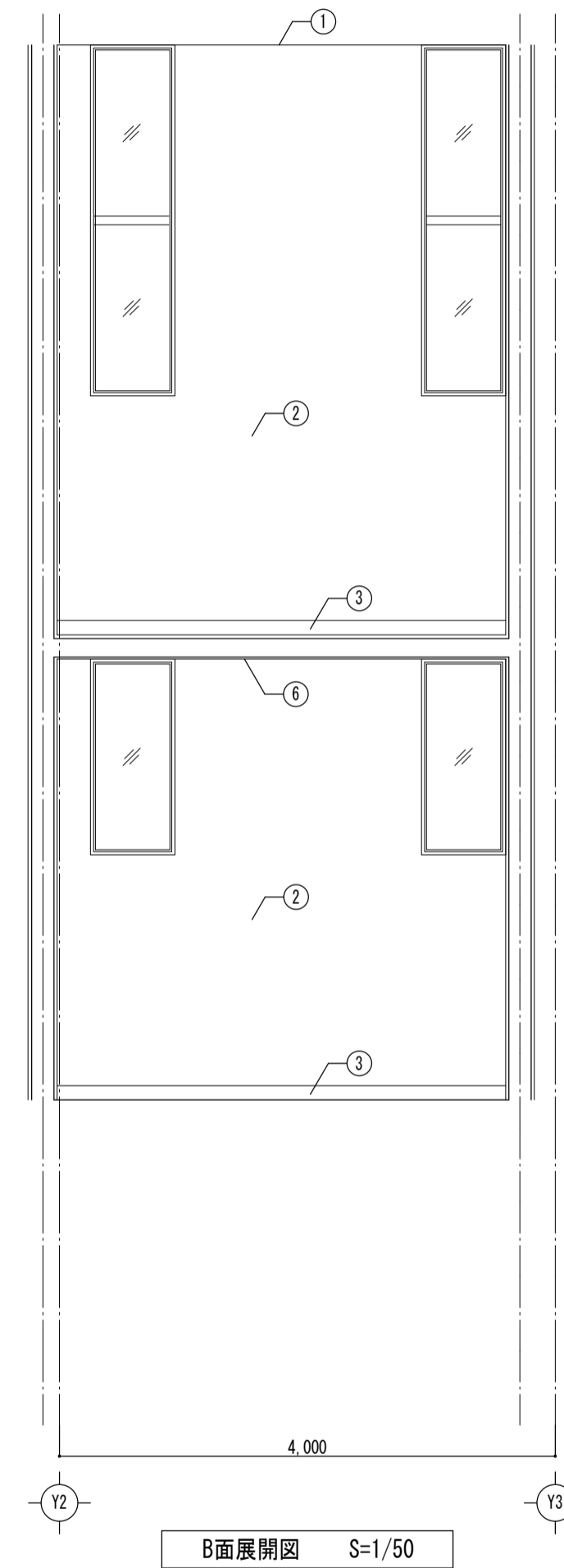


校舎 普通教室棟 3階普通教室⑯ (改修前・後)

内部仕上表 凡例 (改修前)	
①	廻縁 木製廻り縁【既設のまま】
②	壁・柱 コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③	壁 シナ合板t=6目透し張り OP塗装
④	巾木 米ツガ h=115 OP塗装
⑤	梁 PB t=9目透し張り EP塗装
内部仕上表 凡例 (改修後)	
①	廻縁 -
②	壁・柱 【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
③	壁 【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】 ※ 木枠部は既存のまま
④	巾木 【下地調整(RB種)の上、EP-G塗替え】
⑤	梁 【下地調整(RB種)の上、EP塗替え】
掲示クロス張替え箇所を示す 改修対象外を示す 別図参照 建具: 建具表参照	

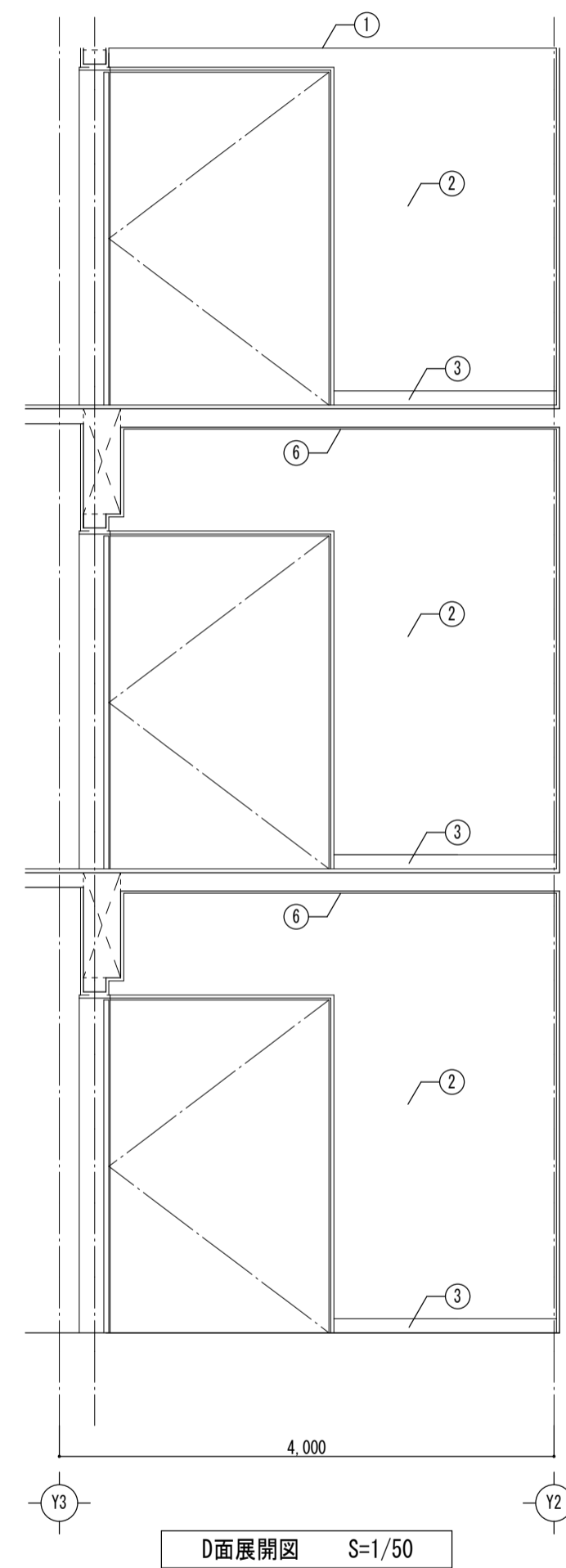
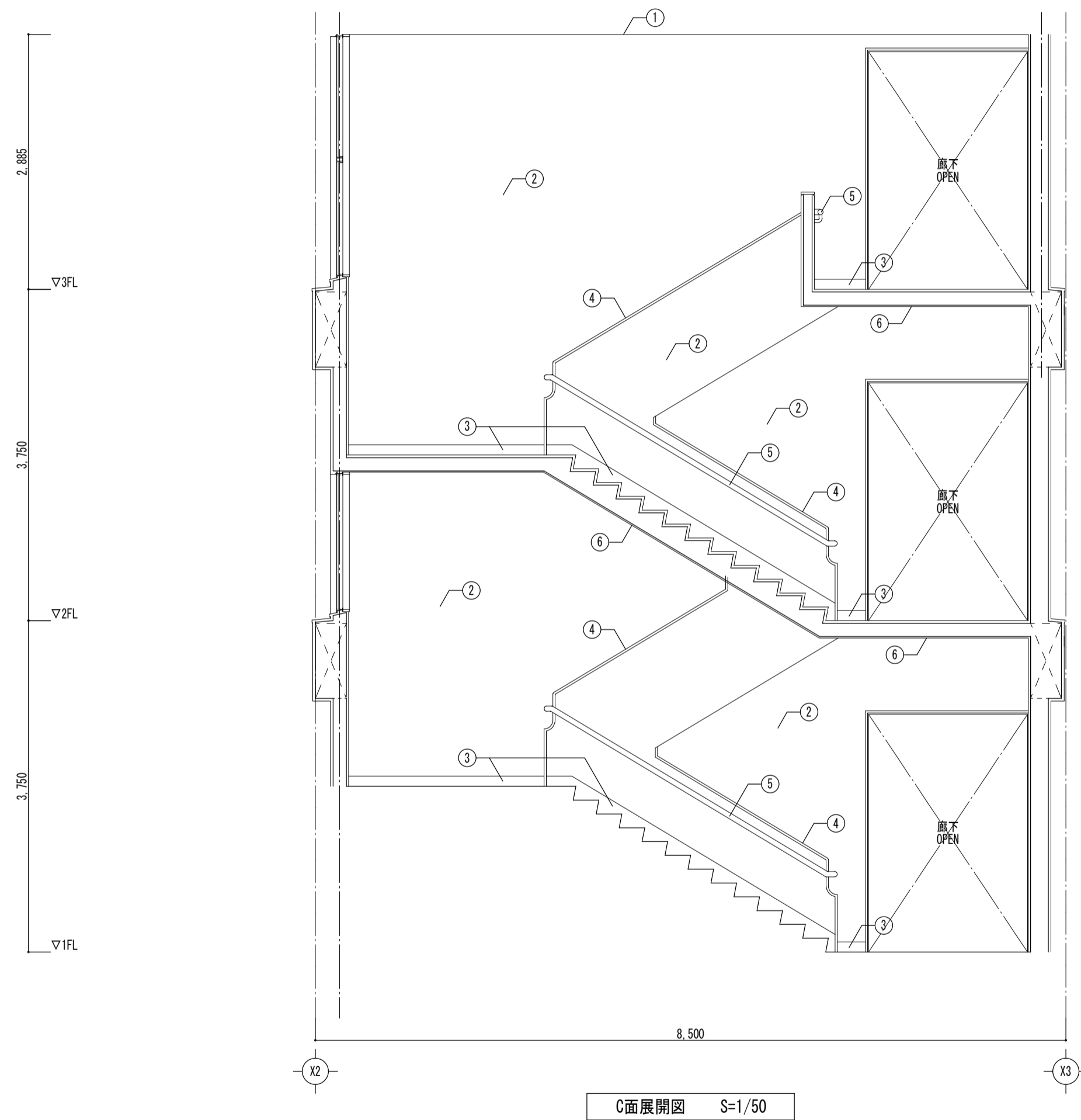


・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
 ・点線表記の家具等は、【一時的取外し】【再取付】とする。
 ・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付随物の養生を行うこと。



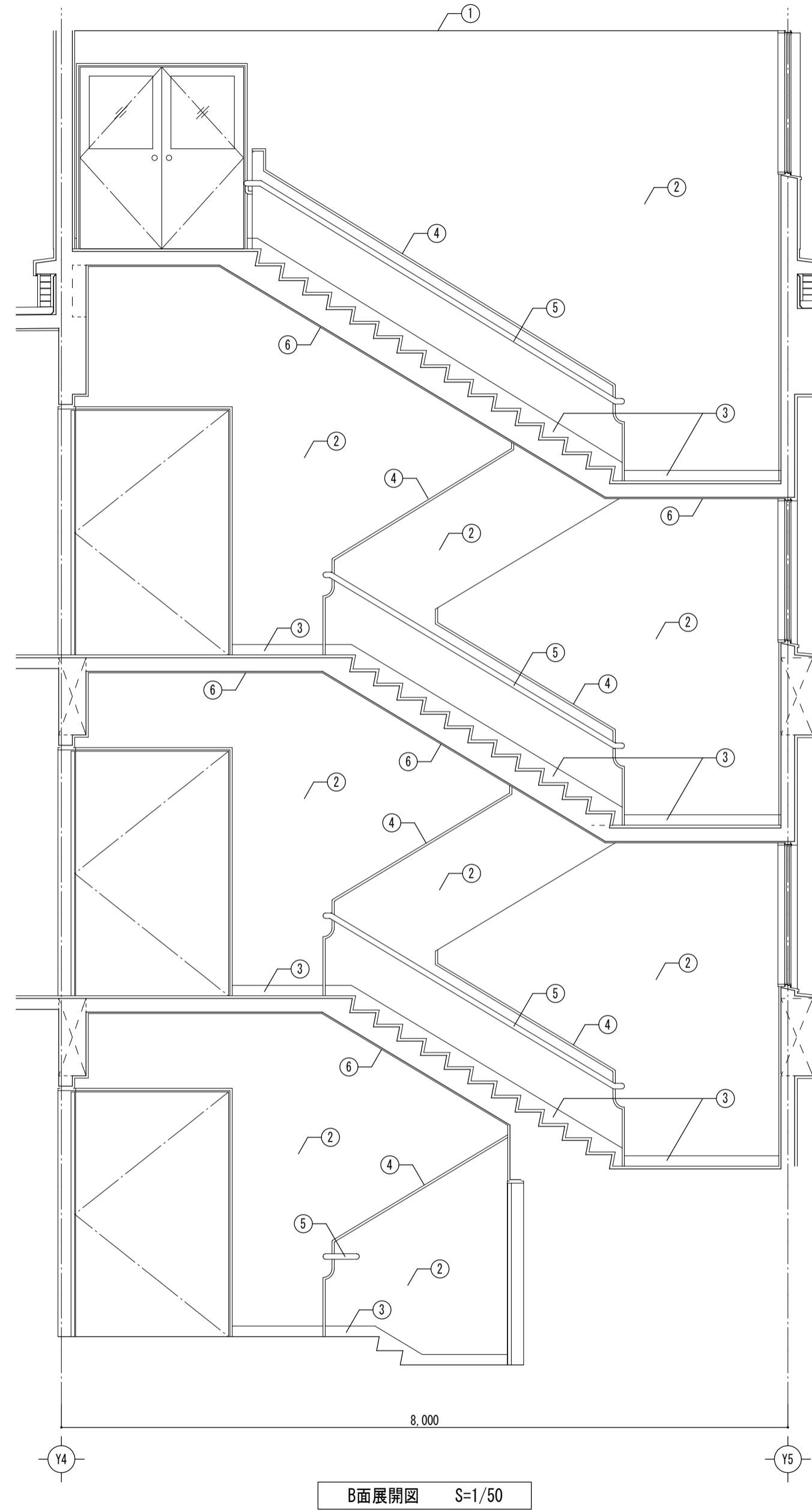
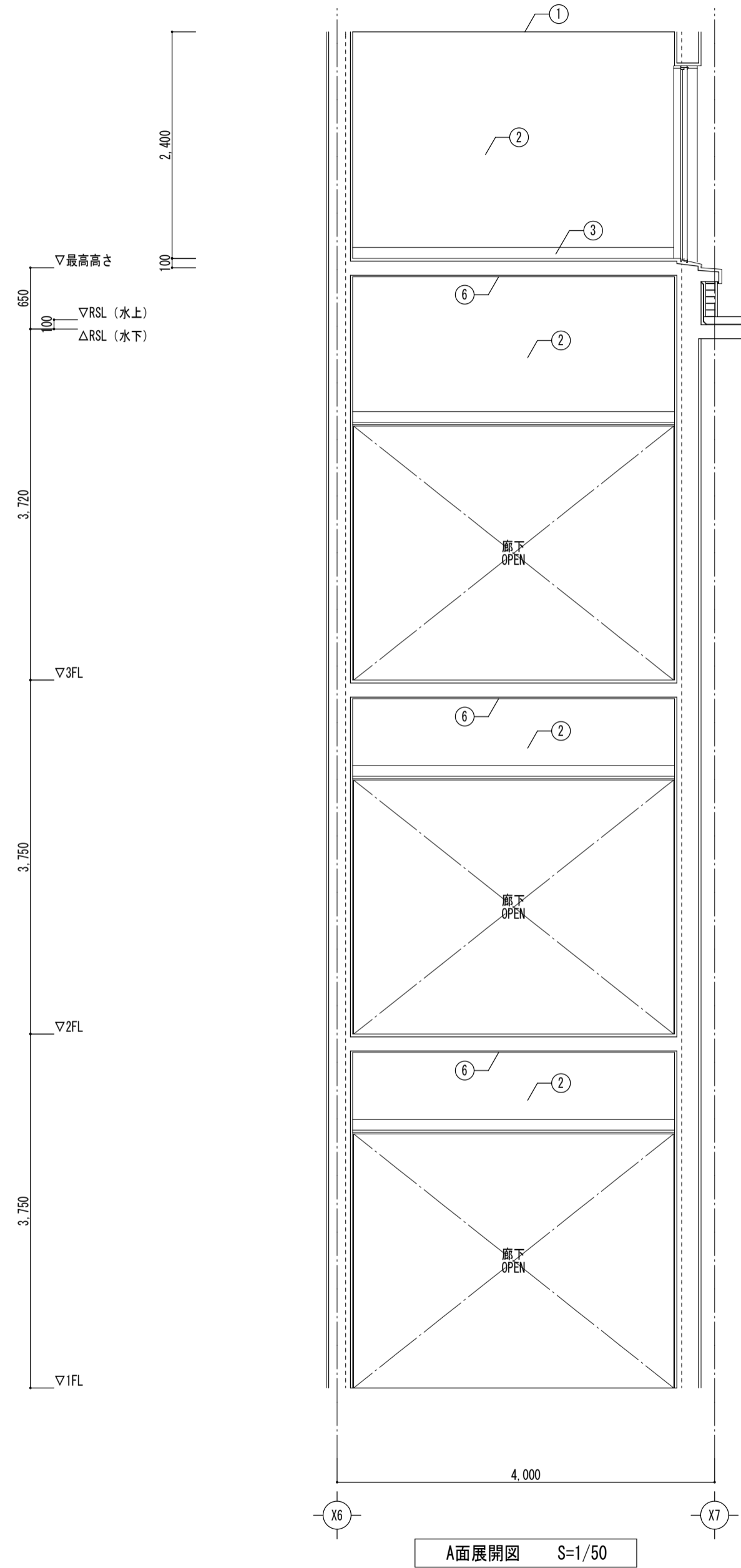
内部仕上表 凡例 (改修前)		
凡例	箇所	仕上
①	廻縁	木製廻り縁【既設のまま】
②	壁・梁 手すり 壁	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装 コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③	巾木	モルタル金ゴテ仕上h=115 VP塗装
④	笠木	人研ぎt=25【既設のまま】
⑤	手すり	積層材φ60 CL塗装【既設のまま】
⑥	上裏	合板型枠コンクリート打放し ヒル石吹付
内部仕上表 凡例 (改修後)		
凡例	箇所	仕上
①	廻縁	—
②	壁・梁 手すり 壁	下地調整の上、EP塗替え 下地調整の上、EP塗替え
③	巾木	下地調整の上、EP塗替え
④	笠木	—
⑤	手すり	—
⑥	上裏	下地調整の上、EP塗替え
凡例		
建具	建具表参照	

・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
 ・点線表記の家具等は、【一時取外し】【再取付】とする。
 ・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付随物の養生を行うこと。



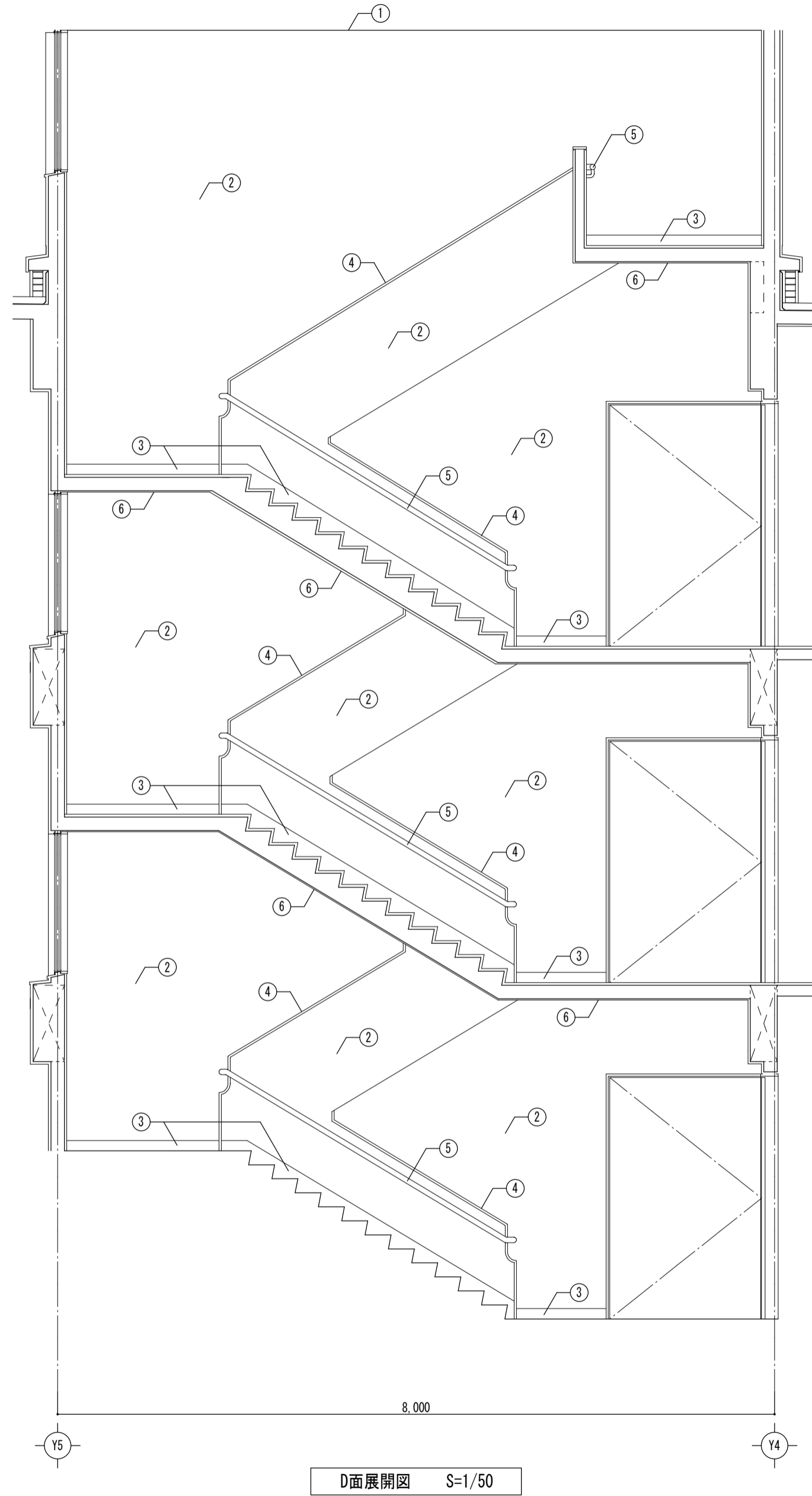
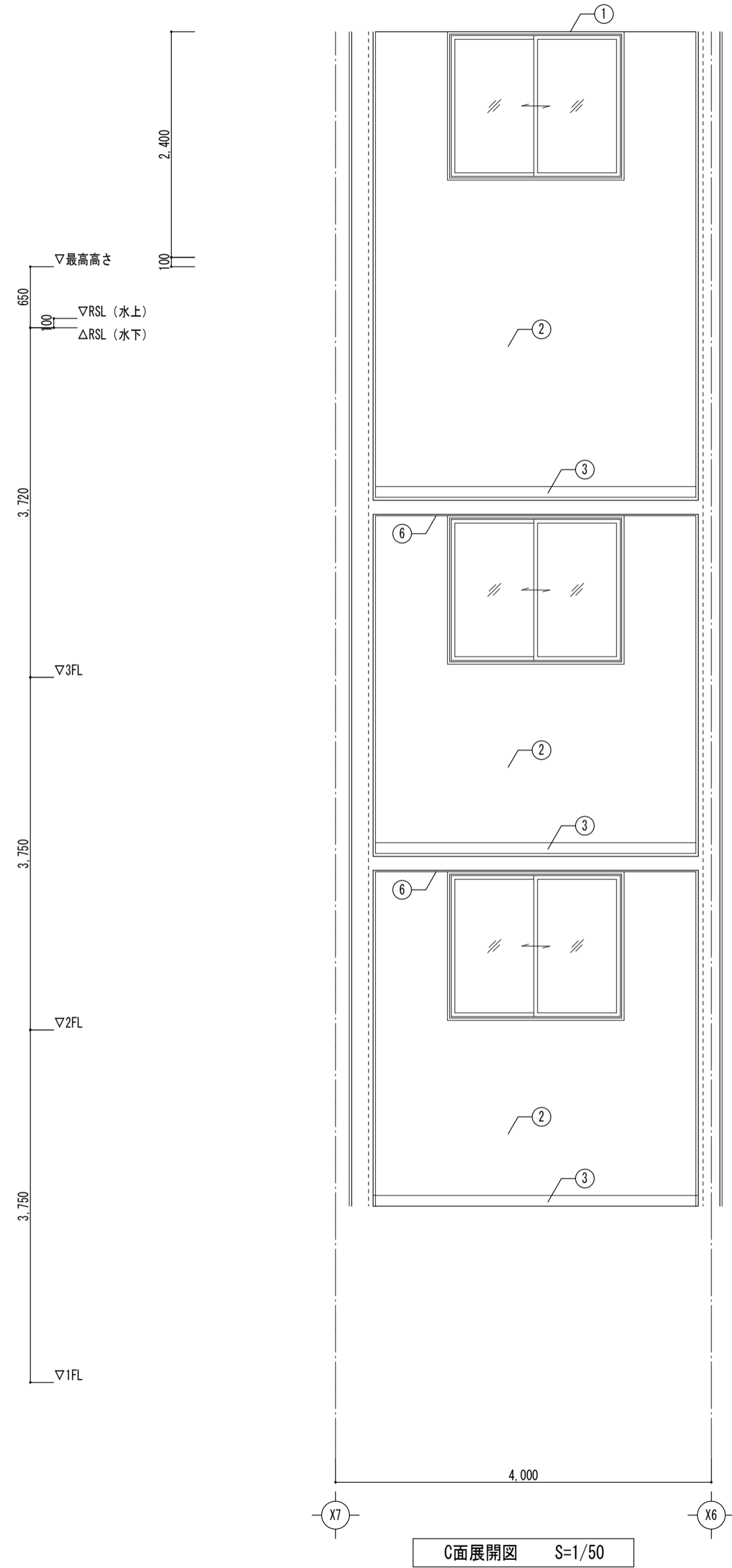
内部仕上表 凡例 (改修前)		
凡例	箇所	仕上
①	廻縁	木製廻り縁【既設のまま】
②	壁・梁 手すり 壁	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装 コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③	巾木	モルタル金ゴテ仕上h=115 VP塗装
④	笠木	人研ぎt=25【既設のまま】
⑤	手すり	積層材φ60 CL塗装【既設のまま】
⑥	上裏	合板型枠コンクリート打放し ヒル石吹付
内部仕上表 凡例 (改修後)		
凡例	箇所	仕上
①	廻縁	—
②	壁・梁 手すり 壁	下地調整の上、EP塗替え 下地調整の上、EP塗替え
③	巾木	下地調整の上、EP塗替え
④	笠木	—
⑤	手すり	—
⑥	上裏	下地調整の上、EP塗替え
凡例		
建具	建具表参照	

・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
 ・点線表記の家具等は、【一時取外し】【再取付】とする。
 ・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付随物の養生を行うこと。



内部仕上表 凡例 (改修前)		
凡例	箇所	仕上
①	廻縁	木製廻り縁【既設のまま】
②	壁・梁 手すり 壁	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装 コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③	巾木	モルタル金ゴテ仕上h=115 VP塗装
④	笠木	人研ぎt=25【既設のまま】
⑤	手すり	積層材φ60 CL塗装【既設のまま】
⑥	上裏	合板型枠コンクリート打放し ヒル石吹付
内部仕上表 凡例 (改修後)		
凡例	箇所	仕上
①	廻縁	—
②	壁・梁 手すり 壁	下地調整の上、EP塗替え 下地調整の上、EP塗替え
③	巾木	下地調整の上、EP塗替え
④	笠木	—
⑤	手すり	—
⑥	上裏	下地調整の上、EP塗替え
凡例		
建具	建具表参照	

・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
 ・点線表記の家具等は、【一時取外し】【再取付】とする。
 ・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付随物の養生を行うこと。



内部仕上表 凡例 (改修前)		
凡例	箇所	仕上
①	廻縁	木製廻り縁【既設のまま】
②	壁・梁 手すり 壁	コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装 コンクリート下地の上、モルタル金ゴテ仕上 VP塗装
③	巾木	モルタル金ゴテ仕上h=115 VP塗装
④	笠木	人研ぎt=25【既設のまま】
⑤	手すり	積層材φ60 CL塗装【既設のまま】
⑥	上裏	合板型枠コンクリート打放し ヒル石吹付
内部仕上表 凡例 (改修後)		
凡例	箇所	仕上
①	廻縁	—
②	壁・梁 手すり 壁	下地調整の上、EP塗替え 下地調整の上、EP塗替え
③	巾木	下地調整の上、EP塗替え
④	笠木	—
⑤	手すり	—
⑥	上裏	下地調整の上、EP塗替え
凡例		
建具	建具表参照	

・(※)印はアスベスト含有のため取扱いに注意すること。
・点線表記の家具等は、【一時取外し】【再取付】とする。
・塗装工事を行う際は、床・天井・掲示板・黒板他付属物の養生を行うこと。